

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部設置									
フリガナ設置者	ガクウリョクジン ニホシヨシダガク									
フリガナ大学の名称	ニホシヨシダガク									
大学本部の位置	東京都文京区目白台2丁目8番1号									
大学の目的	平和的な国家及び社会の形成者育成のために、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、その応用的能力の展開をはかるとともに、人格の完成につとめることを目的とする。									
新設学部等の目的	住居学及び建築学の視点から住居から都市までの生活環境を総合的に理解し、住生活を包含する豊かな環境をデザインできる専門性の高い人材の養成を目的とする。具体的には国内外の生活環境を歴史、地域、芸術、技術、持続可能性、その他社会の潮流などの側面から論理的に考え理解することができ、その知見に基づいて豊かな生活環境を創造性と表現力を持ってデザインすることができる人材を育成する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	建築デザイン学部	年	人	年次人	人	学士（建築デザイン）	令和6年4月 第1年次	東京都文京区目白台 2丁目8番1号		
	建築デザイン学科	4	100	—	400					
計		100	—	400						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	家政学部 住居学科（廃止）居住環境デザイン専攻、建築デザイン専攻（△92）※令和6年4月学生募集停止 文学部 日本文学科〔定員減〕（△8）（令和6年4月） 家政学研究科 住居学専攻（廃止）（△10）※令和6年4月学生募集停止 建築デザイン研究科 建築デザイン専攻（20）（令和5年6月届出予定）									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	建築デザイン学部	講義	演習	実験・実習	計	125 単位				
教員組織	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	人	
	新設分	建築デザイン学部 建築デザイン学科		9 (9)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	2 (2)	43 (43)
		計		9 (9)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	2 (2)	— (—)
	既設	家政学部 児童学科		7 (7)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	15 (15)	1 (1)	35 (35)
		食物学科		8 (8)	4 (4)	2 (2)	6 (6)	20 (20)	2 (2)	69 (69)
		被服学科		6 (6)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	10 (10)	4 (4)	19 (19)
		家政経済学科		4 (4)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	11 (11)	1 (1)	37 (37)
		文学部 日本文学科		8 (8)	3 (3)	1 (1)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	49 (49)
英文学科		11 (11)	6 (6)	1 (1)	3 (3)	21 (21)	1 (1)	80 (80)		
史学科		10 (10)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	65 (65)		
人間社会学部 現代社会学科		8 (8)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	15 (15)	0 (0)	39 (39)		
社会福祉学科		8 (8)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	24 (24)		
教育学科		10 (10)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	52 (52)		
心理学科		7 (7)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	14 (14)	0 (0)	31 (31)		

の 概 分	理学部 数物情報科学科	11 (11)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	19 (19)	3 (3)	43 (43)	通信教育課程専任教員4名。その他については通学課程担当者が兼ねる。	
	化学生命科学科	10 (10)	2 (2)	3 (3)	4 (4)	19 (19)	3 (3)	34 (34)		
	国際文化学部 国際文化学科	9 (9)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	17 (17)	1 (1)	68 (68)		
	教職教育開発センター	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)		
	保健管理センター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)		
	計	118 (118)	55 (55)	15 (15)	33 (33)	221 (221)	16 (16)	— (—)		
	家政学部 通信教育課程 児童学科	8 (8)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	16 (16)	1 (1)	50 (50)		
	食物学科	9 (9)	4 (4)	2 (2)	6 (6)	21 (21)	2 (2)	21 (21)		
	通信教育課程 計	17 (17)	9 (9)	3 (3)	8 (8)	37 (37)	3 (3)	— (—)		
	合計	129 (129)	56 (56)	15 (15)	35 (35)	235 (235)	18 (18)	— (—)		
要	職 種	専 任		兼 任		計				
	事務職員	139 (139) 人		249 (249) 人		388 (388) 人				
	技術職員	2 (2)		0 (0)		2 (2)				
	図書館専門職員	11 (11)		8 (8)		19 (19)				
	その他の職員	0 (0)		0 (0)		0 (0)				
計	152 (152)		257 (257)		409 (409)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			借用面積: 1,717.12㎡ 借用期間:30年		
	校舎敷地	185,191.24㎡	0 ㎡	0 ㎡	189,091.24㎡					
	運動場用地	52,536.52㎡	0 ㎡	0 ㎡	52,536.52㎡					
	小 計	237,727.76㎡	0 ㎡	0 ㎡	237,727.76㎡					
	その他	26,954.81㎡	0 ㎡	0 ㎡	26,954.81㎡					
合計	264,682.57㎡	0 ㎡	0 ㎡	264,682.57㎡						
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			大学全体			
	82,807.19 ㎡ (82,807.19 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	82,807.19 ㎡ (82,807.19 ㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			大学全体 語学学習施設 は、情報処理学 習施設が兼ねる		
	87 室	24 室	175 室	10 室 (補助職員2人)	0 室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数						
	建築デザイン学部			11 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定 不能のため、大学 全体の数(図書及 び学術雑誌は研究 室などの所蔵を含 む)		
	建築デザイン学部	927,269 [208,683] (905,552 [206,397])	(20,028 [3,724])	(30,789 [29,233])	(26,416)	0 (—)	0 (—)			
	計	927,269 [208,683] (905,552 [206,397])	(20,028 [3,724])	(30,789 [29,233])	(26,416)	0 (—)	0 (—)			
図 書 館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				大学全体(面積と 収容可能冊数は保 存書庫分含む)		
	8,010.94 ㎡	650 席		1,130,000 冊						
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
	2,692.21 ㎡	テニスコート4面 ゴルフ練習場1面								
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学部全体 図書費には電子 ジャーナル・ データベースの 整備費(運用コス トを含む)を含 む。
		教員1人当り研究費等		446千円	446千円	446千円	446千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		2,666千円	5,333千円	7,999千円	10,665千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	1,880千円	470千円	940千円	1,410千円	1,880千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	3,360千円	840千円	1,680千円	2,520千円	3,360千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
学生納付金以外の維持方法の概要	1,506千円	1,306千円	1,306千円	1,306千円	— 千円	— 千円				
		私立大学等経常費補助金、手数料収入、寄付金収入、資産運用収入等								

大学等の名称	日本女子大学								
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	家政学部					1.04			
	児童学科	4	97	—	388	1.03	昭和23年度	東京都文京区目白台2丁目8番1号	
	食物学科	4	31	—	124	1.08	昭和42年度	同上	
	食物学専攻								
	食物学科	4	50	—	200	1.02	昭和42年度	同上	
	管理栄養士専攻								
	住居学科	4	55	—	220	1.01	平成13年度	同上	
	住居環境デザイン専攻								
	住居学科	4	37	—	148	1.10	平成22年度	同上	
	建築デザイン専攻								
	被服学科	4	92	—	368	1.05	昭和37年度	同上	
	家政経済学科	4	85	—	340	1.02	昭和39年度	同上	
	(通信教育課程)								
	家政学部						0.13		
	児童学科	4	1,000	—	4,000	0.12	昭和24年度	同上	
	食物学科	4	1,000	—	4,000	0.12	昭和24年度	同上	
	生活芸術学科	4	1,000	—	4,000	0.14	昭和24年度	同上	
	文学部						1.03		
	日本文学科	4	134	—	536	1.04	昭和23年度	同上	
	英文学科	4	146	—	584	0.99	昭和23年度	同上	
	史学科	4	97	—	388	1.07	昭和23年度	同上	
	人間社会学部						1.04		
	現代社会学科	4	97	—	388	1.07	平成2年度	同上	
	社会福祉学科	4	97	—	388	1.02	昭和23年度	同上	
	教育学科	4	97	—	388	1.04	昭和25年度	同上	
	心理学科	4	73	—	292	1.03	平成2年度	同上	
文化学科	4	—	—	—	—	平成2年度	同上		
理学部						1.02			
数物情報科学科	4	92	—	368	1.05	平成4年度	同上		
化学生命科学科	4	97	—	388	0.99	平成4年度	同上		
国際文化学部									
国際文化学科	4	121	—	121	1.01	令和5年度	同上		

令和5年4月学生募集停止

家政学研究科 (修士課程)							0.87						
児童学専攻	2	10	—	20	修士(家政学)	0.57	昭和36年度	同上					
食物・栄養学専攻	2	10	—	20	修士(家政学)	0.75	昭和36年度	同上					
住居学専攻	2	10	—	20	修士(家政学)	2.30	昭和53年度	同上					
被服学専攻	2	10	—	20	修士(家政学)	0.35	昭和53年度	同上					
生活経済専攻	2	8	—	16	修士(家政学)	0.03	平成8年度	同上					
通信教育課程家政学専攻	2	—	—	—	修士(家政学)	—	平成19年度	同上					令和3年学生募集停止
文学研究科 (博士課程前期)							0.44						
日本文学専攻	2	10	—	20	修士(文学)	0.35	昭和41年度	同上					
英文学専攻	2	10	—	20	修士(文学)	0.30	昭和41年度	同上					
史学専攻	2	6	—	12	修士(文学)	0.87	平成5年度	同上					
(博士課程後期)							0.22						
日本文学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	昭和50年度	同上					
英文学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.24	昭和53年度	同上					
史学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.08	平成7年度	同上					
人間生活学研究科 (博士課程後期)							0.35						
人間発達学専攻	3	5	—	15	博士(学術)	0.35	平成4年度	同上					
生活環境学専攻	3	5	—	15	博士(学術)	0.35	平成4年度	同上					
人間社会研究科 (博士課程前期)							0.42						
社会福祉学専攻	2	10	—	20	修士(社会福祉学)	0.37	昭和50年度	同上					
教育学専攻	2	10	—	20	修士(教育学)	0.27	昭和53年度	同上					
現代社会論専攻	2	10	—	20	修士(社会学)	0.12	平成6年度	同上					
心理学専攻	2	14	—	28	修士(心理学)	0.80	平成6年度	同上					
相關文化論専攻	2	6	—	12	修士(文学)	0.37	平成10年度	同上					
(博士課程後期)							0.19						
社会福祉学専攻	3	3	—	9	博士(社会福祉学)	0.24	昭和50年度	同上					
教育学専攻	3	3	—	9	博士(教育学)	0.24	昭和62年度	同上					
現代社会論専攻	3	3	—	9	博士(学術)	0.08	平成9年度	同上					
心理学専攻	3	3	—	9	博士(心理学)	0.41	平成8年度	同上					
相關文化論専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.00	平成20年度	同上					
理学研究科 (博士課程前期)							1.00						
数理・物性構造科学専攻	2	10	—	20	修士(理学)	1.20	平成8年度	同上					
物質・生物機能科学専攻	2	10	—	20	修士(理学)	0.80	平成8年度	同上					
(博士課程後期)							0.04						
数理・物性構造科学専攻	3	3	—	9	博士(理学)	0.08	平成10年度	同上					
物質・生物機能科学専攻	3	3	—	9	博士(理学)	0.00	平成10年度	同上					

附属施設の概要	<p>日本女子大学総合研究所 所在地：東京都文京区目白台2丁目8番1号</p> <p>目的：日本女子大学の建学の精神に基づき日本女子大学固有の研究の推進を図るとともに、日本女子大学を拠点とする学際的共同研究・調査を推進し、大学院、学部、附属校・園の研究および教育の充実、発展に寄与することを目的とする。</p> <p>設置年月：平成7年4月 規模（面積）等：建物 77.28㎡</p>
	<p>日本女子大学現代女性キャリア研究所 所在地：東京都文京区目白台2丁目8番1号</p> <p>目的：本学における女性教育の伝統と理念を、変貌する現代社会に生かすためのセンターとしての機能を担うとともに、その成果を社会に発信して、女性の能力が発揮される21世紀社会に貢献することを目的とする。</p> <p>設置年月：平成13年4月 規模（面積）等：建物 120.00㎡</p>
	<p>日本女子大学生涯学習センター 所在地：東京都文京区目白台2丁目8番1号，神奈川県川崎市多摩区西生田1丁目1番1号</p> <p>目的：日本女子大学並びに附属各校・園の伝統と特質を生かしつつ、本学の知的財産・教育的資産を社会に開放し、学内外の生涯学習活動の連携を図り、推進することを目的とする。</p> <p>設置年月：平成13年4月 規模（面積）等：土地 1,020.58㎡ 建物 2,062.55㎡</p>
	<p>日本女子大学成瀬記念館 所在地：東京都文京区目白台2丁目8番1号</p> <p>目的：本学の創立者成瀬仁蔵の教学の理念ならびに本学の歴史を明らかにし、もって建学の精神の高揚とその継承を図り、本学の発展および女子教育の進展に寄与することを目的とする。</p> <p>設置年月：昭和59年10月 規模（面積）等：土地 325.27㎡ 建物 836.04㎡</p>

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校に取組定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 6 空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要

(建築デザイン学部 建築デザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養特別講義	教養特別講義	1 通	1				○		4						※講義
	小計 (1 科目)	—	1				—		4	0	0	0	0	0	
JWU キャリア科目	ライフプランとキャリアデザイン	1 後		2		○									兼 1
	女性と職業	1 前		2		○									兼 1
	仕事・結婚・わたし	1 前・後		2		○									兼 2
	女性と身体	1 前・後		2		○									兼 4
	多様な働き方とキャリア	1 前		2		○									兼 1
	ダイバーシティとキャリア	1 後		2		○									兼 1
	女性就業と家族の経済学	1 前・後		2		○									兼 1
	ライフステージと法	1 前		2		○									兼 2
	現代女性論	1 前・後		2		○									兼 1
	現代男性論	1 前		2		○									兼 1
	日本の女性史	1 前		2		○									兼 1
	世界の女性史	1 後		2		○									兼 1
	社会に出るための自己表現	2 前・後		2			○								兼 3
	現代ビジネスと起業	2 前		2		○									兼 1
	インターンシップ I	3 通		1				○							兼 4 集中
	インターンシップ II	3 通		2				○							兼 4 集中
	小計 (16 科目)	—		31			—		0	0	0	0	0	兼 25	
JWU 社会連携科目	社会課題と NPO・NGO	1 前		2		○									兼 1
	ボランティア概論	1 前		2		○									兼 1
	企業と社会連携	1 後		2		○									兼 3 オムニパス
	社会連携を学ぶ A	1 後		2		○									兼 4
	社会連携を学ぶ B	1 後		2		○									兼 1
	地域・社会課題を学ぶ	1 前		2		○									兼 1
	課題解決型ワークショップ ^o を用いた企画開発	2 通		2			○								兼 2 集中
	社会における ICT、データサイエンス活用 A	2 前		2			○								兼 1
	社会における ICT、データサイエンス活用 B	2 前		2			○								兼 1
	地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト演習 A	2 前		2			○		1						

J W U 社会連携科目	地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト演習 B	2 通		2			○								兼 2	集中
	地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト演習 C	2 通		2			○								兼 1	集中
	地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト演習 D	2 後		2			○								兼 1	
	社会連携・社会貢献活動 I	2 通		1				○	1						兼 3	集中共同
	社会連携・社会貢献活動 II	2 通		2				○	1						兼 3	集中共同
	小計 (15 科目)	—		29				—	2	0	0	0	0	0	兼 21	
基礎科目 外国語	必修英語	プレゼンテーション・イングリッシュ a	1 前	2			○								兼 5	
		プレゼンテーション・イングリッシュ b	1 後	2			○								兼 5	
		アクティヴ・イングリッシュ a	1 前・後	2			○								兼 3	
		アクティヴ・イングリッシュ b	1 前・後	2			○								兼 3	
	小計 (4 科目)	—	8				—	0	0	0	0	0	0	兼 11		
基礎科目 外国語	選択英語	英語コミュニケーション I	1 前・後	2			○								兼 4	
		英語コミュニケーション II	1 前・後	2			○								兼 3	
		英語コミュニケーション III	1 前・後	2			○								兼 3	
		リーディング I	1 前・後	2			○								兼 1	
		リーディング II	1 前・後	2			○								兼 2	
		リーディング III	1 前・後	2			○								兼 1	
		ライティング I	1 前・後	2			○								兼 1	
		ライティング II	1 前	2			○								兼 1	
		ライティング III	1 前・後	2			○								兼 1	
		メディア・リスニング	1 前・後	2			○								兼 3	
		観光英語	1 前・後	2			○								兼 7	
		ビジネス・イングリッシュ	1 前・後	2			○								兼 2	
		TOEIC	1 前・後	2			○								兼 11	
		TOEFL	1 前・後	2			○								兼 1	
	IELTS	1 前・後	2			○								兼 1		
資格英語 (集中) 1	1 前	2			○								兼 2	集中		
資格英語 (集中) 2	1 前	2			○								兼 1	集中		
資格英語 (集中) 3	1 前	2			○								兼 1	集中		
小計 (18 科目)	—	36					—	0	0	0	0	0	0	兼 35		
ドイツ語	ドイツ語 a 入門	1 前	2			○								兼 7		
	ドイツ語 a 初級	1 後	2			○								兼 7		
	ドイツ語 b 入門	1 前	2			○								兼 6		
	ドイツ語 b 初級	1 後	2			○								兼 6		
	ドイツ語 L.L.入門	1 前	2			○								兼 1		
	ドイツ語 L.L.初級	1 後	2			○								兼 1		
	ドイツ語中級	2 前・後	2			○								兼 6		
	ドイツ語中級アドヴァンスト (原典講読)	2 前・後	2			○								兼 3		
	ドイツ語上級	3 前・後	2			○								兼 1		
	集中ドイツ語	2 前	2			○								兼 1	集中	

基礎科目 外国語	フランス語	フランス語 a 入門	1 前		2			○								兼 8		
		フランス語 a 初級	1 後		2			○									兼 8	
		フランス語 b 入門	1 前		2			○									兼 4	
		フランス語 b 初級	1 後		2			○									兼 4	
		フランス語 L.L.入門	1 前		2			○									兼 2	
		フランス語 L.L.初級	1 後		2			○									兼 2	
		フランス語中級	2 前・後		2			○									兼 5	
		フランス語 L.L.中級	2 前・後		2			○									兼 1	
		フランス語中級アドヴァンスト (原典講読)	2 前・後		2			○									兼 2	
		フランス語中級アドヴァンスト (コミュニケーション)	2 前・後		2			○									兼 1	
		フランス語上級	3 前・後		2			○									兼 1	
		集中フランス語	2 前		2			○									兼 1	集中
		中国語	中国語 a 入門	1 前		2			○									兼 12
	中国語 a 初級		1 後		2			○									兼 12	
	中国語 b 入門		1 前		2			○									兼 10	
	中国語 b 初級		1 後		2			○									兼 10	
	中国語 L.L.入門		1 前		2			○									兼 2	
	中国語 L.L.初級		1 後		2			○									兼 2	
	中国語中級		2 前・後		2			○									兼 7	
	中国語 L.L.中級		2 前・後		2			○									兼 2	
	中国語中級アドヴァンスト (原 典講読)		2 前・後		2			○									兼 2	
	中国語中級アドヴァンスト (コ ミュニケーション)		2 前		2			○									兼 1	
	中国語上級		3 前・後		2			○									兼 1	
	集中中国語	2 前		2			○									兼 1	集中	
	韓国語	韓国語 a 入門	1 前		2			○									兼 9	
		韓国語 a 初級	1 後		2			○									兼 9	
		韓国語 b 入門	1 前		2			○									兼 7	
		韓国語 b 初級	1 後		2			○									兼 7	
		韓国語 L.L.入門	1 前		2			○									兼 1	
		韓国語 L.L.初級	1 後		2			○									兼 1	
		韓国語中級	2 前・後		2			○									兼 5	
		韓国語 L.L.中級	2 前・後		2			○									兼 1	
		韓国語中級アドヴァンスト (原 典講読)	2 前・後		2			○									兼 1	
韓国語中級アドヴァンスト (コ ミュニケーション)		2 後		2			○									兼 1		
小計 (44 科目)		—		88			—		0	0	0	0	0		兼 61			
基礎科目 情報処理	基礎情報処理	1 前・後	2				○									兼 2		
	データベース入門	2 前		2			○									兼 1		
	AI 入門	2 後		2			○									兼 1		
	ICT 活用 I	2 前		2			○									兼 1		
	ICT 活用 II	2 前		2			○									兼 1		
	ICT 活用 III	2 前		2			○									兼 1		
	ICT 活用 IV	2 前		2			○									兼 1		
	ICT 活用 V	2 前		2			○									兼 1		
	ICT 活用 VI	2 後		2			○									兼 1		

	小計 (9 科目)	—	2	16		—	0	0	0	0	0	0	兼 9	
基礎科目 身体運動	身体運動 I a	1 前		1		○							兼 3	集中
	身体運動 I b	1 後		1		○							兼 3	
	身体運動 I c	1 後		1		○							兼 17	
	身体運動 II a	1 前		1		○							兼 5	
	身体運動 II b	1 後		1		○							兼 4	
	身体運動 II c	2 後		1		○							兼 1	
	身体運動論	1 前		2		○							兼 1	
	健康スポーツ論 I	1 前		2		○							兼 1	
	健康スポーツ論 II	1 後		2		○							兼 1	
	身体運動演習 a	1 前		2			○						兼 2	
	身体運動演習 b	1 後		2			○						兼 3	
		小計 (11 科目)	—		16		—	0	0	0	0	0	0	兼 26
教養科目	A 系列 【多様な社会と人間の尊厳】 (社会科学系)	政治思想の歴史	1 前		2		○						兼 1	オールパス
		政治学	1 後		2		○						兼 1	
		日本の政治	1 前		2		○						兼 1	
		政治と福祉	1 前		2		○						兼 1	
		メディアと社会	1 後		2		○						兼 1	
		経済学の世界	1 前・後		2		○						兼 3	
		世界経済	1 前		2		○						兼 1	
		日本経済	1 後		2		○						兼 1	
		経営学の世界	1 後		2		○						兼 4	
		日本の産業と企業	1 後		2		○						兼 1	
		女性と法律	1 後		2		○						兼 1	
		法学入門	1 前		2		○						兼 1	
		市民社会と法	1 後		2		○						兼 1	
		法哲学	1 前		2		○						兼 1	
		日本国憲法	1 前・後		2		○						兼 2	
		社会福祉学	1 前		2		○						兼 1	
		平和学	1 前		2		○						兼 1	
		ノーマライゼーション論	1 後		2		○						兼 1	
		社会保障入門	1 後		2		○						兼 1	
		国際社会と人権	1 前		2		○						兼 1	
		ジェンダー論入門	1 後		2		○						兼 1	
		ジェンダーと社会	1 後		2		○						兼 1	
		現代の社会学	1 後		2		○						兼 1	
		社会学入門	1 前		2		○						兼 1	
		地域研究	1 前・後		2		○						兼 2	
		SOCIAL AND INTERNATIONAL RELATIONS OF JAPAN	1 前		2		○						兼 1	
		教育人間学	1 前		2		○						兼 1	
		教育学入門	1 後		2		○						兼 1	
		心と健康	1 前・後		2		○						兼 2	
	小計 (29 科目)	—		58		—	0	0	0	0	0	0	兼 35	

教養科目	B系列【自然の摂理の探求】(自然科学系)	地球の自然と資源	1 前	2	○									兼 1	
		天文学と宇宙観の歴史	1 前・後	2	○										兼 2
		物理学とテクノロジー	1 後	2	○										兼 1
		現代社会と情報科学	1 後	2	○										兼 1
		基礎から学ぶコンピュータ	1 前	2	○										兼 1
		情報と通信	1 後	2	○										兼 1
		コンピュータ・インターネットと生活	1 後	2	○										兼 1
		食と健康	1 前・後	2	○										兼 2
		衣と健康	1 前	2	○										兼 1
		女性と健康	1 前	2	○										兼 1
		住まいのデザイン	1 前	2	○					3					
		心理学	1 前・後	2	○										兼 2
		人間生理学	1 前	2	○		○								兼 1
		脳と行動	1 前	2	○										兼 1
		人体の構造と機能及び疾病	1 後	2	○										兼 1
		生命科学	1 前・後	2	○										兼 9
		DNA の拓いた生命科学	1 前	2	○										兼 1
		環境と生態系	1 後	2	○										兼 1
		生活・環境と化学	1 後	2	○										兼 1
		生物の起源と進化	1 前	2	○										兼 1
		歴史の中の数学	1 後	2	○										兼 1
		教養としての数学	1 前	2	○										兼 1
		数学の眼で見た世界	1 前	2	○										兼 1
		社会で役立つ統計学	1 後	2	○										兼 1
		統計学入門	1 前	2	○										兼 1
		ファッションの化学	1 後	2	○										兼 1
		薬と化粧品の化学	1 後	2	○										兼 2
		化学の歴史	1 前	2	○										兼 1
		物理学はいかに創られたか	1 前	2	○										兼 1
小計 (29 科目)	—	58	—	3	0	0	0	0	0	0	0	0	兼 42		
C系列【知性と文化の系譜】(人文科学系)	社会思想の歴史	1 前	2	○										兼 1	
	思想・哲学	1 前・後	2	○										兼 2	
	西洋思想	1 前	2	○										兼 1	
	東洋思想	1 前	2	○										兼 1	
	20・21 世紀の思想	1 後	2	○										兼 1	
	ロジカルシンキング入門	1 前	2	○										兼 1	
	倫理学入門	1 後	2	○										兼 1	
	美学	1 前・後	2	○										兼 1	
	文化人類学入門	1 前	2	○										兼 1	
	歴史から見る現代世界	1 後	2	○										兼 2	
	地理学	1 前	2	○										兼 1	
	20・21 世紀の日本文学	1 後	2	○										兼 2	
	20・21 世紀の外国文学	1 前・後	2	○										兼 2	
	日本美術史	1 前・後	2	○										兼 1	
	西洋美術史	1 前・後	2	○										兼 1	
	東洋音楽の歴史	1 後	2	○										兼 1	
	西洋音楽の歴史	1 後	2	○										兼 1	
舞台芸術の歴史・東洋	1 後	2	○		○								兼 1		

教養科目	C系列 【知性と文化の系譜】 (人文科学系)	舞台芸術の歴史・西洋	1 後	2	○										兼 1		
		映像論	1 前・後	2	○											兼 2	
		女性と芸術	1 前	2	○											兼 1	
		世界の古典・文学	1 前・後	2	○											兼 4	
		英語圏のファンジュー	1 前	2	○											兼 1	
		日本社会と宗教	1 前	2	○											兼 1	
		宗教とは何か	1 後	2	○											兼 1	
		世界の神話	1 前・後	2	○											兼 1	
		ことばとは何か	1 前	2	○											兼 1	
		ことばと社会	1 後	2	○											兼 1	
		クリエイカル・シンキング入門	1 後	2	○											兼 1	
INTRODUCTION TO JAPANESE CULTURE AND SOCIETY	1 後	2	○											兼 1			
小計 (30 科目)	—	60	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼 36			
学科科目	基礎	住居計画	1 前	2	○				1								
		日本住居史	1 前	2	○				1								
		西洋住居史	1 前	2	○				1								
		住居構造	1 後	2	○				1								
		バリアフリーデザイン論	1 後	2	○				1								
		空間デザイン概論	1 後	2	○				1								
		住居環境	1 後	2	○				1								
		住環境計画	2 前	2	○				1								
		生活環境安全論	2 前	2	○				1								
		建築計画	2 前	2	○				1								
		設計製図 I	1 前	2			○		3			1			兼 1	共同	
		設計製図 II	1 後	2			○		2	1		1			兼 1	共同	
		住生活学	1 後	2	○				1								
		建築設計スタジオ I	2 前	2			○		4						兼 3	共同	
		コンピュータデザイン I	2 前	2		○			1								
		建築構造	2 前	2	○										兼 1		
		構造力学 I	2 前	2	○				1								
		建築設備 I	2 前	2	○				1								
		建築専門英語	2 前	2	○				3	1							
		建築設計スタジオ II	2 後	2			○		3	1					兼 3	共同	
		建築構法	2 後	2	○										兼 1		
		構造力学 II	2 後	2	○				1								
		建築環境工学	2 後	2	○										兼 1		
		建築材料	3 前	2	○										兼 1		
		建築施工	3 前	2	○										兼 1		
		建築法規	3 前	2	○										兼 1		
小計 (26 科目)	—	52	—	9	1	0	2	0	0	0	0	0	0	兼 14			
応用	形とデザイン I	1 前	1			○		1						兼 1	共同		
	形とデザイン II	1 後	1			○		1						兼 1	共同		
	力と形	1 後	4		○			1						兼 2	共同		
	日本建築史	2 後	2	○				1									
	インテリアデザイン	2 後	2	○										兼 1			
	コンピュータデザイン II	2 後	2		○									兼 1			

学 科 目	応 用	住居・建築管理	2 後	2		○									兼 1	共同	
		住宅政策	2 後	2		○			1								
		福祉環境論	2 後	2		○			1								
		西洋建築史	2 後	2		○			1								
		インテリアデザイン演習	3 前	2				○							兼 2		
		建築設計スタジオⅢ	3 前	2					○	2					兼 2		
		住宅・建築経済	3 後	2		○									兼 1		
		都市計画	3 前	2		○									兼 1		
		建築設備Ⅱ	3 前	2		○				1					兼 1		
		ランドスケープデザイン	3 後	2		○									兼 1		
	小計 (16 科目)	—	32				—		8	0	0	0	0	兼 13			
	発 展	地域施設計画論	3 前	2		○				1							共同 共同 共同 集中 共同
		福祉環境演習	3 前	2				○		1							
		構造デザイン演習	3 前	2				○		1					兼 1		
		建築設計スタジオⅣ	3 後	2					○	2					兼 4		
		都市デザイン演習	3 前	2				○		1							
建築と社会		3 後	2		○				1								
建築保存再生論		3 前	2		○				1								
都市史演習		3 前	2				○		1								
環境・設備演習		3 後	4				○		1								
絵画デッサン		1 前	1					○						兼 1			
建築数学物理基礎		1 前	2		○									兼 1			
建築総合演習		2 後	2				○		1	1							
コンピュータデザインⅢ		3 前	2				○							兼 1			
リサーチデザイン		3 前	2				○			1							
生活プロダクトデザイン		3 後	2		○									兼 1			
建築設計スタジオⅤ	4 前	3					○	2					兼 2				
小計 (16 科目)	—	34				—		9	1	0	0	0	兼 11				
専 門 関 連	フィールドスタディ(農業・農村)	1 通	2		○									兼 1	※演習集中		
	消費生活論Ⅰ	2 前	2		○									兼 1			
	まちづくり基礎演習	2 後	2				○							兼 1	集中		
	異分野連携実践演習	2 後	2				○		1			1		兼 5	集中 共同 オムニバス		
小計 (4 科目)	—	8				—		1	0	0	1	0	兼 8				
卒 論・卒 制関 連	建築住居学演習Ⅰ	3 後	2				○		9	1		2					
	建築住居学演習Ⅱ	4 前	2				○		9	1		2					
	建築住居学演習Ⅲ	4 後	2				○		9	1		2					
	卒業論文・卒業制作	4 通	4				○		9	1		2					
小計 (4 科目)	—	10				—		9	1	0	2	0	0				
合計 (272 科目)		—	73	466	0		—		9	1	0	2	0	兼 320			
学位又は 称号	学士 (建築デザイン)		学位又は学科の分野				家政関係、工学関係										

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
教養特別講義 1 単位、JWU キャリア科目・JWU 社会連携科目から 2 単位、基礎科目の外国語（必修英語）8 単位、情報処理（必修）2 単位、身体運動から 2 単位、教養科目系列 A・B・C それぞれから 4 単位計 12 単位、学科科目の基礎（必修）52 単位、応用・発展・専門関連（選択）から 36 単位（ただし応用から 14 単位以上）、卒論・卒制関連（必修）10 単位 合計 125 単位 （履修科目の登録の上限：49 単位（年間））	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	14 週
	1 時限の授業時間	100 分 (初回のみ 50 分)

授 業 科 目 の 概 要

(建築デザイン学部 建築デザイン学科)

科目 区分	授業科目の 名称	講義等の内容	備考
教養特別講義	教養特別講義	<p>専門分野の学問研究に立ち向うにあたり、常に広い視野と倫理性に基づいた高い識見をもち、創造的に自己実現を果たせるようになること、現代を生きる女性として、社会に発揮する能力を十分に伸ばすことができるようになることを目標とする。</p> <p>学問における真理の探求と人間形成とを不可分とする創立者成瀬仁蔵先生の教育理念のもとに設けられた「実践倫理」を原点とし、建学の精神や創立者の理念を踏まえ、本学が1世紀余にわたり女性の自立や社会進出、社会貢献を実現してきた歴史を学びながら、現代社会における自らの生き方や将来について、主体的に考察を深めることを目的としている。「教養特別講義-本学の建学の精神と教育の理念を学ぶ-」の講読、成瀬記念館の見学、講義による学びを経て、1泊2日のセミナーでのディスカッションを通じ、本学で学ぶことの社会的責任を自覚し、自分の生き方、活かし方を見つめる。</p>	講義 3 時間 演習 12 時間
J W U キ ャ リ ア 科 目	ライフプランとキャリアデザイン	<p>女性のライフプランやキャリアデザインに関連させながら、経済社会や企業組織の仕組み、現状や課題について、外部から招く専門家及び卒業生の講話や、授業担当者の経験（一般企業勤務、中小企業診断士・社会保険労務士）も交えながら解説する。社会や企業において女性が置かれている状況を、学生時代から現状や背景を理解することを目的とする。講義形式を基本とするが、質疑応答の機会も設け、自分のキャリアに主体的かつ能動的に向き合えるよう促す。毎授業後に学生に課したコメントを取りまとめ、授業内、学習システム経由でフィードバックする。社会や企業において女性が置かれている現状と課題を理解すること、キャリア理論やゲストスピーカーの実例を通じてキャリアデザインのための知識と手法を習得すること、これらを踏まえ、自身のライフプランとキャリアデザインについて、主体的に考えられることを目標とする。</p>	
	女性と職業	<p>各界で多彩に活躍している各学科の先輩をゲストスピーカーとして招聘し、様々な分野での仕事のあり方を実際に見聞する機会を通じて、職業選択やキャリアについて自ら考えるための指針を提供することを目的とする。担当教員、ゲストスピーカーによる講義のほか、質疑応答や意見交換によるコミュニケーションの時間を設ける。授業の最終回に、授業全体の振り返りと講評を行う。現代女性の職業の実態を様々な具体例を通して知見することで仕事を持つことの意味について、自身の考えを深めること、仕事を持つことや働くことに対する視野を広げ、働く意欲や勇気を持つことを目標とする。</p>	
	仕事・結婚・わたし	<p>自分、家族、社会というシステムについて説明する。自分自身を捉える視点を持ち、家族ライフサイクルについて考えることによって、今後の人生で生じる様々なことに対処できる力を養うことを目的とする。基本的に講義形式だが、毎回の講義後に課題レポートの提出を求める。授業内では自己概念、アイデンティティ、職業興味検査など様々な質問紙を用いて、自分を振り返る作業を行い、最終的には自分自身のライフサイクルを計画し、提出を求める。自己理解、家族システムの理解、社会変化への理解を深めることによって、自分自身が望むライフプランをイメージできるようにすることを目標とする。</p>	

J W U キ ャ リ ア 科 目	女性と身体	助産師・看護師・養護教諭など医療職としての立場から、思春期・妊娠・出産・更年期・高齢期の女性の一生を通じて起こる心身面での課題とそのケアについて解説することを目的とする。特に、現代女性の性と生殖に関する特徴や妊娠・出産、ナイチンゲールから読み解く女性の役割、そして出生前診断や不妊治療、ハラスメント等の倫理問題など、女性として生きていく人生に役立つことを取り上げていく。女性を取り巻く心身の課題に関する基本的な知識を学ぶこと、女性の健康課題について理解を深め、自身の具体的な行動を考えられることを目標とする。	
	多様な働き方とキャリア	多様な働き方とキャリア形成にかかわる制度、現状、課題に関する基本的な知識を習得することを目的とする。卒業後の生き方の選択肢を考える際の道標となるよう、雇用されて国内で働くことのみならず、フリーランス、経営者、主婦／主夫、海外勤務等についても取り上げていく。講義形式で、受講生は各回の感想や質問等の提出を求める。多様な働き方にかかわる制度と政策の動きについて説明できること、それぞれの働き方の現状と課題を説明できることを目標とする。	
	ダイバーシティとキャリア	女性・LGBTQ+等のジェンダー、障がい、文化の多様性をトピックに取り上げ、経済社会や企業組織の変化や将来展望を解説し、外部から招く専門家または経験者（卒業生を含む）の講話も交えて生き方や働き方を考えることを目的とする。講義に加え、文献資料（論文、記事）をもとにしたペア討議、グループ討議、さらには、リアクションペーパーやレポートに対するコメントを交えながら進める。日本社会の産業構造の変化について説明できる、社会科学の知見を用いて大学卒業後の自らのキャリアビジョンを論じることができることを目標とする。	
	女性就業と家族の経済学	日本女性の就業率は空前の高さである一方、正規雇用に就く女性の割合がなかなか上がっていない。訓練機会もキャリアの見通しもないまま低技能・低賃金で働く女性は一向に減る気配がなく、女性人材の浪費問題が解消されていない。本科目では、仕事、キャリア、結婚、出産、子育てをめぐって、女性が直面するさまざまなバリアとその原因を考える。	
	ライフステージと法	人が生きていくうえで一生の間に出会うであろう法律問題（就職・結婚・出産・離婚・相続・消費者問題等）の基礎知識を身につけることを目的とする。いくつかの具体的な事例の紹介や、その対応先の議論や解説を行う。レジュメを用いた講義形式により進め、各講義の冒頭、あるいは最終講義の際に、講義内容の質問に対する回答等を行う。生活における法的トラブルに直面した時に、どのような対応をすればよいか理解できることを目標とする。	
	現代女性論	性別をめぐる「常識」が、どのように社会的・歴史的に構築されているのかを明らかにしていく。女性が現代社会を生きていくうえで経験する様々な問題が、いかに社会的な問題とつながっているのかを理解し、それに対応する力を養っていくことを目的とする。ジェンダー・セクシュアリティにおける基礎概念を理解できるようになること、ジェンダー・セクシュアリティの観点から現代社会の現状と問題を的確に把握できるようになること、現在の問題に対する対応策の見通しを持ち、提案し、実行できるようになることを目標とする。	
	現代男性論	ジェンダー論、特に男性学の知見に依拠しながらできるだけ冷静で客観的な考え方を習得することを目的とする。概要としては、ジェンダー論及び男性学の基礎を講じた後に、現代社会における男性を取り巻く諸問題について取り上げていく。スライド資料等を用いた講義形式で、授業終了後は、授業内容及びテキストに関する簡単な課題を課す。学生が提出した課題に対するフィードバックは、必要に応じて学習システムを通じて個別に行う。全体に対しては授業時間内に行う。男性問題の特徴を女性問題との対比において理解できること、男性同士の仲間関係における男性性の形成を理解できること、近代社会と男性性の関係について具体例を挙げながら説明できること、男性が家庭領域から撤退した歴史的経緯を概説できること、ジェンダー論における男性学の問題点を考察できることなどを目標とする。	

J W U キ ャ リ ア 科 目	日本の女性史	19世紀後半から約100年の間に、日本における女性の生き方がどのように変わってきたのか、変化の要因となったのはどのような事柄だったのかについて学ぶことを目的とする。講義形式で、リアクションペーパーの提出を求め、適宜フィードバックを行う。近現代の日本における女性の法律上の位置づけ、近現代の日本における女性の教育環境、近現代の日本における女性の労働状況、近現代の日本における女性観、近現代の日本における女性をめぐる政治運動、社会運動について説明できることを目標とする。	
	世界の女性史	特にインドの歴史を中心にアジアや西欧の歴史に着目する。インドは古代文明を築き、数々の王朝の勃興の後、グローバルな歴史を展開しており、様々なジェンダー観を包摂した社会を形成している。世界の歴史をジェンダーの視点から読み解きながら、授業後半ではジェンダーを巡る今日的状況にも目を向けていくことを目的とする。講義形式で、毎回課題やリアクションペーパーの提出を求める。歴史をジェンダーの視点から捉えることで、歴史解釈が一つではないことを理解すること、様々な国や社会の歴史の中からジェンダーのあり方の多様性を知ることが目標とする。	
	社会に出るための自己表現	“学生と社会人の違い”とは何かという大きな命題について考察してゆく。社会は“異なる常識を持つ人々が、互いにコミュニケーションをしてゆく場”であり、だから自分が周りと合わせていかなければならないとの視点から、社会で通用する“コミュニケーション力”について、スキルアップしていくことを目的とする。毎週、小レポートの課題提出を求める。提出された課題を活用して授業を展開していく。毎回提出する小レポートの作成により、普段の生活から“気づき”を見つける力を磨き、“気づき”を意識した生活を習慣づけることで生活力を磨くこと、コミュニケーションに必要な心構えを伝授し、コミュニケーション力の向上に繋げること、授業の中で伝授する様々な発想法を使用した簡単なワークを行い、右脳で考える力を鍛えることを目標とする。	
	現代ビジネスと起業	日本経済の現状と労働環境について考えること、世界的な働き方の潮流を見つめながら、女性のキャリア形成について考えること、with コロナ、after コロナについて理解を深めることを目的とする。講義、及びグループセッションにより進めていく。毎回、授業後にアンケートの記入を求め、理解度をはかる。持続可能な開発目標（SDGs）とは何かを理解して、様々な働き方を考えられること、就業、起業とは何かを理解できること、グループセッションの実施によって、共創力とは何かを理解すること、学生時代及び就職後のキャリアパスについて考えることを目標とする。	
	インターンシップ I	将来の自己のキャリアデザイン設計に向けて、職業観を育て、自己の適性や可能性を探るきっかけとなるような質の高い就業体験となるインターンシップを行うことを目的とする。事前指導により、インターンシップに参加するにあたり必要な事項を事前に学修する。事前指導を踏まえ、現場での就業体験を行うとともに関連する知識を習得する。具体的には、ビジネスマナーを学んだうえで、企業の事業内容や商品に関する学習・調査を行い、工場見学やWEBサイト企画立案・作成を通じて、実習を行う。事前指導、インターンシップを経て、自らの体験をプレゼンテーションし、参加者と共有することで経験を深め、自己のキャリアビジョンを明確にしていく。事前指導に出席して働くことの意義を考え、社会を知り、学生と社会人の違いを認識すること、インターンシップに参加するにあたり、社会人に必要なスキルを身につけ、関連する知識を習得すること、成果をまとめ、インターンシップ先や学内で報告をすることにより、自らの可能性に気づき、今後の学生生活、キャリアデザインに生かすことを目標とする。	集中

J W U キ ャ リ ア 科 目	インターン シップⅡ	将来の自己のキャリアデザイン設計に向けて、職業観を育て、自己の適性や可能性を探るきっかけとなるような質の高い就業体験となるインターンシップを行うことを目的とする。事前指導により、インターンシップに参加するにあたり必要な事項を事前に学修する。事前指導を踏まえ、現場での就業体験を行うとともに関連する知識を習得する。具体的には、市の取り組みの視察、業務補助、行事参加（歴史的背景の学習・準備・開催）を通じて実習を行う。事前指導、インターンシップを経て、自らの体験をプレゼンテーションし、参加者と共有することで経験を深め、自己のキャリアビジョンを明確にしていく。事前指導に出席して働くことの意義を考え、社会を知り、学生と社会人の違いを認識すること、インターンシップに参加するにあたり、社会人に必要なスキルを身につけ、関連する知識を習得すること、成果をまとめ、インターンシップ先や学内で報告をすることにより、自らの可能性に気付き、今後の学生生活、キャリアデザインに生かすことを目標とする。	集中
J W U 社 会 連 携 科 目	社会課題とN PO・NGO	NPOの基礎知識を共有し、NPOが何を目的として活動しているのかを学んでいく。現場感をもって社会課題の解決の仕方を伝えるため、NPOスタッフを招聘し、議論の場を設ける。NPOやNGOはいかに社会課題に気づき、自ら動き、共感する人を増やし、活動を展開させていくかを学ぶことを目的とする。毎回ミニテーマで考え、発表すること、テーマに応じて課題を提出することを求める。課題に気づく力や共感力を身につけること、課題解決のために事業の立ち上げ方を知ること、グループワークを通じて学生がコミュニケーション能力を高めること、多様な変化にも適応できる力を身につけること、社会変革の担い手は自分であるという意識を身につけることを目標とする。	
	ボランティア 概論	日常生活の中からボランティアを捉え直し、ライフデザインや社会への参画につなげていくことを目指して、ボランティアについて考える。そのために、ボランティアの意義や歴史、種類（領域）、課題等の基本的な事柄を学び、自ら課題を見つけ、調べ、まとめ、自らの言葉で発表することで、ボランティアと、その活動について理論的・実践的な理解を目指す。	
	企業と社会連 携	<p>これまでは行政や非営利組織の役割とされてきた「社会課題の解決」において、企業に期待される役割が大きく変化している。こうした社会の変化を俯瞰しながら、変化する社会課題や解決手法、担い手のありようについて基礎的な知識を身につけるとともに、企業に求められる役割やビジネスによる社会課題の解決に焦点を当て、具体的な解決手法の考え方を学ぶことを目的とする。</p> <p>（オムニバス方式／全14回） （59 額田春華／4回）</p> <p>イントロダクション。ソーシャルビジネスと企業の社会的責任について。ソーシャルアントレプレナーと女性企業家について。生活・社会の持続可能性と社会連携について。 （117 井上洋／6回）</p> <p>企業の社会的責任とマネジメントについて。ダイバーシティ&インクルージョンと社会連携について。 （246 田村太郎／4回）</p> <p>社会課題へのアプローチとソーシャルビジネスについて。ソーシャルビジネスによる課題解決について。プラン発表。</p>	オムニバス方式

J W U 社会連携科目	社会連携を学ぶ A	本授業のサブテーマは「子ども」である。子どもを巡る多岐にわたる課題を、地域・社会での連携という観点から学び、様々な場面で行われている実践活動やボランティア活動の実際に触れることで、学生自らが行動を起こすことの意義を理解し、ボランティア活動への準備性を養うことを目的とする。授業回の前半に子どもを巡る社会問題を取り上げ、子どもや社会連携についての問題意識を高める。後半部分ではより身近なテーマから学生による新たな発見を促すことを狙いとする。各回のテーマに関連したレポート課題の提出を求める。子どもを巡る様々な課題について、社会連携の意義が理解でき、説明できること、解決に社会連携の必要性が理解でき、説明できること、子どもが登場する様々な場面に主体的に参加する方法が分かることを目標とする。	
	社会連携を学ぶ B	地域活性化・SDGs（持続可能な開発目標）をキーワードとし、社会連携活動やその基礎的知識についての理解、課題発見、課題解決の手法や具体例を通し、現在の社会連携のあり方を考えることを目的とする。自治体、企業の課題を SDGs の視座から考え、その社会が持続可能となる枠組みを考える。地域や企業が抱える現在の課題とその複雑性を理解できること、SDGs がもつ意味を理解できること、地域や企業の課題と SDGs を関連付け、課題解決の枠組み作りができることを目標とする。	
	地域・社会課題を学ぶ	他大学の事例も参照しつつ、地域連携について考え、また、本学が 2021 年度に連携協定を締結した自治体関係者の参加を得て、本学ができる役割について考えることを目的とする。当初は教員による講義形式の授業であるが、途中、本学と地域連携協定を結ぶ地方自治体の行政職員の方にゲストスピーカーとして参加してもらい、両者の知識・認識のズレを確認しつつ、より良い連携の形を考える。授業後にリアクションペーパーの提出を求め、フィードバックを学習システム上、または次回の授業の冒頭で行う。大学の地域連携事業の目的を理解し、地域の現状について理解できること、地域の方々の話をきちんと聞き、その内容を正確に把握できること、地域課題の解決を話し合う中で協調性と独自性を持ち、一つの案を提出できることを目標とする。	
	課題解決型ワークショップを用いた企画開発	株式会社読売広告社の寄附講座として行われる。広告代理店である同社のビジネス領域において、実際に実践されているワークショップの手法を学びつつ、実際に企業の要望を想定し、または実際の企業と連携しながら、ワークショップを活用した企業の課題解決の具体案の作成もを行い、受講者の課題解決能力の向上を目指す。授業後のリアクションペーパーを学習システム上で提出し、授業担当者からのフィードバックをする。現在の日本企業が抱える諸課題について、理解し、解決の糸口を見つけるための機会＝ワークショップという手法を理解すること、その手法を用いて実際に日本の企業・地方公共団体の課題解決の一助になるような案を、ワークショップを通じて創造することを目標とする。	集中

J W U 社 会 連 携 科 目	社会における ICT、データサイエンス 活用 A	実社会の課題に対して、現状を分析し、解決案を提案する活動を通して、実際の問題解決に活用できる情報収集力、分析力、問題解決力の獲得を目的とする。企業の協力の元、実社会での問題発見、問題解決の活動を模擬的に体験する活動等を通して、現在、広く教養として求められている数理・データサイエンス・AIに関わる実践力を高めるとともに、社会に出てから必要となる個人情報の扱いや情報セキュリティについて注意すべきポイントなどを学ぶ。文献やインターネット上のデータの収集や分析など、個人やグループワークによる演習を行う。	
	社会における ICT、データサイエンス 活用 B	現在、私たちの身の周りにおける多くの社会活動がインターネットを通じて行われている。そのため、これからの社会で活躍するには、インターネット上で行われる各種の情報処理の仕組みを理解し、実用化するスキルが必要である。本科目では、受講者が実際に Web アプリケーション開発ツールである「Monaca」と「ニフクラ mobile backend」を用いて簡単なスマートフォンアプリを開発する。これらの演習を通じて、Web プログラミングおよびクラウドを用いたデータ処理方法を理解し ICT スキルを向上させ、普段の生活に必要な斬新で面白いアプリを作れることを目標とする。	
	地域・企業と 未来を創るク リエイティ ブ・プロジェ クト演習 A	0 歳の赤ちゃんとお母さんを守るため、日本女子大学に設置される文京区の避難所について、運営準備はまだまだ不十分である。運営アイデアをプロジェクト型で思考し、グループで実現方法を検討、討議結果を発表することを目的とする。授業では講義、文献収集をもとにして、グループでの話し合いを展開、市民に向けて発想を説明できることを目指し、PBL、アクティブラーニング形式の授業を実施する。またルーブリックを用いて各自のパフォーマンスを評価する。問題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行い、データを客観的に読み取ることができること、避難所生活者の妊産婦・乳幼児のニーズを的確に捉え、論理的思考に基づいて柔軟に解決策を考えられること、チームと協力的に作業し、チーム内の各自の意見を統合し、創造的な結果に結びつけるよう調整できること、社会課題の解決に対して主体性と責任をもって検討できることを目標とする。	
	地域・企業と 未来を創るク リエイティ ブ・プロジェ クト演習 B	山梨県の食品企業のご協力のもと、既存施設の再活用、それを利用した街おこしに関する新規事業の内容・展開をテーマに、現地でその問題について考えることを目的とする。授業は基本的にワークショップ形式で行うため、現地での学習の中で質問を受け、その場でのフィードバックを基本とする。地域や企業が考える課題の複雑性と本質が理解できること、課題解決のために必要な情報を検索し、課題に関連付けることができること、課題解決のためのヒアリング、ディベートを主体的にできるようになること、パワーポイントを利用したプレゼンテーションを効果的にできるようになることを目標とする。	集中
	地域・企業と 未来を創るク リエイティ ブ・プロジェ クト演習 C	「地理空間情報・地域環境」をテーマに、第 1 部：地理情報システム (GIS: Geographic Information System) を用いた空間情報解析第 2 部：地理情報システム (GIS) を用いた地域調査・地域課題分析の 2 部構成で実施する。第 1 部で GIS の基本的な原理 (地理情報の数値的表現法、GIS で利用される空間データ (ベクタデータ・ラスタデータ)、空間解析手法) を学ぶ。第 1 部での学びを生かし、第 2 部では実際に地域へ赴き、フィールドワークと GIS 解析の双方を利用した地域調査を実施する。対象地域は、横浜市田谷地域である。課題の発見、データ収集から、習得した解析手法を用いた課題の解決に至るまで、実践を通じて空間解析手法を身につけてもらう。また、地域調査の成果を実際に地域住民へ発信し、地域の課題を共有することも目指す。	集中

J W U 社会連携科目	地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト演習 D	文京区・豊島区・新宿区など、近隣の地域の文化について英語で発信をするプロジェクトを実行する。プロジェクトはグループワークで実施する。受講者自身で対象となる地域を調査し、情報を集めて原稿を執筆し、電子媒体（ウェブ）または冊子形態（パンフレット）で発信する準備を整える。発信内容は、おもに対象地域と関連のある日本文学者や外国人著名人などであるが、受講生の興味・関心に応じて映画のロケ地やアニメの聖地なども発信内容の対象とする。		
	社会連携・社会貢献活動 I	社会で力を発揮するための豊かな実践力を身につけることを目的として、本学が連携する団体等または一定の基準を満たす団体等が公募する社会連携・社会貢献活動に取り組み、その成果を発表する。 事前指導（講義）により、社会連携・社会貢献活動に参加する意義について考え、事前指導を踏まえて、現場での実践活動に対して主体的に取り組む。事前指導、現場での実践活動を経て、自らの体験を事後指導（活動報告会）で発表を行う。社会連携活動は、例えばフードパントリーボランティアと学習支援ボランティアの2つの活動を組み合わせた活動とする。	集中・共同	
	社会連携・社会貢献活動 II	社会で力を発揮するための豊かな実践力を身につけることを目的として、本学が連携する団体等または一定の基準を満たす団体等が公募する社会連携・社会貢献活動に取り組み、その成果を発表する。 事前指導（講義）により、社会連携・社会貢献活動に参加する意義について考え、事前指導を踏まえて、現場での実践活動に対して主体的に取り組む。事前指導、現場での実践活動を経て、自らの体験を事後指導（活動報告会）で発表を行う。社会連携活動は、例えばフードパントリーボランティア、学習支援教室ボランティア活動、多世代交流施設でのボランティアの3つの活動を組み合わせた活動とする。	集中・共同	
基礎科目 外国語	必修英語	プレゼンテーション・イングリッシュ a	この授業科目では演習形式により、人前で英語を使い、自分自身を適切に表現するためのコミュニケーション能力に特に焦点を当てて、学生の全体的な英語能力を伸ばすことが目的である。特にプレゼンテーション・イングリッシュ a では、英語でプレゼンテーションを行うための基本的なスキルの習得と実践を中心に行う。学生は、時にはペアを組んでグループで学習するなど、より効果的な学修方法で、割り当てられたトピックを調査して話し合い、プレゼンテーションを整理し、身振り、声の抑揚、発音、正しい文法と単語の選択など多様なプレゼンテーションスキルを学ぶ。	
		プレゼンテーション・イングリッシュ b	この授業科目では演習形式により、人前で英語を使い、自分自身を適切に表現するためのコミュニケーション能力に特に焦点を当てて、学生の全体的な英語能力を伸ばすことが目的である。特にプレゼンテーション・イングリッシュ b では、プレゼンテーション・イングリッシュ a で習得したスキルを土台として、より高度な内容で自分の意見について説得力を持って発表し、スキルを向上と実践を中心に行う。学生は、時にはペアを組んでグループで学習するなど、より効果的な学修方法で、割り当てられたトピックを調査して話し合い、プレゼンテーションを整理し、身振り、声の抑揚、発音、正しい文法と単語の選択など多様なプレゼンテーションスキルを学ぶ。	
		アクティブ・イングリッシュ a	この授業科目では演習形式により、比較的平易で分かりやすい英語による映画や、文化・経済・政治・環境・社会などの多岐に亘るトピックに関する英文ニュース等を題材に取り上げながら、英語の文法力や語彙力を強化し、英文を読み解く力を養成する。事前に指定された映画を視聴して内容をワークシートにまとめたり、ニュースの日本語訳に取り組む反転授業の形を取ることで語彙力を強化し、自分の考えを英語で表現したり論理的に書けるようになる等、基礎となる英語力を学ぶ。また、授業後にはレポートや課題に対するフィードバックを行う。	

基礎科目 外国語	必修英語	アクティヴ・イングリッシュ b	この授業科目では演習形式により、比較的平易で分かりやすい英語による映画や、文化・経済・政治・環境・社会などの多岐に亘るトピックに関する英文ニュース等を題材に取り上げながら、リスニング、スピーキングの運用力を伸ばすことが目的である。事前に指定された映画を視聴して内容をワークシートにまとめたり、授業時間内でペアワークやディスカッションを行うことで、リスニング力を強化し、円滑なコミュニケーションの基礎となる英語力を学ぶ。また、授業後にはレポートや課題に対するフィードバックを行う。	
	選択英語	英語コミュニケーション I	SNS やメールの普及により、文字でのコミュニケーション機会が多くなったことを踏まえ、SNS、チャット、メール等の使用を前提とした、会話に近い日常的な文字による英語コミュニケーション力の養成を目的とする。文法は日常よく使う表現に限定する。授業は基本的に資料提示・課題提出型で進める。各自あらかじめ資料を読み、理解し、教科書の問題を解いておく。場面に応じて、適切な英文を使って自分の気持ちを伝えられること、SNS やメールなどでのコミュニケーションに必要な略語の知識の習得を目標とする。	
		英語コミュニケーション II	身近で簡単な事柄から社会問題まで、様々なトピックについて少人数でディスカッションをし、相手を説得させるスピーキング力を養成し、英語コミュニケーション力を中級程度から上級へレベルアップさせる。トピックに関するサンプルディスカッション等を聞いてリスニング力を鍛え、自分の意見に使える表現を学ぶ。またディスカッションでは、発言のチャンスを得るための表現や、誤解を解くための表現、相手が言ったことを確かめる表現など、話し合いに必要な表現も学ぶ。様々な状況に当てはめてロールプレイすることで、応用練習をさせ、表現の定着を図る。賛成する、反論する、議論に上手に割り込む、論点を整理するなど、英語で話し合いを進められるようになることを目的とする。	
		英語コミュニケーション III	この授業では、英語による演習形式の授業である。リスニング、スピーキング、発音、メモを取るスキル、及び外国文化の理解を向上させることを目的としている。時にはペアワークで会話スキルを練習したり、グループワークで文化的なトピックを議論し発表しながら、英語力を高める。最終的には、正しい文法と語彙を使用して明確かつ首尾一貫して話すこと、様々なトピックについてディスカッションで意見を述べること、理解を深めて読解や効果的なメモを取れること、文法上の間違いを最小限に抑えて明確で整理された方法で書くことを目的とする。 This class is an exercise-style class in English. It aims to improve listening, speaking, pronunciation, note-taking skills, and understanding of foreign cultures. Students will enhance their English by practicing conversation skills in pairs and sometimes discussing and presenting cultural topics in groups. Ultimately, students will learn to speak clearly and consistently through using correct grammar and vocabulary, and they will express their opinions in discussions on various topics. Further, in order to deepen their understanding and improve their reading and grammar comprehension they will learn to take notes effectively, the ultimate aim being to write in a clear and organized way with minimal mistakes.	

基礎科目 外国語	選択英語	リーディング I	外国のヒット映画について、その内容、制作当時の時代背景などが書かれたテキストを読むことを通して、多様な情報や価値観を速く読む力や、時には時間をかけて正確に読む力を身につける。英文法、語彙、音声について実践的な知識を身につけるとともに、インターネット等を用いて積極的に周辺知識を調べて異文化に対する理解を深め、英語を用いて自分の考えを表現することを目的とする。	
		リーディング II	英語の読解力と文化的理解をネイティブレベルに向上させることを目的としている。主に英語の短編小説を題材にし、短編小説を読むスキルを学んだうえで、アメリカを代表する作家や、日系アメリカ人の体験小説等を読むことを通して、読解力と文化的理解の向上を図る。 The aim of this course is to improve students' English reading comprehension and cultural comprehension, gradually improving their understanding of native level English. Classes will focus on learning about English short stories, which students will acquire the skills to read with confidence. Students will improve their reading comprehension and cultural understanding and learn about various viewpoints and experiences by reading the novels of leading American writers and Japanese Americans.	
		リーディング III	英語の詩を読むことは、想像の世界で、現実世界とは違った体験を広げることである。詩は特殊で難しいという先入観を捨てて、詩に親しみ、詩を楽しむことを目指す。18世紀～20世紀イギリス、アイルランド、アメリカの詩人の作品を題材に、丁寧に作品を読み、詩の種類、形式、文体などに習熟し、個々のテキストの解釈と鑑賞のみならず、作品の時代・文化的背景にも触れながら、広い視野から詩を理解する。教員と学生の間で対話をしながら進行する。英米の詩人たちの作品を通じて、言語に敏感に反応する感覚を身につけ、感性を磨き、理性や合理主義とは別の世界を知り、その社会背景を学び、異文化理解を高めることを目標とする。	
		ライティング I	日常的な話題や情報、自分の主張や自己表現を、「書く」英語で発信する能力の向上を目指す。多様化したコミュニケーション力が求められる社会において、「文章」で情報を正確に発信するため、要点となる文法事項を再確認しながら、正しいセンテンスを構成することを学ぶ。授業は演習形式、およびグループワークによるアクティブラーニング形式で行う。正しい英文を構成し、正確に情報発信できること、英語の豊かな語彙を学び、効果的な英文で自己表現できることを目的とする。	
		ライティング II	天候や四季などの日常的な話題、身の回りの人物や人間関係、日常生活に生じる個々の諸問題、怪我や病気についての描写や説明などに加え、旅や休暇、世界規模で生じる環境などの社会問題についてなど、幅広いトピックを英文で表現し、発信する方法を学ぶ。表現のための語彙力を強化するため、関連する単語や語句、慣用表現を学修したうえで、正確で多様な表現力を見出し身につけることを目指す。授業は演習形式、およびグループワークによるアクティブラーニング形式で行う。英語の豊かな語彙と正確な文法力で、様々なトピックについての的確に描写し、効果的に自己表現できることを目的とする。	
		ライティング III	よく構成されたパラグラフや短いエッセイを書く方法を学ぶことが目的である。学生は個別の予習復習のほかに、グループ学習等のワークショップ形式で行われ、教員から口頭及び書面でのフィードバックを受け取ることで能力を伸ばしていく。扱う題材は、教育、生活、ビジネス、仕事、世界のライフスタイルなどであり、それらの様々な課題や作文課題を通じて、将来も役立つ英語作文能力を伸ばす。	

基礎科目 外国語	選択英語	メディア・リスニング	アメリカ英語に特徴的な発音やイントネーションパターンについて学び、自然なスピードの英語も聞き取る力を身につけることを目的とする。映画やテレビドラマ、TOEIC 教材、ネイティブ・スピーカー同士の生の会話も取り入れ、日常会話で用いられる英語を聴解する力を培う。また、リスニング力を向上させる手段として、スピーキング練習も積極的に取り入れる。メディアで使用される英語を聞き取るために必要な英語音声学の基礎知識、リスニング力、スピーキング力を身につけながら、国際社会問題に対する知識、教養を深めることを目標とする。	
		観光英語	海外旅行で使う英語表現、来日した観光客に日本文化を紹介する時の説明、観光業務を行う時のビジネス表現などを学ぶ。 また、総合旅行業取扱管理者試験、通訳案内士試験、観光英語検定の対策を通して試験に備えた基礎力の養成を目指す。また、観光地、観光業務に関する説明文の読解を通して総合的な英語の力の向上を目指す。授業では実際の観光場面を想定し、与えられた状況、場面を考慮に入れつつ、観光客に分かりやすい英語表現を練習する。観光案内、観光地で必要とされる英語の基本表現を使用できること、基本的な日本の文化、伝統を英語で表現できること、英語をコミュニケーションの手段として、相手の発言内容を理解し、自分の伝えたい内容を相手に伝えられることを目標とする。	
		ビジネス・イングリッシュ	将来、英語を使って働きたい学生に必要な英語力の向上を目指す。自分に適した仕事を見つけるまでのプロセス（適職を探す、求人に応募する、履歴書を用意する、採用面接の際の注意点や方法）を学び、実践練習を行う。授業では、まず自分に合った職種やライフスタイルを探したうえで、実際に興味のある企業や職種を調査し、お互いに発表する。また、履歴書やレターの書き方の授業を受け、自分自身で書き、クラスメート同士でチェックしながら就職活動に向けた準備を行う。最後に、面接のポイントを学び、クラスメート同士の面接練習を行い、最終的に講師を面接官とする面接を行う。適した仕事に就くために必要なプロセスを理解し、要求される英語力を養うこと、リサーチやプレゼンテーションの能力を磨くことを目標とする。	
		TOEIC	TOEIC のスコアを伸ばすために、国際的なビジネス分野で必要な英語のコミュニケーション能力を養成するために、TOEIC 問題を使いながら、様々な場面、分野のリスニング・リーディングの演習を行う。併せて、文法、語彙の習得と幅広い英語運用能力を養うための訓練をする。TOEIC の特典を伸ばし、個々に設定した目標を達成できるようになることを目指す。	
		TOEFL	米国大学・大学院への留学に必要な英語の試験である TOEFL を受験するために必要な英語の実力をつけるため、主に Reading 力向上を目標とする。テキストは主に実際の TOEFL iBT の模擬試験からなり、各自が問題に取り組んだうえで個々の問題を解説していく。TOEFL iBT 受験のための基礎的な知識、実際に解答するための英語力（特にリーディング）を身につけること、受験対策を通じて大学レベルで学習可能な英語力を身につけることを目標とする。	
		IELTS	本科目は学生が IELTS テストを受験するための準備、得点力の向上、英語力全般の向上を目的とする。IELTS テスト受験準備のための過程で色々な種類のリスニングやリーディングの組み立て、語彙を学び、進捗度合いについても期間中に数回のチェックを受ける。IELTS テストを受験するための方策を理解し、リスニングとリーディングのスキルを向上させ、語彙を増やすことを目標とする。	
		資格英語（集中） 1	TOEIC 形式の問題を、文法的なアプローチも適宜交えながらパターンごとに解いていき、TOEIC の問題の傾向に慣れながら、ビジネス英語の習得と TOEIC のスコア向上を目指す。教科書の問題を中心に練習を繰り返す形で、リスニングのコツと文法の基本を身につける。TOEIC のスコア向上、TOEIC 問題を通じた英語の基本の理解、ビジネス英語で使える英語の習得を目標とする。	集中

選択英語	資格英語（集中） 2	実践練習を通して、TOEIC の出題パターンに慣れるとともに、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。また TOEIC テストに備える学修を通じ、国際化・グローバル化に対応できる英語運用能力の育成を目指す。TOEIC テストのリスニング学習を中心に、リーディング学習も交えて総合的な英語力を向上させるための多角的なトレーニングを積む。TOEIC テストの問題形式を把握し、スコア向上を目指すこと、頻出文法・語法を確認すること、ビジネス現場で活用できる総合的な英語能力を身につけることを目標とする。	集中
	資格英語（集中） 3	TOEFL の問題形式の特性を把握したうえで、各自が目標とするスコアに到達できるように、「読む」「聞く」「話す」「書く」の英語 4 技能について集中的に問題演習を行い、英語運用能力の向上を目的とする。実践演習形式の授業の中で、自分の弱点を把握しながら TOEFL の各パートの特性を把握し、解答のテクニックも含めて、各自が目標とするスコアを獲得できるだけの実力をつけ、単に試験対策にとどまらず、アカデミックな場での英語運用能力を高めることを目標とする。	集中
基礎科目 外国語	ドイツ語 a 入門	ドイツ語を初めて学ぶ学生が対象で、発音の規則にはじまり、ドイツ語文法の前半部分を学ぶ。世界におけるドイツの立場や文化的特徴についても適宜説明し、日本的・アメリカ的なスタンダードによらない、柔軟な世界理解の感性も養う。文法事項の後に練習問題を解き、必要に応じて会話練習、小テストで理解の定着を図る。辞書を活用して、基本的な会話・読解・作文ができ、ドイツ語技能検定試験 5 級合格程度の能力を身につけることを目標とする。	
	ドイツ語 a 初級	ドイツ語を初めて学ぶ学生が対象で、発音の規則を確実に定着させ、1 年で学ぶべき文法事項の後半部分を学ぶ。辞書を活用して、基本的な会話・読解・作文ができ、ドイツ語技能検定試験 4 級、ゲーテ・インスティトゥートドイツ語検定試験 A1 合格程度の能力を身につけることを目標とする。	
	ドイツ語 b 入門	オーラル・コミュニケーションの訓練を中心とし、入門の授業では特に発音、書字体系を理解することを目的とする。聞く・読む練習では、おおよその内容をつかんだり、予測したり、特定の情報を探したり、多様な理解の仕方を学ぶ。ペアワークやグループワークを通して積極的に話し、発音を練習する。また、自己紹介や簡単なメールなどで作文を学ぶ。発音の規則に慣れ、ドイツ語圏文化への配慮をもって、状況に応じて基本的なコミュニケーションができ、ドイツ語技能検定試験 5 級合格程度の能力を身につけることを目標とする。	
	ドイツ語 b 初級	ドイツ語 b 入門に引き続き、発音や会話に重点を置きながら、ドイツ語を読む・聴く・話す・書く技能を総合的に学ぶことが目的である。グループワークによる実践的な会話練習を積み重ねていくことで、ドイツ語でコミュニケーションを行うことの楽しさを実感し、ドイツ語圏の文化に対する理解も深める。発音の規則を習熟し、基本的なコミュニケーションができ、ドイツ語技能検定試験 4 級、ゲーテ・インスティトゥートドイツ語検定試験 A1 合格程度の能力を身につけることを目標とする。	
	ドイツ語 L. L. 入門	正確な発音の習熟を目指し、基本的表現のパターン・プラクティス、および簡単な会話の訓練を行う。入門授業では特に発音、書字体系の理解に重点を置いて指導する。ドイツ語会話の教科書に基づいて、様々なコミュニケーションの場面でドイツ語を使う練習を行う。また、書籍・インターネット上にある様々なリソース（YouTube や Podcast を含む）を活用することで、ドイツ語圏のリアルな様子を学んでいく。ドイツ語に映像・音声を通じて馴染み、ドイツ語圏文化へ配慮しながら、状況に応じて基本的なコミュニケーションができる。ドイツ語技能検定試験 5 級合格程度の能力を目標とする。	

基礎科目 外国語	ドイツ語	ドイツ語L. L. 初級	正確な発音の習熟を目指し、基本的表現のパターン・プラクティス、及び簡単な会話の訓練を行う。ドイツ語でのコミュニケーション能力を身につけたい学生、ドイツ語圏への旅行や留学を目指す学生を対象としている。ドイツ語に映像・音声に通じて馴染み、ドイツ語圏文化への配慮をもったうえで、状況に応じて基本的なコミュニケーションができることを目標とする。ドイツ語技能検定試験4級、ゲーテ・インスティトゥートドイツ語検定試験A1合格程度の能力の習得を目指す。	
		ドイツ語中級	ドイツ語で文章を書くことによって、ドイツ語の運用能力を高め、同時に入門・初級の授業で学習した文法知識の定着を図る。ドイツ語圏文化とドイツ語に対する、より深い理解を持ち、読む・書く・聞く・話すのいずれか、あるいは複数におけるより進んだ能力を発揮できることを目標とする。ドイツ文化に関するテキストやヨーロッパ都市の歴史、ギリシャ神話などを題材に、ドイツ語文法と語法の正確な知識から論理的に把握し、ドイツ語分読解力を向上させる。ドイツ語技能検定試験3級、ゲーテ・インスティトゥートドイツ語検定試験A2合格程度の総合的な能力の習得を目指す。	
		ドイツ語中級 アドヴァンスト (原典講読)	ドイツ語の読解力を一向上させ、自力で高度なドイツ語文を正確に理解できるようになることを目的とする。ヨーロッパ近代史やドイツ語に翻訳された日本文化のコンテンツを題材に、ドイツ語の基本的な文法事項等を再確認し、翻訳の問題、文化理解の面白さについても体感する。西洋の歴史・文化への理解に基づき、比較的高度なドイツ語文献を読みこなすことを目標とする。	
		ドイツ語上級	名高い小説家による作品および書簡や日記を熟読することで、本格的なドイツ語の文章に慣れ、語彙数を増やし、文法・語法を極め、ドイツ語原典を読み解く力を向上させることを目指す。本格的なドイツ語をじっくりと精密に読み解くことにより、文法現象も、精神的・哲学的・文化学的・歴史的背景の理解も深める。	
		集中ドイツ語	ドイツ語技能検定試験3級合格に必要な能力を鍛えていく。検定試験の特徴を熟知した講師が勉強のコツを伝授する。模擬試験を複数回行い、受講者の苦手な部分を把握し、要点を絞って指導する。文法事項を分かりやすく解説したうえで、練習問題を解いていく。必要に応じて会話パート練習、小テストを行い、理解の定着を図る。文化的背景についてなるべく沢山の情報を交え、ドイツ語習得の意欲の持続を図る。ドイツ語技能検定試験3級に合格できる能力の獲得を目標とする。	集中
フランス語	フランス語 a 入門	フランス語文法の入門クラスであり、文法を中心に発音の基礎から、フランス語とフランス文化に親しみ、基本的な例文を覚えることにより、読む・書く・聴く・話す、の基本を身につけることを目的とする。日仏の若者の交流や現代フランス文化、フランス料理などを題材に、フランス語の発音の仕組みを理解し、基礎的な文法や簡単な会話表現を習得していく。フランス語検定5級から4級レベルになることを目指す。		
	フランス語 a 初級	フランス語文法の入門クラスの修了者向けの初級クラスである。入門クラスに引き続き、文法の解説や練習問題を通じて、初級文法の後半部分を習得し、時制の混ざった簡単な文章が読めるようになることを目指す。日常生活に必要な程度のフランス語を聞き、話し、読み書きできるようになるための、基本的文法を身につけ、フランス文化を通じて多様な価値観に触れ、多角的なもの見方、広い視野を身につけることで、国際的な分野で活躍できるようになることを目標とする。フランス語検定4級から3級程度のレベルになることを目指す。		

基礎科目 外国語	フランス語	フランス語 b 入門	初歩的な文章・会話文を通じて、初級文法や発音の定着や、日常生活の様々な場面で使われるフランス語を「話す」「聞く」「読む」「書く」訓練を通して、総合的な力をつけていくことを目的とする。テキストを丁寧に学ぶことで、実際に単語や文法が文や文章の中でどのように使われているのかを確認していくことによって、フランス語の運用能力を高める。発音の規則に慣れ、フランス語圏の文化への配慮をもって、状況に応じて基本的なコミュニケーションができることを目標とする。フランス語検定 5 級程度のレベルになることを目指す。	
		フランス語 b 初級	旅行や日常会話でよく使う表現を中心に、フランス語を学び、文法を身につけ、語彙を増やししながら表現力を豊かにすることが目的である。視聴覚教材を多用し、聞き取りや書き取りなどを通じてフランス語の音に親しんだり、グループを作って簡単な会話練習を行い、フランス語の実践的運用能力を高める。基本的なフランス語の文法の規則を理解し身につけること、正しいフランス語の発音で文章が読め、ある程度話せ、聞き取るようになることを目標とする。フランス語検定試験 4 級合格程度のレベルになることを目指す。	
		フランス語 L. L. 入門	フランス語入門の授業であり、様々な表現・文型・会話パターンに慣れながら、基本的な文法や語彙、発音を学習し、自然なフランス語を身につけることを目的とする。フランス語は基礎がしっかりしていればスムーズに上達できる言語である。文字と発音の関係は非常に論理的で、規則を身につけ、効果的な勉強ができるようにするための基本的な「コツ」も学んでいく。フランス語圏の文化に映像・音声を通じて馴染み、フランス語圏の生活感情への配慮をもったうえで、状況に応じて基本的なコミュニケーションができる検定試験 5 級合格程度のレベルになることを目指す。	
		フランス語 L. L. 初級	フランス語 L. L 入門を踏まえ、担当教員や他の学生と会話をするを通して、フランス語によるオーラル・コミュニケーションの基礎の習得を目指す。毎週行うコミュニケーション練習を通じ、自然なフランス語表現を聞き取り、実際に発話する力を培う。会話に置いて基礎文法・基本表現当を応用できる思考力を養うとともに、言語の背景となっているフランス文化に関する幅広く豊かな知識を身につけることを目標とする。フランス語検定試験 4 級合格程度のレベルになることを目指す。	
		フランス語中 級	フランス語入門・初級の授業で学んだ事柄を、実践レベルで応用することを目的とする。現在を生きるフランスの若者たちが日常普通に使っているフランス語を、会話文やある程度の長さの文章の読解を通して学ぶ。また、旅行や留学に必要な事柄をフランス語で表現できるようになるために、会話文や表現パターンを繰り返し声に出して応用練習を行う。フランス語圏の文化・言語に対するより深い理解を持ち、読む・書く・聴く・話す、のいずれか、あるいは複数におけるより進んだ能力を発揮できるようになることを目標とする。フランス語検定試験 3 級合格程度または CECRL (ヨーロッパ言語共通参照枠) A 1 程度のレベルになることを目指す。	
		フランス語 L. L. 中級	フランス文化に興味がある学生が、正確さよりは積極的に取り組むことが求められる。フランス語能力検定テキスト「ABC Delf A2」を使用し、口頭及び書面による理解と、表現の練習や語彙の習得を通して、Delf A2 合格の準備を行う。授業中の指示は主にフランス語を使用して進めていく。Delf A2 レベルを養成するために、学生が口頭及び書面で既に学習したコンテンツ (特に文法) を実践できるようになることを目標とする。	
		フランス語中 級アドヴァン スト (原典講 読)	中級程度のフランス語の文章を、正しい発音である程度流暢に読み、辞書を使って理解でき、中級程度の文法をしっかり理解しすることを目的とする。現代フランスのダイナミズムを社会現象・スポーツ・技術革新・環境・IT・アート・ファッションなどといった複数の分野を通して、より深くフランス文化を理解していく。また、フランス語の歌の歌詞を使いながら、単語の表現や発音の矯正、速めのスピードで話す練習も行う。入門・初級・中級フランス語で学んだ文法や語彙を復習しながら応用することで、現代フランス語の読む力、発信する力の両方を身につけていく。フランス語検定 3 級合格程度のレベルになることを目指す。	

基礎科目 フランス語	フランス語中級アドヴァンスト (コミュニケーション)	現代フランスのダイナミズムを社会現象・スポーツ・技術革新・環境・IT・アート・ファッション等複数の分野を通して、より深くフランス文化を理解できるように授業を進めていく。入門・初級・中級フランス語で学んだ文法や語彙を復習しながら応用することで、現代フランス語の読む力、発信する力の両方を身につけていく。テキストを読み、文法や語彙を説明した後、ペアもしくはグループで話し合い、問題を解き、最後に答え合わせする。中級あるいはL.L. 中級で身につけた能力をさらには伸ばし、フランス語を使って意見交換ができるコミュニケーション力を身につけることを目標とする。	
	フランス語上級	フランス語の原書を講読し、文学作品・雑誌記事・論文などのフランス語の文章について、辞書を使って読めるようになることを目的とする。盲点となりがちな文法事項に立ち入るとともに、論理的な文章の構成や、書き手の主観的な語り口などを掴めるよう丁寧に読み込んでいく。フランス語のエッセー、文学作品、雑誌記事、論文など、「フランス語中級アドヴァンスト」より一段上のテキストを題材とする。文系大学院でフランス語のテキストを一人で読みこなせるレベルになることを目標とする。	
	集中フランス語	フランス語検定試験3級の合格スキル獲得を目指す。基本文法を大まかに復習し、読解や練習問題、聴き取りなどを総合的に行いながら、基礎的な文法知識を確実なものにしていく。また、単語力獲得、リスニング力、長文読解力を磨くことにも重点をおく。過去の問題や模擬問題を解き、検定試験に向けての具体的な対策も行う。毎回、最後に問題点を整理し、質問などを通して、知識の定着を図る。フランス語検定試験3級に合格するスキルである基本文法の習得、読解力・リスニング力の向上を目標とする。	集中
基礎科目 外国語 中国語	中国語 a 入門	中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、基本的な発音と簡単な文法を学び、中国の文化や風習などにも触れ言葉を通じて中国に対する理解を深めることを目的とする。発音記号であるピンインの仕組みを理解し、綴りから発音できるように練習しながら、中国語の基礎的な文法構造を学ぶ。発音練習を継続しながら、日常的な挨拶、簡単な会話も練習する。辞書を活用して、基本的な会話・読解・作文ができ、中国語検定試験準4級、HSK1級合格程度のレベルになることを目標とする。	
	中国語 a 初級	中国語 a 入門に引き続き中国語の基礎を学び、入門で学んだことの定着をはかりながら、さらには文法を学び、語彙力や使える表現を増やしていくことを目的とする。既習の表現や分のパターンを用いた応用練習、グループごとの会話練習など、アクティブラーニング型の授業を行う。会話に関わる言葉の背景や、日本と中国の文化、習慣の違いを知り、正しいきれいな中国語の会話を学ぶ。辞書を活用して、基本的な会話・読解・作文ができ、中国語検定試験4級、HSK2級合格程度のレベルになることを目標とする。	
	中国語 b 入門	中国語を初めて学ぶ学生を対象とした入門の授業で、中国語の基礎づくりを目的に、発音の基礎から始めて、初級レベルで習うべき一般語句や基本表現及び文法事項などを学習することを目的とする。具体的には、発音の仕組みとその表記法であるピンインから始まり、文法の初歩、簡単な日常会話などを学んでいく。また中国語を学ぶ楽しさと意味をより深く認識すべく、言語の文化的背景(生活、社会、文学、芸術、歴史、地理など)なども随時紹介し、中国への理解も深める。発音の規則に慣れ、中国語圏文化への配慮をもって、状況に応じて基本的なコミュニケーションができ、中国語検定試験準4級、HSK1級合格程度のレベルになることを目標とする。	

基礎科目 外国語	中国語	中国語 b 初級	中国語 b 入門で学んだ事項を基礎にして、発音を定着させて、初級レベルで習うべき一般語句や基本表現及び文法事項などを学習することを目的とする。会話練習に重心を置きながら、文法事項も説明し、会話力とリスニングの能力を養成する。会話は基本的に教員対学生、学生対学生で行い、定期的に発表を設けることでよく使うフレーズ、語彙を復誦・暗誦する。中国語圏文化をある程度理解し、その上、状況に応じて基本的なコミュニケーションができ中国語検定試験 4 級、HSK2 級合格程度のレベルになることを目標とする。	
		中国語 L. L. 入門	入門や初級で取得した知識を確認・消化しながら、コミュニケーション力の基礎である「聴」力を身につけていくことを目的とする。中国語の発音を正しくマスターすることから始め、日常生活の各場面を設定し、文法を確認しながら、会話の練習を行っていく。中国語に映像・音声を通じて馴染み、中国語圏文化への配慮をもったうえで、状況に応じて基本的なコミュニケーションができ、中国語検定試験準 4 級、HSK1 級合格程度のレベルになることを目標とする。	
		中国語 L. L. 初級	中国語の発音、基礎文法、会話文などを解説しながら、書く・読む・聞くなどの練習を繰り返し行い、中国語の発音の定着をはかり、自己紹介や日常場面の会話ができるようになることが目的である。授業中にはクラスの全員に発音する機会が設けられており、より正確な発音を身につけ、中国語検定試験 4 級、HSK2 級合格程度のレベルになることを目標とする。	
		中国語中級	入門・初級で習得した文法事項を確認しながらスキルアップを目指し、読む・聞く・書く・話す、の 4 技能の総合的向上をはかる。基本的な文法事項の定着をはかり、さらには進んだ文法事項と表現を身につける。文法事項の解説と内容理解、文中で用いられた表現や文のパターンを用いた応用練習、グループワークなどアクティブラーニング型の授業を行う。中国語圏文化と中国語に対するより深い理解をもち、読む・書く・聴く・話す、のいずれか、あるいは複数におけるより進んだ能力を発揮でき、中国語検定 3 級、HSK4 級合格程度の総合的な能力を身につけることを目標とする。	
		中国語 L. L. 中級	初級授業で身につけた基礎能力をもとに、L. L. 教室を生かした訓練、様々な視覚的・聴覚的教材を用いた多面的な授業により、中国の文化への興味と理解をさらには深め、聴く・話す・読む・書く、のうち、特に聴く・話す能力を向上させることを目的とする。文の論理構造や発言の細かいニュアンスを示すキーワードの音に重点を置きながら、因果や条件結果など、より複雑な関係にある文や発話を正確に聞き取り、様々な場面に応じて「自分のことばで」会話できるように訓練する。中国語検定試験 3 級、HSK4 級への布石として該当するレベルの文型・語彙を習得することを目標とする。	
		中国語中級アドヴァンスト (原典講読)	中国語中級から上級レベルを対象とし、読解力、作文、口語表現、ヒアリングなどに注意しながら、中国語の総合力と応用力を高め、コミュニケーション能力を養うことを目的とする。実用性の高い日常表現や、中国のメディアに発表されたニュース記事を教材に、中国語の文章構造を理解し、高度な読解力を身につける。また、現代の様々な新語についての知識を獲得し、生活者目線での中国の現状を理解する。中国語文化と中国語に対するより深い理解を持ち、4 技能（読む・書く・聞く・話す）のうち、複数における一層進んだ能力を発揮でき、中国語検定 3 級以上、HSK4 級以上の総合的な能力を身につけることを目標とする。	

基礎科目 外国語	中国語	中国語中級アドヴァンスト (コミュニケーション)	中国語中級から上級レベルを対象に、読解力、作文、口語表現、ヒアリングなどに注意しながら、中国語の総合力と応用力を高め、コミュニケーション能力を養うことを目的とする。やや複雑な文型を使用して、自らの意見や考えを表現する力を習得する。演習形式により、可能な限り、学生が多く発音し、暗記し、表現していく。豊かな語彙力と基本文型による確固たる運用力の向上、実用性の高い中国語の応用力を身につけることを目標とする。これにより、中国語 3 級及び HSK4 級以上への合格を想定している。	
		中国語上級	中国語に関する知識を深め、運用能力をより高めることを目的としている。中国で出版された能力段階別リーダーをテキストとして、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能の総合的向上を目指す。授業は演習形式で進める。ナチュラルスピードの中国語を聴き、ディクテーション、内容の確認、文法事項のチェックを行う。小テストや課題提出により理解度確認するとともに、質疑応答、履修生同士の意見交換等も行う。中国語に関する知識を深め、運用能力を高めるとともに、中国語検定 2 級以上、HSK5 級以上に合格する力を養成する。	
		集中中国語	中国語検定 3 級、HSK4 級に合格するために必要なスキルの訓練を行う。過去の問題及び模擬問題を中心に問題形式に慣れること、リスニングに向けて発音を正確に習得すること、リーディングに向けて多くの文を読むことで単語量を増やし、基礎的な文法知識を確実にすることを目的とする。通常の授業と異なり、6 日間集中で行う。事前に課文の音読注釈をよく読んで理解「できる、できない」を明らかにしておくことが求められる。また、事後は課題を実施して理解度を確認することが求められる。中国語検定試験 3 級、HSK4 級の合格を目標とする。	集中
		韓国語 a 入門	入門においては、韓国語の骨格を形成する基礎文法について学習し、発音及び表記法、そして文法の基本形式等、会話・講読の基礎となる文法事項を学習することを目的とする。韓国語の文字と発音が正確にできるよう重点的に学び、簡単な挨拶言葉を使用できるようになる。また、映像、音楽などをも利用して、言葉の背景にある韓国の文化、社会、歴史への関心と理解を深める。辞書を活用して、基本的な会話・読解・作文ができ、ハングル能力検定試験 5 級、TOPIK 1 級合格程度の能力を身につけることを目標とする。	
		韓国語 a 初級	入門での学習内容を土台にしつつ、文型が自由に应用できるレベルになることを目的とする。テキストに沿って新しい文法事項を学習し、練習問題を解くことで定着させ、テキストの本文を繰り返し朗読し、自然なスピードで読めるように訓練する。また、場面に応じた基本的な口語表現を学び、会話の練習も行う。辞書を活用して、基本的な会話・読解・作文ができ、ハングル能力検定試験 4 級、TOPIK 2 級合格程度の能力を身につけることを目標とする。	
		韓国語 b 入門	韓国語を初めて学ぶ学生を対象とした入門クラスで、発音、オーラル・コミュニケーションの訓練を中心に、会話に必要な語彙を増やし、簡単な日常会話から応用会話ができるようになることを目的とする。授業では教師と一緒に反復練習し、自己紹介や家族、趣味などの日常生活に関連する表現を学んで、自然な会話ができるよう基礎を作る。言語の背景にある文化についても勉強し、異なる文化的背景をもつ相手に対して積極的にコミュニケーションを行おうとする態度を養成する。自分の考え方を表現する能力、情報や相手の意向を理解する能力も高めていく。発音の規則に慣れ、韓国語圏文化への配慮をもって、状況に応じて基本的なコミュニケーションができ、ハングル能力検定試験 5 級、TOPIK 1 級合格程度の能力を身につけることを目標とする。	

基礎科目 外国語	韓国語	韓国語 b 初級	入門クラスに引き続き、発音、オーラル・コミュニケーションの訓練を中心に、会話に必要な語彙を増やし、簡単な日常会話から応用会話ができるようになることを目的とする。授業では教師と一緒に反復練習し、自己紹介や家族、趣味などの日常生活に関連する表現を学んで、自然な会話ができるよう基礎を作る。言語の背景にある文化についても勉強し、異なる文化的背景をもつ相手に対して積極的にコミュニケーションを行おうとする態度を養成する。自分の考え方を表現する能力、情報や相手の意向を理解する能力も高めていく。発音の規則に慣れ、韓国語圏文化への配慮をもって、状況に応じて基本的なコミュニケーションができ、ハングル能力検定試験 4 級、TOPIK2 級合格程度の能力を身につけることを目標とする。	
		韓国語 L. L. 入門	韓国語を初めて学ぶ学生を対象とした入門クラスである。正しい発音の仕方及び聞き取りの練習を中心に授業を行う。受講者のレベルや進捗状況に応じて授業計画を変更することがある。 ハングルの仕組みを理解したうえで、様々な発音の特徴を学び、反復練習する。挨拶の言葉を覚え、PC におけるハングルの入力法を学ぶ。課題として、自分の声で音声入力したファイルを提出し、一緒に確認することにより、より正確な発音を目指す。ハングル能力検定試験 5 級、TOPIK1 級合格程度の能力獲得と、映像・音声を通じて韓国語に馴染み、韓国語圏文化を理解し、状況に応じて基本的なコミュニケーションができることを目標とする。	
		韓国語 L. L. 初級	韓国語の入門を学んだ学生を対象とした初級クラスで、正しい発音の仕方及び聞き取りができるようになることを目的とする。簡単な自己紹介や日常会話の基本的な表現を学び、さらには簡単な作文の練習をし、正確に短い文章を読み、話すことができることを目指します。国語に映像・音声を通じて馴染み、韓国語圏文化への理解をもったうえで、状況に応じて基本的なコミュニケーションができ、ハングル能力検定試験 4 級、TOPIK 2 級合格程度の能力を身につけることを目標とする。	
		韓国語中級	入門・初級クラスで学んだことの定着と応用をはかり、韓国語の文献を正確に読解する能力を養成することを目的とする。様々な形態の韓国語文献を読み、語句を確認して翻訳することで、語彙や文法事項を学習すると同時に、言語の持つ文化的な含有を確認し、自身の韓国語の文章解読能力を高める。また、読解力を身につけるとともに、テキストを通して韓国の歴史、文化、社会についても学び、理解を深める。韓国語圏文化と韓国語に対するより深い理解をもち、読む・書く・聴く・話すことにおいて、より進んだ能力を発揮でき、ハングル能力検定試験 3 級、TOPIK3 級合格程度の総合的な能力を身につけることを目標とする。	
		韓国語 L. L. 中級	より正確な韓国語の発音、韓国の映像作品を字幕なしで理解できるリスニングを身につけることを想定する。受講者のレベルや進捗状況に応じて授業計画を変更することがある。反復練習により再度、正しい発音を確認し、様々な映像、音声教材を用いて聞き取り及び会話練習を中心に進めることから始め、初級からレベルアップした語彙や表現を用いた自己紹介等の発表を通して書く力、話す力を養い、実用的な会話表現を身につけ、韓国文化への興味と理解をさらには深めていく。韓国語圏文化と韓国語に対するより深い理解をもち、「読む・書く・聞く・話す」のうち、特に「聴く・話す」に重点を置いたより進んだコミュニケーション力、ハングル能力検定試験 3 級、TOPIK3 級に合格する総合的な能力養成する。	

基礎科目 外国語	韓国語	韓国語中級アドヴァンスト (原典講読)	韓国の映画やドラマに関する映像資料、文献資料に触れながら、リスニング能力、読解力を高めていくことを目的とする 映像資料を紹介しつつ、関連する新聞記事などの韓国語文献も使用する。現代韓国社会における映像文化についての事前学習が求められる。韓国語のリスニング能力、読解力の上達を目標とする。	
		韓国語中級アドヴァンスト (コミュニケーション)	受講者の関心に沿ってテキストを選定する。新聞記事、小説を部分的に訳し、内容を韓国語で討論する練習を行う。語彙を増やし、適切な韓国語を使用して意見交換できるコミュニケーション力を培うこと、聞き取り、会話力を向上させ、韓国の歴史、文化、社会への関心と理解を一層深めることを目的とする。 單元ごとに学習成果を確認する課題を示し、学習管理システムを通して個別に返却し、全体に関わる項目は授業中に講評してフィードバックする。韓国語の中級から上級程度の文章を聞いて理解できること、韓国語の中級から上級程度の文法を習得すること、韓国の歴史、文化、社会について幅広く説明できること、韓国の歴史学上の諸問題と現在の社会状況との関連を理解できることを目的とする。	
基礎科目 情報処理		基礎情報処理	情報処理の基礎知識とインターネット社会を安全に生きるための Web やメールの活用法及び情報倫理とセキュリティ、学業や将来の社会生活に必要な文書作成・表現技能の基本を習得することを目的とする。次に、データサイエンスについて理解するために、表計算ツールを活用して、各種データの収集、効果的な集計・分析と結果を読み取るための統計の基礎、グラフ化など適切な表現について実習で学修する。さらには、昨今の情報化社会の進展に対応するため、小型ロボットを用いた初歩的なプログラミングの体験を通して、人工知能 (Artificial Intelligence, A.I.) とは何かについて触れる。現実場面で情報のより良い表現・伝達に有効な情報技術及びデータを適切に分析・活用する力、問題解決力を身につけるとともに、最新トピックスであるデータサイエンス及び人工知能について理解を着実に深めることを目標とする。	
		データサイエンス入門	データサイエンスの手法を学ぶことに加え、文化現象を対象にこれを用いた事例を概観し、文理融合型の研究におけるデータ分析の有効性と重要性を学ぶことを目的とする。 また、生活に必要なデータサイエンスの基礎についてシミュレーションを用いて身につけること、直感的に理解できる内容を目指しながら、卒業研究に必要な統計の基礎も身につけることを目標とする。授業は PC を用いた演習形式で行う。統計処理のための R 言語使用の習得、データサイエンスの基本的手法の習得すること、データ分析の有効性と重要性、統計の数理の理解を目標とする。	
		AI 入門	現代に大きな社会変革をもたらしている人工知能技術について学ぶことを目的とする。Python プログラミングの演習を積んだ後、古典的なアルゴリズムから深層学習まで人工知能の原理をコードとともに学ぶ。最後に、人工知能が現代社会にもたらす影響を調査し、プレゼンテーションすることで、受講生同士が理解を高める機会を設ける。本講義は、コンピュータ演習室を用い、Python プログラミングの演習が含まれる。演習は、Google Colaboratory を用いたハンズオン学習で行い、全くの初学者であっても、体験的に理解して進めることができる。簡単な Python プログラミングが行えること、コンピュータと知的処理の概要を理解できること、データサイエンスや機械学習の体験的な理解が行えること、人工知能発展が現代社会に与える影響を論究できることを目標とする。	

ICT 活用 I	<p>情報を受け取る形でインターネットを利用することだけでなく、情報を発信することもまたインターネットの利用の方法である。本授業は、インターネットの情報発信技術を学び、また web ページの企画・デザイン・制作を通じ、公開可能な web ページを作成し、インターネットで価値のある情報発信を経験することを目的とする。WEB サイトを自ら企画し、また、XHTML・CSS 技術を利用しサイト作成ができること、企画に従った情報の収集、整理、発信内容に沿った、サイト構成・デザイン・制作ができること、また製作したサイトの公開を通じて、企画した情報を発信することができることを目標とする。</p>
ICT 活用 II	<p>画像や動画など視聴覚に直接訴えるような媒体を使いこなす技術は、インターネット上だけではなく、企業や研究の場など多くの場面で様々な応用が期待できる。本授業は Adobe 社の Photoshop と Premiere を使い、これまでこれらのソフトに触れたことのない学生を対象に、画像や動画の編集スキルを習得することが目的である。また、実際に画像や動画などのデジタルコンテンツを扱うためのリテラシーに関しても理解を深めることを目指す。画像や動画の編集技術を学ぶことで、卒業研究などに活用できる技術を習得し、同時に普段気軽に利用するスマートフォンなどで行われている操作が、どのような技術的背景に基づくのかを理解することを目標とする。</p>
ICT 活用 III	<p>この授業ではコンピュータで扱う画像、特に 3 次元グラフィック (3DCG) に着目しながら、コンピュータ上で絵を描くように扱ういわゆる 2 次元 CG と 3 次元 CG (以下 3DCG) の違いを確認し、3DCG とはどのようなものかを理解し、そのうえで 3DCG を扱う専用のツールを使用して、3DCG の技法や 3DCG ならではの表現について学ぶことを目的とする。授業はコンピュータを使用する演習を主とするが、理解が進むよう論理的な説明を重視し、学習した内容が CG 関連の検定試験などの CG を扱ううえで必要とされる知識とリンクするように確認しながら進めていく。2 次元 CG と 3 次元 CG の違い、及び 3 次元 CG の作成の基本を理解し、3 次元 CG を使ってシーン (ある場面の情景) を作成できるようになることを目標とする。</p>
ICT 活用 IV	<p>データサイエンス分野の基礎として、前半は Excel と SPSS を活用したデータの集計・分析法、後半は Access を用いたリレーショナルデータベースの基本、及びビジネスのキーワードとなる IoT (Internet of Things) 技術とデータベースとの関連と小型ロボットへの簡単なプログラミングを通してデータベースの活用方法を学ぶことを目的とする。身近な場面を想定して、問題解決的に課題を進め、随時演習課題を実施しながら、実践的なデータベース活用の基礎を学ぶ。具体的には、SPSS を使って、データの定義及び編集・加工、計算、比較、分析、クロス集計、グラフ作成ができ、Access を用いた基本操作、ロボットを動かす簡単なプログラミング、日常の課題解決場面におけるデータベースを活用した問題解決力を身につけることを目標とする。</p>
ICT 活用 V	<p>ゲノムやタンパク質などの生物情報のさまざまなデータベース、データ解析手法を紹介し、それらの実習を通して、生命科学の分野で ICT がどのように活用されているかを体験する。本授業は、バイオインフォマティクスの入門として位置づけられ、とくにその基本的な内容を学ぶ。特定の生物のゲノムデータを取得し、ゲノムサイズ、翻訳されるタンパク質の数などの特性を解析できることを目標とする</p>
ICT 活用 VI	<p>デジタルアート作品を使った定量的評価と分析・データサイエンスをテーマに、顔をモチーフとしたデジタルアート作品を刺激とする心理評価実験の基礎について学び、自分で計画を立てて実践してみることを目的とする。具体的には、顔が発信する情報とその処理について総合的に学ぶとともに、顔研究でよく用いられる心理評価実験の基礎 (方法・結果の解析・考察の仕方) を学ぶ。受講者自らがテーマを見つけ、実際に心理評価実験に取り組む。</p>

基礎科目 身体運動	身体運動 I a	授業の担当教員が選定した種目を個人や集団の能力に応じて実践することで、自ら健康の維持・増進のために適切な運動習慣を獲得し、生涯にわたり実践できる基礎的能力を身につけることを目的とする。担当教員が選定した運動種目について実習形式の授業により、準備運動、整理運動、傷害予防のためのストレッチング法などを学習する。運動の実践を通して個々の能力に応じ、安全に運動を実施するための知識、技能を習得すること、現代社会における身体運動の意義を理解し、トータルフィットネスを高めること、運動に親しみながら様々な運動・スポーツについての理解を深めることを目標とする。	
	身体運動 I b	身体運動 I a での学びを踏まえて、引き続き授業の担当教員が選定した種目を個人や集団の能力に応じて実践することで、自ら健康の維持・増進のために適切な運動習慣を獲得し、生涯にわたり実践できる基礎的能力を身につけることを目的とする。担当教員が選定した運動種目について実習形式の授業により、準備運動、整理運動、傷害予防のためのストレッチング法などを学習する。運動の実践を通して個々の能力に応じ、安全に運動を実施するための知識、技能を習得すること、現代社会における身体運動の意義を理解し、トータルフィットネスを高めること、運動に親しみながら様々な運動・スポーツについての理解を深めることを目標とする。	
	身体運動 I c	1年次を対象とした3泊4日の日程で行われるスキー・スノーボードの集中授業による授業で、各自の能力に応じたグループを中心とした活動及び複数のグループの交流を通じて行い、夜間は授業、班別ミーティング、全体会を行い、スキー・スノーボードに対する理解を深めることを目的とする。運動の実践を通して個々の能力に応じ、安全に運動を実施するための知識、技能を習得すること、現代社会における身体運動の意義を理解し、トータルフィットネスを高めること、運動に親しみながら様々な運動・スポーツについての理解を深めることを目標とする。	集中
	身体運動 II a	担当教員が選定した運動種目（ヨガ&ピラティス、ボルダリング、フットサル、フィットネス）について実習形式の授業を行い、教養を深めながら、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じてスポーツを楽しむ力を養うことを目標とする。また、各種目の運動の実践を通して、現代社会における身体運動についての意義や、自己の身体への意識や気づきを高め、健康の維持や増進に役立てる方法を理解し、運動に親しみながら、チームワークの大切さを学び、コミュニケーション能力を向上させることを目標とする。	
	身体運動 II b	担当教員が選定した運動種目（卓球、ボルダリング）について実習形式の授業を行い、教養を深めながら、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じてスポーツを楽しむ力を養うことを目標とする。また、各種目の運動の実践を通して、現代社会における身体運動についての意義や、自己の身体への意識や気づきを高め、健康の維持や増進に役立てる方法を理解し、運動に親しみながら、チームワークの大切さを学び、コミュニケーション能力を向上させることを目標とする。	
	身体運動 II c	2・3年次を対象とした3泊4日の日程で行われるスキー・スノーボードの集中授業による授業で、各自の能力に応じたグループを中心とした活動及び複数のグループの交流を通じて行い、夜間は講義、班別ミーティング、全体会を行い、スキー・スノーボードに対する理解を深めることを目的とする。運動の実践を通して個々の能力に応じ、安全に運動を実施するための知識、技能を習得すること、現代社会における身体運動の意義を理解し、トータルフィットネスを高めること、運動に親しみながら様々な運動・スポーツについての理解を深めることを目標とする。	集中

基礎科目 身体運動	身体運動論	人と運動（競争から健康のための運動まで全般）の関係について理解を深めることを目的とする。講義では、生涯スポーツ、運動文化、遊び、生涯発達、社会、健康といった多様な側面から身体運動について学び、人と運動とのよりよい関わり方について展望する。身体運動の意義、実施方法について、講義、課題を通じて理解を深めていく。運動の心身への効果、適切な運動の実施方法、人間と社会における運動の意義について説明できることを目標とする。	
	健康スポーツ論 I	本授業では、生涯にわたり自分で健康管理ができるようになることを目標とし、心と体の仕組みについて学んでいく。さらには、安全で効果的な運動方法を理解することにより、より充実した QOL が送れるよう、運動の特性についても理解を深めることを目的とする。毎回、授業後に小レポートを課しながら進める。心と体の基本的な仕組みを知り、健康の意味と重要性を理解できること、健康の維持・増進に必要な情報を得て、自らの生活に活用できることを目標とする。	
	健康スポーツ論 II	広範囲にわたる健康やスポーツの様々なトピックスを取り上げ、現在や将来にわたり、日常生活に活用できる健康やスポーツの知識の習得を目的とする。テーマに沿ってパワーポイントを活用し、学びの成果を小テストで把握、さらにはレポート提出を数回実施する。特に大学生活は、日常の生活環境の変化に対応し、自己による心身の管理の必要性が求められる。講義で学んだことを加味しつつ、自身の意見を述べられるようになることを目標とする。	
	身体運動演習 a	姿勢・体型改善や体力の向上など各人が目標を設定し、その目標を達成するための方法を学修・実践する。授業内では有酸素運動を中心にストレッチング、Yoga、Pilates など様々な運動を実習し、日常生活においても実践できる知識と実践力を身につけ、健康的な生活習慣を獲得することを目的とする。他者と共有できる程度のヘルスリテラシーを身につけること、自らの力により健康的な生活習慣を獲得できることを目標とする。	
	身体運動演習 b	担当教員が選定した運動種目（フィジカル・トレーニング、ゴルフ、バレエエクササイズ、ボディシェイプ）について、各種目を通じて日常生活においても目標を目指して実践できる知識と実践力を身につけ、健康的な生活習慣を獲得する。またその種目のルールやスキルだけでなく、マナーや文化背景、日常生活で経験する緊張・不安・ストレスを乗り越える精神力と集中力を養うことが目標である。	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> 教養科目 A系列【多様な社会と人間の尊厳】(社会科学系) </p>	政治思想の歴史	政治とは何か、人間は政治とどう関わるかという問題を巡る、先人達の思索の跡を辿ることで、政治という人間現象についての省察を深め、我々と政治の関係について考えることを目的とする。政治思想の古典的なテキストを取り上げ、適宜それぞれの歴史的・社会的背景に触れながら、それらを解説していく。政治という人間現象についての省察を深めることで、一人ひとりが政治について自分の視点を持ち、自分が政治の主人公であるという自覚を持つことができることを目標とする。	
	政治学	本授業が念頭におく政治現象は、男女間の権力の配分、あるいは利害対立にかかわる主題群である。政治理念としての「男女共同参画社会」とそれに内在する規範性は、私たちにとってどのような意味と課題を提示しているのか、改めて考察の対象とする。毎回、リアクションペーパーの提出を義務づけ、一部を授業開始時に共有する。近代政治理念・思想を貫通する論理である公私二元論の問題点について理解できること、「フェミニズム政治学」の理論的・思想的な成果を享受し、かつその骨子を説明できること、「男女共同参画社会」「女性活躍社会」「一億総活躍社会」に内在する規範性について理解できることを目標とする。	
	日本の政治	投票、選挙活動、地域活動、役職者との接触など政治参加の基礎的な概念を紹介し、政治現象を理解するための一助となることを目的とする。特に戦後日本人の政治参加の特質を国際比較の観点から考察し、日本における統治のあり方へのインパクトを解説する。また、政治参加の男女間の違いと、それが政策形成にどのようなインパクトを与えてきたかも考えていく。政治参加の基礎的な概念の理解を深め、自分なりに説明できること、世界で生じる様々な政治現象について、自分なりの視点を持てること、また、そのメカニズムが理解できるようになることを目標とする。	
	政治と福祉	私たちの生活や、福祉制度の対象は政治の影響を受けて変化する。しかしまた、現代の福祉国家においては、福祉制度が政治に対しても影響を与える。この講義では、現代の福祉国家における人々の福祉や生活と政治が相互に与える影響について、自身で考える視点を得ることを目的とする。政治と福祉の関係性について説明できる、政治と福祉に関して問題を発見できる、政治と福祉に関する問題について自身で調査できるようになることを目標とする。	
	メディアと社会	本授業では、メディア論をはじめとする様々な学問の視角と時代ごとのメディアを取り上げつつ、〈メディア〉と〈社会〉の関係について学んでいく。講義資料を解説し、ワークシートを使いながら事後学習で理解を深められる仕組みで進める。メディアについての視点や論点、概念についての説明をもとに、様々なメディアの特徴と移り変わりを概観し、身近なメディアが社会や人々の生活に与えたインパクトを読み解く。また、近年のインターネット利用に関わる具体的な事例を考察することで、メディアをめぐる現代社会の諸問題を理解することを目指す。	
	経済学の世界	日常生活の買い物やアルバイトなどで目にする光景から、消費税増税・グローバル化・地球温暖化など、日本や世界各国が直面する社会問題も含めた多様な経済問題を理解するうえで有用となる、経済学（特にミクロ経済学）の基本的な考え方を学ぶことを目的とする。授業はパワーポイントのスライドによる講義を中心に進めていく。経済学の基本的な用語や概念を理解していること、身近な経済問題について学んだ用語や概念を用いながら、経済学的な視点で説明できることを目標とする。	
	世界経済	世界市場で競争が激化した結果、先進国と途上国の経済格差の拡大し、また、先進国において産業が空洞化しているといった諸問題について、主にグローバリズムの観点から解説していく。それらを概観しながらテーマごとに整理し、現代経済を理解することを目的とする。現在の世界経済が抱える問題の背景を理解し、解決策としての取り組みについて説明し、グローバル化の進展と関連付けて世界経済を考察できることを目標とする。	

教養科目 A系列【多様な社会と人間の尊厳】(社会科学系)	日本経済	<p>現在の日本経済の状況を理解するために必要な歴史的背景、世界経済の中での日本経済の位置づけ、政策など概観し、具体的な事例を取り上げて解説する。経済政策を考えるうえで政治的な問題からもアプローチすることを目的とする。授業ごとに「今回の授業の要旨など」の作文を求める。現在の日本経済が抱える問題の背景を理解し、現在の日本経済が抱える問題に対する解決策としての取り組み内容を説明し、グローバル進展と関連付けて日本経済を考察できることを目標とする。</p>	
	経営学の世界	<p>現役経営コンサルタントである担当教員4名が理論と実践を組み合わせ、経営学の世界で起きている議論を紹介しながら、身近な課題を解決する思考や未来を切り拓く方法を身につけ、良い経営、良い組織を見極める自分なりの視点を持つよう支援することを目的とする。授業は講義、ディスカッションテーマの提示と実施、発表を繰り返していく。後半ではグループワークも実施する。毎回、映像を見ながらまとめる小レポートを実施、提出する。学問としての「経営学」の位置づけ、役割、基礎理論を理解し、身近な現象に重ねて説明できること、実際の経営における本質的課題を掘り下げる視点を持つこと、自分に置き換えた対応を自分の言葉で表現できること、経営学の概念を自分に当てはめ、自分をうまく経営していく方法を考えられるようにすることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(229 高橋克徳/3回)</p> <p>経営学で何を学ぶのか、経営学の理論的変遷を学びながら、今働いている人たちは生き生きしているか、企業社会が抱える課題を理解する。</p> <p>(184 小森谷浩志/4回)</p> <p>企業における戦略論、組織を動かす組織論、そして幸せな組織とは何かを経営学と幸福学を用いながら学んでいく。</p> <p>(152 片岡裕司/3回)</p> <p>自分のモチベーションの源泉は何か、人の持っている能力とは何かについて、モチベーション理論や人材育成論を学ぶ。またキャリアを築いていくためのキャリア論を学び、自分に置き換えて考える。</p> <p>(108 井坂智博/4回)</p> <p>自分が向き合いたい社会課題を見つけ、共感から始まるイノベーション、SDGsと経営の関連性を、イノベーション理論を通して学ぶ。また、社会や世界を変えるリーダーシップ論を学ぶ。</p>	オムニバス方式
	日本の産業と企業	<p>モノやサービスを生産する様々な産業、これを営む企業に注目し、日本の産業構造、主要産業、企業経営、金融、雇用をカバーしていく。特に、企業経営者の目線、就職後の働き手の目線の双方から、少子高齢化による国内市場の縮小、グローバル化、情報化の進行などを背景に、産業と企業が直面している重要課題についても考えていくことを目的とする。講義を主体として講義後に集める感想カードの活用により、双方向型教育の要素を取り入れる。感想カードの記載内容を受けて、次回講義でフィードバックしていく。産業と企業の基本的な事項を理解したうえで、現代における重要な問題を学ぶことを目標とする。</p>	
	女性と法律	<p>法律学の考え方、最低限の法的知識を身につけることを目的とする。就職、婚姻、妊娠、出産、育児等、女性のライフステージに焦点を当てつつ、法律学の初歩について、講義を進めていく予定である。裁判を扱ったドラマを活用しながら、テキストを使用して法律への関心と基礎知識を養っていく。提出課題へのコメント、小テストの正解と解説等を行う。法的思考を身につけ、女性のライフステージに応じた法的知識を習得することを目標とする。</p>	

教養科目 A系列【多様な社会と人間の尊厳】(社会科学系)	法学入門	法学の基本的な考え方を習得するとともに、生活においてそれを活用することができる能力を養うことを目的とする。日常において発生する具体的なトラブル(紛争)を解決するツール(道具)でもある法学について、細かい条文知識よりも考える力の涵養を目的とする。法律関連のドラマを視聴し、テキストを活用しながら、法律学の初歩を学んでいく。法学の基礎となる考え方を理解し、自身の周りの出来事を法的に分析する能力を身につけることを目標とする。	
	市民社会と法	「日常生活と法」に焦点を当て、我々の生活と最も密接に関係している「民法」を中心に扱う。我々の生活の様々な場面と法との関わりを理解し、実際に紛争に直面した場合の対処方法を考えることができる法的知識を習得することを目的とする。授業は「家族」に関するテーマを中心に具体例を用いながら分かりやすく解説していく。我々の生活と深く関わっている法の基本的枠組みを理解し、概念や問題点などを説明できること、生活の中でトラブルが起きた際の解決方法を自身で説明できること、現代社会における法をめぐる課題について、自身で論じられることを目標とする。	
	法哲学	法とは何か(法の一般理論)、正義とは何か(法価値論)、法律学の学問的特質とは何か(法律学方法論)を中心に進めていく。また、古代ギリシアから現代に至るまでの法思想史についても理解を深め、現実社会の法に関わる諸問題について、原理・原則から厳密に考察していくことを目的とする。現代社会が直面している具体的な諸問題に対し、法哲学者が提示する解決方法を比較・検討したうえで、自身の考えを導き出せることを目標とする。	
	日本国憲法	法と教育の間に存在する対立と調和を、日本国憲法が想定する「人間像」及び「自由のための教育」という視点から解き進めていく。毎回、レポート、リアクションペーパーの作成、小テストの実施等、主体的活動を通じて理解の定着を図る。憲法の講義は通常、人権と統治機構の二分野で構成されるが、本授業では主に、立憲主義の成立と発展、人権分野を中心に進める予定である。日本国憲法の掲げる立憲主義の理解を、比較と歴史の観点を取り入れながら理解することを目標とする。	
	社会福祉学	なぜ社会に困っている人がいるのか、なぜ「社会福祉」が存在するのかを歴史や国際比較から考えることで、福祉の本質を考えていくことを目的とする。映画などの映像を一部視聴し、理解を深め、ディスカッションを通して多様な意見に触れ、自身の意見や考え方を振り返り、それについて教員が総合的にコメントする形式で進める。社会福祉と社会問題の関係を理解し、社会福祉の成り立ちやその原理について説明できること、社会福祉制度を理解し、社会福祉の対象や方法について説明できること、ニュース等で問題となっていることを、授業の内容と関係づけて考えられること、自身や周囲、今後の人生における課題解決に活用できるようにすることを目標とする。	
	平和学	平和学の序論的位置づけとして、理論的枠組みを理解し、平和学の視点からレイシズム、ナショナリズム、グローバリズム、ジェンダー、開発、社会的排除、安全保障など様々な問題群を捉え直し、受講生一人一人が足元の社会を捉え直したうえで自分の関心に引き付けて考察することを目的とする。講義形式により行い、リアクションペーパーのフィードバックを授業中に行い、人数に応じてディスカッションを行う。平和学における多様な理論と方法の知見から、現実の問題構造を見通し、足元の身近な生活社会を包括的に捉え直すこと、自身が現在どのように関わり、今後どのように関わりたいかなど、自らの関心に引き付けて平和について論じられるようになることを目標とする。	

教養科目 A系列 【多様な社会と人間の尊厳】 (社会科学系)	ノーマライゼーション論	1950年代に北欧を中心に誕生したノーマライゼーションの考え方とその変遷、発展過程を理解し、現代的意義と今後の課題について考えていくことを目的とする。ノーマライゼーションの誕生、変遷、現代的意義を説明し、自身を含むコミュニティ等とすり合わせながら理解できること、人間の多様性を受容する「共生社会の実現」に向けて、今なすべきことを考え、ノーマライゼーション社会の構築に向けて、行動できることを目標とする。	
	社会保障入門	我が国の代表的な社会保障制度（医療、介護、年金、生活保護、社会福祉、雇用保険、労働者災害補償保険）を概観したうえで、現代国家がこれらを整備するに至った歴史や理念、財源、他国の制度を学んでいく。そのうえで、社会保障制度を身近な問題として認識し、概要を理解することを目的とする。我が国の社会保障制度の概要、現代国家における社会保障の意義、「自助」「共助」「公助」の概念の違いについて説明できることを目標とする。	
	国際社会と人権	人権とは何か、その保護のために国際社会がどのように対処してきたか、具体例をもとに学び、国際社会に存在する様々な人権問題と解決に向けた取り組みを考えることを目的とする。日本語による講義形式で行う。配付資料は英語の場合もある。授業ごとで受け付ける質問等は、後日授業または授業最終回で共有し、解説する。国際社会の成立形態を理解し、説明できること、国際社会に存在する具体的な人権問題とその解決のための既存の取組を理解し、説明できること、人権問題について解決のための更なる取組を自分なりに考え、説得的に述べるができることを目標とする。	
	ジェンダー論入門	社会の歴史的成り立ちに目を配りつつ、「ジェンダー」とセクシュアリティ、エスニシティ、階層など他のマイノリティ性に関わる指標を組み合わせることで社会事象を理解し、あるべき社会の姿を考えることを目的とする。基本的に講義を進めるが、適宜リーディングを課し、それをもとにクラス内ディスカッションを行う。ジェンダー研究が登場してきた歴史的、社会的背景を理解し、適用される多様な研究領域と研究テーマを理解し、ジェンダー平等の視点で、現代日本の社会問題を考察できることを目標とする。	
	ジェンダーと社会	あらゆるところで耳にするジェンダーという概念の意味と意義を学び、社会をジェンダーの視点から批判的に把握する方法を身につけることを目的とする。「ジェンダー」という概念の意味と意義、概念が出てきた歴史的経緯を理解すること、また、現代のジェンダーの課題に対して基礎的な知識を習得するとともに、自分の言葉で自分の意見をまとめ上げ、論述する力を身につけることを目標とする。	
	現代の社会学	日本の現代史に属する流行を解説することで、歴史を踏まえた「これからの生き方」を探っていく。過去の流行の解説は映画や音楽などの視聴覚史料を使用する。毎週、ある時代の流行について2題から4題、課題を提示し、視聴覚史料から感じたことを課題に沿って言語化していく。提出された課題から、特に問題の核心に近づいていると講師が感じた回答を選び、翌週に展開する。前週の課題と現在との関わりについての理解を深め、他の受講者の多様な感じ方や考え方、優れた表現法を学び、より深い物の見方を形成することを目的とする。「1 私たちの生きる今が、どんな歴史の流れの中にあるのか、理解する」、「2 高度成長期からバブルの崩壊後までの物の見方の変遷を学ぶ」、「3 映像や音楽から歴史の深層を読み取る術を学ぶ」、「4 受講者それぞれが、今、自分に必要なものは何か、感じとる力を持つ」ことを目標とする。	
	社会学入門	社会学の基本的なテーマや考え方を学ぶことを目的とする。まず、テキスト分析などを通じて社会学がどのような学問なのかを概観し、本講義の構成を説明する。続いて基礎学説の概要を紹介し、各テーマを説明していく。授業計画に反映されていない項目についても、可能な限り扱っていく。社会学の基礎学説や視点を理解し、現代社会を社会学の視点から説明し、社会学の視点から社会現象に対する問いを立てられることを目標とする。	

教養科目 A系列【多様な社会と人間の尊厳】 (社会科学系)	地域研究	<p>本授業では、中東地域の近現代史に関心を持つ学生のための講義科目である。教員による講義と課題の提出を通して、中東を理解するための知識の獲得を目的とする。報告パネルは受講者同士の相互採点を実施する。事前に受講者同士で内容を確認する機会も設けていく。次の5点を習得することを目標とする。1. 中東研究で取り上げられてきたテーマを具体的に2点以上挙げる事ができる、2. 関心に従って、適切な文献(書籍・論文)を選択することができる、3. 特定のテーマに関して、関連するキーワードを3点以上挙げて論述することができる、4. 自らの関心を、「問い」、「先行研究(批判)」を含めて、具体的に示すことができる、5. 論文執筆のためのスケジュールを、具体的に構想し、示すことができる。</p>	
	SOCIAL AND INTERNATIONAL RELATIONS OF JAPAN	<p>日本料理の歴史とその当時の文化に関する主要な論点を紹介する。料理を通じて国を超えた流れ、グローバルかつローカルな相互作用、食の持続性が広がっている。受講生にはリーディングに遅れず、ディスカッションに寄与し、日本食文化に関する研究プロジェクトを完了することが期待される。社会科学における用語、概念を理解できること、批判的なディスカッションにおいても自身の意見を説明できること、研究結果をウェブページにおいてプレゼンテーションできること、リーダーまたは協力者として期限内に共通のゴールに到達するよう行動できることを目標とする。</p> <p>This course will introduce the main issues regarding the history of Japanese cuisine and the culture at that time. It will also examine how cooking is helping cultural reciprocity, enabling cross-country exchanges and global and local interactions, while aiding food sustainability. It is expected that the students will diligently read the course materials, contribute to class discussions, and will complete the research project on Japanese food culture. This course will enable students to be able to understand terms and concepts in the social sciences, to explain their opinion in critical discussions, to present research results on web pages, and to act as a leader or collaborator to reach a common goal within the deadline.</p>	
	教育人間学	<p>教育人間学は、教育を「人間」という観点から、また逆に、人間を「教育」という観点から捉え直し、解明しようとする学問である。教育人間学が開拓してきた「人間」や「教育」についての見方を、具体例に即して紹介し、自分自身の人間観・教育観を捉え直し深めるきっかけとすることを目的とする。教育人間学の形成と展開を理解し、教育人間学的な見方の特徴を述べる事ができること、また、いくつかの事例に即して教育人間学的な教育観・人間観の特徴を具体的に述べられることを目標とする。</p>	
	教育学入門	<p>私たちが当然とみなしている「教育や学校の当たり前」について、教育内容や教育制度の側面から再考し、教育問題の現状を理解することで、よりよい社会に向けた新たな教育のあり方を考えることを目指す。具体的には、日本の教育について統計的側面から把握するとともに、教科指導と生徒指導の内容、教育方法や教育制度を捉え直したうえで、格差、非行、国際化、多様性など教育問題の現状を理解し、これからの教育の在り方について考察する。</p>	
	心と健康	<p>「医学的視点」「パーソナリティ」「適応」「心理発達」「治療的視点」の5つの視点から、心の健康についての知識を提供する。「心」を客観的に捉えることは、将来遭遇するであろう心理的葛藤、ストレス、心理的危機への対処能力を高めることを意味する。そのための知識の取得を目的とする。心の健康について様々な角度から学び、自分の心理状態を客観的に捉えられることによりストレス耐性を高め、問題への対処能力を向上させることを目標とする。</p>	

教養科目 B系列【自然の摂理の探求】(自然科学系)	地球の自然と資源	地球の成り立ちを学ぶとともに、地球の自然や資源について理解を深めることを目的とする。また、生命圏の存在が地球に与える影響について概観する。本授業では、地球を化学や生物学、地学、社会科学などの観点から複眼的に鳥瞰することで、その全体像に迫ることを目指す。講義後の小レポート等により理解度を確認するとともに、考察を深める。地球の成り立ち(自然環境)、生命活動に必要なもの(資源)、現代の人類に不可欠な資源(エネルギー)と資源の利用によりもたらされる環境問題について理解できることを目標とする。	
	天文学と宇宙観の歴史	天文学は世界最古の学問の一つだが、現代でも日常生活とは無縁ではない。本講義では、天文学及び関連する科学の発達の歴史、及び宇宙観の変遷と現代の宇宙観を理解することを目的とする。基本的に複雑な数式等は可能な限り使用しない。講義が中心だが、小テスト及び解説をフィードバックすることで理解を深める。現代の暦と過去に使われた暦の違い、天文学の基礎概念(天球、黄道、天体の明るさ、銀河系と銀河)、古代から現代までの宇宙観における我々の位置の変遷を具体的に説明できることに加え、科学的なものの見方ができること、人間の感覚が対数的であること、対数の概要を理解することを目標とする。	
	物理学とテクノロジー	世の中のテクノロジーにおける物理学の使われ方を考え、原理から理解する楽しさを知ることが目的とする。物理学の概要を紹介し、基本的な法則や概念を説明する。また、身近なテクノロジーについての質問を受け、どのような物理が関連しているか、解説を試みる。学生はその解説、自習内容を合わせて報告する。必要に応じて講師がコメント、改良を試みる。身近なテクノロジーの仕組みに興味を持ち、様々な情報をもとに考察ができること、身近なテクノロジーの仕組みに興味を持ち、様々な情報をもとに考察ができること、その仕組みに物理がどのように関連しているかを考えられることを目標とする。	
	現代社会と情報科学	情報科学や情報技術を活用する企業や行政の最新動向を紹介する。それらについて多角的に議論することで、情報技術の発展がもたらす社会的な影響について理解を深めること、今後の持続可能な社会構築に向けた情報技術活用の示唆を得ることを目的とする。毎回の授業でアンケートを実施し、学生からの質問に対する回答や講評を行っていく。日本及び世界各国における情報科学や情報技術が果たす役割や及ぼす影響を理解できること、社会を支える情報システム、構成する情報技術の概要、課題、今後の動向について理解できること、情報科学や情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画できることを目標とする。	
	基礎から学ぶコンピューター	時代が変わっても変わらぬ重要性を持つコンピュータの原理や構造、ソフトウェアとハードウェアの原理及び構造、通信やネットワークの原理及び構造について学ぶことを目的とする。将来のコンピュータ技術についても触れていく。毎回の授業で小テストを出題することで、理解を深める。コンピュータの基本構造を理解できること、通信やネットワークの基本を理解できること、情報の表現の基本を理解できること、コンピュータと情報化社会の関連を説明できることを目標とする。	
	情報と通信	文科系や理科系の専門分野を問わず、今後の仕事や日常生活において知っておくべき「情報と通信」の基礎知識を習得すること、インターネットに代表される情報と通信が社会生活に与える影響を幅広い視点から考察し、安全で快適な暮らしに必須の基本的な理解を深めることを目的とする。各回の課題の要点を説明資料とともに口頭で解説し、簡単な小テストを毎回行うことで、理解度を確認する。仕事や日常生活にコンピュータと情報通信を活用できる能力「ICTリテラシー」を獲得するとともに、社会生活における情報と通信の意義と影響の本質を理解することを目標とする。	

教養科目 B系列【自然の摂理の探求】（自然科学系）	コンピュータ・インターネットと生活	コンピュータ・インターネットの普及した社会における著作権法を、例えば「そもそも著作物とは何か。自分がインターネットに書き込んだ文章は著作物か。であれば、何らかの権利が自分に発生するのか。具体的にはどのような権利か」の論点について講義形式で進めていく。著作権法の存在理由に関する基本的論点、「著作物」に関する基本的論点、著作権法が定める主な権利に関する基本的論点、その他、講義で提示する時事的な話題について理解できることを目標とする。	
	食と健康	食生活は、心身ともに健康に過ごすための重要な要素である。健康を守るための食生活の基礎知識として栄養について理解を深めるとともに、食品利用における食品成分について様々な面から学習し、健康を守る望ましい食生活を送ることに役立つような知識を習得することを目的とする。栄養の概念と健康との関わりについて理解し、説明できること、主要な栄養素の種類、体内動態、代謝を理解し、説明できること、食品について、健康を害する食品の成分を理解できることを目標とする。	
	衣と健康	我々の心と体の健康の維持に大切な役割を果たしている衣服を通して、人の健康と衣服の関わりについて学ぶだけでなく、健康を維持するための衣服の材料や機能性についても学ぶことを目的とする。授業は講義形式で行い、学生へのフィードバックはWeb学習システムによる。衣服と健康の関わりについて理解していること、衣服の材料や機能性に関する知識を身につけていることを目標とする。	
	女性と健康	心身ともに健康に過ごすことは人生において重要な要素である。そのためには、我々は自分の健康状態について知っておく必要がある。しかし、健康診断を受けても、その内容を理解していない人が数多くいる。そこで、この授業では、女性に特有な疾患・女性に多い疾患・性別にかかわらず、かかりやすい生活習慣病などについて、基本的な知識を習得し、自分及び家族など身近な人々の健康を守るために日常生活を見直すことを目指す。授業は講義形式で行い、関連知識の習得を通じて内容理解を深める。女性と関係のある疾患、健康に関する問題の把握、改善するための方法、自分の健康を維持するための生活について理解し、実践できることを目標とする。	
	住まいのデザイン	住まいは、個人や家族が安全で快適に暮らすための生活の器として捉えるとともに社会的な財であり、文化が育まれてきた場であることにも着目して、様々な角度から住まいについて学修する。特に、「和室と洋室の生活スタイル」、「住宅デザインの知恵と工夫」、「住宅デザインの歴史」を通して学ぶことを目的とする。リアクションペーパーに基づき、理解度・反応新規性についてフィードバックし知識を定着させる。生活をする立場から住居に関する基本的な知識・概念の取得、及び、自らが専攻する学問分野にも応用可能かどうか考える俯瞰的思考を身につけることを目標とする。	
	心理学	本授業は、心理学の各分野の流れと基礎知識を習得する。心理学的研究方法で実証された心のメカニズムや、人間の原典である乳幼児期、母子関係、友人関係を学び、目に見えず触れえない心を理解していく。さらにはカウンセリングの基礎と様々な技法を学び、多角的視野に立って、自分や人を理解していく。心理学の各分野を知り、科学や物理的世界と心の世界の違いを理解し、自己や他者への理解を促進し、心理学が社会でどのように活用されているかを知ることを目標とする。	
	人間生理学	各器官系の働きを学ぶとともに、外界の環境変化や身体内部の環境変化に対応して、生体の恒常性を保つ仕組みについて実験を交えながら演習形式で学ぶことを目的とする。講義による説明を踏まえた実験をグループワークで行い、結果についてディスカッションし、各自レポートを作成することで授業内容の理解を深める。神経系の仕組み、大脳連合野の仕組み、消化吸収の仕組み、抗原抗体反応の仕組み、血液循環の仕組み、体液の恒常性、排泄の仕組みについて説明できることを目標とする。	

教養科目 B系列【自然の摂理の探求】（自然科学系）	脳と行動	直感的に捉えやすい「ものの見え方」を代表例として取り上げ、「心」、「行動」、「脳」の関係について学び、これらの学修過程で、「脳神経系の構造及び機能」・「記憶、感情等の生理学的反応の機序」・「高次脳機能障害の概要」について理解することを目的とする。授業は教科書、補助教材を用いて進める。実験の様子や心理実験で使用する刺激のデモンストレーションの動画などを紹介して体験も行う。心と行動の基本的な特性、心と行動を科学的に測定する方法、脳神経系の構造及び機能、脳機能の測定法、心と脳との関係を解明する研究法、記憶、感情等の生理学的反応の機序、高次脳機能障害の概要を説明できることを目標とする。	
	人体の構造と機能及び疾病	医学一般の基礎知識を身につけ、医療における基本的な考え方を理解することを目的とする。その基盤となる人体の構造や機能についての解説を行い、さらには疾病や障害の内容について、福祉及び心理の分野において必要とされることを中心に概略的な解説を行う。社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師の国家試験範囲を包含した医学知識について主に講義を行う。毎回の授業内容の理解の度合いを確認する小テストを実施する。人の成長・発達と老化の概要、人体の構造と機能の概要、福祉分野で理解が必要な代表的な疾病や障害における原因・症状・治療法など、がんや難病等で必要とされる心理面での支援について説明できることを目標とする。	
	生命科学	本講義では、生物とは何かを考え、生物の本質でもある生命の営みについて解説し、社会・生活・環境など様々な側面に関わる生命、あるいは生物学的な問題について、論理的に自分なりの意見を持てるようになることを目的とする。生物界に共通してみられる細胞・遺伝子や、高次神経機能、神経科学、認知科学、及び周辺分野を題材として、人間らしさとは何かについて検討し、生物学の基礎的な研究から発展した身近な技術についても解説を加え理解を深める。生命現象に関わる要素を理解し、その機能や特徴を説明できるようになることを目標とする。	
	DNAの拓いた生命科学	DNA及び遺伝子とは何であり、それぞれどのような働きをしているのかについてやさしく解説するとともに、DNA構造の発見が現在の生命科学ならびに一般社会にもたらした影響を考察し、これから我々がゲノム情報や最新の生命工学技術（ゲノム編集、iPS細胞、遺伝子診断など）とどのように向き合っていくかを考えるきっかけとすることを目的とする。DNA、遺伝子及びタンパク質それぞれの実体と役割、遺伝子とタンパク質との関係、DNA異常と遺伝との関係、遺伝子とがんとの関係を説明できることを目標とする。	
	環境と生態系	「生物と環境との相互作用を解明する科学」、すなわち生態学の基礎的な考え方を紹介する。授業の主役となる生物は、我々の生活に最も身近な植物である。授業の後半部では、日本の自然環境（生態系）の成り立ちを気候や地形といったマクロな環境と結びつけて解説し、特に日本人の生活と自然環境との関わり、その変化も紹介する。授業は講義形式で行う。できるだけ日本の植物あるいは自然を題材として知識の定着を図る。円滑な理解のために生態写真を多用し、生物と環境・生態系がいかに結びついているかを紹介する。疑問や不明点についてはクラス全体で共有して解決する。植物をはじめとした生物の生活の仕方や分布、環境との結びつきを説明できること、日本の自然環境の成り立ちを気候的・地形的・地史的な視点から説明できること、環境や生態系を保全することの意義について科学的に説明できることを目標とする。	

教養科目 B系列【自然の摂理の探求】（自然科学系）	生活・環境と化学	我々の生活に関連する化学物質を、「食品に含まれる薬理活性物質（トクホ含む）」、「食品汚染に関わる化学物質」、「生物の生活環を制御する化学物質」、「農薬」、「様々な薬」の項目別に概説していく。身近な現象の多くに化学物質が関与していることを紹介することを目的とする。授業外でもニュースや新聞などの情報からより多くを学び取るように工夫することを期待する。講義形式で行い、各講義の感想・質問を提出し、回答をフィードバックすることで理解を深める。我々に身近な現象が化学物質を通して起きていること、それぞれの現象にどのような化学物質が関与し、それがどのように作用しているかについて説明できることを目標とする。	
	生物の起源と進化	地球上の生命はどのように誕生し、現代の多様な植物を生み出したのか、それらはどのように調べられてきたのかについて、主に植物の進化を中心に講義形式で解説していく。毎回の授業内で小テストを行い、次の回の授業で解説をフィードバックする。生物の誕生について説明できること、進化のメカニズムについて説明できること、生物の環境への適応について説明できることを目標とする。	
	歴史の中の数学	数学に関する諸概念を歴史軸に沿う形で解説する。数の起りから始め、最先端の数学までの流れを辿ることを目指す。計算技術としての数学のみでなく、数学者達やその時代のエピソードにも触れ、人間の行いとしての数学を理解し、数学的思考・関心とを客観的な立場から見渡すことを目的とする。数学の歴史の解説を基盤として授業を進めていくが、意見・疑問・問題提起のフィードバックを毎回重点的に行い、レポート課題への講評も適宜行う。中学・高校までに学習した数学の内容の歴史的な位置づけやその意義を人に伝えられること、数学の文化的な側面を理解し、その有機的な繋がりを自身の思考で追究できることを目標とする。	
	教養としての数学	時間、日付、金額など生活のいたるところに現れ、普段から自然と扱っている「数」について、身近な「数」の性質や分類を学び、学問としての「数学」を体験していくことを目的とする。小テスト及び期末レポートにより評価する。理論的理解とともに具体的に計算できることが非常に大切であるため、この講義では「計算できる」ことに重点をおく。様々な「数」を特徴によって分類することができること、様々な数にまつわる計算ができること、合同式を理解し、その計算ができることを目標とする。	
	数学の眼で見た世界	著名な理論物理学者が娘に向けて書いた著書を読み、21世紀に有意義な人生を送るための数学について学ぶ。変わりつつあるこの世界で必要とされる自分の頭で考える能力を養うことを目的とする。授業ではテキストに現れる用語の説明や内容の解説し、提出された課題の答案に対する講評の形でフィードバックしていく。不確実なこの世界で確率の観点から判断ができること、素数と暗号の関係について説明できること、無限について数学的観点から考察できること、宇宙の形と幾何学の関係を説明できることを目標とする。	
	社会で役立つ統計学	初等的な確率の考え方、記述統計、推測統計の基礎的な事柄について学び、統計学の社会における役割について理解を深めることを目的とする。リアクションペーパーによるフィードバックを毎授業中に行うことで内容の理解を深めていく。データの整理ができ、データの特徴を説明できること、確率と確率分布についての基本的事項を説明できること、統計推測の基本的な考え方を理解し、簡単な数値例に対して推定と検定を行えること、社会における統計学の役割を説明できることを目標とする。	
	統計学入門	本講義では、初等的な確率の考え方、記述統計、推測統計の基礎的な事柄について学ぶことを目的とする。リアクションペーパーによるフィードバックを毎授業中に行い、内容の理解を深めていく。データの整理ができ、データの特徴を説明できること、確率と確率分布についての基本的な事項を説明できること、統計推測の基本的な考え方を理解し、簡単な数値例に対して推定と検定を行えることを目標とする。	

教養科目 B系列【自然の摂理の探求】 (自然科学系)	ファッションの化学	<p>化学繊維や染料という化学物質、洗浄に必要な界面活性剤、様々な方法でなされるリサイクルなど、ファッションの根幹をなす衣服のサイクルを理解するには、化学の基礎知識が必要である。化学の中でも特に衣服を理解するために必要な一般的知識を学び、繊維・衣服にかかわる種々の事象を化学的観点から理解し、今後の専門的学習や研究への導入とすることを目的とする。講義形式で、毎回の授業後に提出を課す質問や感想などにフィードバックすることで知識を定着させる。化学に関する基礎的事項を学び、衣服材料の性質や取扱いを化学的に理解することができること、身の回りの化学に関心を持って生活できることを目標とする。</p>	
	薬と化粧品 の化学	<p>薬や化粧品を適切に選び、使用するために、それらの法律上の定義や分類について理解を深めるとともに、体（体内、皮膚、毛髪等）の構造について学ぶことを目的とする。講義形式で、毎回小テストを行い、コメントを付してフィードバックする。医薬品・医薬部外品・化粧品の定義を説明できること、医薬品の分類と作用について、例を挙げて説明できること、化粧品の代表的な成分の性質を理解し、皮膚科学との関わりを説明できることを目標とする。</p>	
	化学の歴史	<p>錬金術の始まりから今日までの、様々な物質の性質と変換の研究を辿り、いくつかのテーマを縦糸にしなが、文化としての化学を見渡していくことを目的とする。講義形式で、授業ごとに授業内容に関係した簡単な小レポートの提出を求め、コメントをフィードバックする。化学を文化や歴史の一部として理解できること、古典教養としての化学を普段の生活や個々の専門の背景として活用できることを目標とする。</p>	
	物理学はいかに創られたか	<p>物理学の中で、力学をはじめ電磁気学などがどのように現代社会に関係しているかについて概観することを目的とする。授業は講義形式で進める。授業の最初に、身の回りの物理現象や使用している機器に関し、日頃疑問に思っていることや知りたいことについて提出を求め、本授業に関係ある事柄であれば、授業内で取り上げていく。現代社会に様々な点で関わっている科学、特に物理学の意義を理解できること、身の回りの物理現象に興味を持ち、その仕組みや原理を理解できることを目標とする。</p>	

教養科目 C系列【知性と文化の系譜】（人文科学系）	社会思想の歴史	個人と社会、自由と共同性という普遍的な問題を、過去の先人の思索の跡を辿ることによって考えることを目的とする。具体的には、〈前半〉は欧米の社会思想を、〈後半〉はその影響を受けた近代日本の社会思想を中心に、それぞれの歴史的・社会的背景に触れながら扱う。授業は社会思想の古典的なテキストを取り上げ、適宜それぞれの歴史的・社会的背景に触れながら、それらを解説していく。社会思想はいずれも当時の激しく変動する現実を認識するために創り上げられた。それらを考察することで、激しく変動する現代社会における自己の存在の位置と意味を認識する力を養うことを目標とする。	
	思想・哲学	これまで哲学に触れたことがない人を主な対象とした入門講義である。西洋哲学におけるいくつかの基本的なトピック（概念・議論）について学ぶと同時に、古典的な著作を自力で読めるようになることを目指す。西洋哲学の古典を一冊講読することを通じて、哲学の基本トピック、概念の定義、いくつかの議論を導入すると同時に、思想・哲学書の基本的な読み方を紹介する。リアクションペーパーにより理解の定着を図る。哲学の基本概念について、具体例を挙げながら説明ができること、哲学の古典的な著作を自力で読み通すことができることを目標とする。	
	西洋思想	創造力を持つ「思想」の中でも「西洋思想」に焦点を絞って、古代ギリシャから現代までを時代ごとに概観し、それぞれの時代の「思想」を理解することを目的とする。西洋思想の理解を通じて、今を生きる受講者自身の生活様式（実存様式）をも反省的に捉え直すことを目指す。西洋思想史上の様々な思想を紹介・解説し、紹介した思想に関する小テストや課題の提出を求め、フィードバックする。西洋思想に関する幅広い知識を習得すること、それぞれの時代の思想の特性について説明できること、それぞれの思想を構成する主要な概念を説明できること、取得した知識に対して自分の意見・考えを論理的に表現できることを目標とする。	
	東洋思想	中国の歴史と思想を豊かにし、日本でも現在に至るまで多くの人々に親しまれている諸子百家の思想、彼らの言葉を味わうことで、改めて日常生活での様々な事柄や、一個人としての生き方、人間や社会、世界の有り様について考え、自らの思考を深めていくことを目的とする。リアクションペーパーと試験で理解度を図る。諸子百家を通して、中国の思想と歴史への理解を深め、作品を読み解きながら、自分の思考と問題意識を発展させること、東洋思想の特徴を自ら考えることを目標とする。	
	20・21世紀の思想	20世紀半ば以降の福祉国家の可能性と限界を踏まえながら、グローバリゼーションの時代に我々が直面する問題である経済格差・環境危機・サイバー独裁・不寛容な社会や人々の意識について考察することを目的とする。教員の解説を中心とした講義、提示するプリントや指定教科書の各自による読解とその確認による演習的作業を適宜組み合わせて進める。提出されたレポートやレスポンスシートについて、授業中で個別または全体的にコメントし、次のレポート作成に活かしてもらう。福祉国家の成立からグローバリゼーションの時代の金融資本主義まで、社会や我々の生活の変容とその問題点を、現在の思想の言葉を用いて表現できるようになること、映像テキストが表現している社会や個人の問題を、現在の思想の言葉を用いて解説・分析できるようになることを目標とする。	
	ロジカル・シンキング入門	まず「論理学」の基礎を学び、その後に応用編として、論理的に正しく説得力のある文章を書くための技法、「ロジカル・ライティング」を紹介する。学術的な文章の書き方（アカデミック・ライティング）の内容も扱うことにより、レポート作成にも役立つ講義とすることを目的とする。講義形式で進め、前半は小テストを併せて行い、後半はレポート課題を示すことで、「論理学」の基本概念を説明できるようになること、「記号論理」の基礎（記号の意味）を理解すること、論理的に正しい文章の書き方を身につけることを目標とする。	

教養科目 C系列【知性と文化の系譜】（人文科学系）	倫理学入門	「(西洋) 倫理思想史」として、古代ギリシアから現代に至る倫理学の主要な議論を紹介していく。その後、生命・医療倫理や環境倫理、ビジネス倫理、科学技術と倫理について検討していくことを目的とする。基本的には講義方式で進め、リアクションペーパーやレポート課題を課すことで、倫理思想史における主要な思想及び代表的な立場の特徴を理解すること、応用倫理学の問題について、自らの生活と関連付けて考えられること、学術的文章の書き方の基礎を身につけることを目標とする。	
	美学	西洋の近代に生まれた美学（感性論）について、この学問の基本的な論点を諸々概観しながら、我々、人間の「感じ方」の多様性や深みを巡って考察していく。感じ方を巡るどのような環境のもとに我々が生活しているかを知り、よりよく生きる手がかりが得られることを目指す。毎回授業の最後に付せられた課題についてレポート提出を求め、コメントを付してフィードバックする。美学と芸術史の基礎的な理解を得ることを目標とする。	
	文化人類学入門	初めて文化人類学を学ぶ人を対象とし、学問としての特徴及び主要概念について概説する。世界をいかに分類し、認識するかの体系でもある「文化」がどのように構築されているかを理解するため、異文化の事例を学ぶことで日常生活を新たな視点から問い直し、自文化についても客観的に分析、理解できる視点を持てるようになることを目的とする。講義形式で行う。受講者の知識、理解を問うためのリアクションペーパー及び小レポートを提出する。文化人類学とは何か、基本的事項を説明できること、文化人類学の誕生、今日までの流れを理解できること、異文化理解、他者理解の重要性についての認識を深めることを目標とする。	
	歴史から見る現代世界	現代世界における様々なテーマを取り上げながら、歴史学の方法を用いて論じることを通して、歴史学とはいかに学問であるのか、その成果と課題は何であるのかを明らかにしていくことを目的とする。講義形式で行う。一回の授業中に 2～3 回のクエスチョン・タイムを設け、教員の問いかけに対して学生が自らの知見や考えを記述する機会を作る。これを通じて、学生が授業に対して能動的に関与することを可能にする。歴史学とはどのような学問であるのか、一定の説明ができること、現代世界における諸問題について、歴史を通して明らかにするという発想ができること、現代世界における諸問題について歴史を通して明らかにしていくために、どのような方法、手続きが必要であるかを理解できること、歴史学の方法によって現代世界の諸問題を自ら考えてみる営為＝歴史実践を、実際に行えることを目標とする。	
	地理学	「地理学の対象は地表面上の特定の場所に位置する事象である」との立場に立ち、様々な事象をどのように記述し説明しようとしているのか、身近な題材を取り上げながら地理学的な見方・考え方を理解することを目的とする。毎回の講義で扱うテーマについて自ら考える課題を課し、回答に基づいて講義を進めていく。地理学の対象は何か、そして地表面上のある位置を示す方法として何があるか説明できること、景観と地域を用いて、特定の場所に位置づけられる事象を記述することができ、ある景観や地域の存在を、環境や伝播、距離によって説明できること、景観や地域の形成における時間や流動のもつ意義を説明できること、地理学を学ぶことで得る知識・能力、ひいては社会における地理学の役割を説明できることを目標とする。	
	20・21世紀の日本文学	大正・昭和の女性文学を読んでいく。人口に膾炙した代表作から、埋もれた名作までを扱い、各時代に活躍した作家の特質を考察することにより、文学史的な基礎や作家の略歴を押さえ、同時代の文化的・社会的な事象を主な参照軸としつつ、作品世界を読み解くことを目的とする。各授業で受け付けた質疑は、授業後、教員からフィードバックあるいは全体の講評を行う。同時代の文学状況と、各文学者の作家的形成の過程について説明できること、それぞれの作家における多彩な表現手法に関する知識を習得すること、文学研究における分析手法や立論の仕方について学ぶこと、扱う作品の世界を理解し、楽しむことを目標とする。	

教養科目 C系列【知性と文化の系譜】(人文科学系)	20・21世紀の外国文学	20世紀の英米文学に見られるモダニズムとポストモダニズムの特徴を掴み、その後、4～5冊の小説を読むことで、モダニズムとポストモダニズムの特徴がそれぞれの作品にどのように表れているかを分析することを目的とする。その後、21世紀の英米文学を数冊読み、ポストモダニズム以降の文学がモダニズムやポストモダニズムと比較してどうなのか、その動向を考察する。また、小説の映画版も視聴することを通して、映画と作品の比較分析も行う。モダニズム文学とポストモダニズム文学の特徴を理解できるようになること、授業で取り扱う作品を小説・映画を通して味わい、モダニズム、ポストモダニズムの視点から分析できるようになること、ポストモダニズム以降の英米文学の動向を理解することを目標とする。	
	日本美術史	日本美術の歴史を、絵画を中心に作品の形態と機能に注目して学んでいく。絵巻物・障壁画等の様々な形態、物語絵画・風景画等の色々なテーマを持つ絵画を取り上げ、その特徴や表現内容から、絵画の多様な意味や機能について考えていく。主体的・積極的学びを通し、これまでの美術や歴史、文化に対する見方や考え方を振り返り、多角的な視野をもって、自らが考えることを目指す。リアクションペーパー、小レポートに関しては、授業内で解説・応答を行う。授業最終回に、授業全体に対する講評を行う。日本美術に関する基礎的な知識を習得し、説明できること、美術が制作された歴史的背景や制作意図、また美術の機能を理解し、社会との関わりの中で美術を理解できること、「日本」の歴史において、どのような美術が生み出され、また「美術」がいかに役割を担い、社会でどのような機能を果たしてきたのかを理解できることを目標とする。	
	西洋美術史	先史美術から19世紀中葉までの西洋美術、及び印象派以降の西洋近現代美術を、その時代の社会や文化の幅広いコンテキストの中で論じることを目的とする。具体的には、19世紀中葉までの西洋美術は、ギリシア・アルカイック、ビザンティン美術、ロマネスク美術、ゴシック美術、イタリア・ルネサンス、北方ルネサンス、バロック、ロココ・新古典主義、ロマン主義・リアリズムの時代を扱う。また印象派以降は、マネ、ジャポニスム、象徴主義、フォーヴィスム、エコール・ド・パリ、表現主義、素朴派、キュビズム、未来派、抽象美術、ダダ、シュルレアリスム、抽象表現主義、ネオ=ダダを扱う。これらの基礎知識を習得するとともに、美術の大きな流れをその時代の社会や文化の幅広いコンテキスト(文脈)の中で理解することを目標とする。	
	東洋音楽の歴史	日本の伝統音楽の歴史と現在をメインテーマとする。とりわけ、様々な芸能を育む母胎となった仏教を主軸として、外来の楽舞を受容しながら我が国の音楽文化がどのように成立・展開してきたのか概観することを目的とする。授業は講義形式で行う。毎回授業中に日本古典音楽を鑑賞する時間を設け、それに対する感想や意見、新たに得られた知見などを自由記述として提出することを求める。毎回授業後に小レポートを課し、理解度確認のための小テストも随時行う。教員からのフィードバックを次回授業時に行う。「日本音楽」の主な種目と楽器についての知見を得ること、外来の音楽(楽器)が日本でどのように受容され、変容したのか理解できること、仏教を母胎として展開した日本音楽(芸能)の系譜について知ること、多様な種目の鑑賞を通じて、独特の音遣いや音色を感じ取られることを目標とする。	

教養科目 C系列【知性と文化の系譜】（人文科学系）	西洋音楽の歴史	西洋芸術音楽（いわゆるクラシック）の歴史の大きな流れについて、毎回、作品を聴きながら、扱う時代の代表的音楽ジャンルや音楽様式を学ぶ。その際、前後の時代の音楽と関連させつつ様式の変遷を考察していく。教科書、PDF資料を参考に、音声資料の視聴を交えて授業を進める。各回に提出を求めるリアクションペーパーへのフィードバックを、必要に応じてその都度行う。各時代の音楽様式の特徴や代表的なジャンル、代表的作曲家・作品に関する知識を習得すること、実際に作品を鑑賞してどの時代の作品かを判断できるような感性を養うこと、音楽以外の諸分野（政治社会、思想、他の芸術分野）にもできるだけ目を向け、それらと音楽活動との関わりを理解することを目標とする。	
	舞台芸術の歴史・東洋	ユネスコの「人類口承及び無形遺産の傑作」の宣言を受けた日本の伝統舞台芸術である人形浄瑠璃文楽の魅力を探る。300年以上続く人形浄瑠璃文楽が先行芸能から受けた影響、歌舞伎などに与えた影響など芸能の変化の過程や、伝承するものしないものなどを、演じられる「ことば」を中心に分析しながら鑑賞し、伝統芸能への理解を深めることを目的とする。実際に文楽を演じている文楽技芸員によるワークショップを踏まえて、国立劇場での文楽鑑賞教室に参加し、人形浄瑠璃の成立背景と使用されることばについて理解すること、人形浄瑠璃の鑑賞方法を身につけること、人形浄瑠璃の演劇的な特徴について説明できること、浄瑠璃の語りを通して日本語の歴史を理解できることを目標とする。	
	舞台芸術の歴史・西洋	シェイクスピアを中心に西洋の代表的な演劇を分析しながら、西欧演劇を通史的に考察することを目的とする。各作品の特質及び時代背景を解説しながら作品鑑賞を行う。配付資料による講義形式で行う。毎回、授業内容に関する小テストを課す。学習システムを通じて、適宜全体の講評を行う。授業で解説する作品の特質や時代背景を理解できること、それらの作品と自己との関係を深めることを目標とする。	
	映像論	映像の基本的な技法と映像文化史に簡潔に触れながら、20世紀から現在までの全般にわたる映画を中心とする映像をくり返し見て、考えることを目的とする。それぞれの映像・映画をある長さをまとめて見て、次に重要なシーンやシークエンスを細かく見ていく。学生は教員の出した問いに答えを出すなどして、映像を見て考える必要がある。映像の歴史と技法という映画の基礎知識の習得をはじめ、映像に関する基本的な理解方法を身につけ、初歩的研究（問題発見と分析と問題解決）が行えるようになることを目標とする。	
	女性と芸術	西洋の芸術を史的、かつ個別的に学んでいく。個々のアーティストないし芸術作品がおかれている文化、歴史的な文脈の理解したうえで、作品、創作活動、生き方などを我々がもつ現代的な視点から評価する。イントロダクションにおいて芸術の定義、史的展開、女性アーティストについて考え、ついで、中世、近代、19・20世紀の時代区分を用い、その順に様々なアーティストと作品を分析していくことを目的とする。講義は教員の用意したプリントとスライドを用いて行う。リアクションペーパーを活用し、受講者同士が感想や意見を共有できるようにする。リアクションペーパーに対するフィードバックを授業の冒頭で行う。講義で扱った作品とその背景に関する知識を習得すること、講義で扱った女性アーティストの創作活動を説明できること、女性の芸術活動を通史的にフェミニズムの視点から説明できることを目標とする。	
	世界の古典・文学	修辞法や理論、思想等の変遷過程を知り、現代にどのように影響を及ぼしているのか流れを辿りながら、世界の古典を読み解く。日本の古典では「源氏物語」、西洋の古典ではアリストテレスの「詩学」、中国の古典では中国の伝統的な思想や文学を取り上げながら、各テキストが書かれた時代と文化の文脈の理解、個々の表現の多様性の感得、各地域の古典や思想が世界でどのような反響を呼んだのか等を学ぶ。それぞれの作品への理解を深め、理解・感得したことを自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。	

教養科目 C系列【知性と文化の系譜】（人文科学系）	英語圏のファンタジー	英語圏で生まれたファンタジー作品を通じ、その風土と歴史、言語と社会、文化との関わりを考察することで、その夢を産み育てた理由を分析し、その世界を描く方法を跡づけることを目的とする。講義形式で、感想、コメント、レポートを課し、随時フィードバックを行う。ファンタジー作品を読み、深く理解できること、作品の背景、歴史、文化、世界観を読み取れること、言葉の創造力について理解を深めることを目標とする。	
	日本社会と宗教	「現代日本人として宗教を考察していくに必要な素養とは」という課題に取りくむには、我々自身が既に持つ宗教観を明らかにすることが必要となる。その宗教観が、我々に流れ込む歴史（生い立ちではない）の中でどのように形成されてきたかを知ることも必須である。このような問いを念頭に、宗教学の立場から日本宗教史を概説することを目的とする。講義形式だが、一部グループワークで進める。現代日本の宗教概念の特徴と限界が理解できること、宗教概念の意味内容を弁別できること、「宗教」という言葉自体の翻訳と定着の歴史過程を知ること、日本宗教史の全体像について見通しを得ること、日本の諸宗教について誤解や無理解の所在を自覚、訂正できること、現代日本における宗教の意義と位置を理解すること、一般的な宗教論への足がかりを得ることを目標とする。	
	宗教とは何か	「宗教紛争とは何か」をテーマに、南アジア（特にインドとパキスタン）におけるヒンドゥーとムスリムの紛争対立の歴史について講義を行う。対立で発露する「宗教性」とはどのようなものか、そもそもこうした深刻な紛争が生じるのはなぜかといった問いについて考察することを目的とする。講義形式及び一部グループワークで進める。「宗教紛争」という問題設定の意義が理解できること、「宗教紛争」における宗教的要因と政治経済的な要因の絡まり合いが判別できること、「宗教紛争」を巡る論争の争点を整理できること、「宗教紛争」論を足がかりに、「宗教」が持つ多面的な意味合いを理解できることを目標とする。	
	世界の神話	神話は、世界各地で太古から語り継がれてきた人類最古の文化の一つであり、様々な芸術（文学、美術、音楽、建築等）の源泉でもあり、現代の多様な文化の理解に欠かせないと観点から、世界の神話を地域ごとに概観し、神話の持つ意味について考えていくことを目的とする。適宜視聴覚資料を用い、質問等については授業時に回答していく。世界各地の神話について、地域の特徴と地域を超えた類似点について理解できることを目標とする。	
	ことばとは何か	言語研究の（ことばについて考える際の）基本的な考え方を概説し、日本語を主な例として、ことばの実態を明らかにする方法を検討することを目的とする。授業後に学生から受けたコメント・リアクションに対する教員からのフィードバックを、次の授業で行う。言語（ことば）に対する関心を高め、学問的な研究対象として理解できるようになること、言語研究の考え方や基礎的な概念を理解し、重要事項が説明できるようになること、ことばについて考えるとはどういうことか、自分なりの考えをことばで説明できるようになることを目標とする。	
	ことばと社会	ことばと社会の関係について考察してきた社会言語学などの基本的な考え方について、様々なトピックや事例を参照しながら学習し、世界の異なる言語や文化の比較を通して、我々人間が言語的・文化的に多様であることについて理解を深めることを目的とする。主に講義形式で、適宜、授業の理解を深めるため、学生の意見を聞く時間も設ける。提出課題へのフィードバックに関する詳細は、学習システムにて伝達する。ことばが我々の現実世界を創り出すという考え方について理解すること、人間の言語と社会との密接な関係について理解し、新たな視点と洞察力を得ることを目標とする。	

教養科目 C系列【知性と文化の系譜】 (人文科学系)	クリティカル・シンキング入門	クリティカル・シンキング（批判的思考）とは、批判をしながら考えるための思考法である。クリティカル・シンキングの思考法をよく理解することで、情報を能動的に受け取り、さらには新たな問いや疑問を発見し、自らこの思考法を使えるようになることを目的とする。クリティカル・シンキングの重要性を認識し、この思考法に欠かせない「議論（アーギュメント）」の仕組みを学び、実践としてリーディング及びライティングのトレーニングを行い、合理的な判断や論理的に整合性のある議論ができるようになることを目指す。	
	INTRODUCTION TO JAPANESE CULTURE AND SOCIETY	<p>日本の歴史、文化における女性の役割について考察していく。古代から21世紀に至るまでの文献を丹念に読んでいくことを通じて、国民性、歴史的文学、現代性、日本人の気質の歴史、文化的象徴性、大衆文化との対比としての個人といったテーマを探求していくことを目的とする。黎明期から現在に至る日本の文化、社会の発展、特に女性の役割について注視しつつ、これらを理解していく。クラスにおいても、個人においてもトピックスに関連付けて自身の意見を構築し、考察することが期待される。また、学術的なディスカッションに参加し、複数名で協働して明確かつ関心を持てる方法でプレゼンテーションに慣れる。日本の文化、社会における女性の役割について学ぶこと、女性と日本文化の多面性との関係について考察できること、日本の伝統的な文化および現代の文化と自身との相違について考察できることを目標とする。</p> <p>We will consider the role of women in Japanese history and culture. Through careful reading of literature from ancient times to the 21st century, themes such as nationality, historical literature, modernity, the history of Japanese temperament, cultural symbolism, and the individual as a contrast to popular culture will be explored. We will understand these while paying close attention to the development of Japanese culture and society from the dawn to the present. It is expected that the students will consider and develop their own opinions in relation to the topics. Also, students will be expected to participate in academic discussions and become familiarized with presentations, developing their style in a clear and interesting way in collaboration with multiple people. Class goals include learning about Japanese culture and the role of women in society, to be able to consider the relationship between women and the multifaceted nature of Japanese culture, and to be able to consider the differences between traditional and contemporary Japanese culture and oneself.</p>	

学 科 科 目	基 礎	住居計画	住居は、建築の原初である。また個人の生活の基盤であり、人間関係の構築に関わる一要素でもあり、さらには、地域の景観を構成する要素でもある。国内・海外における住居の計画やその発展の歴史について、地域風土、宗教、社会情勢、都市化、災害などと関連づけながら、講義や、自身や親族の住居の分析を通して理解していく。具体的にその上で、住環境をめぐる現代的課題を理解し、住宅の計画・設計の諸条件を分析的かつ創造的に設定し表現できることを目標とする。	
		日本住居史	住居の歴史を通して学際的な思考を習得することを目的とし、時代ごとの固有の居住形態にみられる空間構成や形態的特徴について、社会的・文化的背景とともに理解することを目指す。住居の歴史について、異なる時代に建てられた各住居の事例から理解するとともに、個々の住居にみられる変遷とその地域性を通じて理解するために、現在まで積み重ねられてきた保存修理や増改築などによる再生手法にも着目することで、よりよい居住環境を獲得してきた手法を理解することを目指す。	
		西洋住居史	西洋における時代、地域、階層、立地などの違いによる住空間の多様性を概観するとともに、そこで展開した人々の生活の様子を考察するこの科目では、人類が初めて住まいを手に入れた先史時代から近代まで、西洋の住居を通史に沿って図版、スライドを用いて紹介する。ヨーロッパ地域における住居とその集合としての都市を社会、心理、文化、技術といった視点から多角的に捉え、これからの人々の生活空間としての建築・住環境の創出に必要な知識と理念を習得するために、時代ごとの固有の住居形態について、その空間構成や形態的特徴を理解し説明できること、時代ごとの住居形態それぞれの社会的・文化的背景を理解し説明できるようになることを目標とする。	
		住居構造	住居は建築の最も身近な構造である。住居構造に対する理解を深め、正しい理解と分析力をもつことができることを目的とする。重力、地震や風などの外力に抵抗する構造システムや建築材料に応じた構造システムについて、更には意匠や設備計画など建築計画への関わりがあることを理解する。また、住居構造に応用可能な特殊な構造や住居の安全性に大きく関わる地盤や基礎についても講義を通して学ぶ。住居建築の構造的感覚を養うことにより適切な建築計画を行うための基礎的構造計画ができる知識を取得することを目指す。	
		バリアフリーデザイン論	超高齢社会を迎える日本において、高齢者や障害者を含む全ての人々にとって安全で住みやすい生活環境をつくりあげていくことが重要な課題となっている。本講義ではバリアフリーデザイン、ユニバーサルデザインの基本理念を理解すること、また高齢社会において誰もが安心して生活を継続するため、その生活の基盤である「住宅」を対象として、高齢者や障害者の生活行動上の問題を理解し、その問題解決のためのデザイン手法や関連技術、制度を理解し、自身の設計に展開する能力を身につける。	
		空間デザイン概論	建築空間には、単なる物理的な機能性を超えて、心理的・芸術的・文化的質の高さが求められる。この授業では、建築空間が設計されてきた多様なアプローチについて、近現代のさまざまな建築事例を紹介しながら概説する。作品分析を通して建築とそれを取り巻く諸領域の関係についての理解を深めること、建築空間のデザイン言語を理解し、設計において明確なテーマをもちながら思考を進めることができることを目標とし、自らの設計を多角的な視点から検討できる能力を養う。	

学 科 目	基 礎	住居環境	現在問題となっている地球環境問題とその原因について認識し、グローバルな視点と学際的な視点から居住環境向上技術のあるべき姿を理解することができる能力を養うことを目標とする。住宅・建築・都市および生活環境・居住環境に係わる物理的環境要素と人間との関係および、それらの評価手法や評価レベルにつき、総合的に分析できる知識を学習するとともに、各要素に関連した生活環境の改善や新たな生活環境を提案する能力を養うことを目的とする。住居をとりまく環境についての考え方を理解するため、住居と環境、人間と環境などについて解説した上で、地球環境問題とその原因について整理して示す。次いで住居環境の各要素について、屋外環境から屋内環境まで順次解説し、各要素の人間への影響、評価指標、評価方法などを学習する。	
		住環境計画	住環境の特徴について、基本的な知識を身につけることを目標とする。様々な住環境にある課題を見出す力をつけることを目的とする。今後新たに起きるであろう住環境上の課題に対応する力をつけることを目標とする。ニュータウンのづくり、スプロール市街地の課題、伝統的な街並み保存等、様々な住宅地の特色を理解する。さらに、緑地、生活道路、災害等の視点から住宅地整備事例を学ぶとともに、子ども等の生活主体の視点からの住環境の読み解き行う。	
		生活環境安全論	建築物・住居、それらの内外で行われる生活環境の安全性を保つためには、地震などの自然災害や火災、事故、犯罪などの現状と危険性を理解することが必要で、防災対策など、最新の知識をもつことが求められている。それぞれの災害・事故について最新情報と設計上の対策を理解し、リスクの大きさに応じた適切な措置を考えることができるようにする。これらをもとに設計者として起こりうる災害やリスクを把握し、その対応策を計画・設計することが目標である。また、その内容を使用者・市民に適切に説明し、対話するスキルを育むため、リスクの認知、リスクコミュニケーションに関する理解と、グループ討論を通してユーザーに建築物の安全性能を説明できることを目標とする。	
		建築計画	建築を計画する行為を、身体、認識、生活、心理、文化、芸術、工学、技術などの広い視点からとらえ、考察できる能力を身につける。また、日常にある事象を自ら観察しその成り立ちの構造を考えることで、より良い新たな建築的環境を提案できる思考につなげていく能力を身につける。そのため、観察と考察と工夫（創作）の3つのプロセスの連関に基づいた実感を伴う経験的な知識と建築言語を習得し、他者に伝えることができるようになることを目標とする。	
		設計製図Ⅰ	住居をはじめとする私たちの生活空間の物理的環境を、体験、観察、スケッチ、実測、図面のコピーなどの実技実習を通して学び、空間を第三者に的確に伝えるための表現としての図法、模型の技能を習得することを目的とする。さまざまな図学的表現方法を知り、最適な表現技法を自ら選択・活用して、設計・デザイン思想を表現するためのプレゼンテーションができるようになることを目標とする。また、図面等によって適切に表現し、住宅を成立させる様々な要素の機能と役割を理解し説明できることを目標とする。住宅とその周辺環境との関係を理解し、連続的な住空間として捉えることができるようになることも重視する。	共同
		設計製図Ⅱ	木造住宅図面のコピーや軸組模型の製作を通して、木造建築の図面表現や構法などの基礎知識と技術を学ぶこと、また木造住宅の設計・製図を通して自ら創作し表現する能力を養うことを目標にする。また、製図の実習を通して自立的、継続的に作業を遂行する力、設計課題の実践を通して生活に関わる様々なテーマを学際的な視点から理解する能力、生活環境に関わる問題を論理的に分析し、よりよい住環境を設計できる基礎的能力を身につけることを目標とする。	共同

学 科 科 目	基 礎	住生活学	人間が生きていくために欠かせないものが住まいである。人は住まいでの生活を通して成長し、家族関係を育み生活文化を創造し継承していく。住まいは、子どもの成長発達や高齢者に至るまで、人々の生活の安寧を支える基地であることを認識し、自らが生活する当事者として、個人や家族の生活の実態を把握することを通して、生活と住まいの関係を多角的・総合的に理解することを目的とする。そこで、生活の視点から、住まいの機能を理解し、住まいの歴史的、文化的考察を行うことから、現代の住生活の課題を把握するとともに、主体的に解決する能力を養うことを目標とする。具体的には、住まいにおける生活行為、家族などの他者との関係、個人・家族のライフステージ、モノの持ち方、ライフスタイル等の観点から住生活を構造的に把握、国内外の諸地域の住まいの文化的背景を理解することによって、住まいの計画・設計に活かすことのできる力を身につける。	
		建築設計スタジオ I	設計案を考え図面および模型で表現する能力の習得を目的とする。自然と都市という2つの敷地において、環境を読み取り身体と場所の関係から建築の根源的な役割を考え、根幹をなす設計力を身につける。また、手書き図面による表現にすることで、図面におけるスケール感の体得を目指す。また、自分の考えや感覚をエスキスを通して他者に伝え、ともに考えることで、共有できる言語能力を習得する。最終的には、設計案の発表と講評による経験によって学びとする。	共同
		コンピュータデザイン I	設計業務において CAD (Computer Aided Design) や CG (Computer Graphics) の普及は著しく、今や建築/住宅設計において無くてはならないツール/システムとなっている。本講義では今日の設計業務においては必須となった CAD システムについて、CAD の基本機能を理解し、建築図面の作図ができること、CAD の機能を使いこなし、適切に建築の図面を表現できること、CAD を用いた設計レポート課題において、生活者のニーズに応じて、機能的な空間を計画し、図面化できること、3DCG で空間の様子を表現できることを目標とする。	
		建築構造	住居構造で得た知識を更に発展させ、建築基準法で定められた構造材料に応じた建築構造のしくみを理解し、それらの活用・実践について論理的に分析できることを目的とする。講義では、建築で用いられる木、鋼、鉄筋コンクリートに関して解説するが、木については、初歩的な計算方法(壁量計算)についても学ぶ。建築の構造、構法に関する諸要素を工学・技術的な視点から理解し、建築に関する様々な分野における専門家として合理的に応用できる基礎的能力を養うことを目標とする。	
		構造力学 I	構造物に働く力とその作用という現象を把握し、構造力学の初歩である静定構造を中心に構造を分析できること、そして、理論的・実践的に求める基礎力を養うことを目標とする。重力や地震力・風荷重等の外力はベクトルとして表すことができる。力のベクトルの合成・分解の方法、及び、ベクトルの釣り合いという現象の理解に始まり、部材の断面性能、トラスやラーメンフレームの部材に働く力の算出方法を学ぶ。そして、実際の構造物へどのように適用されているかを数値や図を通して理解することを目指す。	

学 科 科 目	基 礎	建築設備Ⅰ	住居環境で学習した地球環境問題とその原因についての認識やよりよい住環境を考えていく基礎的知識をふまえ、居住環境向上に役立つ設備技術につき、広い視野や学際的な視点から理解することができるための知識や能力を養うことを目的とする。住宅・建築・都市および生活環境・居住環境に係わる物理的環境要素と人間との関係およびそれらの評価手法や評価レベルについての知識を踏まえ、これらの環境要素を調整し、生活環境改善に結びつける設備技術について理解し分析できる能力を養うとともに、新たな提案や具体的に設計・計画できる能力を習得することを目標とする。環境を調整する設備について、主として空気調和設備と給排水衛生設備、電気設備の構成と働き、機器・システムの種類と考え方など、設備技術に関する基礎事項を網羅的に解説する。	
		建築専門英語	建築分野で国際的に活動するために、住居学、建築学に関する基礎的な専門用語、表現について学習するとともに、必要な英語コミュニケーション能力を習得することを目的とする。具体的には技術英語の基本と建築計画一般ならびに建築構造（構造形式、構造力学等）、建築材料に関する英語表現を身につける。また、建築に関するディスカッションを英語で行うための多様なプレゼンテーションスキル（声の抑揚、発音、正しい文法と単語の選択、身振り、ドローイングなど）を習得することを目標とする。	
		建築設計スタジオⅡ	小規模な地域施設や集合住宅の設計実習を通して、地域の生活文化や歴史、環境と建築デザインの相関性を理解し、機能的、構造的、空間的な諸要素を合理的に計画・設計する能力を養う。周辺環境との調和を図りながら、地域コミュニティや住宅に関わる今日的課題に対して多角的な視点から取り組み、提案する基礎的力を養うため、周辺地域から居住空間まであらゆるスケールの課題に応えること、複数一定規模の建物・住棟を合理的に計画すること、今日のライフスタイルや地域コミュニティのあり方に対する提案をプログラム及び建築計画の双方から具体的に行うことができるようになることを目標とする。	共同
		建築構法	日本では、木は古来より建築材料として使われてきた歴史ある材料である。しかしながら、歴史的な流れの中、林業が危機的な状況となり伝統建築の技術は失われつつある。現在、SDGs や日本の森林の再生の観点から木材・木造が見直され、また、木材技術の発展を背景として歴史的建造物の活用も積極的に行われている。 本授業では、材料としての木材に関する知識にはじまり、失われつつある工法や最新の木に関する工法まで、これからの住居や建築に取って不可欠な木に対する知識を建築構法の観点から身につけることを目的とする。なお、講義においては、新旧広範な木造技術を話題として取りあげることにより、これからの住居・建築の多様な分野において応用可能な木・木材・木造に関する技術的感覚を身につけることを目標とする。	
		構造力学Ⅱ	構造力学Ⅰに続き、力の流れを知り、地震等の災害から建築を安全に機能的・合理的にデザインするため、安全性を理論的、実践的に求めることができる能力を身につけることを目的とする。たわみ角法や固定モーメント法など不静定構造の算出方法、仮想仕事法や節点振り分け法による保有水平耐力の計算方法を中心に安全性の検証方法について理解すること、また、近年、より高度な解析手法として重要度が高い時刻歴応答解析の基本的な概念についての知識を身につけることを目指す。	

学 科 目	基 礎	建築環境工学	住宅・建築・都市および生活環境・居住環境に係わる物理的環境要素について、科学的に分析され示されている各要素と人間との関係およびそれらの評価手法や評価レベルにつき、総合的に理解し分析出来る知識を学習した上で、これらの各要素に関する生活環境の改善や新たな生活環境を提案し、また、合理的に計画し、設計することができる能力を養うことを目標とする。住居環境と同様に各種物理的構成要素につき順次解説し、演習の内容を主として進める。住居の屋外の環境、太陽の動き・影響、特に周辺環境に影響する日影の問題につき学習した後、屋内環境に関し、屋内環境とその評価指標、評価方法に関連した数値計算的な部分を主体とし、光環境、空気環境、熱環境、音環境という物理的要素ごとに解説する。	
		建築材料	安全で快適に使用できる建築物をつくるためには、使用者の要求に合致した材料を選定する力が必要になる。そのためには太古の昔から利用されてきた資源・素材をはじめ、現代の建材に至るまでの特徴を大きく把握することが大切である。またその際に、その建築材料が使われた地理的環境や気候・風土ならびに文化との密接な関係を知ること、重要な切り口の1つとなる。これらをふまえ、将来における建築実務に携わる上で必須となる、木材、鋼材、コンクリートなどの構造材料から、ボード類、左官材、自然素材などの内外装材料まで、建築材料全般の基礎的知識を習得し、建築が様々な材料により組み合わせられてきていることなどを理解する。また建築に地域性があるように、建築材料も地域固有の素晴らしい特徴がある点にも触れ、建築材料に関わる資源環境や地球環境との関わりについても理解を深める。	
		建築施工	住宅・建築・都市の機能的、構造的、空間的な諸要素を合理的に計画・設計し、実際に造ることのできる能力を育成するために、建築施工の技術・システムを理解することを目的とする。建築は古くからある職業で、慣例的に使われる用語も多い。建築用語についての語彙を増やしながら、仮設工事に始まり、地業工事、土工事、躯体工事、設備工事など、工事種別ごとに様々な施工技術とその関連を学び、その原理を理解し、それらを設計や施工の場面で活用・実践する建築で必要とされる基礎的能力を取得することを目標とする。	
		建築法規	建築物の計画、設計、監理、施工、維持管理等には、様々な建築関係法規の遵守が求められる。この授業では、建築関係法規の背景や沿革を取り上げることで法規の意義および複雑化する体系を理解し、また、具体的な事例を通して、実務に携わる専門家として、同時に、日常生活の中でも活用できる建築関連規定の知識を習得することを目的とする。そこで、住み手が住まいを適切に管理しながら豊かな生活環境を継続するための方策を考え、建築関係法規の法体系全体の中での位置付け、建築関連法規の全体像を説明できること、建築関係法規を自力で調べ、コンセプトを具現化し、かつ、合理的な建築物を設計できること、住生活に関する社会的姿勢を理解し、関連する法規を活用した計画ができること、建築関係法規を活用し、社会や生活環境に対して新たな提案ができることを目標とする。	

学 科 科 目	応 用	形とデザインⅠ	空間デザインの基礎として、二次元的な表現における形と知覚の関係を理解することを目的とする。授業では抽象的な平面構成の実習による経験知の蓄積にとどまらず、心理学および色彩学などの論理的な裏付けも適宜レクチャーすることで知識を言語化・体系化し、与えられたテーマに沿って作品を創造する力を養う。地と図の関係、面と線、曲線と直線、対称性と非対称性、これらの「形」が色彩をともなって画面にレイアウトされたとき、どのような知覚を喚起するのか実習を通して学び、デザイン・ヴォキャブラリーとして自身の平面作品における表現に適切に適用できるようになることを目標とする。	共同
		形とデザインⅡ	魅力的な空間を構成する様々なデザイン・ヴォキャブラリーを共有し、空間を把握する力と基礎的な創造力を養うことを目的としている。授業では様々な素材を用いて、与えられたテーマに沿った立体造形作品を実際に製作する。課題ごとに講評を行い、作品のテーマ性、デザイン原理、表現手法についてディスカッションする。与えられた課題に対して、独自の視点からテーマを設定し、作品の審美性と構造的合理性の整合を取りながら、作品を計画できることを目標とする。また、作品のコンセプトを言葉を使って明確に人にプレゼンテーションできることも目標とする。	共同
		力と形	建物はどのように地震や台風などの力（外乱）に耐えているのか、安全な建物にするには、これらの外から作用する力に対してどのような形や構造システムにしたらよいかという「力と形」の関係について、実体験しながら構造原理を理解することを目的としている。安全で快適な建築空間を確保するために、作用する力とそれに耐える形との関係に焦点を当てながら、各回のテーマに沿って学習する。毎回実際に机上でそれらのメカニズムを体験しながら学習する。扱う力学原理は、トラスやアーチなどでの架構形式とそこに働く力の流れ、荷重外力と荷重効果、座屈現象や、モーメントなどであり、単純梁、交差梁、ラーメンという実構造物の力学に発展させ、それらに対する力学原理を確認する。各回の机上実験結果をもとに考察できる力を養う。	共同
		日本建築史	日本建築と大陸文化の流入や職人の移動との関係といったグローバルな視点を確立することを目指し、時代ごとの固有の建築形態にみられる空間構成や形態的特徴について、社会的・文化的背景とともに理解することを目的とする。古代から近代に至るまでの日本建築の変遷を通して、大陸からの異文化の流入と、伝統的な日本文化の継承の両側面から注目することで、建築様式と技術の関係について理解をふかめ、木造建築の意義と活用にもつれた洞察力を習得することを目指す。	
		インテリアデザイン	戦後の建築・インテリアデザインの歴史を学ぶ。日本の空間、構造、文化史から、建築とインテリアデザインの関係を考え、「インテリアデザインは何か」を考えるための基礎的な知識を身につけ、優れたインテリアデザインを見る洞察力を習得する。また、住居史だけでなく、公共および商業空間におけるインテリアデザイン、デザイナーや建築家の歴史を知り、インテリアと建築を横断的に考える能力を獲得することができる能力を身につける。	
		コンピュータデザインⅡ	建築設計の分野において、CAD（コンピュータ支援設計）/CG（コンピュータ・グラフィックス）の導入が進み、複雑な形態やディテールの設計や新しい建築の形態・空間を発見・創造するためのプログラミングツールとしての利用が盛んになってきている。本授業では、コンピュータデザインの先端事例を紹介しながら、CAD/CGによる作図・モデリングを通して、CAD/CGを利用した今日的な設計プロセスにおいて必要な計画・設計能力、およびプレゼンテーション能力の習得を目標とする。具体的には2次元・3次元CADの連携による作図技術、モデリング技術、CG処理技術を習得し、その特性を活かしたCAD/CGによるデザインの検討および計画・設計の基礎的能力を身につける。	

学 科 科 目	応 用	住居・建築管理	<p>少子高齢化や世帯構成・ライフスタイルの多様化、また地球環境や資源の有効活用の視点からも、住まいのフローからストックへの移行が注目され、維持管理やリフォームに関する知見が求められている。授業では、良好な住宅ストックの形成と都市居住・地域活性化への対応などの住宅政策を理解し、住み手が住まいを適切に管理しながら豊かな生活環境を継続するための方策を考える能力を養うことを目的とする。そこで、住まいを管理する方法について、基本的な知識を身につけることを目標とする。また、住み手にとっての住まいの機能を理解した上で、暮らし方や住まいの形が変化し続ける社会で臨機応変に対応できる応用力を育むことを目指す。</p>	
		住宅政策	<p>住宅政策の基本的な知識を身につけ、住生活向上のための政策を理解することを目標とする。日本や海外の住居の実情、居住水準、などを理解するために、情報の読み取り方についての学習も行う。学びの内容としては、日本と海外の住宅政策を理解し、それを踏まえた違いを把握する。さらに住宅の社会的側面、経済的側面、災害と住宅政策、居住の権利、住教育等の面から学習する。住宅政策上の課題を見出す力をつけ、政策に活かす視点を培うことを目的として、具体的な住宅政策の提案を試みる。</p>	
		福祉環境論	<p>超高齢社会の「まちづくり」では住宅、公共施設の生活関連施設（点）を道路、交通機関等でつなぐ、いわゆる面的な拡がりを持ったバリアフリー・ユニバーサルデザインのまちづくりが求められる。本講義では高齢者や障害者を含む多様な生活者の視点から、建築環境、歩行環境、交通環境、情報環境の問題と具体的解決策を理解すること、その問題解決のための政策体系を理解することを目標とする。授業の学びを通し、高齢者や障害者の基本的人権、自立、共生など広い視点から「まち」のあるべき姿を考え、それを実現するための方法について考察できる能力を習得する。</p>	
		西洋建築史	<p>この科目では、西洋建築の歴史的流れを文化・様式ごとに解説する。テーマごとに主要な建築作品と建築家を図版、スライドを用いて紹介するとともに、その社会的背景にも触れていく。歴史的知識の習得にとどまらず、グローバルな視点に立って創造的な提案、建築の設計を行う力を養成するために、建築が成立している地域および社会的背景の多様性を理解し、文化・芸術・技術の総合的な表現として建築を捉える力を育成することを目的とする。建築の様式の変遷を西洋の歴史文化の流れの中で説明することができること、時代を画する建築やその時代の特徴を最もよく表している建築の様式的特徴、独自性を理解し説明できることを目標とする。また、建築の社会における普遍的な役割、建築家の職能について考察することができることを目標とする。</p>	
		インテリアデザイン演習	<p>課題演習を通して、テーマに基づく分析や仮説などの考え、アイデアを積極的に発表していくことで、企画力、計画的に物事をまとめていく力、論理的に説明できるプレゼンテーション力、コミュニケーション力をつけることを目標とする。課題にてアイデアを創出する力、技術的な点を押さえながら論理的にまとめる能力、魅力的に表現する力、計画的な作業を遂行する力をつけることを目的とし、インテリアを通して場をブランディングしていく能力の育成を目標とし、インテリアデザイン＝「家具」「内装」という枠組を超えて、インテリアから都市や社会との繋がりを創造する思想の獲得を目指す。</p>	

学 科 目	応 用	建築設計スタジオⅢ	地域施設や大規模な集合住宅の設計実習を行う。設計課題を通して、具体的な敷地のコンテキストやプログラムの働きを考え、より密度の高い計画を提案できる能力を身につける。計画に際しては、多様な架構と空間の関係を理解し、デザインに反映する。図面やパースの表現が効果的であり、適切な言語を用いてプレゼンテーションすることができる能力を身につける。また、集合住宅の課題においては、グループによる共同設計を行うことによって、コミュニケーションをとりながら設計行為を行う力を身につける。	共同
		住宅・建築経済	経済や法律の側面を踏まえて住居や建築、地域を理解し、住まいの資産価値を経済合理的に判断できることを目的とする。それにより持続可能社会の住宅投資を提案し、主観的な価値と客観的な価格を一体化できることをめざす。また、ライフステージごとの住宅の選択行動を経済合理的に考察でき、長寿社会におけるライフプランと住宅・資産形成を理解し提案すること、住まいを取得するための資金調達計画と返済計画を立案できることをめざす。	
		都市計画	ヨーロッパの産業革命後、20世紀に成立した近代都市計画の思想を理解することを目標とする。欧米の都市計画の歴史的な流れに加え、近代化以降の日本の都市計画の流れを学ぶ。そのうえで、現在の都市計画制度の骨組みを理解することを目標とする。また伝統的な街並み保存、道路や鉄道等のインフラ開発と都市の整備、震災等の自然災害への備えと復興等のトピックから都市計画を紐解く。課題解決のための、都市計画制度と建築の関係の好事例を調査し、都市計画制度の役割を理解できるようになることを目指す。	
		建築設備Ⅱ	住居環境・建築環境工学・建築設備Ⅰで学習した内容をふまえ、よりよい住環境を考えていくための知識に加え、居住環境向上に役立つ設備技術につき、計算・演習的な授業を行うことにより、広い視野や学際的な視点から様々なテーマを理解することができるような能力を養うことを目標とする。環境要素を調整し、生活環境改善に役立つ設備技術について、計算演習的な授業を主とし、各問題を論理的に分析し、技術・工学の視点から理解するとともに、改善方策や新たな提案と活用実践ができる能力を養うことを目標とする。建築設備Ⅰで学習した設備技術に関する基礎的知識をふまえ、設計・計画に結びつけていくための計算・演習課題を課し、知識と技術の定着を図る。	
		ランドスケープデザイン	ランドスケープデザインは、自然や歴史等、地域固有の資源を活かしながら、都市の外部空間のあり方を提案し、我々の「生活の質」の向上を図る分野であり、その造成デザインと植栽デザインについて、基礎的な知識と技術を学習するとともに、ランドスケープデザインの今日的な意義について理解を深めることを目指す。まず造成デザインの基本的手法を習得することを目標とし、都市における基本的な緑化植物の特徴や用途について学習することを目的とする。さらに植栽デザインの多様な手法を学び、実際の都市空間を適切な用語で表現できるようにすることを目標とする。	

学 科 目	発 展	地域施設計画論	近代以降、私たちの居住を支える様々な制度が整えられ、これに伴い用途別の施設が体系化され整備されてきた。一方で、近年は、家族のあり方、住まい方、働き方、育児・介護など、社会のあり方も大きく変化しており、これに伴い施設に求められる役割も変わってきている。本講義では、これら地域での居住を支える様々な施設の計画手法について、社会的背景の変化、過去から現在に至る変遷、そして今後のあり方について、実例を交えながら考察する。	
		福祉環境演習	高齢社会の到来、介護保険等による在宅福祉の充実などの社会問題を背景としてバリアフリー性能を有した生活環境を当たり前のこととして整備していくことが求められている。そのような社会ニーズに対応するため、本授業では体験によってバリアフリー設計要件を理解し、高齢者・障害者配慮のための住宅改善提案や高齢者居住施設／福祉施設の設計を行う。それら実習課題を通して、高齢社会における生活環境づくりの手法を身につけること、高齢者や障害者の生活に関わる様々な課題を生活者、作り手などの学際的な視点から理解すること、バリアフリー・ユニバーサルデザインの視点から生活環境を合理的に計画し設計できる能力を身につけること、設計エスキスや作品のプレゼンテーションを通して自分の考えを適切に伝える能力を身につけることを目標とする。	
		構造デザイン演習	本授業は建築に使われる材料の力学的特性を理解するために、材料実験・演習を行う。載荷方法や荷重の大きさによる、変形や壊れ方を観察し、実験結果を適切に考察する力を身につける。また、材料の力学特性が、実際の建物の性能にどのように関わってくるかを理解するため、事例の学習を行う。実験・演習及び講義を通して構造技術・構造デザインを理解し、建築に関係する実務に活用できるようになることを目標とする。実験・演習はお互いに協力して行うが、そのまとめを通じて協調性を養うとともに、自立的に遂行する能力を養う。また、専門の先生方との会話を通して技術者としての専門用語に対する知識を身につける。	共同
		建築設計スタジオIV	デザインの構造そのものから考えることが求められる設計課題実習に取り組む。前半は、都市からエフェメラルな要素を抽出する観察眼、マテリアルやパターンから発想する形態創造力を養成するスタジオ課題に取り組む。後半は構造モデルの創造的なセンス、パッシブエネルギーから考える空間構想力を養成するスタジオ課題に取り組む。各スタジオから出題されるテーマを通して、先鋭的な建築を生み出す設計者に必要な能力を身につけていく。また、自ら導いたデザインの構造に対して、批評的な視点を加えながら深く追求し続けることができ、他者への理解を促す独創的なビジュアルプレゼンテーションと言語の選択ができる能力を身につける。	共同
		都市デザイン演習	都市や地域空間を生活空間としての視点で考察し、課題解決のための提案・取り組みを、実際のまちを対象に行う。これまでに講義科目等で身につけた知識をベースとして、卒業論文や卒業制作に取り組むための課題発見力と、調査に使用するためのツールを使いこなすためのトレーニングを兼ねた課題に取り組む。居住地についての統計データを集めてExcel、GIS等を用いた分析をすること、課題対象地の踏査やヒアリング調査を通して、研究に使える深みのある地域の課題を見出すトレーニングを行う。他の地域での取り組み事例を学修した上で、課題解決のための提案を作成し、内容のよく伝わる発表方法の工夫も学ぶ。取り扱うテーマは、子どもや高齢者が暮らしやすい町、災害に強い町、緑豊かな町、景観に配慮した町、交通の安全性の高い町等である。	

学 科 目	発 展	建築と社会	この授業では、これまでの建築学と住居学の学びの成果を総合し、建築と社会をつなぐ専門家になることをめざして、建築社会学の基礎概念を理解する。さらに建築技術者としての社会的責任を果たすため、建築技術者倫理の学習を通じて各自の職業倫理感を育成する。またデザイン・開発のための情報分析手法、課題解決型学習の手法を理解し、課題解決に向けた各自の意思決定、集団での合意形成手法を学ぶ。これらを通して、各自の生涯におけるキャリアデザインを計画することをめざしている。	
		建築保存再生論	国際的な思考方法を習得しグローバルな視点を確立することを目標とし、文化・芸術、工学・技術などの多面的な観点と複眼的な思考を習得することを目的とする。さらに建築デザインの対象、機能、要素などの知識を習得し理解することを目標とする。近代に大きく変化した建築デザインについて、保存の特徴や問題点を踏まえて現状を評価し、ある思想や背景のもとでデザインされた建築として理解することから、建築デザインに対する洞察力と応用力、表現力を育成することを旨とする。	
		都市史演習	都市は人々の生活文化の総体が空間となって立ち現れたものと言える。都市を構成する建築群および街路などのインフラストラクチャーは、都市が有効に機能するように社会全体の暗黙知によって形成されてきた部分が大きい。したがって都市は、その立地条件やそこで生活する人々の社会文化によって固有の発展を遂げるが、発展段階ごとの普遍的要素も多く見られる。授業では、イタリアおよび日本の歴史都市を中心に、どのような社会背景の中で都市が形成されてきたのか、立地条件や地域の産業との関わりと共に概説する。また、演習として古地図と現代の地図を比較しながら都市構造の変化を分析することで、都市の歴史的コンテクストを読み取ることができるようになることを目標とする。	
		環境・設備演習	グローバルな視点から居住環境向上技術のあるべき姿を理解し、居住環境・生活環境に関わる物理的要素の調整技術の理解力・応用力、その改善方策、新たな生活環境の提案、また合理的に計画・設計するための基礎的知識を得ることを目標とする。最新技術や社会的な状況、業界の現状などにつき、最新の情報を幅広く学習するとともに、各種環境要素の実測や評価を体験することにより、生活環境改善に結びつけていく技術や計画手法を分析出来る能力を養うことを目的とする。建築の環境計画に関する総合的な知識と技術を習得するために、音、光、熱、空気質環境の実態や人の快適性との関係を把握する計測機器に関する知識、測定技術、データの収集法、解析法を習得し、環境の改善計画の提案、資料の作成を行う。	
		絵画デッサン	この授業では、鉛筆による基礎的な幾何形体のデッサンからはじめ、徐々に複雑な形状の観察に移り、その後、実際の建物を周囲の空間とともに写生することで、モノをじっくり観察する眼を養いつつ、それらをデッサンなど平面として表現する技術を身につけるとともに、建築やデザイン、プレゼンテーションに必要なデッサン力、色彩やプロポーション感覚等を習得する。各回の実技課題を重ねていく中で、ひかりとかげ、かたち、構造、空間、プロポーション、遠近法、色彩などの観察と理解を経て、自らの表現の基本を身につけ、暮らしやデザインを考えるにあたって、手を動かしながら観察し考えることの基礎を身につけることを目標とする。	
		建築数学物理基礎	自然科学、情報処理技術を理解するため、また生活環境に関わる問題を論理的に分析できるようになるための数学・物理学の技術を習得する。「かたち」を表わす基本的な関数が、どのように作られたのか、どのように使うのか、どのような場所で使われるのかなど、科学・工学に関係した数理の基本について学ぶ。数学分野としては関数、位相、指数関数、対数関数、微分・積分、統計、物理学分野としては力学、熱力学、電磁気学、光学の基礎、特に建築学に関わる事柄を中心に扱う。	

学 科 目	発 展	建築総合演習	国内の地方や海外を含む具体的な敷地に対して、その立地や歴史、社会的状況をリサーチするとともに、課題を見出し、それを解決するための提案を行う。敷地の分析方法などに関するレクチャーの後、グループに分かれて現地調査を行い、現状の分析と問題点の抽出、それに対する提案についてディスカッションを行う。共同作業の中で協調性やコミュニケーション能力の向上をはかるとともに、教室での座学では得られない住宅・建築・都市の実態に触れながら知見を広めることを目的とする。この科目では、これまでに学んだ専門科目の知識を総合して、社会的な課題に対して適切な提案をすることができるようになること、その成果を論理的に整理・発表し、討論することができるようになることを目標とする。	共同 集中
		コンピュータデザイン III	建築生産に関わる情報技術として、建築物をコンピュータ内で仮想的に構築するBIM (Building Information Modeling) が広く普及してきた。BIM で設計した建物モデルでは2次元/3次元形状だけでなく、部材の数量や特性までも取り扱うことが可能になり、積算や施工、工程管理、コストマネジメントなど、建築生産プロセスの核となる。本科目では、そのBIMの基本を理解することを目的とし、実際にBIMソフトウェアを使いながら基本的概念と建物モデルの作成方法、各種シミュレーションへの展開等、BIMの基本技術を習得することを目標とする。	
		リサーチデザイン	都市・建築を計画するにあたって、その対象について理解するためのリサーチが必要となる。都市・建築はどのようなルールの基に計画されているのか、実際にどのように使われているのか、利用者はどのように評価しているのか、など、目的に応じて異なるリサーチの手法を学ぶことを目的とする。具体的には都市・建築、その使われ方を理解するためのリサーチの方法について、講義と実践を通して身につけ、リサーチで得られた結果を計画にどのようにつなげる事ができるのか実例を通して考察することを目標とする。	
		生活プロダクトデザイン	生活プロダクトの歴史とその意義を学ぶこと、実体験や実習を通してプロダクトと空間との関係性について理解する。生活プロダクトそのもののデザインについて、意味、形と機能、機能と寸法、空間との関係、構造、素材について講義とリサーチおよび実習を通して学んでいく。また、家具や照明など、住空間、建築空間において生活プロダクトを提案する力を習得する。またそのことから、建築空間を構想する力へのフィードバックも得ることができる能力を身につける。	集中
		建築設計スタジオV	一連の設計実習を通して、現代社会における都市居住の多様な様態と、居住環境としての都市空間の現状を自ら洞察する力と、自身の問題意識を明確にした上で、プログラムおよび空間デザインでの提案力、コミュニケーション能力を養うことを目的とする。設計者の資質として求められるバランスのとれた人間性、自立性、協調性、計画力、作業遂行能力、コミュニケーション能力を身につけることを目標とする。文献・事例研究や立地特性調査から、与えられた課題に対する深い理解と独自の解釈、自分自身のテーマを見出し、プログラムを企画・計画する力を身につけること、そのプログラムを建築化する空間構想力とデザイン力を養うことを目標とする。自身の考え方やデザインを他者に伝える、適切で多様な表現力を身につけることを目標とする。	共同

学 科 目 専 門 関 連	フィールドスタディ (農業・農村)	学内で「地域社会と農業」に関する講義と夏期休暇中に実施する農村地域における体験実習を通じて、農業や地域社会に関する理解を深めることを目標とする。また地域の人びととの交流からコミュニケーション能力を高めることを目的として、地域の再生や活性化、環境保全などの課題に対し、創造的、実践的な提案ができるようになることを目標とする。住居分野との関連では、集落の築百年以上の古い農家を住居学的視点から分析できるようになることを目標とする。	集中 併用授業 講義 15 時間 演習 15 時間
	消費生活論 I	消費生活に関わる様々なテーマについて生活者の視点から解明し、その問題点の改善方策やグローバルな視点での生活環境のあり方を考察し、なぜ消費者問題は発生するのか、その対応策はどのようなものであったのか、消費者にはどのような権利があるのか、生産者は何をしなければならないのか等について授業を進める。消費者問題とは何かを理解できること、消費者問題解決のための方策について基礎的な知識を習得すること、消費者としての自分自身の権利と責任について考えることができるようになることを目標とする。	
	まちづくり基礎演習	郊外住宅地の資源と課題を把握し、分析する手法を身につけることを目標とする。そのためにまちを踏査して特色を理解することに加え、様々な形で公開されている既存データの利用法や、地理情報システム等を利用した分析方法も学習し、まちづくりに求められるソフト・ハードが一体となった提案を行う構想力を身につけることを目的とする。様々な意見を互いに調整して、グループで一つのプロジェクトを遂行する力を身につけることを目標とする。	集中
	異分野連携実践演習	地域生活に係わる異分野連携の概要を知り、各立場から問題を抽出し、課題を設定できることを目標とする。ICT を用いつつ、様々な意見を互いに調整して、各チームで取り組みの提案書の作成と実践計画書のプレゼンテーションを行うことができることを目的とする。提案書の内容について、各専攻の立場から実行可能性を相互評価できることを目標とする。取り組みの企画をまとめ、わかりやすく情報発信することができることを目的とする。家政学部食物学科、人間社会学部社会福祉学科・心理学科との学部を超えた学科連携科目である。 (オムニバス方式/全 14 回) (8 葉袋奈美子・15 太田正人/2 回) ガイダンス。実践記録の取りまとめと情報発信のプレゼンテーション、発展的な関連講義と総括 (12 古賀繭子/4 回) 住居や地域の暮らしからの生活への配慮。住居や地域の暮らしからの生活への配慮。解決策の提案の検討 2 : グループでの問題の整理と課題設定。解決策の取り組み方法の検討 1 : 実践に向けての問題の整理と課題設定。取り組みの企画案の実践と検討。 (15 太田正人/1 回) 解決策の取り組み方法の検討 3 : 取り組みの企画案のブラッシュアップと再提案。 (17 松月弘恵/1 回) 食の視点と住居の視点からの生活への配慮。 (34 川崎直樹/1 回) コミュニケーション技術や心の面からの生活への配慮。 (69 黒岩亮子/1 回) 福祉や心の面からの生活への配慮。 (122 岩本佳代子/4 回) 地域社会からの生活への配慮。解決策の提案の検討 1 : シナリオの問題抽出と関連学習。ICT を用いた取り組みの企画案のプレゼンテーション及び講評。解決策の取り組み方法の検討 2 : 取り組みの企画案を実現するための進行表作成。	オムニバス方式 集中 共同

学 科 目 卒 論 ・ 卒 制 関 連	建築住居学演習Ⅰ	卒業論文・卒業制作に向けて、各専門分野を選び、分野ごとの知識を深め、調査、設計、実験などに取り組むための手法や解析に関連した基礎的演習を行う。演習を通して、以下の知識・能力を身につけることを目標とする。①計画的かつ自立的、継続的に作業を進める能力。②生活に関わるテーマの学際的な視点からの理解。③社会・生活環境に関わる問題を論理的に分析できる能力。④住宅・建築・都市に係わる包括的知識。⑤社会・生活環境に係わる問題を解明し、その問題の改善方策や新たな生活環境を提案、デザインできる能力。⑥住生活の向上を促す様々な技術の理解とそれらを活用・実践する基礎的能力。⑦研究成果を論理的に整理・発表し、討論することのできる能力。	
	建築住居学演習Ⅱ	専門分野ごとに、卒業論文・卒業制作に取り組むための具体的研究調査、設計、実験などに取り組むための手法や解析に関連した応用演習を行う。各自の問題意識から卒業論文・制作のテーマを設定し、関連した専門知識をより深く追求するため、ディスカッション形式で授業を進める。演習を通して、以下の知識・能力を身につけることを目標とする。①社会・生活環境に係わる問題を解明し、その問題の改善方策や新たな生活環境を提案、デザインできる能力を養う。②住生活の向上を促す様々な技術の理解とそれらを活用・実践する能力を養う。③研究成果を具体的にイメージすることができるようにする。④論理的に整理・発表し、討論することのできる能力を養う。	
	建築住居学演習Ⅲ	専門分野ごとに、卒業論文の執筆・卒業制作の完成に向けたスキルを養うための具体的演習とブラッシュアップ型の指導を行う。各自の設定したテーマに応じて、研究・制作の目的設定の合理性・エビデンスを基に論理的に説明できる力、学術論文の執筆スキル、プロジェクトのコンセプトを他者に説明するための力、社会への提案ができる発表スキルを養う。各自が他者に説明するためのスキルをつけるため、ディスカッション形式で授業を進める。演習を通して、以下の知識・能力を身につけることを目標とする。 ①論文の構成、研究目的の明確化、論理的思考に基づく研究成果の整理・表現を学ぶ、②論理的に研究成果を整理し、発表する。学術的貢献を討論することのできる能力を養う。③卒業制作に当たりコンセプトを客観的に説明し、社会に説明できるための力を養う。④制作物としての表現力を養い、独創的で、新規性のある提案を具体化する力を養う。	
	卒業論文・卒業制作	建築デザイン学科の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に基づいて、卒業論文あるいは卒業制作を作成し、発表することを目的とする。大学における学修の集大成として、ゼミに所属し、学生自ら広範な住居学・建築学の学問領域から研究課題を設定し、既往研究をふまえて資料の収集、調査、実験、実測等を実施し、得られた結果の分析を行った上で考察を加え、研究課題に対応した結論あるいは提案を導き、論文執筆、作品制作に取り組む。	

学校法人日本女子大学 設置認可等に関わる組織の移行表

	令和5年度 入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和6年度 入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
日本女子大学				日本女子大学				
家政学部				家政学部				
児童学科	97	—	388	児童学科	97	—	388	
食物学科				食物学科				
食物学専攻	31	—	124	食物学専攻	31	—	124	
管理栄養士専攻	50	—	200	管理栄養士専攻	50	—	200	
住居学科				住居学科				
居住環境デザイン専攻	55	—	220	居住環境デザイン専攻	0	—	0	令和6年4月 学生募集停止
建築デザイン専攻	37	—	148	建築デザイン専攻	0	—	0	令和6年4月 学生募集停止
被服学科	92	—	368	被服学科	92	—	368	
家政経済学科	85	—	340	家政経済学科	85	—	340	
文学部				文学部				
日本文学科	134	—	536	日本文学科	126	—	504	定員変更(△8)
英文学科	146	—	584	英文学科	146	—	584	
史学科	97	—	388	史学科	97	—	388	
人間社会学部				人間社会学部				
現代社会学科	97	—	388	現代社会学科	97	—	388	
社会福祉学科	97	—	388	社会福祉学科	97	—	388	
教育学科	97	—	388	教育学科	97	—	388	
心理学科	73	—	292	心理学科	73	—	292	
理学部				理学部				
数物情報科学科	92	—	368	数物情報科学科	92	—	368	
化学生命科学科	97	—	388	化学生命科学科	97	—	388	
国際文化学部				国際文化学部				
国際文化学科	121	—	484	国際文化学科	121	—	484	
				<u>建築デザイン学部</u>				
				<u>建築デザイン学科</u>	100	—	400	学部の設置 (届出)
計	1498	—	5992	計	1498	—	5992	
日本女子大学通信教育課程				日本女子大学通信教育課程				
家政学部				家政学部				
児童学科	1000	—	4000	児童学科	1000	—	4000	
食物学科	1000	—	4000	食物学科	1000	—	4000	
生活芸術学科	1000	—	4000	生活芸術学科	0	—	0	令和6年4月 学生募集停止
計	3000	—	12000	計	2000	—	8000	定員変更

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	收容 定員
日本女子大学大学院			
家政学研究科			
児童学専攻(M)	10	—	20
食物・栄養学専攻(M)	10	—	20
住居学専攻(M)	10	—	20
被服学専攻(M)	10	—	20
生活経済学専攻(M)	8	—	16
人間生活学研究科			
人間発達学専攻(D)	5	—	15
生活環境学専攻(D)	5	—	15
文学研究科			
日本文学専攻(M)	10	—	20
英文学専攻(M)	10	—	20
史学専攻(M)	6	—	12
日本文学専攻(D)	3	—	9
英文学専攻(D)	3	—	9
史学専攻(D)	3	—	9
人間社会研究科			
社会福祉学専攻(M)	10	—	20
教育学専攻(M)	10	—	20
現代社会論専攻(M)	10	—	20
心理学専攻(M)	14	—	28
相関文化論専攻(M)	6	—	12
社会福祉学専攻(D)	3	—	9
教育学専攻(D)	3	—	9
現代社会論専攻(D)	3	—	9
心理学専攻(D)	3	—	9
相関文化論専攻(D)	3	—	9
理学研究科			
数理・物性構造科学専攻(M)	10	—	20
物質・生物機能科学専攻(M)	10	—	20
数理・物性構造科学専攻(D)	3	—	9
物質・生物機能科学専攻(D)	3	—	9
計	184	—	408

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	收容 定員	変更の事由
日本女子大学大学院				
家政学研究科				
児童学専攻(M)	10	—	20	
食物・栄養学専攻(M)	10	—	20	
	0	—	0	令和6年4月 学生募集停止
被服学専攻(M)	10	—	20	
生活経済学専攻(M)	8	—	16	
人間生活学研究科				
人間発達学専攻(D)	5	—	15	
生活環境学専攻(D)	5	—	15	
文学研究科				
日本文学専攻(M)	10	—	20	
英文学専攻(M)	10	—	20	
史学専攻(M)	6	—	12	
日本文学専攻(D)	3	—	9	
英文学専攻(D)	3	—	9	
史学専攻(D)	3	—	9	
人間社会研究科				
社会福祉学専攻(M)	10	—	20	
教育学専攻(M)	10	—	20	
現代社会論専攻(M)	10	—	20	
心理学専攻(M)	14	—	28	
相関文化論専攻(M)	6	—	12	
社会福祉学専攻(D)	3	—	9	
教育学専攻(D)	3	—	9	
現代社会論専攻(D)	3	—	9	
心理学専攻(D)	3	—	9	
相関文化論専攻(D)	3	—	9	
理学研究科				
数理・物性構造科学専攻(M)	10	—	20	
物質・生物機能科学専攻(M)	10	—	20	
数理・物性構造科学専攻(D)	3	—	9	
物質・生物機能科学専攻(D)	3	—	9	
<u>建築デザイン研究科</u>				
<u>建築デザイン専攻(M)</u>	<u>20</u>	—	<u>40</u>	研究科の設置 (届出)
計	<u>194</u>	—	<u>428</u>	定員変更

日本女子大学 建築デザイン学部

設置の趣旨等を記載した書類

令和5(2023)年4月

【目次】

第1	設置の趣旨及び必要性	3
1.	日本女子大学の沿革	
2.	建築デザイン学部建築デザイン学科設置等の経緯	
3.	建築デザイン学部建築デザイン学科設置の趣旨及び必要性	
4.	養成する人材像、教育上の目的	
5.	組織として研究対象とする中心的な学問分野	
第2	学部・学科の特色	8
第3	学部・学科等の名称及び学位の名称	11
第4	教育課程の編成の考え方及び特色	11
1.	教育課程編成の基本方針	
2.	教育課程及び科目区分の編成	
3.	教育課程の特徴	
第5	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	17
1.	教育方法	
2.	履修指導方法	
3.	卒業要件	
4.	履修モデル	
第6	多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画	21

第 7	企業実習（インターンシップを含む）を実施する場合の具体的 計画	22
第 8	取得可能な資格	23
第 9	入学者選抜の概要	24
第 10	教員組織の編成の考え方及び特色	28
	1. 教員組織編成の考え方	
	2. 教員組織の特色と教員配置	
	3. 教員組織の年齢構成	
第 11	研究の実施についての考え方、体制、取組	29
第 12	施設、設備等の整備計画	30
第 13	管理運営及び事務組織	34
	1. 管理運営体制の概要	
	2. 教授会	
	3. 学内委員会等	
第 14	自己点検・評価	37
第 15	情報の公表	39
第 16	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	45
第 17	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	47

第 1 設置の趣旨及び必要性

1. 日本女子大学の沿革

本学は、我が国で初めての女子の高等教育機関として 1901(明治 34)年に「日本女子大学校」として創設され、1948(昭和 23)年の学制改革により「日本女子大学」と名称を改めて発足した。現在は家政学部、文学部、人間社会学部、理学部、国際文化学部の 5 学部 15 学科及び 5 研究科 18 専攻を擁する、国内の私立女子大学では有数の総合大学である。

創立者・成瀬仁蔵は、「女子を先ず人として、第二に婦人として、第三に国民として、教育する。この順序を間違えてはならない」と記した。これは、本学における建学の精神であり、性別による差別なく、個性と特性を踏まえて、積極的に社会に関わる女性を育成しようとするもので、現在も本学に受け継がれている。

2. 建築デザイン学部建築デザイン学科設置等の経緯

2021(令和 3)年に創立 120 周年を迎えるにあたり、「Vision120～創立 120 周年に向けて～」【資料 1】を発表し、「創立者成瀬仁蔵の建学の精神を継承し、発展させるとともに、社会を支え、国際社会をリードする人材を育成するために教育改革を進める」とする方針を示した。家政学部住居学科を発展的に改組する建築デザイン学部建築デザイン学科の開設は、「女性の活躍を支援するキャリア教育」の目的に叶うものである。

なお、我が国の男女共同参画の現状は、諸外国に比べて立ち遅れていることから、2022(令和 4)年 6 月 3 日、「女性活躍・男女共同参画の重点方針 2022(女性版骨太の方針 2022)」【資料 2】が閣議決定された。例えば「女子は文系」といった固定的な性別役割分担意識・無意識の思い込みの解消につながる教育の促進が目的とされている。ここでは理工系や農学系女子学生を対象とした新たな給付型奨学金や授業料等減免の制度が創設された。さらに女子割合の少ない分野の大学入学者選抜における女子学生枠の確保等に積極的に取り組む大学等に対し、運営費交付金や私学助成による支援強化がうたわれ、科学技術・学術分野における男女共同参画を進めることが、重点的に取り組むべき事項

とされている。家政と工学の複合分野である建築デザイン学部建築デザイン学科の開設は、理工系女子を増やすことに資するものと考えている。

また 2022（令和 4）年 6 月 7 日、「経済財政運営と改革の基本方針 2022 新しい資本主義へ（骨太方針 2022）」【資料 3】が経済財政諮問会議での答申を経て、閣議決定された。ここでは「質の高い教育の実現」として、「あらゆる分野の知見を総合的に活用し社会課題への的確な対応を図る『総合知』の創出・活用を目指し、専門性を大事にしつつも、文理横断的な大学入学者選抜や学びへの転換を進め、文系・理系の枠を超えた人材育成を加速する。」ことが示されている。建築デザイン学部建築デザイン学科では、人文、理工、芸術を融合した総合学問を学び修めることが目的とされるため、我が国の、社会の要請に沿うものといえる。

3. 建築デザイン学部建築デザイン学科設置の趣旨及び必要性

（1）日本女子大学における建築教育の沿革

日本女子大学は、1901（明治 34）年、女子に高等教育は有害無益であると考えられていた時代に、日本で最初の女性のための高等教育機関である「日本女子大学校」として設立された。創立者の成瀬仁蔵は、「人として、婦人として、国民としての教育」という教育方針を掲げ、「人間」教育を女子教育の第一においた。日本女子大学校には、家政学部・国文学部・英文学部を設置し、「（家政学は）一家の家政をとるにあたって必要なる総合科学であるから、その組成分子を総合した時に始めて成り立つ学」とし、家政学部には、当初より、「衣、食、住、女礼、社交など」の科目を設けている。「住教育」も積極的に位置づけ、衣・食とともに、「生活者」の立場からの総合学習を行っていた。加えて、創立者成瀬は、家政学部の使命として、経済の自由を得ること、すなわち女性が職業を持つことを説いていたが、当時の社会意識もあり、職業教育に結びつくまでには至らなかった。それでも、1921（大正 10）年には建築学の田辺淳吉を招き、専門的な建築教育を始め、その後、佐藤功一（建築教育）、今和次郎（形態美学）、佐藤武夫（住居概論・住居設計）、吉阪隆正（住居学・住居計画）など、教育内容を充実させながら、終戦を迎える。

1945（昭和 20）年に「女子教育刷新要綱」が発表され、1948（昭和

23) 年に新制日本女子大学が発足した。家政学部生活芸術科に住居学専攻が設置され、本学の住居学教育が本格的にスタートする。1956(昭和31)年には、本学卒業後2年の実務経験で「二級建築士」の受験資格が得られることとなり、女性建築士の活躍が本格化する。生活芸術科の1回生には女性建築家の草分け林雅子(女性初の日本建築学会賞、エイボン芸術賞など受賞)、2回生には小川信子(本学名誉教授、日本建築学会教育大賞受賞)が活躍している。

1962(昭和37)年には、生活芸術学科から住居学科が分離独立した。工学にかかわるカリキュラムの充実に努め、1966(昭和41)年には、「一級建築士」において卒業後3年間の実務経験で受験資格が得られることとなった。この1962年入学の小谷部育子は、本学の建築設計教育を指導する。1978年(昭和62)年には、大学院修士課程を設置し、世界的にも著名な建築家である妹島和世、本学学長で建築家の篠原聡子を輩出している。さらに、1990(平成2)年には博士後期課程を設置し、多くの博士号取得者が誕生し、住居・建築分野の教育・研究者として活躍している。

1996(平成8)年に、他大学の工学部建築学科と同等の教育を行うことで、卒業後2年間の実務経験で「一級建築士」の受験資格が得られる建築学コースを設置した。その後、2003(平成15)年からは、全ての学生が卒業後2年間の実務経験で「一級建築士」の受験資格が得られることとなり、以後、実質的に工学部との同等性を担保している。

(2) 建築デザイン学部(建築デザイン学科)設置の趣旨と必要性

今日の日本において、女性が職業を持ち、社会に貢献していく意義は極めて大きい。特に本学の卒業生は、生活する当事者としての見識と高い職業意識を持ち、日々勉学に励んでいる【資料4】。これまで培ってきた住居を基礎とする住まい手の視点から生活環境を創造する独自の姿勢を大切にし、家政学と工学の複合領域として展開することで、学生それぞれの感受性や発想を生かしながら、自己の専門能力を発揮し、大いに社会に貢献するものと考えている。また、昨今、企業における専門教育を修めた女性の採用意欲も高く、今後の職域の広がりにも期待が持てる。今、本学に建築デザイン学部を開設することは、女性の社会進出に大きな役割を果たす。

① 女性建築士の活躍を促進する。【資料5】【資料6】

現在、一級建築士の世代構成は、60歳以上が4割と高齢化が進んでおり、建築物の安全性の確保等において重要な役割を担う建築士人材の確保が懸念されている。従来、建築分野は男性社会との認識が強く、建築士会の会員約7万1千人のうち女性比率は9%と低い。また、建築学会の一般会員3万4千人のうち女性会員16%で、6人に一人である。しかしながら、建築学会の学生会員は約1千1百人のうち33%が女性であり、また、一級建築士合格者のうち女性が占める割合は3割と高くなっている。建築を専攻する女性が確実に増えており、現在では、女性が活躍できる職種として認知され、期待されている。

2021（令和3）年の一級建築士の合格率は9.9%であるが、本学出身の合格者は24名を数え、現住居学科の定員91名の26%相当と多くの合格者を数えている。受験者年齢はまちまちであり、一級建築士を受験しない学生も存在するので、直接比較はできないが、若手建築士不足が懸念される建築分野にあって、貴重な女性建築士人材の供給実績を誇っていると見える。建築デザイン学部の新設により、更に優秀な人材を育成することができる。

② 理工系を専攻する女性の増加に資する。【資料7】

日本では、建築分野に留まらず、理工系分野で広く活躍する女性の増加が期待されている。教育未来創造会議の第一次提言（2022年5月）にも、「今後特に重視する人材育成の視点」として、「現在女子学生の割合が特に少ない理工系の産学官が目指すべき人材育成の大きな絵姿を提示し、中でも、理工などの分野の学問を専攻する女性の増加」が掲げられている。また、経済産業省の調査（平成30年）を紹介し、「5年後技術者が不足すると予想される分野」として、「建築構造、設備」「建築計画、設計、デザイン、住居」が上位にランクされていることを示している。建築分野は、女性の業種としても、今後、一層重要な分野となり、建築デザイン学部の開設は、これからの人材育成に大きく寄与できると確信している。

③ 脱炭素社会の実現を図る人材を供給する。【資料8】

2021（令和3）年10月に、日本は2050年脱炭素を宣言し、2030年度温室効果ガス46%排出削減（2013年度比）を目指している。この実現には、日本のエネルギー消費量の約3割を占める建築物分野における取組が急務である。温室効果ガスの吸収源対策の強化を図る上でも、

日本の木材需要の約4割を占める建築物分野におけるきめ細やかな取組が求められている。

建築分野では、2025（令和7）年度までに、現在省エネルギー基準適合義務の対象外である住宅及び小規模建築物に対しても同基準への適合を義務化するとともに、2030年度以降新築される住宅・建築物について、ZEH（Net Zero Energy House）・ZEB（Net Zero Energy Building）基準の水準の省エネルギー性能の確保を目指すこととしている。

教育未来創造会議の第一次提言においても、「グリーン人材の不足」に対して、「グリーン（脱炭素化など）の成長分野をけん引する高度専門人材の育成」を求めている。

本学の卒業生は、従来から、住まい手の立場から、地域の気候風土を理解し、住宅及び小規模建築物を得意とし、貴重なグリーン人材として活躍しているが、新設する建築デザイン学部は、技術力を持つ高度人材の育成する機関として、この重要なテーマに取り組んでいく。

4. 養成する人材像、教育上の目的

建築デザイン学部・建築デザイン学科では、住居学及び建築学の視点から住居から都市までの生活環境を総合的に理解し、住生活を包含する豊かな環境をデザインできる専門性の高い人材の養成を目的とする。具体的には国内外の生活環境を歴史、地域、芸術、技術、持続可能性、その他社会的課題などの側面から論理的に理解することができ、その知見に基づいて豊かな生活環境を創造性と表現力を持ってデザインすることができる人材を育成する。そのため、以下の能力の習得を学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）とする。

DP1 住居、建築、地域、都市に関する専門知識を有し、広い視野、グローバルな視点から生活環境を理解し、考察することができる。

DP2 住居、建築、地域、都市を論理的に分析し、デザインするために必要な知識・技能を持ち、多様な人の立場から生活環境に関わる課題を理解し、その課題解決に向けた豊かな生活環境を創造性を持ってデザインすることができる。

DP3 自然科学・情報処理技術の知識や方法も用いながら、学修、研究、設計を行うことができ、その成果や提案を論理的に説明・発表し、討論することができる。

DP4 自立的、継続的、計画的に、かつ協調性を持って作業を遂行することができる。

これらディプロマ・ポリシーを達成するための教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）及び入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）については「第4 教育課程の編成の考え方及び特色（p.11）」及び「第8 入学者選抜の概要（p.23）」で後述するが、その関係については【資料9】に示す通りである。

5. 組織として研究対象とする中心的な学問分野

建築デザイン学部・建築デザイン学科が研究対象とする中心的な学問分野は、人間の根源的営みから導かれた「住居学」とその思想に立脚した「建築学」であり、具体的には「建築デザイン」分野とそれに関連する「住生活」、「建築計画」、「都市・地域計画」、「建築史・都市史」、「建築構造・構法」、「建築環境・設備」等となっている。

第2 学部・学科の特色

建築デザイン学部は、中央教育審議会の答申『我が国の高等教育の将来像』の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえ、同答申に示された主要な7つの機能、「1. 世界的研究・教育拠点」、「2. 高度専門職業人養成」、「3. 幅広い職業人養成」、「4. 総合的教養教育」、「5. 特定の専門的分野の教育・研究」、「6. 地域の生涯学習機会の拠点」、「7. 社会貢献機能」の中でも、特に、「**2. 高度専門職業人養成**」、「**3. 幅広い職業人養成**」、「**5. 特定の専門的分野の教育・研究**」、「**7. 社会貢献機能**」の機能に重点を置いている。住まい手、利用者といった需要者の立場から、居住・建築環境の質の向上を目指す家政学と工学の複合分野としての特色を説明する。これまでの人材育成の成果として【資料10】に、卒業生の就職先マップ図を示した。

教育の全体的な特色は、基礎科目群の中にある専門分野の導入的科目では、建築デザイン学部の中核をなす6分野（生活系、計画系、歴史系、構造・構法系、環境・設備系、及び建築デザイン）の基礎的知識を初年次から網羅的に学び、建築デザイン学の全体像を把握するととも

に、共通言語を身につける。3年次にはまちづくりや建物の保存再生、構造デザインなどに関する専門性の高い実践的な演習科目を、将来を見据えて自由に選択することができるようになっている。

「**2. 高度専門職業人養成**」については、1年生から住居・建築の専門分野の講義科目および設計製図、設計スタジオなどの演習・実習科目が設定されている。建築デザイン系の演習・実習科目には、専任教員全員がかかわり、教育の中核に置かれている。積み上げによって、学年ごとに設計課題の規模も内容も高度になり、着実に技術力、デザイン力が養われる。学期末には、1年生から大学院生までのヴァーティカルレビューを実施し、連続的な発展を核にする。建築デザイン分野以外は、生活系、計画系、歴史系、構造・構法系、環境・設備系それぞれの科目群で構成され、共通必修の基礎科目から、その後、各専門性を高めるため応用、発展科目へと順次理解を深め、専門的な技術力を養う。工学女子が求められる中、一級建築士不足の問題も上がっていることから、建築分野における高い技能を持った人材育成を行なっていく。第7では取得可能な国家資格を明記しているように、「二級建築士、木造建築士」は、実務経験無しで卒業により受験資格を取得できる。「一級建築士」、「一級建築施工管理技士」、「二級建築施工管理技士」、「建築設備士」については卒業後の実務経験が必要となるが卒業による受験資格が得られることも特徴である。大学院教育との一貫性も図りながら、建築に携わる専門職業人材の養成のための教育を充実する。

専門性の高い教育を受けた成果として、設計事務所、ゼネコン、ハウスメーカーなどの設計部門、また建築の技術者として、構造、設備、施工部門に、さらに、都道府県や各基礎自治体の建築技術職の公務員として公共建築・まちづくりに携わることを期待している。

「**3. 幅広い職業人養成**」については、これまでの家政学部住居学科の卒業生の進路先は、多岐にわたっている。その継承、すなわち建築分野における「2. 高度専門職業人養成」は大きなミッションであるが、同時に、建築分野の職種は裾野が広く、不動産、管理、電気・ガスなどのインフラ関係などを進路とする人材の養成も行なっていく。学科科目は建築デザイン系、生活系、計画系、歴史系、構造・構法系、環境・設備系それぞれの科目群で構成され、共通必修の基礎科目から応用科目（選択必修）、発展科目（選択）へと学生の興味関心に応じて段階的に専門性を確立できるカリキュラム設計となっており、多様性がある。

「2. 高度専門職業人養成」ともかかわりを持っており、建築資格取得も同様の要件である。建築の基本的な素養を学ぶことが前提であり、家政と工学の複合分野として、生活・芸術・技術のバランスのよい学びを展開できる。日本の少子高齢化、人口減少時代に対応した子ども・子育て世帯、高齢者の住居環境整備やグローバル化、持続可能な社会の課題解決に資する広くまちづくりに対応した人材育成に力を入れている点が特色である。アートデザイナー、コミュニティーデザイナーといった新たに分野を広げる可能性を秘めており、建築デザイン学部の教育を通して、そのデザイン力、技術力、データサイエンスなどの基本的な力を養い、広い分野で活躍できる人材育成ができると考えている。

「5. 特定の専門的分野の教育・研究」については、最終学年に集大成となる卒業論文又は卒業制作を必修とし、大学院との連携も視野にいたした教育・研究体制の構築を目指している。これまでも、3年からのゼミ指導を通して、卒論、制作共に高い質の成果品が提出され、設計作品の中には、JIA（日本建築家協会）など建築団体が企画する賞を受賞したり、卒論においても、日本建築学会などの卒論賞を受賞したりと、社会からの評価も得ている。応用・発展科目、演習科目の充実により、今後は一層、専門分野の高い成果が期待できる。例えば、3年次にはまちづくりや建物の保存再生、構造デザインなどに関する専門性の高い実践的な演習科目が準備されている。

また、大学院への進学も推奨している。現状、大学院への入学者も増加傾向にあり、常に定員を超える勢いである。新学部・学科では、学部・大学院も合わせて、専門的分野の教育・研究に力をいれていく。

「7. 社会貢献機能」について、各教員の専門性を活かして、企業や国・自治体との共同研究や寄付授業など、産官学連携を積極的に実施している。特に、本学には社会連携教育センターが設置され、バックアップ体制も完備していることから、地域の課題解決、自然災害などの被災地域の災害復興など教育・研究を通して、社会貢献に寄与することも特色である。学部学科を越えた地域課題に関する連携プログラムも興味深い取り組みである。また、必修科目の「建築専門英語」に加えて、選択科目の「建築総合演習」では「国際ハウジングワークショップ」への参加や、「ヨーロッパ住宅・建築・都市研修」等、演習的要素を組み込んだ試みもあり、国際交流も期待できる。

第3 学部・学科等の名称及び学位の名称

1. 学部・学科の名称

【学部名称】	建築デザイン学部 Faculty of Architecture and Design
【学科名称】	建築デザイン学科 Department of Architecture and Design

建築デザイン学部は建築デザイン学科1学科で構成される学部であり、その学問分野・領域は建築デザイン系、生活系、計画系、歴史系、構造・構法系、環境・設備系などである。その分野・領域の中では「建築デザイン」が他の分野・領域を総合化し、建築・都市利用者や居住者の立場から考え、生活環境を提案する中心的役割を担っている。

故に、学部・学科名称は建築デザイン学部、建築デザイン学科とし、英語名称は国際的な通用性を考慮し、建築デザイン学部：Faculty of Architecture and Design、建築デザイン学科：Department of Architecture and Design とする。

2. 学位の名称

学位名称については、組織として研究対象とする学問分野をより具体的に反映させるために、本学では学科の名称と連動させている。従って学位の名称は「学士(建築デザイン)」、英語名称は”Bachelor of Architecture and Design”とする。

第4 教育課程の編成の考え方及び特色

1. 教育課程編成の基本方針

(1) 教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)

建築デザイン学部建築デザイン学科の教育課程は大きく2つに分けることができる。第一の科目群は、本学学生が学部学科を問わず履修する科目・科目群で、「教養特別講義」「JWU キャリア科目・JWU 社会

連携科目」「基礎科目（必修英語）」「基礎科目（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）」「基礎科目（情報処理）」「基礎科目（身体運動）」「教養科目」から構成され、それぞれ以下の目的をもって開講されている。

- ・教養特別講義：本学の教育理念と建学の精神を理解し、自らの生き方や将来について主体的に考察を深め、自分らしい目標を立て、その目標の実現のために学び、行動していく能力を身につける。
- ・JWU キャリア科目、JWU 社会連携科目：社会的にも職業的にも自立して生きるために必要な知識、技能、態度を身につけ、社会課題に取り組むための基礎的な知識と技術を修得し、多様な人々と協働する能力を身につける。
- ・基礎科目（必修英語）：英語を読む力、書く力を向上させ、さらに、必要な情報を収集して、英語によるプレゼンテーションをする能力を身につける。また、英語という言語の背景にある文化・社会に対する理解を深め、その理解に基づいて英語によるコミュニケーションする能力を身につける。
- ・基礎科目（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）：ドイツ語、フランス語、中国語または韓国語の基本的な文法を理解し、状況に応じた基本的なコミュニケーションをとる能力を身につける。また、ドイツ語、フランス語、中国語または韓国語の文化的背景に対する理解を深める。
- ・基礎科目（情報処理）：情報科学、情報処理に関する基礎的な知識をもち、それを活用した情報の整理、分析、可視化、表現ができ、情報倫理に基づいた判断ができる能力を身につける。
- ・基礎科目（身体運動）：生涯の健康維持・増進における身体運動の重要性の理解を深め、他の人と協力しながら、スポーツを楽しむことができる。
- ・教養科目：専門にとらわれない幅広い知識を身につけ、専門以外の分野への関心を高める。また、豊かな人生を生きるために必要な聞く力および自立する意欲を身につける。

第二の科目群は、建築デザイン学部建築デザイン学科の学生が履修する「学科科目」である。この科目群は学部・学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を卒業時に達成できるように、以下の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき編成されている。

- CP1：建築デザインに関する専門的な知識・技能を習得するため、建築デザイン、生活、計画、歴史、構造・構法、環境・設備の各分野において講義、演習、実習科目を開講する。
- CP2：建築海外研修や海外の大学等とのワークショップなど、国際性を養う授業科目を開講する。
- CP3：習得した知識を総合し、住居・建築、地域、都市に関わる具体的な課題に対する分析力、課題に対して創造的かつ効果的な解決策を提案（デザイン）し、表現する能力、及び論理的に説明・発表し、討論する能力を養成する実践的な演習科目を開講する。
- CP4：情報処理技術等を活用した設計手法、分析・解析手法の習得を目的とした講義、演習科目を開講する。
- CP5：自立的、継続的、計画的に、かつ協調性を持って作業を遂行する能力を養うため実験、演習、設計実習科目を開講する。

ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー（及びアドミッション・ポリシー）の関係は【資料9】に示す通りである。

なお、講義科目の学修成果は試験や課題レポートにより、演習科目、実験科目の学修成果は課題レポート、ゼミ等における発表やディスカッションなどで評価する。また、建築デザインに係わる実習科目や設計実習科目の学修成果は提出された課題作品とその説明・発表、ディスカッション等で評価する。

各科目の具体的な到達目標および評価方法はシラバスに記載する。

学科科目は建築デザイン系、生活系、計画系、歴史系、構造・構法系、環境・設備系それぞれの科目群で構成され、共通必修の「基礎」科目から「応用」科目（選択必修）、「発展」科目（選択）へと学生の適正に応じて段階的に専門性を確立できるカリキュラム設計となっている。

「基礎」科目群の中にある専門分野の導入的科目では、建築デザイン学部の中核をなす6分野の基礎的知識を初年次から網羅的に学び、建築デザイン学の全体像を把握するとともに、共通言語を身につける。3年次にはまちづくりや建物の保存再生、構造デザインなどに関する専門性の高い実践的な演習科目を、将来を見据えて自由に選択することができるようになっている。

(2) 学科科目「基礎」、「応用」、「発展」の教育課程編成【資料 11】

①「基礎」(必修)

建築デザインに関わる各分野領域の「基礎」科目を必修として開講する。特に学科の根幹をなす専門分野については、その導入的な科目 10 科目(住居計画、建築計画、日本住居史、西洋住居史、住居構造、バリアフリーデザイン論、空間デザイン概論、住居環境、住環境計画、生活環境安全論)を2年前期までに開講し、学習意欲が高い入学直後から専門分野の学びに触れることによって、当該分野に対する関心と探究心の意識付けを行う。

「設計製図Ⅰ・Ⅱ」「建築設計スタジオⅠ・Ⅱ」を全分野の知見を統合し建築空間として創造提案する基幹科目と位置づけ、1年次から開講するとともに、段階履修として知識と技能の定着を図る。

構造・構法系および環境・設備系科目については、(文系受験入学者が一定数いることにも鑑み)段階的な理解が不可欠なため、基礎的な必修科目ではあるが、3年次までかけて着実に修得するよう開講時期を段階的に設定している。

②「応用」科目(選択必修)

各専門分野の基礎知識の上に更に高度な授業・演習を行う「応用」科目を2年次以降に順次開講する。

「応用」科目については、専門性を高めつつも関連分野への共通理解も同時に深め、学習する分野の偏重を避けるため、開講する32単位中の14単位以上の取得を卒業の必須要件としている。

また、基礎的な空間デザイン力を養成する「形とデザインⅠ・Ⅱ」および「力と形」のように、一部「基礎」科目と同時並行的に履修することで補完的な効果が期待できる科目については、1年次に開講する。

③「発展」科目(選択)

学生が自らの進路と専門性を見据えて選択的に履修する「発展」科目を、原則として3年次に開講する。

「発展」科目は、卒業論文・卒業制作のゼミナールである建築住居学演習につながる実践的な専門科目9科目(地域施設計画論、都市デザイン演習、福祉環境演習、建築と社会、建築保存再生論、都市史演習、構造デザイン演習、環境・設備演習、建築設計スタジオⅣ)と、建築デザインに関わるより広範な分野に触れるその他の科目群に大別することができる。

また、文系科目入学者に対する数学・物理の補習的科目として「建築

数学物理基礎」を、観察力と絵画的描画表現力を補強する科目として「絵画デッサン」をそれぞれ1年次に開講する。

2. 教育課程及び科目区分の編成

(1) 科目区分と開講年次の考え方

原則として基礎的な専門知識を修得する「基礎科目」を初年次から開講し、全学で開講されている教養科目・語学等と並行して専門的な学びを行うことで、学生が常に広い社会的視野の中で建築デザインを位置づけられるように意識している。また「応用科目」を2年次から開講し、建築・住環境に関する専門家として必要な知識と技能を修得する。「基礎科目」および「応用科目」の履修によって、卒業と同時に一級建築士受験資格を満たすカリキュラム構成になっている。

3年次以降は、「発展科目」の多彩な科目から自身の関心と技能に応じた科目を選択し、段階的に専門性を高めながら進路を絞り込むようにカリキュラム設計している。3年後期からは研究室に所属して分野領域に特化した演習を行い、卒業論文・制作に向けた研究に取り組む。

更に、分野横断的な学修の機会として他学部と連携した「専門関連科目」を開講しており、これらの科目は学生の興味・関心に応じて1・2年次から随時履修することができる。

(2) 学科科目の科目区分

① 基礎科目（必修）26科目 52単位

主要な専門分野の基礎知識を修得するための科目と建築デザイン学の基礎として広く修得すべき各分野の必修科目群。

② 応用科目（選択必修）16科目 32単位

基礎科目から段階的に修得すべき専門科目群。高い専門性と同時に広い視野を保つために幅広く履修する選択必修科目群となっており14単位以上の取得が義務付けられている。一部は、初年次の基礎科目を補完する科目で構成されている。

③ 発展科目（選択）16科目 34単位

卒業研究のテーマも視野に専門性を極める実践的な「演習科目」と建築デザインに関わるより広範な分野に触れて視野を広げる科目からなる選択科目群。また、学生の入学時の素養に応じた補習的科目を含む。

④ 専門関連科目（選択） 4科目 8単位

他学部他学科との連携を図る分野横断的科目群。

⑤ 卒論・卒制関連科目（必修） 4科目 10単位

「発展科目」とオーバーラップしながら、専門性を追求し学びの集大成として卒業論文・制作へとつなげるゼミナール形式の科目群。

3. 教育課程の特徴

① 段階的な専門知識と技能の修得

専門科目は分野ごとの基礎・応用・発展の3段階の構成となっており、講義主体の「基礎科目」から演習主体の「発展科目」へと展開する教育課程となっている。デザイン設計系の実習科目は学年を通じて開講されており、建築デザインに関する専門知識と技能の段階的な習得を可能としている。

② デザイン・設計教育を根幹としたカリキュラム

建築空間の質と居住環境の向上を高い次元で実現する「建築デザイン」を一つの学問領域とする本学部では、住居から都市空間までの広範な建築専門分野の理解とそれらを統合するデザイン教育をカリキュラムの根幹としている。

そのために、すべての分野における基礎的な技術として製図法を学ぶ「設計製図」および空間的表現力を修得する「形とデザイン」などの専門科目を初年次から開講し、建築デザインの基礎から段階的に学ぶことができる。2年次以降の「建築設計スタジオ」では、小規模な集合住宅から地域施設、地区計画へと徐々に規模を大きくしながら、地域的・社会的課題に関わる建築デザインを提案する力を養う。

また、「建築設計スタジオ」ではグループ設計の課題を通して、互いに協調しながら計画的に作業を遂行する能力を育む。

③ 高い専門性を有する人材の育成

学生自身の個性と適性に応じて能力を伸ばし専門性を高めるために「発展科目」から自由に科目選択をすることができ、まちづくりや建物の保存再生、構造デザインなど専門性の高い実践的な演習科目ではグループワークやプレゼンテーションの機会も多く、コミュニケーション能力の向上が図れるだけでなく、学生自らが課題を見出し、調査・研究し解決を提案する能力が養成される。

④ 国際的に活躍できる人材の育成

全学必修の英語科目に加えて「建築専門英語」(必修)を履修することで、海外でも専門的なコミュニケーションが可能な力を育むとともに、海外の大学等と連携したワークショップ(「建築総合演習」で単位化)を積極的に展開して国際的にも活躍できるヴァイタリティを養成する。

第5 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1. 教育方法

(1) 授業方法

建築デザイン学部では、学年を前期・後期に分け、原則として各期で授業を完結させる。ただし、「フィールドスタディ(農業・農村)」、「卒業論文・卒業制作」に関してはこの限りではない。

(2) 履修登録

建築デザイン学部では、十分な学修時間の確保と、学修内容の質の維持を図るため、1年間に履修する授業科目の登録単位数に上限を設ける。年間履修登録単位数の上限は49単位とする。

(3) 配当年次の設定

1年次では建築デザイン学部での学びの基礎やアウトプットの方法について学修し、学年が上がるにつれ学生個人の興味に合った発展的な内容の学修が可能となり、卒業研究に結びつくように工夫されている。特定の学年や学期において偏りのある履修登録がなされないように、各学年に教員アドバイザーとして2名の専任教員を配置し、履修指導を行う。

2. 履修指導方法

(1) 履修ガイダンスの実施

履修に関する学生の理解を深めるために、新入生に対しては入学時にオリエンテーション及び履修ガイダンスを行う。オリエンテーショ

ンでは大学で学ぶためのカリキュラム構成等の全体説明を行い、履修ガイダンスでは、本学の『履修の手引き』に基づき受講・履修指導を行う。上級生もアドバイザーとして参加し、新入生の理解が深められるよう工夫する。また新入生に対してだけではなく、各学年の年度当初において履修指導を行い、担当教員が必要に応じて個別指導や助言を与える。各学年に教員アドバイザーを配置し、教員ごとにオフィスアワーも設定しており、年間を通じて学生が教員に相談が可能なシステムが構築されている。

なお、本学では、学生へ円滑に情報を伝達するため学生情報システム JASMINE-Navi を整備している。学生は、学内外を問わずインターネットを利用してシステムにアクセスすることができ、履修登録のほか、時間割、シラバス、成績状況などの照会が可能である。

(2) シラバスの作成

当該年度中に開講されるすべての授業について、授業の概要、授業の方法、授業の到達目標、授業計画、成績評価の方法、使用テキスト、参考書などを記載したシラバスを作成し、学生が主体的に学修できるようにする。シラバスは、JASMINE-Navi で閲覧可能である。

(3) GPA 制度の導入

建築デザイン学部では、GPA 制度を導入している。GPA は、個別の履修指導の資料や、各種推薦の選定資料として利用する。

(4) オフィスアワーの設置

学生が授業についての質問や進路、悩み事など学生生活全般にわたって相談ができる時間帯を、教員ごとに週 1 回 100 分設定する。

3. 卒業要件

建築デザイン学部の卒業要件は、4 年以上在学し、「教養特別講義」1 単位、JWU キャリア科目・JWU 社会連携科目から選択必修 2 単位、基礎科目の外国語から必修英語 8 単位、情報処理から必修 2 単位、身体運動から選択必修 2 単位、教養科目系列 A・B・C それぞれから選択必修 4 単位計 12 単位、学科科目の基礎から必修 52 単位、応用・発展・専門関連から選択 36 単位（ただし応用から 14 単位以上）、卒論・卒制

関連から必修 10 単位計 98 単位、合計 125 単位以上を修得することとする。

＜表：建築デザイン学部卒業要件＞

教養特別講義		1	
JWU キャリア科目・JWU 社会連携科目		2	
外国語		8	
基礎科目	情報処理	2	
	身体運動	2	
教養科目		12	
学科科目	必修	基礎	52
		卒論・卒制関連	10
	選択	応用 発展 専門 関連（ただし応用 から 14 単位以上）	36
合計		125	

4. 履修モデル

「第1 設置の趣旨及び必要性」で示した養成する人材像、教育上の特性に基づいて、学修のモデルを4種類示す。これらの履修モデルを入学時のオリエンテーションや履修ガイダンス、及びその後の履修指導で提示することで、学生が大学での学びと将来設計を結びつけながら、履修計画を立てることができるよう配慮する。卒業後の進路ごとに想定している履修モデルは【資料 12】～【資料 16】のとおりである。

【設計系】

建築設計の仕事に積極的に取り組みたい学生向けの履修モデル【資料 12】である。設計系の科目を4年次まで履修し続けると同時に、「インテリアデザイン演習」、「コンピュータデザインⅡ」等を履修することで、様々なスケール、視点からの建築設計の仕事に携わることのできる人材を育成できる。

卒業後は、アトリエ系設計事務所やゼネコンの設計部、またハウスメーカーでの住宅設計等に取り組むことを意識した学生向けである。

【環境工学系】

設備・建築環境を整える仕事や、取り組みたい学生向けの履修モデル【資料 13】である。応用科目群では、「建築構法」「建築設備Ⅱ」を履修し、発展科目群からは、「環境・設備演習」の履修の他、「構造デザイン演習」にも取り組み、建築のエンジニアとして活躍できる人材の育成に繋がる。ユーザー視点での教育を大切にする本学科において、ホームエコノミストの視点での学びが活かされる分野でもある。

卒業後は、ゼネコンの設備設計部門や、ハウスメーカーでの環境配慮住宅の構築に携わる人材の育成となる。SDGsの重要性が謳われる現代社会において、居住者・ユーザーの快適性に基づく建築のマネジメントにおいて要となる人材として活躍する。

【構造デザイン系】

構造デザインを学び、仕事に就きたい学生の履修モデル【資料 14】ある。応用科目群では、「建築工法」「建築設備Ⅱ」を履修し、発展科目群からは「構造デザイン演習」を履修することで、構造デザインの技術者として活躍できる人材の育成となる。近年は、構造計算をするだけでなく、構造の知識を生かした建物の設計に、設計事務所とともに係り、構造デザイン家として活躍する人が増えている。そういった人材の育成につながる。

卒業後は、構造デザイン事務所や、ゼネコン、ハウスメーカーなどで活躍する人材となる。

【建築文化（保存再生）系】

歴史・意匠についての知見を深める履修モデル【資料 15】である。応用科目群からは、「日本建築史」「西洋建築史」を履修するほか、発展科目群では「都市史演習」「建築保存再生論」を履修し、「建築総合演習」に積極的に参加をし、様々な地域の建築文化の学びを深める分野である。

卒業後は、建築文化財保存の専門家として大学院に進学をして専門的な学びを深めた後に、専門的な研究所、博物館施設、行政職員として文化財保存に携わる人もいる。また建物のリノベーション等を積極的に行う設計事務所等で、得られた知見・技能を発揮することもできる。

【まちづくり系】

地域づくり、まちづくりに関心のある学生向けの履修モデル【資料16】である。応用科目群からは「福祉環境論」「都市計画」「ランドスケープデザイン」を履修し、発展科目群では「地域施設計画論」「福祉環境演習」「都市デザイン演習」を履修する。

卒業後は、公共施設の設計に携わる設計事務所、行政職員、都市再開発に携わるディベロパー、まちづくりコンサルタントで、地域づくり、まちづくりに、生活者の視点から携わる専門家となる。

第6 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

学則第20条(4)で「本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項に規定する講義、演習、実験、実習又は実技による授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。」と規定している。

コロナ禍において、対面授業のみによる授業運営が困難になったことから、本学では対面授業とともにメディアを利用した遠隔授業を併用し、教育効果の維持向上に努めている。講義を中心とした教養科目では、受講生の利便性やニーズを考慮し、多様なメディアを高度に利用した遠隔授業を開講している。学科専門科目では、本学設備を使用する実習・演習や教育目的に基づく直接的な指導を重視する立場から、対面を原則としている。

本学では、メディアセンターを中心に、遠隔授業を可能とする体制や設備の整備を進めている。Microsoft社の「Microsoft365」包括ライセンス契約により、学生はMicrosoft 365 Appsを利用できる。また、LMSとして「manaba」を導入しており、レポートの提出、テスト・アンケートの回答、資料の閲覧等、学内・自宅を問わずインターネット環境があれば利用可能である。同時双方向型の遠隔授業では「Microsoft Teams」とともに「Zoom」を使用するが、Zoom社との包括契約により、教職員と学生は有償版を利用できる。さらに、授業の配信と学生の受講環境のために、学内のWi-Fi環境の整備が進められ、教室はもちろん、研究室、図書館、体育館、成瀬記念講堂、学生サロン、クラブスペースまで利用可能な場所が拡大されている。学内には学生が利用できるPC

が多数設置されている。コンピュータ演習室に計 263 台のほか、就職資料室や図書館の PC も利用できる。学生は、学外から本学図書館が提供する大学契約の電子ジャーナル等も利用可能である。メディアセンターではノート PC をはじめヘッドセットなどの機器貸出をしており、教職員や学生へのトラブル対応や技術的支援を随時行っている。

以上により、本学の遠隔指導では対面授業と同程度の教育効果を得られる環境を十分に整備していると考えている。

第 7 企業実習（インターンシップを含む）を実施する場合の具体的計画

建築デザイン学部建築デザイン学科のカリキュラムにおいては、企業実習としてのインターンシップを JWU キャリア科目の「インターンシップ I・II」として単位認定することがある。同科目の実習受入先は【資料 17】のとおりである。

（1）ねらい

将来の自己のキャリアデザイン設計に向けて、職業観を育て、自己の適性や可能性をさぐるきっかけとなるような質の高い就業体験となるインターンシップを行う。

（2）実施概要

事前指導、インターンシップを経て、自らの体験をプレゼンテーションとしてまとめ発表し、他参加者と共有することで、経験を深め、自己のキャリアビジョンを明確にする。

①事前指導

事前に、実務実習を行うための指導を以下の通り実施する。

- ・事前指導①インターンシップの理念・目的、履修登録について（1 時間）
- ・事前指導②インターンシップを通してキャリアについて考える（2 時間）
- ・事前指導③ビジネスマナー（2 時間）
- ・事前指導④直前指導（1 時間 30 分）

②インターンシップ

原則として夏季休暇中に実施する。1日7時間労働として換算し、5日間～9日間の実習期間については1単位、10日間以上の実習期間については2単位を付与する。

③事後指導

参加報告会（2時間）を行い、インターンシップ先からの報告・評価書と併せて成績評価を行う。

（3）到達目標

①実社会に触れることで、自己管理能力や計画性などの重要さの認識を得る。監督者の指示下、あるいは共同作業の中で、協調性やコミュニケーション能力の向上をはかる。

②研究成果を論理的に整理・発表し、討論することのできる能力を身につける。

第8 取得可能な資格

建築デザイン学部建築デザイン学科において取得可能な資格（新学科の開設に合わせて課程認定申請予定のものを含む）とその取得条件等は以下のとおりである。

【建築デザイン学部で取得可能な資格】

資格の名称	資格取得の条件等	国家資格	民間資格
一級建築士	建築士の受験資格に係わる所定科目、所定単位を卒業要件として設定しており、卒業すれば、免許登録要件である実務経験2年の受験資格が取得可能。	○	
二級建築士、 木造建築士	建築士の受験資格に係わる所定科目、所定単位を卒業要件として設定しており、卒業すれば、免許登録要件である実務経験0年の受験資格が取得可能。	○	

一級建築施工管理技士、 二級建築施工管理技士	一級は卒業後3年以上の実務経験、二級は卒業後1年以上の実務経験で受験資格を取得可能。	○	
建築設備士	卒業後2年以上の実務経験で受験資格取得可能。	○	
インテリアプランナー	登録資格取得可能。卒業することで、試験合格と共に必要な実務経験を免除。		○
博物館学芸員	所定の単位を修得することにより資格が得られる	○	

第9 入学者選抜の概要

(1) アドミッション・ポリシー

建築デザイン学部建築デザイン学科では前述（第1 設置の趣旨及び必要性（p.3）、第4 教育課程の編成の考え方及び特色（p.13））において述べたとおり、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを設定し、それを踏まえ以下に示すアドミッション・ポリシーを設定している。

【知識・技能】

AP1：高等学校までに学んだ諸科目（外国語（英語）、国語、数学、理科）を通して、住居学、建築学に関わる諸要素を科学的／論理的に理解し、考えるために必要な基礎学力を有している人

【思考力・判断力・表現力等】

AP2：住居・建築、地域、都市における様々な課題に対して、自分自身の意見や考えを積極的に表現することができる人

【主体的に学習に取り組む態度】

AP3：住居・建築、地域、都市に関わる専門的知識や技能を身につけること、及び居住者・利用者の立場から生活しやすい居住環境の提案や建築、都市のデザインを自立的、継続的、計画的、かつ他者

と協力して取り組む意欲を有している人

なお、アドミッション・ポリシーとディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの関係は【資料9】に示す通りである。

(2) 入学者選抜の方法

建築デザイン学部建築デザイン学科は、文部科学省通知「大学入学者選抜実施要項」に基づき、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定するため、以下の入学者選抜を行う。

① 一般選抜 個別選抜型（3教科型、2教科型）

アドミッション・ポリシーに示した「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」をバランスよく評価するが、特に AP1 の定着度を重視し、建築デザインを学ぶ基礎となる必須教科として、外国語（英語）、国語、数学、理科（物理）の基礎的な知識・技能を評価するため、本学独自の学力試験を課す。標準となる3教科型試験では、外国語（英語）を必須科目、国語・数学・理科（物理）から2教科を選択する。判定は各教科を100点満点としての合計得点とする。3教科型の募集人員は36名とする。

アドミッション・ポリシーに示した「住居学・建築学に関わる諸要素を科学的／論理的に理解し、考えるための基礎学力を有している」受験生を、2教科型の試験でも受け入れる。2教科型の入試では、外国語（英語）を必須科目、国語・数学・理科（物理）から1教科を選択する。判定は各教科を100点満点としての合計得点とする。2教科型の募集人員は18名とする。

② 一般選抜 英語外部試験利用型

アドミッション・ポリシーに示した「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」をバランスよく評価するが、特に AP1 の定着度を重視し、本選抜では外国語（英語）の「聞く（listening）」、「読む（reading）」、「話す（speaking）」、「書く（writing）」の4つの技能の定着度に重きを置き、英語外部試験で一定のスコアを満たしていることを出願資格とする。数学、国語、理科（物理）から2教科を選択し、本学独自の学力試験を課す。判定は2教科の合計得点（200点）とし、本学の定める加点基準以上のスコア

を有している者は、2教科の合計得点に加点する。募集人員は5名とする。

③ 大学入学共通テスト利用型（前期）（後期）

アドミッション・ポリシーに示した「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」をバランスよく評価するが、特に AP1 の定着度を重視し、既設の家政学部住居学科で行っていた2専攻別募集で培った文系・理系科目受験者の科目選択動向を基に、理系科目中心となる科目構成を基本としつつも、理系・文系のボーダを越えて建築デザイン学科に幅広く挑戦できるよう、必要な教科を幅広く設置し、選択可能な形をめざした。大学入学共通テストの出題教科から、外国語（英語）を必須として、国語、地理歴史及び公民、数学、理科から2教科2科目を選択する。ただし、2教科のうち1教科は数学または理科を含めることとしている。外国語（英語）配点は200点、外国語（英語）以外の科目の配点は100点を200点に換算して2科目400点、合計600点として、合否を判定する。

後期については建築デザインを学ぶために評価する基本的科目3科目を用いて、外国語（英語）、数学、理科の3教科から2教科2科目を選択するものとし、1科目200点、合計400点として合否を判定する。

募集時期を2期に分け、前期の募集人員は6名、後期の募集人員も6名とする。後期の出願者も例年多く、学科での学びでもよい学びをする学生が存在することからの措置である。

④ 総合型選抜

アドミッション・ポリシーに示した「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」をバランスよく評価するが、特に AP2、及び「思考力・判断力・表現力」AP3、「主体的に学習に取り組む態度」AP4 を重視し、その能力を測るため、建築に関わる空間・形状の表現力（描写力）とその状況や構成意図を説明する文章力、及び口頭試問による言語化および表現力を総合的に評価する。また、調査書や志望理由書の提出を課すとともに、高校での建築デザインにつながる学びの成果、これから学びたい動機についても口頭試問で確認・評価する。募集人員は6名とする。

⑤ 学校推薦型選抜

学校推薦型選抜は、指定校制、附属高等学校推薦がある。どちらも、アドミッション・ポリシーに示した「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」をバランスよく評価するが、特に「思考力・判断力・表現力」AP2、及び「主体的に学習に取り組む態度」AP3を重視する。指定校制は、本学への入学を強く希望し、勉学に明確な目的と意欲を持つ学業・人物ともに優秀な生徒を広く全国から募ることを目的とし、高等学校長の推薦に基づき、書類審査、学力試験（小論文）、口述試験等を用いて合否を判定する。調査書の学習成績の状況が本学の定める水準以上であることを出願資格としており、高等学校の教育課程を踏まえた一定の学力水準を担保している。

附属高等学校推薦は、本学の一貫教育の理念に共感して本学への入学を強く希望する者を対象とし、高等学校長の推薦に基づき、書類審査、面接等を用いて合否を判定する。一定の成績の基準を満たした者を学校長が推薦することにより、相応の学力水準の担保を図っている。

指定校制の募集人員は6名、附属高等学校推薦の募集人員は17名とする。

⑥ 外国人留学生入学試験

多様な学習環境を経験した入学者を受け入れるべく、外国で教育を受けた日本国籍を有しない者を対象とした入学試験を実施している。具体的な学歴要件は、外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者としている。また、TOEFL又はTOEICのスコアを有していること、独立行政法人日本学生支援機構が実施する日本留学試験（指定科目：日本語、数学（コース2））を受験していることを出願の要件としている。日本語の能力については日本国際教育支援協会（旧日本国際教育協会）が実施する「日本語能力試験」の1級又はレベルN1の認定結果及び成績に関する証明書、もしくは日本語学校等で発行された出席状況や「読む・書く・話す・聞く」能力の進捗（能力）が項目別に記載された日本語能力証明書の提出を義務付けるとともに、日本留学試験において日本語を指定科目として課すことにより確認している。また、出願にあたっては志望理由や在学中の資金計

画・経費支弁者を記載する様式の提出を義務付け、入学志願者が真に修学を目的とし、その目的を達するための十分な意欲・適性等を有しているか確認している。選抜方法は、オンラインでの口述試験としている。募集人員は若干名とする。

(3) 入学者選抜の実施体制

学長のもとに入学試験協議会を置き、入学者選抜の全学的な方針の策定、入学試験の全般的な実務の調整及び実施にあたっている。

合格者の決定は、入学試験協議会のもとに置かれる入試査定部会で審議ののち、教授会（2024（令和6）年度入試については基礎となる住居学科が置かれている家政学部教授会）の議を経て、学長が行う。

一般選抜（個別選抜型及び英語外部試験利用型）の入試問題作成及び採点業務については、入学試験協議会のもとに置かれる出題採点部会において各科目の出題責任者、出題者、採点者等を選定し、学長が委嘱する。出題及び採点にあたっては、予め定められた手順に則り業務を行うことにより、ミスの防止及び公平性・公正性の確保に努めている。

第10 教員組織の編成の考え方及び特色

1. 教員組織編成の考え方

建築デザイン学部の教員組織は、教育課程の方針から主要な分野の授業科目内容、授業科目数や単位数に応じ、各科目の教育内容に関して教育上、研究上そして実務上の優れた知識、能力及び実績や資格を有する専任教員を配置する。住居学（家政学）及び建築学（工学）の視点から住生活を包含する豊かな環境をデザインできる人材の育成に必要な専門家を充実させる。具体的には、建築デザイン系、生活系、歴史系、構造・構法系、環境・設備系、各分野に対応するため多彩な専門家で教員組織を編成する。

2. 教員組織の特色と教員配置

専任教員の配置計画は、既設の家政学部住居学科から11人（教授9人、助教2人）を移動する。既設の家政学部住居学科から1名（教授）

が定年退職となるため、1名（准教授）を新規採用する。12人の専任教員を配置することで教育や研究水準の向上や活性化、工学分野の強化、時代の変化に対応可能な教員組織としている。

建築デザイン学部は、現家政学部住居学科の教員を中心に家政、工学の複合領域として学部化する。学問分野は、「住居学」・「建築学」であり、建築デザイン系、生活系、計画系、歴史系、構造・構法系、環境・設備系を専門とする専任教員が、それぞれの専門分野の教育・研究を担う。これらの分野は住居学及び建築学を視点とした教育・研究を担う分野であり、教授、准教授及び助教が主導する研究室を中心に教育・研究を行う。研究室を行き来できる環境を整え、共同研究を行うことにより、各研究分野を横断しつつ、広範な分野を包含する建築デザイン学部としての研究活動ができる体制となっている。

3. 教員組織の年齢構成

年齢構成としては、完成年度の2028（令和10）年3月31日時点で40代1人、50代6人、60代5人から構成する。完成年度までに68歳の定年を迎える専任教員が2人いる。本学の「特任教員規定」【資料18】第3条第3項により完成年度までに定年を迎える専任教員については、学部運営や担当科目の継続性を確保するために、当該の教員を2028（令和10）年まで特任教授として任用することとなる。その後、退職する専任教員の補充計画については、学生の教育・研究に支障がないように早期に公募を実施し、後任を決定するとともに、教員組織の強化と充実を継続的に計る。

第11 研究の実施についての考え方、体制、取組

本学は4つの科学系統（人間生活科学系・人文科学系・社会科学系・自然科学系）を持つ総合大学として研究活動を展開している。文理融合の研究の推進により新たな研究分野を創成し、学術資源の発信と研究拠点としての機能強化を図ることを推進している。

また、女子高等教育機関として、地域社会と連携して研究を推進し、その研究成果を社会に還元すべく体制を整えている。

研究環境・研究支援体制の整備としては、近年、公的研究費の適正執行のための管理体制を強化している。また、国内外の産学官連携研究活動等に関する利益相反を適切に管理する体制を構築した。

日本女子大学の建学の精神に基づき日本女子大学固有の研究の推進を図るとともに、日本女子大学を拠点とする学際的共同研究・調査を推進し、大学院、学部、附属校・園の研究及び教育の充実、発展に寄与することを目的として設置された総合研究所では、研究課題を公募し、学部・附属校園横断的な構成員による研究が推進されている。

また、研究・教育活動における一層の充実をはかり、対外的競争力をもつけるための重点的な資金援助をする特別重点化資金制度を設け、対外的競争力や外部的資金導入につながる研究・教育プロジェクトへの支援、研究・教育の充実につながる機器・備品の購入、研究成果を出版するための支援、学内活性化につながる研究・教育の補助等を対象として資金を配分している。

第 1 2 施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

建築デザイン学部が設置される目白キャンパスは、東京都文京区目白台にある校地面積 46,167.91 m²（内運動場用地 3,900 m²）を有する都市型キャンパスである。キャンパスの正門を抜けると芝生、樹木に彩られた憩いの場である「泉プロムナード」があり、都会の中で緑を感じられる「目白の森」として整備されている。2021（令和 3）年に新たに加わった百二十年館は地下 1 階・地上 3 階建てで、中央に光が差し込む大きな吹き抜けの中庭「パティオ」を有し、全面ガラス張りである外観と相まって透明感のある空間となっている。1 F にピロティ、B 1 F に「パティオ」と開放感のある憩いの場が連続して配置されている。

目白キャンパスには運動施設として体育館 2 棟、テニスコート（4 面）、ゴルフ練習場を有し、体育館内にボルダリングウォール、トレーニングジムを整備し、体育の授業等を行っている。目白キャンパスから約 60 分で移動が可能な神奈川県川崎市にある西生田キャンパスは校地面積 191,559.85 m²（内運動場用地 48,636.52 m²）を有しており、グラウンド、体育館があり、主に部活動等に利用している。

以上により大学全体では、総面積 264,682.57 m²（内基準内 237,727.76 m²）の校地を有している。

（２）校舎等施設の整備計画

今回、目白キャンパスでは、家政学部住居学科の募集を停止し、建築デザイン学部を設置する。これに伴い入学定員を 92 人から 100 人とし 8 人増となり、収容定員は 368 人から 400 人とし 32 人増となる。

また、文学部日本文学科で入学定員を 8 人減に移行する。よって、建築デザイン学部の設置に伴う大学全体の入学定員、収容定員の増減はない。現状、現行収容定員の学生に対して教室数、実験実習設備は充足していて、教育に支障をきたすようなことはなく、施設・設備の利用に際して同等の質を担保することが可能である【資料 19】。

大学全体としては、現在、講義室 87 室、演習室 24 室、実験・実習室 175 室、情報処理学習施設 10 室が設置されており、既設学部との共用を基本としながらも十分な教室が整備されている。また、研究室 205 室、学長室、会議室、事務室、図書館、医務室、学生自習室、体育館、クラブスペース、学生ラウンジ、講堂、食堂、書店、売店等が整備されており、教育研究や学生生活に必要なことはキャンパス内でまかなえるようになっている。

百年館には建築デザイン学部設置に伴い、必要な専任教員の研究室 11 室（教授 9 名、准教授 1 名は個室、助教 2 名は共同）、百年館、樟溪館、構造・材料強度試験室に建築デザイン学部専用として実験実習室 11 室を有している。

主体的な学修等を促す空間として、百二十年館に「JWU ラーニング・コモンズかえで」、図書館に「JWU ラーニング・コモンズさくら」を整備している。「JWU ラーニング・コモンズかえで」は、可動機やホワイトボード、スクリーンやプロジェクターを備え、学生の様々な学びのために自由に利用可能なスペースとしている。また、国際化に向けた授業外の語学学修や学生が学外の産学官組織や地域社会等と連携を取りながら、自主活動を推進するスペースとしても活用されている。図書館の「JWU ラーニング・コモンズさくら」は、授業に必要な情報の収集やレポート作成、グループディスカッション等の授業外学修を可能とし、施設の面からも学修効果の向上を図っている。また、講義室は可動機・イスの設置や視聴覚設備の標準化、全館無線 LAN 設備の整備を順次進め、アクティブ・ラーニング教室の設置とともに、ICT を用いた様々な

授業形態に対応できるものとし、教育研究環境を以前より向上させている。

体育の授業では、2018（平成 30）年に新たな体育館（第二体育館）と既存体育館（第一体育館）を隣接併存させ、同時に 5 つの授業に対応可能な施設となっている。

食堂は七十年館 1、2 階に用意され、2021（令和 3）年に建設された杏彩館、2018（平成 30）年に目白通りをはさんで建設された青蘭館とともに食事、休息その他の利用のための空間も用意されている。また、食堂と学生滞在スペースを一体的に使えるように座席の数を増やし、混雑時は食堂として、通常時には学生が授業前後の学修や課外活動などのために自由に滞在できる場所として提供することとしている。

事務スペースにおいても、学生対応スペースを集約させ事務機能を効率良くまとめることで、学生サービス向上を図るとともに、大学施設全体として緩勾配のスロープや階段、ゆとりある通路幅の確保、多目的トイレの設置等により、障がい者、トランスジェンダーの人でも使い易い空間となるよう、建物のバリアフリー化を進めている。

（3）図書等の資料及び図書館の整備計画

① 図書館の規模、機能等

本学図書館は目白キャンパスの図書館、西生田キャンパスの西生田保存書庫からなる。2021（令和 3）年 4 月のキャンパス統合以降、西生田キャンパスの図書館は 43 万冊収容可能な保存書庫として運用されており、西生田に所蔵する資料は目白に取り寄せて利用できる。週 5 回の移送が行われている。

目白キャンパスの図書館は、創立 120 周年記念事業の一環として、2019（令和元）年 4 月に開館した。地上 4 階地下 1 階、収容可能冊数 70 万冊、延床面積 6,607.48 m²で、館内に約 200 m²からなるラーニング・コモンズ（JWU ラーニング・コモンズさくら）を備え、百二十年館に設置された「JWU ラーニング・コモンズかえで」とともに、様々なスタイルでの学修環境を提供している。「JWU ラーニング・コモンズさくら」には、専攻から推薦を受けた大学院生（一部学部生）のラーニング・サポーターが常駐し、レポート・論文の書き方やアンケート調査の方法、プレゼンテーション資料の作り方等、学修相談に対応している。全館で Wi-Fi が利用可能で、各フロアに固定の PC を設置している他、ノート PC38 台の貸出も行っている。

旧図書館からの基本方針である全開架式を踏襲し、全ての学生が自由に書架に出入りし、直接資料にアプローチできるのが特徴である。授業のある期間の月～金は8:45～21:00、夏期スクーリング期間は8:45～20:00、土曜日は通年で8:45～18:00に開館している。2021（令和3）年度、2022（令和4）年度の開館日数は年間272日である。

② 資料

2022（令和4）年3月末時点の蔵書数は約91万冊（研究室配架資料を含む）。雑誌は約20,000タイトル（うち外国誌が3,700タイトル）を所蔵している。

図書館で所蔵している図書のうち、建築工学、建築学、都市問題、住生活史等に関する図書数は、2022（令和4）年8月1日現在約13,500冊、うち洋書が約800冊である。

また、建築デザイン学部研究室に所蔵する図書は約13,700冊、うち洋書が約2,500冊、購読している雑誌で継続中のタイトルは48タイトル、うち10タイトルは洋雑誌である（【資料20、21】参照）。

選書については、専門的な知識を有する職員が選書基準に沿って選書を行うほか、教員の推薦や学生からの購入希望を受け付けている。また年1回、各学科から選出された教員による専門分野の蔵書構成の確認を実施している。

③ オンラインデータベース、電子ジャーナル、電子書籍等

オンラインデータベースとしては、ProQuest Central、Scopus、Magazine plus、ざっさくプラス、JapanKnowledge、J-DreamⅢ、日本建築学会論文検索システム、D1-Law等を提供し、建築デザイン学部とも関連の深い幅広いジャンルをカバーしている。（【資料22】参照）

電子ジャーナルは3万タイトル以上が閲覧可能で、リンクリゾルバを導入し、論文の入手を容易にしている。JSTOR、SpringerLinkの他、日経、朝日、読売、日本教育新聞、New York Times、The Times等主要新聞の記事データベースも利用できる。（【資料23】参照）

2020（令和2）年からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、自宅から利用できる電子書籍の購入を積極的に進めた。現在、専門書を中心とするMaruzen eBook Library（1,309タイトル）、軽読書、入門書を中心とするLibrariE（147タイトル）のほか、ルーラル電子図書館、Springer eBook Collectionなどが利用できる。

これらの電子資料のほとんどについては、VPNを利用して学内の施設はもとより学外からアクセスすることができる。

また、自分専用の文献管理ファイルを作成するシステムであるRefWorksを導入しており、学術情報の収集と管理、共有に役立てることができる。

④ 閲覧席

図書館内に650席の閲覧席を備えており、学生数・教職員数に対し十分に確保されている。エントランス階である2階には「JWUラーニング・commonsさくら」があり、可動式の56席、固定の12席、学修相談用の6席の合計74席でアクティブ・ラーニングに対応している。

⑤ 他大学図書館等との協力

国立国会図書館及び他大学図書館との相互協力（図書の貸借、文献複写の依頼・受付、来館利用）を実施している。国立国会図書館デジタルコレクションの図書館向け資料送信サービスには2014（平成26）年10月から参加し、絶版等で入手が困難な資料の利用を可能としている。2022（令和4）年10月には国立国会図書館「歴史的音源」配信提供サービスにも参加を開始した。

また、近隣の3大学（学習院大学、お茶の水女子大学、跡見学園女子大学）と相互利用協定を結んでおり、学生証・教職員証の提示による相互利用が可能である。

第13 管理運営及び事務組織

1. 管理運営体制及び事務組織の概要

学長のリーダーシップのもと、大学執行部の方針に基づく改革の遂行と迅速な意思決定の推進を目的に、2021（令和3）年度より新たに大学執行部会議を設置し、大学改革運営会議をその諮問機関として位置づけた。また、2020（令和2）年度まで教授会の下に設置されていた各委員会についても見直しを行い、2021（令和3）年度より大学執行部会議の下にセンターを置き、その下に各委員会を設置するという、新体制での運用を行っている（「2022年度の体制」【資料24】参照）。

事務組織は、大学及び法人関係の各事務を 11 の事務局で構成しており、理事長、学長及び常務理事を補佐する事務局長が事務部門全体を統轄している。特に教育研究実施や厚生補導に関わる組織として、学務部、学生生活部、図書館事務部を置いている。また、これらの業務遂行のための支援等は、法人企画部、教学企画部、総務部、財務部、管理部、入学部等が担っている（「学校法人日本女子大学組織図」【資料 25】参照）。

2. 教授会

建築デザイン学部では、「日本女子大学学則」第 15 条に基づき、教授会を設置している。教授会は、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、学長等の求めに応じて意見を述べることができる。また、教授会は、次の事項について学長が決定を行うにあたり意見を述べる。

- (1) 学生の入学、卒業に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 前二号に掲げる事項のほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

なお、上記(3)に記載した、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるものは、次のとおりである。

- (1) 学部長の選任に関する事項及び教授会が必要と認める委員会の委員の選任に関する事項。
- (2) 学科長の選任に関する事項
- (3) 教員人事に関する事項
- (4) 名誉教授に関する事項
- (5) 客員研究員及び学術研究員に関する事項
- (6) 学則その他の規則の制定、改廃に関する事項
- (7) 研究教育の予算に関する事項
- (8) 教員の研修、研究助成に関する事項
- (9) 教育課程に関する事項
- (10) 学生の休学、復学、転学科、留学、転学及び退学に関する事項
- (11) 科目等履修生、研究生、特別聴講学生、交流学生、委託研修員、交換留学生及び短期留学生に関する事項
- (12) 定期試験に関する事項

- (13) 学生の厚生及び指導に関する事項
- (14) 学生の賞罰に関する事項
- (15) その他教育研究に関する重要事項

教授会は、当該学部の専任の教授、准教授、講師を構成員とし、原則として月1回の定例教授会の他、必要に応じ臨時教授会を開催する。学部長は教授会を招集し、その議長となる。教授会は、構成員の3分の2以上の出席によって成立する。決議は、原則として出席構成員の過半数によって成立し、重要と認める事項の決議は、出席構成員の3分の2以上によって成立する。

3. 学内委員会等

2021（令和3）年度のキャンパス統合に伴い、全学共通科目を担う基盤教育の運営体制について大幅な見直しを行った。

大学を取り巻く、変化の激しい社会情勢に柔軟に対応し、学長を中心とした執行部の意向に迅速に対応できる体制であること、科目運営に対する責任体制を明確化することを目指し、教授会の下に設置されていた委員会を廃止し、2021（令和3）年度より設置された大学執行部会議の下に基盤教育センター、社会連携教育センター、学生支援センター、国際交流センターを置き、その下に委員会を設置することにした（下表参照）。こうして、執行部の方針を踏まえ、全学的な視野に立った委員会運営を行う体制を整備した。各委員会のメンバーは主として教授会構成員から成っている。

基盤教育センター	自校教育委員会（教養特別講義）
	外国語委員会（英語・初修外国語）
	情報処理委員会
	身体運動委員会
	教養教育委員会
	教職課程委員会
	資格教育課程委員会

社会連携教育センター	キャリア委員会
	社会連携教育委員会
学生支援センター	奨学委員会
	学生委員会
	学寮委員会
国際交流センター	国際交流委員会

4. 事務組織

教育研究実施のための事務組織として、学務部に研究支援課、学修支援課、社会連携室を設置している。学務部の部長は教員が務めるが、補佐として事務職員の事務部長が置かれ、教員と事務職員との連携及び協働の体制が取られている。また、図書館には図書館事務部が置かれ、教員の館長と事務職員の部長のもとで運営されている。

厚生補導のための事務組織として、学生生活部に学生支援課、ダイバーシティ推進室、キャリア支援課、国際交流課、カウンセリングセンター事務室、保健管理センター事務室が置かれている。学生生活部の部長も教員が務めており、学務部と同様、事務職員の事務部長が業務の補佐にあたっている。

心身の健康に関する指導及び援助等を行う法人附属機関には、カウンセリングセンター及び保健管理センターを設けている。いずれも教員が所長を務め、事務職員が事務室の課長として連携及び協働を図っている。

上述の組織の円滑かつ効果的な業務の遂行のための支援や、大学運営に係る企画立案、その他大学の運営に必要な業務を行うために、法人企画部の学園企画課、広報課、教学企画部の教学企画課、大学再編準備室、総務部の総務課、人事課、財務部の経理課、検収室、管理部の施設課、システム課、入学部の入試課などが置かれている。

第 1 4 自己点検・評価

本学では、日本女子大学学則第 2 条に「教育研究水準の向上を図り、

教育研究活動等の状況について、不断の自己点検及び評価を行う」ことを定めるとともに、恒常的・継続的に教育の質の保証及び向上に取り組むため、「日本女子大学における内部質保証の方針」【資料 26】を制定している。

（１）自己点検・評価の基本方針

「日本女子大学における内部質保証の方針」では、高等教育機関として社会の負託に応えるため、日本女子大学の建学の精神、教育理念「三綱領」及び理念・目的の実現に向けて、教育、研究、社会貢献の質の向上を図るとともに、適切な水準にあることを自らの責任で明示・公表する内部質保証の取り組みを恒常的・継続的に推進することを基本方針として定めている。

（２）実施体制

実施体制は、「日本女子大学自己点検・評価規則」に基づき、全学的な自己点検・評価の体制を整備している（「日本女子大学 自己点検・評価体制」【資料 27】参照）。具体的には、内部質保証推進組織として自己点検・評価委員会を置き、それを統括するための自己点検・評価委員会幹事会と点検・評価を行うための部門を設置している。

幹事会は、自己点検・評価の基本方針、実施基準及び評価指標の策定、各部門から報告された点検・評価の結果の検証、自己点検・評価報告書の作成及び報告、認証評価及び外部評価の実施に関する事項、その他幹事会が必要と認める事項を決定する。

各部門（教学部門、教育研究等環境部門、入試部門、学生部門、社会連携部門、大学運営・財政部門、教職課程部門の 7 部門）は、基本方針と実施基準に基づき、該当委員会及び部局の自己点検・評価結果を検証し、幹事会に報告する。各部門の構成員のうち 1 名を部門長とし、幹事会の構成員としている

（３）実施方法

大学執行部会議が内部質保証について大学全体のプランニング（事業計画）の責任を負う。事業計画に基づき、大学改革運営会議、常任理事会が各部局等へ実行指示を行う。該当委員会及び部局は、それぞれの計画に基づき実行する。自己点検・評価委員会の 7 つの部門は、部門ごとに点検・報告を行う。自己点検・評価委員会幹事会は、部門からの報

告を基に最終点検を行う。自己点検・評価委員会は、部門ごとの点検結果を全学的観点から検証し、その結果を反映した報告書を学長へ上程する。上程された報告書を基に、大学執行部会議は次の事業計画を策定する。

2018（平成30）年度からは、自己点検・評価委員会の下に近隣自治体及び産業界等の委員を構成員とする外部評価委員会を設置し、第三者評価を具体的な教育の質改善方策の検討につなげている。

（4）評価項目

「日本女子大学自己点検・評価規則」第3条に、点検・評価項目は、大学・学部（通信教育課程を含む）・大学院等の理念・目的、内部質保証、教育研究組織、教育課程・学修成果、学生の受け入れ、教員・教員組織、学生支援、教育研究等環境、社会連携・社会貢献、大学運営・財務、その他の項目を基準とし、その細目については、自己点検・評価委員会の示す基本方針及び実施基準等に基づくと定めている。

（5）結果の活用及び公表

自己点検・評価を基に2019（令和元）年度に公益財団法人大学基準協会による第3期の認証評価を受審し、2005（平成17）年度（第1期）、2012（平成24）年度（第2期）に引き続き「大学基準に適合していると認定する」との評価を受けた。

認証評価の受審後、教学マネジメントを推進する組織とそれに対する点検・評価機関という体制を機能的に確立するには、従来の内部質保証組織をさらに整理することが検討課題であると認識し、内部質保証体制見直しワーキンググループを設置して、自己点検・評価体制の見直しを行った。

なお、本学の自己点検・評価並びに大学基準協会による第3期の認証評価の受審結果は、大学のホームページにおいて公表している。

第15 情報の公表

本学では、学校教育法施行規則等の一部を改正する省令（2011（平成23）年4月1日施行）に基づき、高等教育機関として、教育研究等の状況について社会に対する説明責任を果たすため、教育研究活動等の状

況について積極的に公開している。

(1) 実施方法

学校教育法施行規則第 172 条の 2 に定める教育研究活動等の状況に関する情報については、大学ホームページの「トップページ＞大学案内＞情報の公開」のページを中心に公表している。

(2) 公表項目

公開している情報は以下のとおりである。

(<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/index.html>)

① 大学の教育研究上の目的及び第 165 条の 2 第 1 項の規定により定める方針に関すること

【大学】

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/mokuteki_unv_2023.pdf

【大学院】

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/mokuteki_grd_2023.pdf

② 教育研究上の基本組織に関すること

【大学】

<https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/index.html>

【大学院】

<https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/index.html>

③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

・ 組織図

<https://www.jwu.ac.jp/grp/about/organization.html>

・ 教員数・専任教員非常勤教員比率

<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/kyouinsuu.pdf>

・ 大学専任教員職階別男女比率

<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j->

[att/danjobetsu.pdf](#)

- ・ 大学専任教員年齢別構成

<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/nenreibetsukousei.pdf>

- ・ 専任教員一人あたりの在籍学生数

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/students_per_teacher.pdf

- ・ 学術データベース

https://www3.jwu.ac.jp/research/research-database/research-database_main.htm

- ・ [Researchmap](#) 検索

https://researchmap.jp/researchers?institution_code=2244*

- ・ 科学研究費助成事業－科研費獲得状況

<https://www.jwu.ac.jp/unv/education-research/kakenhi/index.html>

④ 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

- ・ 過年度入試結果データ

【大学】 <https://www.jwu.ac.jp/unv/admission/exam/data.html>

【大学院】 <https://www.jwu.ac.jp/unv/admission/grd/result.html>

- ・ 入学者推移

【大学】 <https://www.jwu.ac.jp/unv/admission/exam/data.html>

【大学院】 <https://www.jwu.ac.jp/unv/admission/grd/result.html>

【通信教育課程】

https://www.jwu.ac.jp/ccde/about/r707bo0000002gon-att/ccde_01_enrollment_2022.pdf

- ・ 収容定員

【大学・大学院】

https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/infomation/4/Admission_capacity.pdf

【通信教育課程】

https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/infomation/4/ccde_02_capacity_2022.pdf

・収容定員充足率

【大学・大学院】

<https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/infomation/4/teiinjusokuritsu.pdf>

【通信教育課程】

https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/infomation/4/ccde_03_capacitysufficiencyrate_2022.pdf

・在籍者数

【大学】

https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/infomation/4/number_unv_202205.pdf

【大学院】

https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/infomation/4/number_grd_202205.pdf

・卒業者数・修了者数

【大学】

https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/infomation/4/unv_grd.pdf

【大学院】

https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/infomation/4/grd_grd.pdf

【通信教育課程】

https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/infomation/4/ccde_04_numberofgraduates_2022.pdf

・進路・留学生数等

【進路・就職などの状況】

<https://www.jwu.ac.jp/unv/campuslife/employment.html>

【留学生数】

https://www.jwu.ac.jp/unv/international_exchange/foreign/number_of_students.html

【海外派遣・受入学生数】

https://www.jwu.ac.jp/unv/international_exchange/experience-

note.html

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関するこ
と

- ・ 授業科目・授業の方法

家政学部カリキュラム

[https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/human_sciences_and_design/
curriculum.html](https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/human_sciences_and_design/curriculum.html)

文学部カリキュラム

<https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/humanities/curriculum.html>

人間社会学部カリキュラム

[https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/integrated_arts_and_social
_sciences/curriculum.html](https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/integrated_arts_and_social_sciences/curriculum.html)

理学部カリキュラム

<https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/science/curriculum.html>

国際文化学部カリキュラム

[https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/transcultural_studies/tran
scultural_studies_01/curriculum.html](https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/transcultural_studies/transcultural_studies_01/curriculum.html)

大学院カリキュラム

https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/grd_curriculum.html

通信教育課程カリキュラム

<https://www.jwu.ac.jp/ccde/course/curriculum.html>

- ・ シラバス照会

【大学・大学院】

<https://www6.jwu.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml>

【家政学部通信教育課程】

<https://www.jwu.ac.jp/ccde/course/curriculum.html>

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準
に関すること

- ・ 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

日本女子大学学位授与方針

[https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-
att/diploma_policy_unv.pdf](https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/diploma_policy_unv.pdf)

日本女子大学大学院学位授与方針

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/diploma_policy_grd.pdf

日本女子大学家政学部通信教育課程学位授与方針

https://www.jwu.ac.jp/ccde/about/home_economics.html#ccde_3policy

⑦ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する
こと

<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/info.html#07>

⑧ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

・学費等

【大学・大学院】

<https://www.jwu.ac.jp/unv/campuslife/tuition/index.html>

【通信教育課程】

<https://www.jwu.ac.jp/ccde/admission/expenses.html>

・学寮費等

https://www.jwu.ac.jp/unv/campuslife/life_support/dormitory/index.html

⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する
こと

・学生相談窓口

https://www.jwu.ac.jp/unv/campuslife/life_support/support/student_consultation.html

・学生生活のサポート、就職・キャリア支援

https://www.jwu.ac.jp/unv/seg_student/index.html

・カウンセリングセンター

<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/facilities/counseling.html>

・保健管理センター

<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/facilities/health/health.html>

⑩ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する
情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履
行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）

・学則、設置認可・届出・設置計画履行状況報告書等

<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/info.html>

・自己点検・評価報告書、認証評価の結果等

<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/sr/check.html>

⑪ 大学院学位論文に係る評価に当たっての基準

学位論文審査基準

https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/ebook_tebiki/grd_2022/html5.html#page=31

第 16 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

- (1) 教育内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等 (FD)、
- (2) 管理運営に必要な教職員への研修等 (SD) について

① FD 研修・SD 研修を推進する組織

本学におけるファカルティ・ディベロップメント (FD 研修) とスタッフ・ディベロップメント (SD 研修) は、「JWU 女子高等教育センター」が、その推進役を担っている。

同センターは、「本学の建学の精神、教育理念を実現するため、学生の視点に立った継続的な教育改革を教職協働で進め、本学における教育の質の向上に寄与すること」を目的とし、次に掲げる事業に取り組んでいる。

- (ア) 将来的な女子高等教育にかかる施策に関すること。
- (イ) 全学的な教育及び学習支援プログラムの企画、開発及び推進に関すること。
- (ウ) 全学的な教授内容及び教育手法の改善並びにファカルティ・ディベロップメント (FD) 及びスタッフ・ディベロップメント (SD) の推進に関すること。
- (エ) 全学的な教育効果の測定並びに評価方法の開発及び実施に関すること。
- (オ) 教育の国際化、情報化及び教育活動改善のための教育環境の整備に関すること。
- (カ) 国内外の高等教育に係る情報収集、調査及び研究並びに連携に関

すること。

(キ)その他センターの目的達成のために必要な事業に関すること。

② FD 研修の実施

「教育活動の改善の取り組み」を本学における FD と定義し、従来の取り組みを確認しながら、継続した教育改善に努めている。

JWU 女子高等教育センターは全学的 FD 推進機関として、FD に関わる全学的課題の改善・推進にあたりるとともに、活動の主体である学部・研究科等への支援・調整を行う。

③ SD 研修の実施

「本学が進むべき方向性や施策、課題等を教職員の別を問わず考察すること、そのための機会を提供することで教職員一人ひとりの積極的な大学運営への参画を実現すること」を目標に、「それに対する継続的な取り組みによって教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を実現すること」を、本学 SD の基本方針として取り組んでいる。

研修の実施に際しては、例えば、職員研修規程に則って実施した職員向けの SD 研修の内容によっては、FD 研修として教員にも取り組んでもらうことがあり、逆に FD 研修プログラムであっても、SD 研修として職員に参加を課すといった相互補完性に配慮している。

④ 各研修の事例

最近の研修事例は、それぞれ以下のとおりである。

・FD 研修

2021（令和3）年度は、JWU 女子高等教育センター主催で、「学修者本位の大学教育の構築を目指して」というテーマの下、常に先進的な取り組みをしている大学や企業等から講師を招聘し、今後の大学教育のあり方や大学が社会において果たすべき役割について、多面的かつ多様性に富んだ視点で考える機会とするために、2回のセミナーを開催した。一人ひとりの学生が「何を学び、何を身に付けたのか」が問われ、大学に学修者本位の教育への転換と、その教育の質の保証が求められている昨今、本学の教育の理念及び学修者本位の教育の意味を踏まえながら、ポストコロナの大学教育の在り方、学び方はどうあるべきかを考えた。

2022（令和4）年度は、教員の教育力向上を図るため、また、授業の内容及び方法の改善を図ることを目的として、JWU女子高等教育センター主催で他大学における授業改善の取り組みを知るためのオンデマンド研修を実施した。

・SD研修

2020（令和2）年6月に、2024（令和6）年4月入学よりトランスジェンダー学生に受験資格を認めることを告知して以降、「性の多様性について知ろう！」をテーマに、本学の教職員一人ひとりが多様な性のあり方を理解し、人権の尊重に留意した対応ができるようになることを目的とした研修を実施している。2021（令和3）年度は本学ジェンダーカウンセラーによる講義の受講及びオンライン研修を実施した。

2022（令和4）年度は、学生支援ネットワーク主催で、「学びづらさ」「働きづらさ」を理解することを目的としたSD研修を実施した。「本学婦人科相談の現状と女性のヘルスケア～月経の理解～」というテーマの下、女性に身体の不調をもたらし、時に深刻な状況を生み出すこともある「生理」について取り上げ、女子学生や女性教職員が学びやすく働きやすくなる大学のあり方について考えた。また、「自己のアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）に気づく」というテーマの下、知らないこと、わからないことから「不安」を取り除き（知識の獲得）、自他の感情と向き合い（気づきと対話）、実際行動できるような意識醸成（行動変容）を目指すための職員研修を実施した。

このように本学では、教育内容等の改善を図るための組織的な研修等に対して、教職員の区別なく取り組んでいる。2023年度以降も、教育活動の改善を目的とした全教員が参加するFD研修を1回、任意参加のFD研修を複数回実施予定である。また、SD研修についても、全教職員が参加する研修を1回、その他にも性の多様性等をテーマとした任意参加の研修を複数回実施する。

第17 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

（1）基本方針

本学は、女子を「人として」「婦人（女性）として」「国民として」教

育するという建学の精神を受け継ぎ、自学自動主義のもと、多様で変化の激しい現代社会において活躍できる女性を育成すべく、社会的・職業的自立に向けて必要な能力を培うための支援を総合的・体系的に行っている。

（２）教育課程内の取組

本学では、女性が社会で力を発揮できる思考力と実践力を育成することを目的としたカリキュラムとして、「JWU キャリア科目」及び「JWU 社会連携科目」を全学的な基盤的教育科目群として設置している。「JWU キャリア科目」及び「JWU 社会連携科目」は全学部でいずれか２単位必修であり、「情報処理」は全学部で２単位必修である。

「JWU キャリア科目」では、自分の特性を見出しつつ、現代社会において自立していくため自分に適した職業、職場を考える機会を提供している。また、卒業後様々なライフコース選択の場面において、自分の特性を活かした生き方を決めることができる力をつけていくための多岐にわたる授業を開講している。例えば、「ライフプランとキャリアデザイン」では、女性のライフプランやキャリアデザインに関連させながら、経済社会や企業組織の仕組み、現状や課題について学ぶことで、自身のライフプランとキャリアデザインについて主体的に考える機会を提供している。

「JWU 社会連携科目」は、地域や社会が抱える多様な課題について実践的に取り組むことにより、社会で力を発揮するための豊かな行動力を身に付けることを目指している。１年次開講科目では、主に講義科目で地域、防災、福祉、SDGs等の社会課題に関する知識・理解を深め、自らの視野を広げる。２年次以降は、主に演習科目で自治体や企業等と協働して課題発見及び解決に向け実践的な取り組みを行う。例えば、「地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト 演習 A」では、キャンパス設置自治体である文京区より指定を受けている妊産婦・乳児救護所の運営について取り上げ、文京区の担当者も交えたディスカッション、グループワークを取り入れた課題解決型の授業を展開している。

また、AI・データサイエンスが実社会でどのように役立っているかを知り、これらが社会的・職業的に活用できることについて理解することを目的とした「情報処理」の科目を、全学的な基盤的教育科目群の「基礎科目」の一つとして設置している。「情報処理」は、基礎となる

統計的分析の基本的な方法、データの可視化、機械学習などの知識とスキルを学び、Society5.0の動向を理解するとともに、データを収集分析し、解決に必要な知見を抽出する能力を身に付けることを目指している。例えば、必修科目である「基礎情報処理」では、インターネットリテラシーとして情報倫理とサイバーセキュリティを理解するとともに、コンピュータリテラシーとして専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学ぶ。

さらにこれらの学びをより深く体系的に身に付けることを目的として、「キャリア教育認定プログラム」「社会連携教育認定プログラム」「AI・データサイエンス・ICT教育認定プログラム」の三つの教育認定プログラムを設置している。これらのプログラムは、上述の「JWUキャリア科目」「JWU社会連携科目」「情報処理」の科目を組み合わせ履修し、所定の単位を修得すると修了証が発行される。

（3）教育課程外の取組

教育課程外の取組として、低学年からキャリアガイダンスを開催している。1・2年次対象のキャリアガイダンスでは、自分の興味、関心のあることや特性について考えるきっかけを提供し、そこから学生生活の充実について考えることを主目的としている。また、国際派の仕事ガイダンス、マスコミガイダンス、公務員採用試験入門講座、教員採用試験入門講座など、低学年も参加できる講座を開催している。3年次には、就職希望者参加必須として「就職ガイダンス」を開催している。まず「女性の働き方、キャリアデザイン」をテーマに開催し、本学オリジナルの冊子「就職のしおり」を配付する。その後「業界研究・企業研究」「エントリーシート対策」「面接対策」と、実際の就職活動の流れに沿った順でガイダンスを開催している。さらに、筆記試験対策講座、マナー講座、自己分析講座、グループディスカッション対策講座などを開催する。少人数によるワークショップも開催し、一人ひとりに具体的な指導も行っている。また、卒業生や就職活動を終えた4年次学生と就職活動中の学生との対話を通して、働くことや就職活動のイメージを持つことのできる機会を作っている。その後、業界研究会、学内企業説明会を開催して、志望する業界・企業への理解を深めるよう進めていく。

キャンパス内のキャリア支援課事務室の隣に「就職資料室」を設置し、就職活動に有益な書籍、新聞、企業からの求人票などを配架している。卒業生から送られてくる職場に関するアンケートや内定者が書いた就

職活動の記録など、本学独自の資料もここに置いて在學生に公開している。希望する学生にはオンラインによる個人面談やメールによる書類作成の指導を行い、学生それぞれのペースにあった就職活動をサポートしている。

(4) 実施体制の状況

教学に関する本学の意思決定機関である大学執行部会議の下に社会連携教育センターが置かれ、その下にキャリア委員会、社会連携教育委員会が置かれている。また、大学執行部会議の下に基盤教育センターが置かれ、その下に情報処理委員会が置かれている。キャリア委員会では「JWU キャリア科目」、社会連携教育委員会では「JWU 社会連携科目」、情報処理委員会では「情報処理の科目」について、大学執行部の方針を踏まえて全学的な視野に立った基本方針の策定、科目編成、履修及び授業実施に関する事項を所管する。

また、社会的・職業的自立を支援するため、キャリア支援課が置かれ、教育課程外の取組を所管している。キャリア支援課では、ガイダンス等の企画・運営、『就職のしおり』の作成、学生への求人情報提供や、キャリアカウンセラーによる個人面談などを行って就職活動を支援している。また、キャリア委員会と連携して円滑な進路決定状況の把握などに努めるとともに、学生の指導・支援にあたっている。

さらに、学内のメディアセンター、カウンセリングセンター、生涯学習センター、同窓会組織や公的機関である新卒応援ハローワークとも随時連携して、学生の社会的・職業的自立のための体制を整えている。

以上

日本女子大学 建築デザイン学部 設置の趣旨等を記載した書類 資料目次

- 【資料1】 日本女子大学. 大学案内 “Vision120～創立120周年に向けて～
「パンフレット」”. 2022-09-20. …… 3
<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/vision120/ilcp49000000035q-att/vision120.pdf>,
(参照 2022-09-20)
- 【資料2】 内閣府 男女共同参画局. “女性の活躍促進 女性版骨太の方針
(女性活躍・男女共同参画の重点方針)「説明資料」”. 2022-09-20. …… 7
https://www.gender.go.jp/policy/sokushin/pdf/sokushin/jyuten2022_setsumei.pdf,
(参照 2022-09-20)
- 【資料3】 内閣府. “経済財政運営と改革の基本方針2022(骨太の方針2022)
「概要」 “. 2022-09-20. …… 10
https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2022/summary_ja.pdf, (参照
2022-09-20)
- 【資料4】 「新制大学設立以降の住居学科の教育について—卒業生調査に基づく考察—」
日本女子大学総合研究紀要第23号 p88-100. …… 13
- 【資料5】 国土交通省. “建築士法の一部を改正する法律(平成30年法律第93号)
等について「概要」”. 2022-09-20. …… 20
<https://www.mlit.go.jp/common/001310557.pdf>, (参照 2022-09-20)
- 【資料6】 国土交通省. 報道発表資料 “令和3年一級建築士試験「設計製図の試験」の
合格者を決定”. 2022-09-20. …… 21
<https://www.mlit.go.jp/common/001446815.pdf>, (参照 2022-09-20)
- 【資料7】 内閣官房 教育未来創造会議. “我が国の未来をけん引する大学等と
社会の在り方について 教育未来創造会議 第一次提言(令和4年5月10日)
「概要」”. 2022-09-20. …… 29
<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/pdf/220510gaiyou.pdf>, (参照 2022-
09-20)

【資料 8】	国土交通省. “脱炭素社会の実現に資するための建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律等の一部を改正する法律（令和4年法律第69号）について” ①概要. 2023-03-16. 31
	https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/build/content/001572929.pdf , （参照 2023-03-16）
【資料 9】	建築デザイン学部建築デザイン学科 AP_CP_DP 関係マトリックス 32
【資料 10】	家政学部住居学科 卒業生就職先マップ図. 33
【資料 11】	建築デザイン学部 カリキュラム系統図. 34
【資料 12】	建築デザイン学部 履修モデル①設計系. 35
【資料 13】	建築デザイン学部 履修モデル②環境工学系. 36
【資料 14】	建築デザイン学部 履修モデル③構造デザイン系. 37
【資料 15】	建築デザイン学部 履修モデル④建築文化（保存再生）系 38
【資料 16】	建築デザイン学部 履修モデル⑤まちづくり系. 39
【資料 17】	「インターンシップ I・II」実習先一覧. 40
【資料 18】	日本女子大学特任教員規程 41
【資料 19】	建築デザイン学部 時間割 43
【資料 20】	建築デザイン学部 講読図書（和雑誌） 56
【資料 21】	建築デザイン学部 講読図書（洋雑誌） 57
【資料 22】	オンライン DB 58
【資料 23】	オンラインジャーナル 59
【資料 24】	2022 年度の体制 61
【資料 25】	学校法人日本女子大学組織図 62
【資料 26】	日本女子大学における内部質保証の方針 63
【資料 27】	日本女子大学 自己点検・評価体制 65

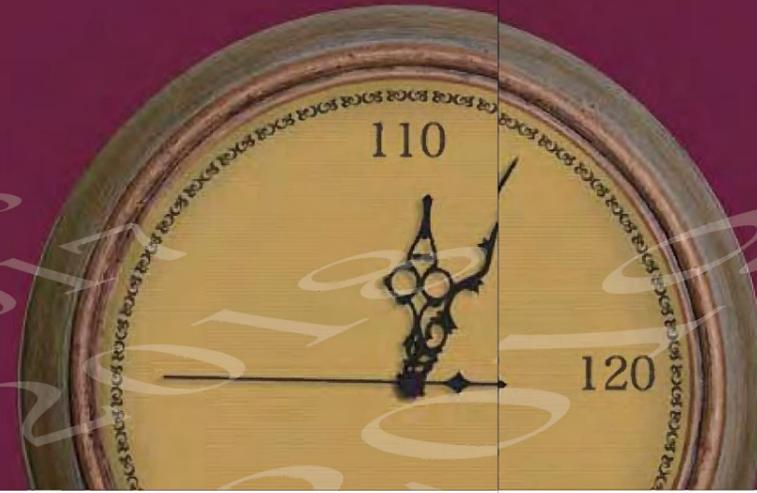
日本女子大学 創立110周年

V i s i o n
120

 創立120周年に向けて

日本女子大学創立 110 周年

日本女子大学の新しい歴史が 始まろうとしています



理事長・学長メッセージ ——総合力を生かして教育改革

本学は今年創立110周年を迎えました。創立記念日4月20日に先立つ3月11日、東北地方は嘗て私共が経験したことのない大震災に見舞われました。私共も及ばずながら一日も早い復興を祈って、学生支援に微力を注いでおります。

1890年代前半創立者成瀬仁蔵が留学したアメリカは、大学の発展期・拡張期に入っており、著名な女子大学が創設された上昇期にありました。折しも我が国は国際的地位が向上してきた時代であり、「女子にも高等教育の機会を与えるべき」との考えが芽生え始めていた頃でした。創立者がめざした女子大学は、アメリカで見聞した教育の影響を受けつつも、日本に適応した女子教育を行うものであり、「日本女子大学校」という名も、日本の女子高等教育の先駆けとしての自負と実践を込めて命名されたものです。

建学の精神は、まず女子を「人として」教育することであり、人とは男女平等を前提とした個人を指し、自らの人格を形成する主体であることを示し、人格教育の必要性を強調しています。次いで「婦人(女性)として、国民(社会人)として」教育することで、女子の持つ特性を自由に教養し、社会の一員として貢献することを奨めています。教育の方針は、注入式教育を否定し、自発的教育を自学自動主義という言葉で表現し、学生生活においては自治の精神を指導するという画期的な教育をめざしました。本学はこのような創立者の信念のもとに、1901(明治34)年家政学部・国文学部・英文学部の3学部を以て出発しました。5年後には理学教育を主軸とする教育学部の開設、さらに学部の改組などを経て、1930年代には川崎市西生田に約10万坪の校地を購入し、ここで大学教育の展開を試みましたが、第二次世界大戦がこれを阻みました。

1948(昭和23)年には逸早く新制大学に移行し、家政学部と文学部から成る「日本女子大学」として新たな時代に入りましたが、常に女子高等教育をリードし、多様な分野で女性のバイオニアを輩出してきました。1990(平成2)年西生田に「人間社会学部」を開設し、目白・西生田2キャンパス体制を採り、さらに1992(平成4)年には家政学部を改組して目白に理学部を発足させ、創立者がめざした総合大学として女子教育を担う社会的責任を果たしています。

創立110周年を迎えた今、来る120周年に向けて、本学が育成する学生像を描き、創立の原点に立ち返って「人として」の教育を更に深化させることこそ、変貌する世界情勢に耐え得る女性の育成に相応しいと判断いたしました。それには本学が持つ人的・物的資源の総合力を発揮して教育にあたる決意を新たに、人間生活・人文・社会・自然科学系統4学部の教育・研究を目白キャンパスにおいて展開いたします。緑豊かな西生田キャンパスは地域との連携を保ちながら、目白と相補的な教育・研究環境の充実を図ります。

国際的視野を以て社会をリードする活動型の女性を、教職協働で育成して参る所存でございます。今後とも変わらぬご支援を心よりお願い申し上げます。



理事長・学長
蟻川 芳子

Vision 120

日本女子大学は、創立者成瀬仁蔵の建学の精神を継承し、発展させるとともに、社会を支え、国際社会をリードする人材を育成するために教育改革を進め、10年後の創立120周年には、新しい女子大学として生まれ変わります。

教育改革の骨子

日本女子大学の
すべての総合力を発揮した
学生のための教育改革

- 四つの科学系統(人間生活科学系・人文科学系・社会科学系・自然科学系)の発展
- 教員の総合力を活かした基盤的教育
- 総合大学に相応しい専門教育(大学)と高度専門教育(大学院)
- 国際交流の推進
- 特色ある一貫教育の実現

目白・西生田
両キャンパスを活用した
教育研究環境の充実

- 女性が力を発揮できる教育研究環境
- 高度な研究を支える教育研究環境
- 地域連携・社会貢献型教育研究の促進
- 短期集中型実習・研修提供への対応
- 他分野交流の展開(学生、教員、職員、分野を越えた相互横断的コミュニティの形成)

教育改革・教育研究環境の
充実を実現するための
キャンパス再整備

- 目白キャンパス:歴史と伝統を誇る交流と知的創造の場、都心のオアシス

キーワード ▶ 都心・エコキャンパス

- 西生田キャンパス:自然環境を活かした先進的教育・研究の場、里山は地域の宝

キーワード ▶ 郊外・森のキャンパス

Vision 120 の教育がめざすもの

グローバル化した21世紀社会を リードする女性の育成

- 徹底した外国語教育
- 実践的な英語力の伸長
- 国際人としての深く広い教養

豊かな人間性をはぐくむ実践教育

- 「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」の教育理念を継承する自校教育
- 社会人基礎力を確実にする教養教育
- 健全な心身の完成をめざす健康教育

「自学自動」「自念自動」を実践する女子教育

- 自発性をうながす教育プログラム
- 自治の精神を育成する一貫教育
- リーダーシップ・独創性・協心力を発揮しうる女性の資質をのばす教育活動、研究活動、社会貢献活動

女性の活躍を支援するキャリア教育

- 女性の生き方を探るキャリア教育
- 基礎的・汎用的能力の養成
- 体験を生かすキャリア支援

一生を支える生涯教育

- 全学体制による新しい通信教育課程
- キャリア開発とリカレント教育課程
- 地域・社会との連携体制

Vision 120

日本女子大学が育成する学生像

- 幅広い教養と豊かな人間性を備え
自分の信念をもって行動できる人
- 個性と能力を発揮し
自らすすんで社会の発展に貢献できる人
- 高い専門的知識を身につけ
国際的視野がもてる人

高度専門教育 大学院教育

人間生活科学系学部

人文科学系学部

社会科学系学部

自然科学系学部

通信教育課程 ※全学体制 ※資格、カリキュラムの充実

外国語教育

教養教育

自校教育

健康教育

情報教育

総合力を生かした基盤的教育

新たな
研究拠点

外国語研修

地域連携

短期集中型
実習研修

目白キャンパス

学部・大学院の再編を図る

〔都心・エコキャンパス〕

西生田キャンパス

地域の環境を生かし
様々な大学活動を展開する

〔郊外・森のキャンパス〕

大学教育を支える 四つの柱

女性の一生を支える

生涯教育

- リカレント教育
- キャリア形成支援
- 学校教育補完プログラム
- 地域・社会との連携体制

女性の生き方を探る

キャリア教育

- 分かりやすい教育プログラム
- 基礎的・汎用的能力の養成
- 卒業生の力を活用
- 体験を活かすキャリア支援

21世紀社会をリードする女性を育てる

国際人教育

- 外国語教育
- 教養教育
- 国際交流プログラム

自発性をうながす自学自動的教育

一貫教育

- 英語教育の連携
- 初年次教育
- 高大連携

沿革

- 1900年 (明治33) ● 日本女子大学校設置認可(校長成瀬仁蔵)
- 1901年 (明治34) ● 日本女子大学校開校(家政学部、国文学部、英文学部、英語予備科、附属高等女学校)
- 1904年 (明治37) ● 専門学校令により私立日本女子大学校認可
- 1905年 (明治38) ● 財団法人日本女子大学校設立
- 1906年 (明治39) ● 教育学部開設 附属豊明小学校、同幼稚園開校 軽井沢三泉寮開寮
- 1919年 (大正8) ● 成瀬仁蔵告別講演 三綱領「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」を揮毫 永眠
- 1921年 (大正10) ● 社会事業学部開設
- 1927年 (昭和2) ● 総合大学予科としての高等学部開設
- 1929年 (昭和4) ● 児童研究所設立
- 1930年 (昭和5) ● 大学本科開設(同年廃止決定)
- 1944年 (昭和19) ● 家政科に育児科、保健科、家政理科(物理化学専攻、生物農芸専攻)、管理科を設置 文科に国語科、歴史科、外国語科(英語)を設置
- 1947年 (昭和22) ● 附属中学校開校
- 1948年 (昭和23) ● 日本女子大学(新制)設置認可 家政学部に児童学科、食物学科、生活芸術科、社会福祉学科、家政理学科一部、同二部を設置 文学部に国文学科、英文学科、史学科を設置 附属高等学校開校
- 1949年 (昭和24) ● 日本女子大学通信教育部開講
- 1950年 (昭和25) ● 文学部に教育学科増設
- 1951年 (昭和26) ● 財団法人日本女子大学校を学校法人日本女子大学に改組
- 1952年 (昭和27) ● 農家生活研究所設立
- 1958年 (昭和33) ● 家政学部社会福祉学科を文学部に移行
- 1961年 (昭和36) ● 大学院家政学研究科設置 児童学専攻、食物・栄養学専攻(修士課程)
- 1962年 (昭和37) ● 家政学部生活芸術科を住居学科、被服学科に分離
- 1964年 (昭和39) ● 家政学部に家政経済学科を増設 女子教育研究所設立
- 1966年 (昭和41) ● 大学院文学研究科設置 日本文学専攻、英文学専攻(修士課程)
- 1975年 (昭和50) ● 大学院文学研究科に日本文学専攻博士課程(後期)、社会福祉学専攻博士課程増設
- 1978年 (昭和53) ● 大学院家政学研究科に住居学専攻、被服学専攻修士課程増設 大学院文学研究科に教育学専攻修士課程、英文学専攻博士課程(後期)増設
- 1987年 (昭和62) ● 大学院文学研究科に教育学専攻博士課程(後期)増設
- 1990年 (平成2) ● 西生田キャンパスに人間社会学部開設 現代社会学科・社会福祉学科・教育学科・心理学科・文化学科(文学部社会福祉学科、教育学科を人間社会学部に移行)
- 1992年 (平成4) ● 理学部開設 数物科学科、物質生物科学科(家政学部家政理学科一部、同二部を理学部に改組) 大学院人間生活学研究科設置(人間発達学専攻、生活環境学専攻博士課程(後期))
- 1993年 (平成5) ● 大学院文学研究科に史学専攻修士課程増設
- 1994年 (平成6) ● 大学院人間社会研究科設置(社会福祉学専攻、教育学専攻博士課程、現代社会論専攻、心理学専攻修士課程)
- 1995年 (平成7) ● 大学院文学研究科に史学専攻博士課程(後期)増設 文学部国文学科を日本文学科に名称変更 児童研究所、農家生活研究所、女子教育研究所を総合研究所として改組統合 コンピュータセンター、西生田生涯学習センター設立
- 1996年 (平成8) ● 大学院家政学研究科に生活経済専攻修士課程増設 大学院人間社会研究科に心理学専攻博士課程(後期)増設 大学院理学研究科設置(数理・物性構造科学専攻、物質・生物機能科学専攻修士課程)
- 1997年 (平成9) ● 大学院人間社会研究科に現代社会論専攻博士課程(後期)増設
- 1998年 (平成10) ● 大学院人間社会研究科に相関文化論専攻修士課程増設 大学院理学研究科に数理・物性構造科学専攻、物質・生物機能科学専攻博士課程(後期)増設
- 2001年 (平成13) ● 生涯学習総合センター設立
- 2007年 (平成19) ● 家政学部通信教育課程に大学院修士課程を設置 メディアセンター設立
- 2008年 (平成20) ● 大学院人間社会研究科に相関文化論専攻博士課程(後期)増設 現代女性キャリア研究所設立 生涯学習センター設立(生涯学習総合センターと西生田生涯学習センターを統合)
- 2010年 (平成22) ● 教職教育開発センター設立



学校法人 日本女子大学

<http://www.jwu.ac.jp/>

目白キャンパス

東京都文京区目白台 2-8-1 〒112-8681
Tel.03-3943-3131 (大学代表)

大学(家政学部・文学部・理学部)
大学院(家政学研究科・文学研究科・人間生活学研究科・理学研究科)
附属豊明小学校、附属豊明幼稚園

西生田キャンパス

神奈川県川崎市多摩区西生田 1-1-1 〒214-8565
Tel.044-966-2121 (大学代表)

大学(人間社会学部)・大学院(人間社会研究科)
附属中学校・高等学校



日本女子大学関係者は、
本書は、学内の使用済み文書
を回収・再生した「日本女子大
学循環再生紙」を使用してい
ます。

女性版骨太の方針2022（女性活躍・男女共同参画の重点方針2022）説明資料

令和4年6月3日
すべての女性が輝く社会づくり本部
男女共同参画推進本部決定

・我が国の男女共同参画の現状は、諸外国に比べて立ち遅れ。
 >昭和の時代に形作られた各種制度や、男女間の賃金格差を含む労働慣行、固定的な性別役割分担意識など構造的な問題。
 >人生100年時代を迎え、女性の人生と家族の姿は多様化しており、もはや昭和の時代の想定が通用しない。
 =>「第5次男女共同参画基本計画」を着実に実行するため、令和4年度及び5年度に重点的に取り組むべき事項を定める。



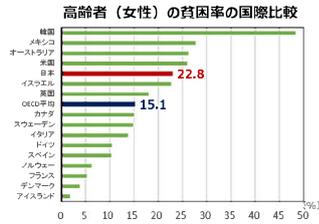
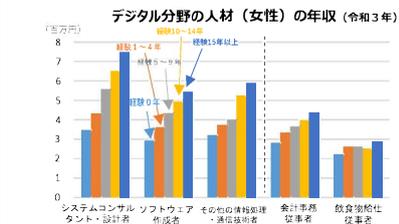
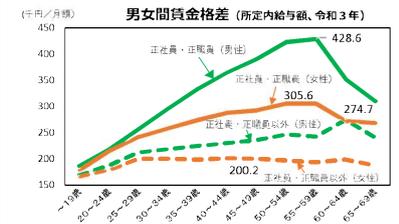
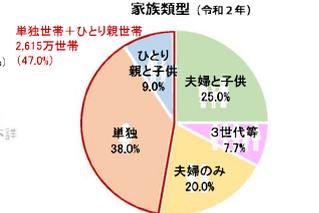
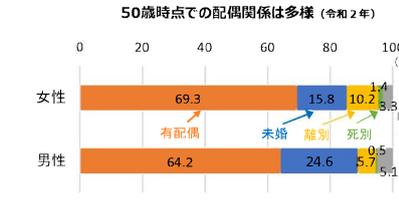
男女の寿命 (令和2年)

	女性	男性
90歳時生存割合	52.6%	28.1%
95歳時生存割合	27.9%	10.5%
平均寿命	87.71歳	81.56歳
死亡年齢最頻値	93歳	88歳

I 女性の経済的自立

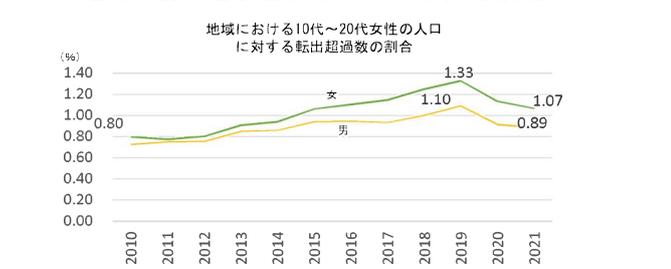
(1) 男女間賃金格差への対応

- 社内格差 (垂直分離)
 - ①男女間賃金格差に係る情報の開示
 - ・令和4年夏に女性活躍推進法の制度改正を実施、常用労働者301人以上の事業主に対し、男性の賃金に対する女性の賃金の割合を開示することを義務化。有価証券報告書についても同内容の開示を義務付け。
 - ②非正規雇用労働者の賃金の引上げ (同一労働同一賃金の徹底)
 - ・企業に対して、労務管理の専門家による無料相談や先進的な取組事例の周知等を実施。労働局による助言・指導等による法の履行確保。
- 職種間格差 (水平分離)
 - ①女性デジタル人材の育成
 - ・女性デジタル人材育成プランに基づき、就労に直結するデジタルスキルの習得支援及びデジタル分野への就労支援を3年間集中的に推進。
 - ②看護、介護、保育などの分野の現場で働く方々の収入の引上げ
 - ・令和4年2月から実施している賃金の引上げ措置について、令和4年10月以降も継続して実施。
 - ③リカレント教育の推進
 - ・大学等において、デジタルリテラシーの育成やDX推進のためのリスクリングを目的としたリカレント講座を開発・実施。



I 女性の経済的自立

(2) 地域におけるジェンダーギャップの解消



- ・全国355か所の男女共同参画センターを、人材育成やネットワークを通じて強力にバックアップするため、男女共同参画のナショナルセンターが必須。
- ・このため、独立行政法人国立女性教育会館を内閣府に移管。同法人の業務の在り方について、令和4年度に有識者会議において検討。
- ・男女共同参画センターの機能の強化・充実に向け、専門人材の確保、関係機関・団体との連携強化、地域による取組の温度差の解消を強力に進める。
- ・地域女性活躍推進交付金を始めとする国の支援策を活用して、ジェンダーギャップを解消するための地方公共団体の効果的な取組を支援。
- ・「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」について、地域で活躍する女性役員や女性活躍に取り組む経営者が登壇する地域シンポジウムを全国各地で開催。

(3) 固定的な性別役割分担意識・無意識の思い込みの解消

- ・女性の人生の多様化の実態について広く周知し、家庭の役割の重要性と同時に、結婚すれば生涯、経済的安定が約束されるという価値観で女の子を育てることのリスクについて認識を広める。
- ・地方公共団体や経済団体等を対象としたワークショップ等の啓発を強化し、広報担当や管理職、経営層の意識改革と理解の促進を図る。

- ・教育委員会に対して、無意識の思い込み (アンコンシャス・バイアス) を払しょくするための教員研修プログラムを活用した研修を促す。
- ・学校教育において、無意識の思い込み (アンコンシャス・バイアス) の解消につながる教育を推進するための指導モデルの開発を令和4年度に行う。

(4) 女性の視点も踏まえた社会保障制度・税制等の検討

- 我が国の社会保障制度・税制は昭和時代に形作られたが、令和の時代を迎え、女性の人生や家族の姿は多様化。このため、
- ①現行の制度は就業調整を選択する人を増やしているのではないかと。
 - ②配偶者の経済力に依存しやすい制度は、男女間賃金格差も相まって、女性の経済的困窮に陥るリスクを高める結果となっているのではないかと。
 - ③現行の制度は分配の観点から公平な仕組みとなっていないのではないかと。
- という主に3つの観点から、社会保障制度や税制等について検討。

(5) ひとり親支援

- ①職業訓練
 - ・高等職業訓練促進給付金等の拡充措置について成果や課題を検証した上で継続的な実施について検討。
 - ・訓練後から就業までの企業との連携の在り方なども含めて総合的に検討し、中長期的な自立につながる支援策の強化。
- ②養育費
 - ・離婚の際に養育費を支払うのは当然のことであるという意識改革を強力に進める。養育費の「受領率」に関する達成目標を定める (現状約24%※母子家庭)。

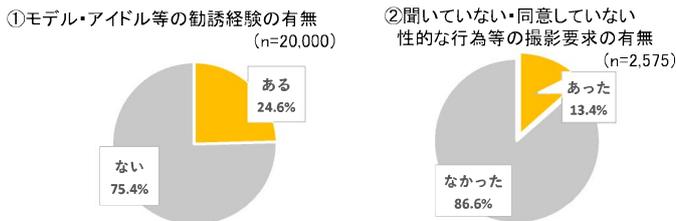
(6) ジェンダー統計の充実に向けた男女別データの的確な把握

- ・「ジェンダー統計の観点からの性別欄検討ワーキング・グループ」において、各種統計等における多様な性への配慮についての現状を把握し、課題について検討を進め、令和4年の夏頃を目途に取りまとめ。



II 女性が尊厳と誇りを持って生きられる社会の実現

アダルトビデオ出演被害：モデルやアイドル等の勧誘（令和2年）



全国の性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター（47都道府県）の相談件数の推移



(1) アダルトビデオ出演被害対策等

- ・AV出演被害防止・救済法案の審議状況を踏まえ、必要な対応策を講じる。
- ・アダルトビデオ出演被害に係る緊急対策パッケージに基づき、集中的な広報・啓発の実施や、学校教育の現場などで教育啓発、各種法制度の運用を強化。
- ・インターネット上の性的な暴力、児童買春・児童ポルノ等の根絶に向けて、関係法令の適用により、違法行為に対して、事案に応じたより一層厳正な対処。

(2) 性犯罪・性暴力対策

- ・令和5年度以降の「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」の後継となる方針を令和4年度中に策定。
- ・性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの体制強化に向けて、交付金の充実によるワンストップ支援センターの安定的な運営や、相談員の処遇改善を図ることで職業として確立するよう支援。
- ・関係省庁が連携して痴漢撲滅に向けた取組を抜本的に強化するための「痴漢撲滅パッケージ」（仮称）を令和4年度中に取りまとめ。
- ・「生命（いのち）の安全教育」の令和5年度全国展開に向け、令和4年度は教材等を活用した指導モデルを作成、その普及・展開を図る。
- ・ハラスメント防止対策の推進（就活セクハラ等）。

(3) 配偶者等からの暴力への対策の強化

- ・ワーキング・グループ報告書素案（中間報告）を踏まえ、配偶者暴力防止法の改正が早期に実現できるよう、検討を行い、結論を得る。

- ・生活・就業・住宅・子育てなどの生活再建に必要な手続の見直しなどについて検討事項を夏までに整理、令和4年内に抜本強化策を取りまとめ。
- ・非同僚交際相手からの暴力（いわゆるデートDV）への対応として、予防や一時保護・緊急避難などについて必要な施策の整理を行い、令和4年内に必要な対策を取りまとめ。

(4) 困難な問題を抱える女性への支援

- ・「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の令和6年4月の円滑な施行に向けて、各都道府県での支援体制の計画的な整備、人材の確保・養成・処遇改善の推進、民間団体との協働の促進など環境整備。

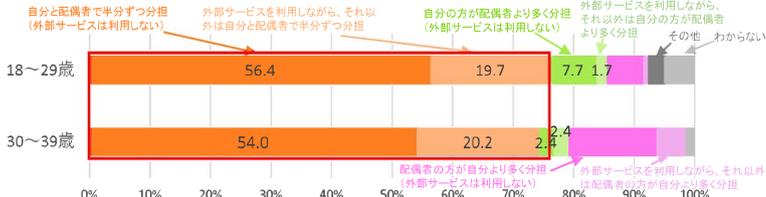
(5) 女性の健康

- ・「生理の貧困」への支援として、地域女性活躍推進交付金や地域子供の未来応援交付金により生理用品提供を支援、地方公共団体の取組の横展開。
- ・フェムテックの更なる推進に向けて、薬機法上の位置付け等を整理。実証事業を実施し、働く女性の就業継続を支援。製品等に関連して消費者等から情報提供があれば、関係府省庁間で情報共有し、適切に対応。
- ・予期せぬ妊娠への対応として、緊急避妊薬を処方箋なしに薬局で適切に利用できるようにすることについて、令和4年度はパブリックコメントを実施し、着実に検討を進める。
- ・女性の健康に関する知識の向上に向けて、国が率先して取り組むため、国の職員を対象に研修など様々な機会を通じて周知することを検討。

(6) 夫婦の氏に関する具体的な制度の在り方

III 男性の家庭・地域社会における活躍

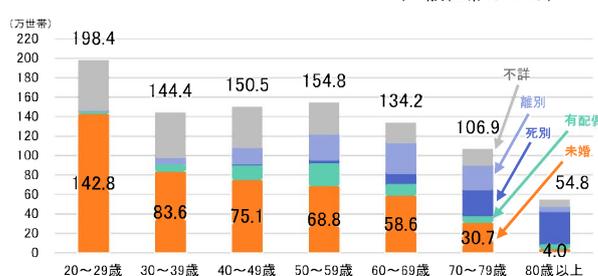
家事に関する配偶者との役割分担の希望（男性）（令和元年）



育児休業者の割合（令和2年度）

	民間企業	地方公務員	国家公務員
女性	81.6%	99.7%	99.6%
男性	12.7%	13.2%	51.4%

男性の単独世帯数（年齢階級別）：1094万世帯（令和2年）
（一般世帯の19.6%）



(1) 男性の育児休業取得の推進及び働き方の改革

- 男性の育児休業取得の推進等
 - ・「産後パパ育休」の創設などを内容とする改正育児・介護休業法の段階的施行を踏まえ、ハローワークにおける育児休業中の代替要員確保に関する相談支援や両立支援等助成金の周知等を実施。
- コロナ下で広まったテレワーク等多様な働き方の定着
 - ・コロナ収束後も多様な働き方を後退させずコロナ前の働き方に戻さない。
 - ・中小企業におけるテレワークの導入を支援、テレワークに関してワンストップで相談できる窓口を設置。あらゆる地域で同じような働き方を可能とする環境を整えるため、地方創生に資するテレワークを推進。テレワーク推進に関する新たな政府目標を検討。
 - ・幹部職員及び管理職が不慣れなことによってオンライン会議が避けられることがないよう、全省庁で管理職のデジタル自立を実践。

(2) 男性の育児参画を阻む壁の解消

- 男性が育児参画するためのインフラの整備
 - ・公共交通機関や公共施設において、ベビーベッド等の男性トイレへの設置、ベビーカー使用者のためのフリースペースの設置を促進。

- 学校関連の活動・行事におけるオンライン化の推進等
 - ・保護者と学校の間の連絡のオンライン化を進める。PTAや保護者会など学校関連の活動・行事について、男女共同参画の観点から保護者や地域住民が参画しやすい工夫を行っている事例を取りまとめ、横展開。
- 子育て・介護など各種行政手続におけるオンライン化の推進
 - ・子育て・介護に関する手続のサービス検索及びオンライン申請ができるワンストップサービスについて、令和4年度に地方公共団体における導入を促すとともに、地方公共団体のシステム改修等を支援。
- 仕事と子育て等の両立を阻害する慣行等への対応
 - ・園と保護者の連絡が電話や紙で行われることなどについて、関係府省に対し対応を働きかけるとともに、使用済み紙おむつや布団の持ち帰りなどについて、令和3年度に実施した「仕事と子育て等の両立を阻害する慣行等調査」において収集した対応例を広く一般に周知。

(3) 男性の孤独・孤立対策

- 男性相談窓口の充実強化
 - ・全国的に相談対応が行える体制の整備に向け、各地の相談ニーズ等につき実態を把握するとともに、課題を抽出し、具体的な支援方法を検討。男性相談を行っている男女共同参画センターの取組事例について、全国の男女共同参画センターに対して横展開。

IV 女性の登用目標達成（第5次男女共同参画基本計画の着実な実行）

(1) 政治分野

	女性ゼロ 議会数	議会数	女性ゼロ 議会比率
都道府県議会	0	47	0.0%
市区町村議会	275	1741	15.8%
市議会	24	792	3.0%
特別区議会	0	23	0.0%
町村議会	251	926	27.1%

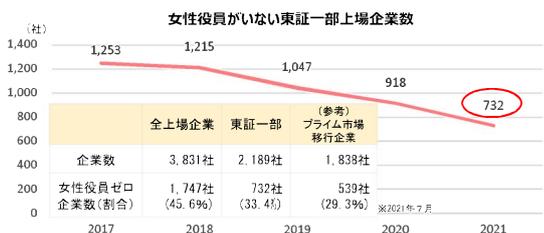
※令和3年12月

- 政治分野におけるハラスメント防止のための研修教材について、各議会等における積極的な活用を推進するとともに、令和4年度以降、その活用状況等について、定期的に把握し、「見える化」を図る。

(2) 行政分野

- 能力及び実績による人事管理を前提としつつ、従来の人事慣行を見直し、女性職員の職域の拡大に取り組む。
- コロナ前の働き方に戻さないよう、テレワーク等の柔軟な働き方を推進。令和4年度内にフレックスタイム制の見直し等による勤務時間の弾力化や勤務間インターバルの確保の在り方についても検討。

(3) 経済分野



- 「女性役員情報サイト」において、プライム市場上場企業を始め、市場ごとの女性役員がいない企業の状況や女性役員比率ランキングを掲載。
- 令和4年度に全国の商工会及び商工会議所における役員の種別ごとの女性割合を一覧化して「見える化」。
- 公共調達において企業等を加算評価する取組について、取組状況の更なる「見える化」を行い、各機関における取組を底上げ。

- コース別雇用管理を行う企業に対し、より柔軟な運用に向けた見直しを行うよう周知啓発。転換制度を設けていない企業へ制度を設けるよう働きかけ。

(4) 科学技術・学術分野

- 給付型奨学金や授業料等減免の制度について、理工系や農学系の分野に進学する女子学生を対象とした官民共同の修学支援プログラムを創設。
- 入学後の専攻分野の決定（レイトスペシャライゼーション）や、入学後の専攻分野の転換、編入学など早期に文理選択を行う必要のない環境の構築。
- 女子割合の少ない分野の大学入学者選抜における女子学生枠の確保等に積極的に取り組む大学等に対し、運営費交付金や私学助成による支援強化。
- 大学への資源配分において、学長、副学長及び教授における女性登用に対するインセンティブを引き続き付与。

(5) 地域における女性活躍の推進

- 農業委員や農業協同組合役員等における女性割合の向上
 - 農業委員や農業協同組合、森林組合、漁業協同組合の役員及び土地改良区等の理事に占める女性の割合の向上や女性登用ゼロからの脱却に向けて、地方公共団体、農林水産団体等に対し働きかけ。
- 防災分野
 - 都道府県防災会議や市町村防災会議の委員に占める女性の割合の引上げに向けて、防災・復興ガイドラインに基づく取組を全国各地に展開。
 - 消防吏員や消防団員、自衛官、地方警察官など防災の現場等における女性割合の目標達成に向けて、女性の参画拡大の環境整備。
- 校長・教育委員会等における女性割合の向上
 - 校長、副校長及び教頭の女性割合について、教育委員会に対して、目標設定を促すとともに令和4年度中にフォローアップ。各学校法人にも、令和4年度中に分かりやすい情報公開を促す。
 - 女性教育委員がいない教育委員会に対し助言を行い、結果を公表。

(6) 国際分野

- 在外公館の各役職段階に占める女性の割合(令和3年7月現在：公使、参事官以上7.5%、特命全権大使、総領事4.7%)を令和7年までに引き上げる目標(公使、参事官以上10%、特命全権大使、総領事8%)を着実に達成。(省内公募の活用、管理職や管理職候補への中途採用や民間登用の推進等)

経済財政運営と改革の基本方針2022
新しい資本主義へ～課題解決を成長のエンジンに変え、持続可能な経済を実現～

I. 我が国を取り巻く環境変化と日本経済

我が国を取り巻く環境変化（新型コロナウイルス感染症、ロシアのウクライナ侵略、気候変動問題等）や国内における構造的課題（輸入資源価格の高騰、人口減少・少子高齢化、潜在成長率の停滞、災害の頻発化・激甚化等）など、**内外の難局が同時かつ複合的に押し寄せている**。
世界経済の不確実性が大きく増す中、我が国のマクロ経済運営については、**当面、2段階のアプローチで万全の対応**を行う。

【第1段階】総合緊急対策を講じることにより、**国民生活や経済への更なる打撃を抑制し、厳しい状況にある方々を全力で支援。コロナ禍からの回復を確かなものに。**
予備費の活用等により**予期せぬ財政需要にも迅速に対応し、国民の安心を確保。**

【第2段階】骨太方針2022や新しい資本主義に向けたグランドデザイン・実行計画を**ジャンプスタートさせるための総合的な方策を早急に具体化し、実行へ。**

大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略を一体的に進める**経済財政運営の枠組みを堅持**。民需主導の自律的な成長とデフレからの脱却に向け、**躊躇なく機動的なマクロ経済運営**を行う。
持続的な経済成長に向けて、官民連携による計画的な重点投資を推進する。危機に対する必要な財政支出は躊躇なく行い、万全を期す。
経済あつての財政であり、**経済をしっかりと立て直す**。そして、**財政健全化**に向けて取り組む。

II. 新しい資本主義に向けた改革

- **社会課題の解決に向けた取組それぞれ自体を付加価値創造の源泉として成長戦略に位置づけ**
- **官と民が協力して計画的・重点的な投資と改革を行い、課題解決と経済成長を同時に実現**

新しい資本主義に向けた重点投資分野

1. 人への投資と分配

- ・スキルアップ、多様な働き方の推進
- ・質の高い教育
- ・賃上げ最低賃金の引上げ（全国加重平均1000円以上）
- ・「賃金所得増進プラン」（NISAの技術的拡充、DeCo制度の改革等）

2. 科学技術・イノベーションへの投資

- ・量子、AI、バイオテクノロジー・医療分野への官民が連携した投資の抜本拡充

3. スタートアップ（新規創業）への投資

- ・スタートアップ育成5か年計画を本年末に策定（5年10倍増）

4. グリーン・デジタル・GXへの投資

- ・150兆円超の官民投資に向けた成長志向型カーボンライジング構想の具体化やGX経済移行債（仮称）の検討

5. デジタル・DXへの投資

- ・テクノロジーマップの整備・実装、マイナンバーカードの普及

社会課題の解決に向けた取組

● 民間による社会的価値の創造

- ・PPP/PFIの活用等による官民連携の推進
- ・社会的インパクト投資、共助社会づくり
- ・イノベーションを促す競争環境の整備

● 包摂社会の実現

- ・少子化対策・子ども政策、女性活躍
- ・共生社会づくり、孤独・孤立対策、就職・転職時代支援

● 多極化・地域活性化の推進

- ・デジタル田園都市国家構想
- ・分散型国づくり、地域公共交通ネットワークの再構築
- ・多極化された仮想空間へ
- ・中堅・中小企業の活力向上、債務増大への対応
- ・観光立国の復活、文化芸術・スポーツの振興

● 経済安全保障の徹底

III. 内外の環境変化への対応

国際環境の変化への対応

● 外交・安全保障の強化

- ・安全保障環境が一層厳しさを増す中、外交・安全保障双方の大幅な強化
- ・防衛力を5年以内に抜本的に強化

● 経済安全保障の強化

- ・経済安全保障推進法の着実な施行

● エネルギー安全保障の強化

- ・省エネ促進、再エネ、原子力など脱炭素効果の高い電源を最大限活用

● 食料安全保障の強化と農林水産業の持続可能な成長の推進

- ・食料安定供給、みどり戦略、輸出促進(2030年5兆円目標)、スマート農林水産業

● 対外経済連携の促進

- ・国際連携の強化（DFFT、TPP11、RCEP、IPEF等）
- ・対日直接投資の推進（2030年80兆円目標）
- ・外国人材の受入れ・共生

防災・減災、国土強靱化の推進、東日本大震災等からの復興

国民生活の安全・安心

IV. 中長期的経済財政運営、V. 当面の経済財政運営と令和5年度予算編成に向けた考え方

財政健全化の「旗」を下ろさず、これまでの**財政健全化目標に取り組む**。経済あつての財政であり、現行の目標年度により、**状況に応じたマクロ経済政策の選択肢が歪められてはならない**。必要な政策対応と財政健全化目標に取り組むことは決して矛盾するものではない。経済をしっかりと立て直し、そして財政健全化に向けて取り組んでいく。ただし、感染症及び直近の物価高の影響を始め、**内外の経済情勢等を常に注視していく必要がある**。このため、**状況に応じた必要な検証を行っていく**。

- ・官民連携による計画的な重点投資の推進、単年度予算の弊害を正、効果的・効率的な支出（ワイスベンディング）の推進とEBPMの徹底強化、税制改革。
- ・**全世代型社会保障**をはじめとする持続可能な社会保障制度の構築、その他歳出分野（**社会資本整備、地方行財政、教育・研究活動の推進**）の取組を実施。
- ・令和5年度予算において、**本方針及び骨太方針2021に基づき、経済・財政一体改革を着実に推進。ただし、重要な政策の選択肢をせばめることがあってはならない。**

経済財政運営と改革の基本方針2022 第1章

I. 我が国を取り巻く環境変化と日本経済

我が国を取り巻く環境変化（新型コロナウイルス感染症、ロシアのウクライナ侵略、気候変動問題等）や国内における構造的課題（輸入資源価格の高騰、人口減少・少子高齢化、潜在成長率の停滞、災害の頻発化・激甚化等）など、**内外の難局が同時かつ複合的に押し寄せている**。

社会課題の解決に向けた取組それぞれ自体を付加価値創造の源泉として成長戦略に位置づけ
官と民が協力して計画的・重点的な投資と改革を中長期的に行い、課題解決と経済成長を同時に実現

経済社会の構造を変化に対してより強靱で持続可能なものに変革する「**新しい資本主義**」を起動

コロナ禍からの回復とウクライナ情勢の下でのマクロ経済運営

◆ 当面のマクロ経済運営

世界経済の不確実性が大きく増す中、我が国のマクロ経済運営については、**当面、2段階のアプローチで万全の対応**を行う。

【第1段階】総合緊急対策を講じることにより、**国民生活や経済への更なる打撃を抑制し、厳しい状況にある方々を全力で支援。コロナ禍からの回復を確かなものに。**
予備費の活用等により**予期せぬ財政需要にも迅速に対応し、国民の安心を確保。**

【第2段階】骨太方針2022や新しい資本主義に向けたグランドデザイン・実行計画を**ジャンプスタートさせるための総合的な方策を早急に具体化し、実行へ。**

大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略を一体的に進める**経済財政運営の枠組みを堅持**。民需主導の自律的な成長とデフレからの脱却に向け、**躊躇なく機動的なマクロ経済運営**を行う。日本銀行においては、2%の物価安定目標を持続的・安定的に実現することを期待。

◆ 経済社会活動の正常化に向けた感染症対策

- ・**医療提供体制の強化**（新型コロナの専用病床化、個別の病院名を明らかにした病床の確保、即応病床の増床、病床の使用率向上）
- ・医療DX、医療情報の基盤整備、G-MISやレポートデータ等により**医療体制の稼働状況の徹底的な「見える化」**
- ・**ワクチン、検査、経口治療薬の普及等**、マイナンバーカードを使ったワクチン接種証明書のデジタル化等による入国時の円滑な確認体制の整備
- ・国際的な人の往来の活発化に向け、G7諸国並みの円滑な入国を可能とする**水際措置の見直し、水際対策の緩和**
- ・危機に迅速・的確に対応するための**司令塔機能の強化等、中長期的観点から必要な対応の取りまとめ**

中長期的経済財政運営

持続的な経済成長に向けて、官民連携による計画的な重点投資を推進する。危機に対する必要な財政支出は躊躇なく行い、万全を期す。
経済あつての財政であり、**経済をしっかりと立て直す**。そして、**財政健全化**に向けて取り組む。

経済財政運営と改革の基本方針2022 第2章①

II.新しい資本主義に向けた改革

1. 新しい資本主義に向けた重点投資分野

(1) 人への投資と分配

◆ スキルアップ（人的資本投資）

- ・2024年度までの3年間で4000億円規模の施策パッケージ
- ・今年中に非財務情報の開示ルールを策定、四半期開示の見直し
- ・リカレント教育、円滑な労働移動促進、同一労働同一賃金の徹底

◆ 多様な働き方の推進

- ・ジョブ型の雇用形態、裁量労働制、副業・兼業、選択的週休3日制度
- ・良質なテレワーク促進、フリーランスが安心して働ける環境の整備

◆ 質の高い教育

- ・給付型奨学金等を多子世帯等の中間層へ拡大、柔軟な返還・納付（出世払い）
- ・大学等の機能強化（成長分野への再編促進、自然科学（理系）分野の学生割合の目標設定（5割程度など）、文理の枠を超えた人材育成）

◆ 賃上げ、最低賃金の引上げ

- ・賃上げ機運の一層の拡大（事業再構築・生産性向上等支援、適切な価格転嫁の環境整備）
- ・できる限り早期に最低賃金が全国加重平均1000円以上になることを目指す

◆ 「資産所得倍増プラン」

- ・NISAの抜本的拡充、iDeCo制度の改革等の政策を総動員し、本年末に総合的な「資産所得倍増プラン」を策定

(2) 科学技術・イノベーションへの投資

- ・量子、AI、バイオテクノロジー・医療分野へ官民連携による投資の抜本拡充
- ・宇宙・海洋分野の取組の強化
- ・世界と伍する研究大学の実現に向けたガバナンス体制の確立、規制改革地域中核大学等における産学官連携など戦略的経営の抜本強化
- ・若い人材に対する支援の強力な推進（研究に専念できる支援策の深化、「トビタテ！留学JAPAN」の発展的推進を含む国際頭脳循環の活性化）

(3) スタートアップ（新規創業）への投資

- ・実行のための司令塔機能を明確化、5年10倍増を視野にスタートアップ育成5か年計画を本年末に策定
- ・資金調達環境整備（IPOプロセス見直し、ベンチャーキャピタル投資拡大）
- ・起業を支える人材の育成や確保、経営人材等のマッチングの支援
- ・研究開発・販路開拓の支援、オープンイノベーションの活性化

(4) グリーン転換（GX）への投資

- ・官民連携の下、クリーンエネルギー戦略中間整理に基づき、脱炭素に向けたロードマップを年内に取りまとめる
- ・150兆円超の官民投資を実現ため、「成長志向型カーボンプライシング構想」を具体化の中で、政府資金を将来の財源の裏付けをもった「GX経済移行債（仮称）」で先行調達し、予見可能な形で投資支援に回していくことと一体で検討
- ・「規制・支援一体型の投資促進策」の具体化、GXリーグの段階的発展・活用、トランジション・ファイナンスなどの新たな金融手法の活用
- ・地域脱炭素の加速化（人材育成、脱炭素経営向上、資金供給等）

(5) デジタル転換（DX）への投資

- ・今後3年間で「デジタル原則に照らした規制の一括見直しプラン」に基づく法令等の見直しを行い、デジタル原則への適合を目指す
- ・自動運転車や空飛ぶクルマ、物流・人流分野のDX・標準化、MaaS、テクノロジーマップ、バンダーロックイン解消検討、サイバーセキュリティ戦略
- ・行政のデジタル化推進、マイナンバーカードの普及
- ・医療・介護等にかかるデータ・プラットフォームの整備
- ・「自治体DX推進計画」の改定、地方自治体のデジタル化推進

3

経済財政運営と改革の基本方針2022 第2章②

II.新しい資本主義に向けた改革

2. 社会課題の解決に向けた取組

(1) 民間による社会的価値の創造

◆ PPP/PFIの活用等による官民連携の推進

- ・新たなアクションプランに基づき、取組を抜本強化。今後5年間で「重点実行期間」とし関連施策を集中投入。PFI推進機構の機能も活用・強化
- ・スタジアム・アリーナ、文化施設、交通ターミナルへのコンセッションの導入

◆ 社会的インパクト投資、共助社会づくり

- ・社会的起業家の支援強化、民間で公的役割を担う新たな法人形態の検討
- ・休眠預金法施行5年後見直しに際して必要な対応実施、PFS/SIB推進に向けた環境整備、NPO法人の活動促進、官民連携による協働促進

◆ イノベーションを促す競争環境の整備

- ・取引慣行の改善や規制の見直しを提言するアドボカシー（唱導）機能の強化

(2) 包摂社会の実現

◆ 少子化対策・子ども政策

- ・「子ども家庭庁」の創設、ライフステージに応じた総合的な取組の推進、日本版D B Sの導入、子どもの貧困解消、改正児童福祉法の円滑な施行
- ・子ども政策について、必要な政策を体系的に取りまとめ、充実を図る。必要な安定財源は、社会全体での費用負担の在り方を含め幅広く検討

◆ 女性活躍

- ・男女間賃金格差の開示義務付け、男性の育児休業取得促進、女性の参画拡大、困難な問題を抱える女性に対する支援、女子学生等の理工系分野の選択促進

◆ 共生社会づくり

- ・包括的支援体制の整備、生活困窮者への自立相談支援等の強化
- ・認知症や障害者等に対する支援、性的マイノリティへの理解促進

◆ 孤独・孤立対策

- ・社会的処方活用の活用、ひきこもり支援、自殺総合対策
- ・地方における官民連携プラットフォームの形成に向けた環境整備

◆ 就職氷河期世代支援

- ・2023年度からの2年間で第2ステージ上位置付け、正規の雇用者の30万人増を目指す

(3) 多極化・地域活性化の推進

◆ デジタル田園都市国家構想

- ・スマートシティの実装、5G・光ファイバ等通信インフラの更なる整備、ポスト5G/Beyond5G、2026年度末までにデジタル推進人材230万人育成

◆ 分散型国づくり・地域公共交通ネットワークの再構築

- ・物流・人流ネットワークの早期整備・活用、リニア中央新幹線の整備促進、港湾におけるAIターミナルの実現、航空ネットワークの維持・活性化
- ・地域公共交通ネットワークの再構築、自動運転等のインフラ整備

◆ 多極化された仮想空間へ

- ・Web3.0、NFT、メタバースなど消極型のデジタル社会の実現に向けて必要な環境整備

◆ 関係人口の拡大と個性を活かした地域づくり

- ・関係人口の実現型モデル、ふるさと納税、サテライトオフィスの整備、沖縄・北海道振興

◆ 中堅・中小企業の活力向上

- ・事業再構築・生産性向上支援、取引適正化、地域企業でのDX実現

◆ 債務が増大している企業や家計への対応

- ・債務減免を含めた債務整理等の収益改善・事業再生・再チャレンジの支援、新たな事業再構築法制の整備、緊急小口資金等の償還免除

◆ 観光立国の復活

- ・国内需要喚起策、観光地・観光産業の再生・高付加価値化
- ・インバウンドの戦略的回復、CIQ等の受入環境の整備、水際対策

◆ 文化芸術・スポーツの振興

- ・日本の文化芸術・コンテンツの魅力の内外への発信・展開、スポーツの成長産業化

(4) 経済安全保障の徹底

- ・エネルギーや食料を含めた経済安全保障の徹底、自由貿易推進と不公正な経済活動への対応強化

経済財政運営と改革の基本方針2022 第3章

Ⅲ.内外の環境変化への対応

1. 国際環境の変化への対応

(1) 外交・安全保障の強化

- ・安全保障環境が一層厳しさを増す中、外交・安全保障双方の大幅な強化
- ・**国際秩序の維持・発展のための外交を積極展開**（日米同盟を軸に豪印等の国・地域と協力の深化、ODAや実施体制など外交力を強化）
- ・**新たな国家安全保障戦略等の検討を加速し、防衛力を5年以内に抜本的に強化**。令和5年度予算については、予算編成過程において検討。

(2) 経済安全保障の強化

- ・経済活動の自由との両立を図りつつ、安全保障に関する経済施策を総合的・効果的に推進
- ・**経済安全保障推進法の着実な施行、サプライチェーン・官民技術協力関連施策は先行して可能な限り実施**

(3) エネルギー安全保障の強化

- ・省エネ促進、再エネ、原子力など**エネルギー安全保障に寄与し、脱炭素効果の高い電源を最大限活用**
- ・電力ネットワークやシステムの整備、サプライチェーン維持・強化、安全最優先の原発再稼働、実効性のある原子力規制、原子力防災体制の構築

(4) 食料安全保障の強化と農林水産業の持続可能な成長の推進

- ・生産資材の安定確保、飼料や小麦、米粉等の生産・需要拡大、食品原材料・木材の国産への転換等を図るとともに、肥料価格急騰対策の構築を検討。**食料の安定供給確保に必要な総合的対策の構築に着手**
- ・**みどり戦略実現、輸出促進(2030年5兆円目標)、スマート農林水産業の実装**

(5) 対外経済連携の促進

- ◆ **国際連携の強化**
 - ・自由で公正な経済圏の拡大、ルールに基づく多角的貿易体制の維持・強化
 - ・世界のSDGs達成に貢献
 - ・**国際的ルールづくり、国際連携（DFFT、TPP11、RCEP、IPEF等）**
 - ・サプライチェーンにおける人権尊重、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成
- ◆ **対日直接投資の推進**
 - ・2030年に80兆円の目標達成に向け、**投資先としての魅力向上**
 - ・経済安全保障の観点にも留意しながら、**DX・GXの推進等に資する支援**
 - ・国際金融センターの機能強化、国際仲裁の活性化
- ◆ **外国人材の受け入れ・共生**
 - ・高度外国人材の受け入れ・活躍推進、技能実習制度の運用適正化
 - ・外国人との共生社会実現に向けた取組（外国人が暮らしやすい地域づくり等）

2. 防災・減災、国土強靱化の推進、東日本大震災等からの復興

- ◆ **防災・減災、国土強靱化**
 - ・必要・十分な予算を確保し、引き続き、「5か年加速化対策」等を推進
 - ・5か年加速化対策後も、**中長期かつ明確な見通しの下、継続的・安定的に国土強靱化の取組を進める重要性等を勘案し、次期「国土強靱化基本計画」に反映**
- ◆ **東日本大震災等からの復興**
 - ・被災地の復興・再生に全力を尽くす

3. 国民生活の安全、安心

- ・テロの未然防止、**インテリジェンス機能強化を含むサイバーセキュリティ対策**、マネロン・テロ資金供与・拡散金融対策、有事への国民保護施策
- ・**次期「再犯防止推進計画」の策定**、予防司法支援機能・総合法律支援の充実・強化、司法分野のデジタル化、第4次犯罪被害者等基本計画を基として、取組強化、司法外交の推進
- ・**消費者の判断を歪めるようなデジタル広告対応の制度整備等消費者政策**

経済財政運営と改革の基本方針2022 第4、5章

Ⅳ.中長期の経済財政運営

中長期の視点に立った持続可能な経済財政運営

- ・財政健全化の「旗」を下ろさず、これまでの財政健全化目標に取り組む。経済あつての財政であり、現行の目標年度により、**状況に応じたマクロ経済政策の選択肢が歪められてはならない**。必要な政策対応と財政健全化目標に取り組むことは決して矛盾するものではない。経済をしっかりと立て直し、そして財政健全化に向けて取り組んでいく。ただし、感染症及び直近の物価高の影響を始め、**内外の経済情勢等を常に注視していく必要がある**。このため、**状況に応じた必要な検証を行っていく**。
- ◆ **官民連携による計画的な重点投資の推進**
 - ・計画的な投資と課題解決に必要な制度改革を含めた**ロードマップを官民で共有し、それに基づいて、必要な財源を確保しつつ、事業の性質に応じた基金や、税制も活用しながら、大胆な重点投資を、官民連携の下で中長期的かつ計画的に推進する**。
- ◆ **単年度予算の弊害是正**
 - ・**単年度主義の弊害を是正し**、国家課題に計画的に取り組む。事業の性質に応じた**基金の活用等や、年度を跨ぐ予算執行が可能となるよう柔軟・適切に対応**。
- ◆ **持続可能な債務管理に向けて**
 - ・今後も、**安定的な国債の借換えのための環境を実現していく必要**。債務残高対GDP比をコントロールしていく観点からも**名目成長率を高めることが重要**。
- ◆ **効果的・効率的な支出の推進とEBPMの徹底強化等**
 - ・**ワズヘディング**の推進に向けて、**見える化、インセンティブ改革**等の抜本強化。
 - ・**行政事業レビューシートの予算編成時の活用**、基金等のPDCA推進
 - ・**経済社会の構造変化に対応した税制改革**

個別分野の改革

- ◆ **持続可能な社会保障制度の構築**
 - ・全世代型社会保障の構築に向けて、世代間の対立に陥ることなく、全世代にわたって広く基本的な考え方を共有し、**国民的な議論を進めていく**。
 - ・全世代型社会保障構築会議で、2040年頃を視野に、**短期的及び中長期的課題を整理し、中長期的な改革事項を工程化した上で、政府全体で取組を進める**。
 - ・総理を本部長とする「**医療DX推進本部（仮称）**」の設置や**保険証の原則廃止を目指した取組の推進**、良質な医療を効率的に提供する体制を整備。
- ◆ **生産性を高め経済社会を支える社会資本整備**
 - ・インフラのオープン化・データ連携、i-Constructionの推進など、**インフラ分野のDXを加速**
 - ・**中長期的な見通しの下、今後も必要な事業量を確保しつつ、実効性のあるPDCAサイクルを回しながら、社会資本整備を着実に推進**
- ◆ **国と地方の新たな役割分担**
 - ・国・地方間、自治体間の**役割分担等の在り方を明確化する検討を進める**
 - ・法令上新たな法制度策定の義務付け・枠付けを定める場合には必要最小限とする
- ◆ **経済社会の活力を支える教育・研究活動の推進**
 - ・**教育DXと連動した教育のハード・ソフト・人材の一体改革**、学びの基盤的な環境整備
 - ・**国際性向上等による研究の質及び生産性の向上**

Ⅴ.当面の経済財政運営と令和5年度の予算編成に向けた考え方

- ・令和5年度予算において、**本方針及び骨太方針2021に基づき、経済・財政一体改革を着実に推進する**。ただし、**重要な政策の選択肢をせばめることがあってはならない**。
- ・**新しい資本主義の実現に向け、「人への投資」、「科学技術・イノベーションへの投資」、「スタートアップへの投資」、「GXへの投資」、「DXへの投資」の分野について、計画的で大胆な重点投資を官民連携の下で推進する**。
- ・事業の性質に応じた基金の活用等や、年度を跨いだ予算執行が可能となるよう柔軟かつ適切に対応すること等により、**単年度主義の弊害是正に取り組む**。コロナ禍での累次の補正予算の使い道や成果を**見える化する**とともに、**EBPMやPDCAの取組を推進し、効果的・効率的な支出（ワズヘディング）を徹底する**。

2. 新制大学設立以降の住居学科の教育について —卒業生調査に基づく考察—

大塚 順子

1948年に日本女子大学が新制大学として設立され、住居学科の前身となる生活芸術学科が誕生してから2018年には70年目を迎えた。その間、1962年に住居学科が発足し、1996年の生活・建築コース設置、2001年の居住環境デザイン専攻と建築環境デザイン専攻の設置を経て現在の体制となり、科目数や単位の変更に、住居学科の教育にかかわるカリキュラムの検討が重ねられてきた。住居学科が輩出した卒業生は、幅広い分野で活躍しているが、建築家や研究者も多く社会的に高い評価も得られている。ここでは、そうした卒業生を対象とした調査を元に、住居学科の教育について考察する。

1. 調査の目的と概要

卒業生に関する調査は、卒業生同窓会組織である「住居の会」によって、1990年に「住居学科卒業生実態調査」(以下、1990年調査)を行っており、「卒業生白書 一二八三七七人からのメッセージ」としてまとめられている。この調査では、日本女子大学の住居学科の変遷や住居教育の意義を踏まえた卒業生の実態把握とカリキュラムの変遷が明らかにされた。その後、目立った調査は行われてこなかったことを踏まえ、その後の卒業生の実態把握とカリキュラム変遷を改めて検証する調査を実施した。調査概要を表1に示す。特に、学科発足以降の学科の変遷とカリキュラム体系を分析すること、在学時の学びが卒業後どのように活かされているのかを把握し、住居教育の意義等を明らかにすることの2点を主な目的とした。

2. 調査結果

(1) カリキュラムから見た住居学科の変遷

カリキュラムを見ると、科目数・内容・種類は大きく変化していることが確認できた。特に、大きな契機となったのは、①1962年：住居学科誕生、②1996年：生活・建築コース設置、③2001年：居住環境デザイン専攻・建築デザイン専攻設置の3時点であった。住居学科の変遷、カリキュラム(科目数・必修数・変化)について図1に示す。

①科目数の推移

カリキュラム科目数については、生活芸術科時代は各年毎に増減が激しく、最も少なかった1949年は7科目、最も多かった1960年は22科目とばらつきがあり、授業科目の設定に模索的な時期であったことがうかがえる。住居学科が誕生してからは、年々科目数が緩やかに増加し、1978年には大学院修士課程、1992年には大学院博士課程が設置され、住居学科としてカリキュラムが定着していることが分かった。その後の大きな変化は、1996年の生活・建築コースの設置で、科目が共通・生活学関連・建築学関連に分化したことでカリキュラムが60科目程度と大幅に増加している。これまで、必修・選択の2構成であったが、コース設置に伴い、選択必修が追加され、学生の科目選択の自由度が大幅に拡大されたことが分かる。さらに、2001年の居住環境デザイン専攻・建築デザイン専攻設置後は、専攻別に取得する単位種類が分けられ、専攻ごとのカリキュラム構成と変更

表1 調査概要

1. カリキュラム分析		
日本女子大学で作成している「履修便覧」(1994.1995年)、「履修の手引き」(1996~2018年)のそれぞれの中から家政学部住居学科に該当する部分を抽出し、内容を分析した。併せて、日本女子大学住居学科同窓会住居の会が出版した「卒業生白書一二八三七七人からのメッセージ」(1994年)のうち、住居学科教育の系譜「カリキュラムの変遷」部分を併せて分析した。		
2. アンケート調査		
	1990年調査*1	2018年調査
調査対象	1 回生~40回生 対象2575人のうち、連絡先が判明していた2430人	1 回生~68回生 対象3648人のうち、連絡先が判明していた3590人
調査方法	郵送による配布回収	郵送による配布回収
回収状況	1151部(回収率44.7%) 有効回答1138部、無効13部	879部(回収率24.5%)
主な調査内容	①住居学科を選んだ理由 ②卒業からの現在の状況 ③現在の家族や生活について ④卒業当初の進路 ⑤日常生活に関する事柄 ⑥今後の希望・意見	①基本情報 ②現在の状況について ③新卒時の状況について 卒業後の進路など ④住居学科在学中について 進学理由・住居学科での学びについて

*1 1990年調査については、これまでの経緯や変化を比較分析するため既往調査(日本女子大学住居学科同窓会住居の会出版「卒業生白書一二八三七七人からのメッセージ」(1994年))を利用した。

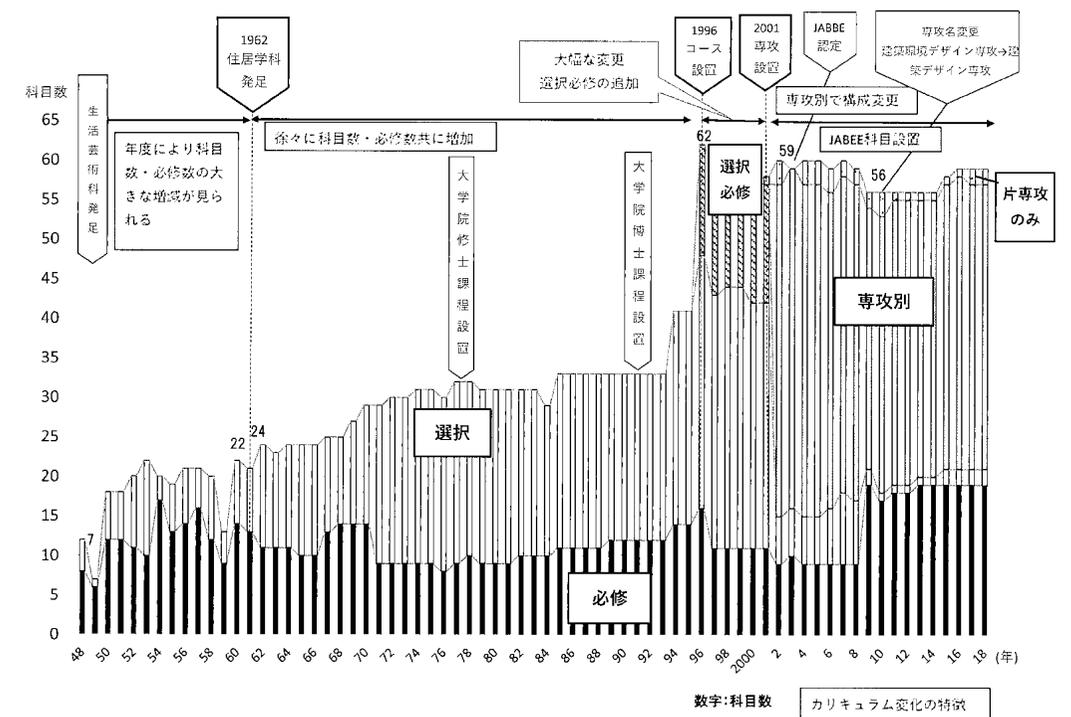


図1 住居学科の変遷とカリキュラム(科目数・必修数・変化)

表2 カリキュラム科目分類の変遷

主な状況	特徴	カリキュラム構成
1948	家政学部生活芸術学科発足	住居学（基礎学・住居学・被服学の3つの学びの1つ）
1962	住居学科発足	科目分類なし *1
1969	カリキュラム科目の分化 科目3分類化	・住生活関係 ・住居計画関係 ・住居機構関係
1971	共通項目の追加 科目4分類化	・住生活関係 ・住居計画関係 ・住居機構関係 ・共通
1985	カリキュラム科目の整理 科目5分類化	・住生活関係 ・住居計画関係 ・住居機構関係 ・住居意匠関係 ・共通
1996	生活・建築コース設置 コース理念*1の反映	・共通 ・住生活関係 ・建築学関係 ・その他（卒業論文・卒業制作）
2001	2専攻設置 居住環境デザイン専攻 建築環境デザイン専攻	・共通 【専攻ごと】 ・専門科目 ・その他（住居学演習 卒業論文・卒業制作）

*1

生活学コース理念：国内外の住居及び生活環境を、歴史、地域時代の生活、さらに社会の潮流、生産といった様々な側面から学ぶ。このコースで将来を見据えながら生活周辺の情報を幅広くとり入れ、社会とのコミュニケーションがはかれる能力、住環境の分析的・総合的な理解力と想像力を培うことを目的としている。なお、住生活、住居管理、住環境計画、住宅政策、住宅デザインなどに関する専門的な立場から、住文化の向上に貢献できる人材を育成する。

建築学コース理念：住居学科の理念を踏まえつつ、住居から都市までの物理的な生活空間の工学的、芸術的側面を学び、居住環境の向上を目的とした創造性豊かな建築設計者、建築技術者、プランナーおよび研究者を養成する。

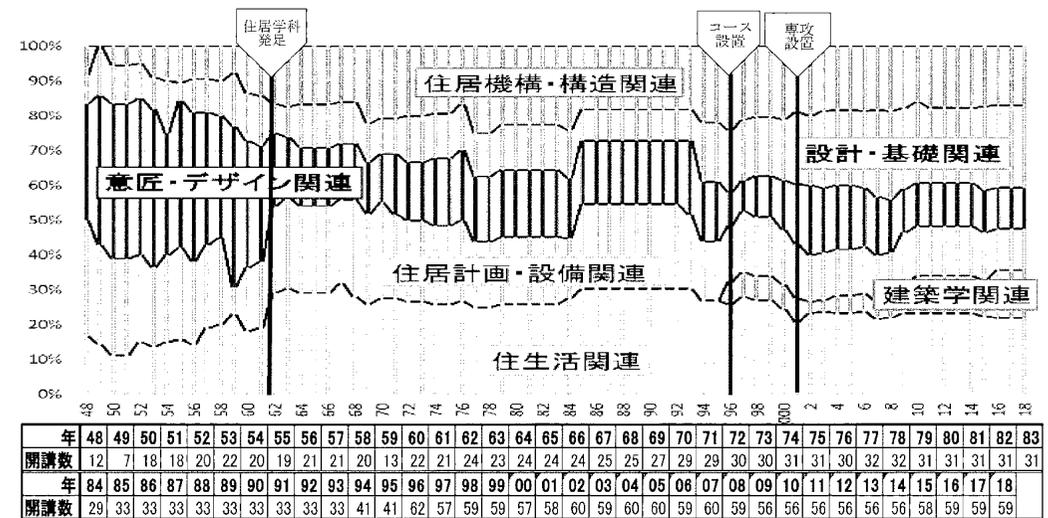


図2 分野別科目数の推移

—設置の趣旨(資料)—
—14—

なっている。また、2004年には、前年に認可されたJABEE科目が追加された。これに伴い、選択必修は共通科目にはなくなり、専攻ごとに分けられた。その内訳をみると、科目数全体の変化はほとんどないものの、建築環境デザイン専攻が建築デザイン専攻に名称変更した2010年を境に、必修と選択必修の科目数のバランスが大きく変化し、学生の履修選択の自由度が高くなっていた。

②科目構成の推移

カリキュラム構成（表2）をみると、生活芸術科発足時の基礎学・住居学・被服学の3つの学びの1つとして存在した住居学から、その内容ごとに分化してきたことが確認できた。1992年に住居学科が誕生するが、その当時に科目構成の分類はなく、1969年に住生活学関係・住居計画関係・住居機構関係の3つに分化、1971年に共通が加わり4つに分化、1985年にさらに住居意匠関係が加わり、5つに分化していく。その後、カリキュラム構成が大きく変化した1996年には、新たに設置されたコース理念を反映させた科目構成に変更になった。これまでとは違い、基礎意匠や基礎製図といった基礎関連科目と住居史などの一部科目が、コース全体の基礎科目として位置づけられ、住生活関係・住居計画関係・住居意匠関係が生活学関係に、住居機構関係が建築学関係に分化した。2001年には、専攻が設置されるが、同年の専門科目は休講であったため、実質的には2002年より専攻が生まれたが、共通項目はほとんど変更なく、それ以外が専攻ごとに別々の単位種類として設定された。1996年にコースが設置されてからは、カリキュラム内容の分化は見られず、資格取得など

を視野にいた人材養成のための構成となっていた。

③内容分類

カリキュラム内容は、主に住生活関連、建築学関連、住居計画・設備関連、意匠・デザイン関連、住居機構・構造関連、設計・基礎関連の6つに分類でき、その科目数割合の推移は図2のようになった。（カリキュラム内容から構成を定めていたのは1995年までのため、それ以降については、1995年までの5つの科目構成をもとに独自ルールにて分類を行った。）

住生活関連は、住居学科発足以降は、安定的に20%前後を占め、生活と住居のかかわりを学ぶ住居学科の中核を担う科目であることが分かる。住居計画・設備関連と意匠・デザイン関連は、生活芸術科時代は、比較的多いものの、住居学科発足以降は次第に減少する一方で、設計・基礎関連が増加傾向にあることがわかる。特に生活・建築コースが設置された1996年前後には、設計・基礎関連の科目が大きく増加した。意匠・デザイン関連科目も同時期に増加傾向にあるが、現在は減少している。この背景には、58回生（2005年）より建築士等の受験資格を実務要件2年で取得できるように制度改正されたことから、徐々に卒業後の実務に活かすことのできる設計技術等のハード面に力を入れる様に変化したものと考えられる。

科目内容ごとの単位種類については、住生活関連科目は、専攻分化した2002年以降も必修、専攻別のバランスを保ちながら構成されている。建築学関連は、1996年のコース設置により新たに加わり、2専攻になるまでは、選択と選択必修のみの履修選択の自由度が高い構成であったが、専攻分化以降は必修科目も設けられ重要度が増加している。住居計画・設備関連は、2専攻分化後は、専攻別と必修のみで構成されている。意匠・デザイン関連は、1970年頃まで必修があるものの、その後選択のみで構成され、1985年から1996年まで必修が復活しているが、コース設置後は必修ではなくなっている。住居構造・構造関係は、生活芸術科時代が選択のみ、必修のみと定まらない状態であったが、住居学科誕生後は、必修・選択のバランスを保ちながら2010年頃より必修が急増している。設計・基礎関連は、ほとんどが必修で構成され重要な科目として位置づけられて来たことが分かった。

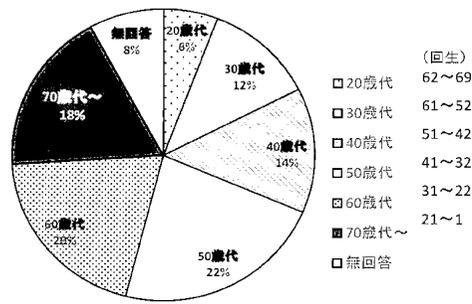


図3 回答者の年齢内訳 (調査回答時) (n=886)

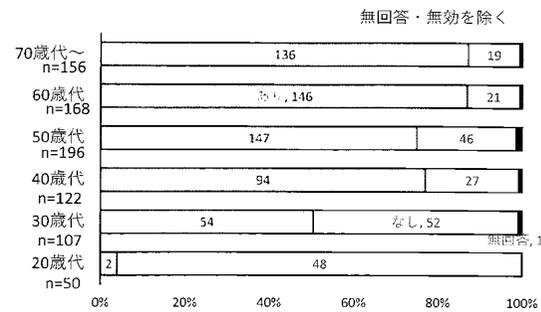


図4 年代別 子育て経験の有無

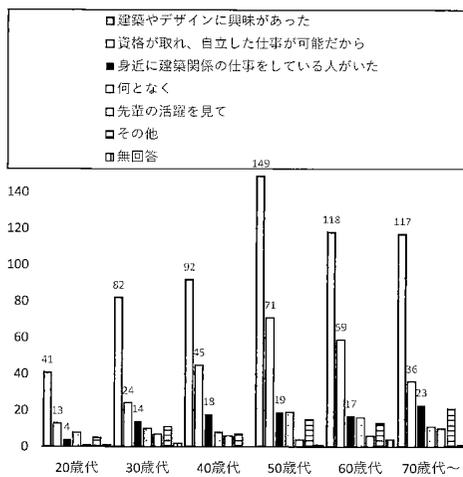


図5 住居学科への進学理由 (複数回答)

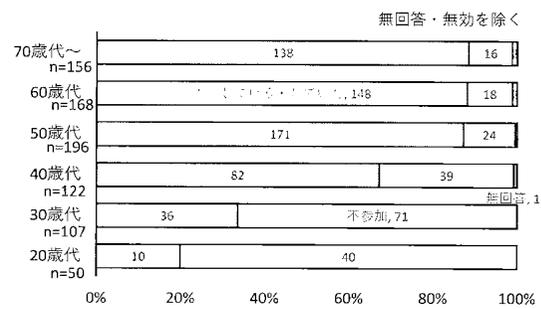


図6 年代別 地域・社会活動への参加

単位種類の視点から見ると、全体的に必修の割合は少なくなり、選択や選択必修、専攻別の割合が大きくなり、学生の履修選択の自由度が増しているといえる。意匠・デザイン関連の科目数の減少と必修科目からの変更、設計・基礎関連科目数の増加と必修設定の増加は、特に資格取得なども視野に入れ、こういった人材を育成していくのかを重視したカリキュラム変更であったと考えられる。

(2) 住居学科卒業生の実態

①調査対象卒業生の概要

アンケートは、住居学科同窓会「住居の会」の会員である1~68回生3590人を対象とし、879人から回答を得た(回収率24.5%)。回答は、30~40回生からの回収数が高かった。年齢では、50歳代(32~41回生)が22%と最も多かったが、各年代ともに15%程度の回収を得た(図3)。家族構成では、「夫婦と子ども」(34%)が最も多く、次いで「夫婦のみ」(30%)が多かった。また、子育て経験者が70%を占めていた(図4)。住居学科への進学理由(図5)については、「建築やデザインに興味があった」が最も多く、次いで「資格が取れ、自立した仕事が可能だから」となってい

た。現在所有している資格については、「一級建築士」「二級建築士」が多くなっていったが、1990年調査と比較すると「その他」が25%を超えており、多様な資格が増え、受験機会も増加したことが影響しているものと推察される。

②大学での学びについて

ここでは、①住居学科での学びの中で得られたことや印象的だったこと、②大学で住居学科に所属したことが活きた出来事の2点に着目する。

①住居学科での学びの中で得られたことや印象的だったことについては、「授業」「先生」「課題類(ワークショップを含む)」「その他」に項目分けをして自由記述にて回答してもらったところ58%の回答が得られた。最も記入が多かったのは「授業」に関する項目で、ついで「先生」「課題」の順であった。

また、②大学で住居学科に所属したことが活きた出来事の有無については、66%があると回答した。こちらも「仕事」「家庭」「個人」「地域」「その他」の5項目について自由記述にて回答してもらったところ、「仕事」に関する記入をした人が最も多く、次いで「個人」「家庭」と多くなっていた。

さらに、得られた自由記述全てについて、1948年~2018年に存在した授業名(関連するキーワードを含む)で検索を行い、科目に関する自由記述の内容を分析した(表3、4)。学科の学びの中で影響を受けたことや印象的だったことの授業名検索では、自由回答総数のうち、「設計・基礎関連」に関する科目についての回答が37.4%と最も多く、さらに「意匠・デザイン関連」に関する科目が14.0%であった。

設計・基礎関連の回答の項目分類では、「授業」「課題」の項目に多くの記述がみられた。「授業」に関する記述内容の詳細(表7)を見ると、建築家の非常勤講師の授業を受講できたことに関する意見が多かった。また、設計の授業を通じて、住居学科としての生活者の目線などの考え方を学んだと回答している人も多くいた。「課題」では、共同設計により培われたチームワークに関する記述が目立った。学生は設計・基礎関連の授業から、多数の教員を通じて建築に対する考え方、特に住居学科ならではの生活者の視点を学び、課題を通じてチームワークやスケジュール管理能力を得ていることが把握できた。

意匠・デザイン関係の科目は、前述のカリキュラム分析でも触れたように、必修科目だったのは1970年代頃までで、その後、選択や必修以外の科目として構成されていたが、学生の印象に残る授業であったため、自由記述での回答が比較的多かったと考えられる。

また、大学での学びが活きた経験についての授業名検索でも、「設計・基礎関連」に関する自由記述が最も多く37.0%で、技術的に役立ち、仕事や日常生活に生かせるスキルや知識となって評価されていることが分かった。「設計・基礎関連」に関する項目分けでは、「仕事」の項目について回答が多く、ついで「家庭」「個人」でも回答が多かった。設計や建築系の業種で働く幅広い卒業生にとって住居学科の学びが活かされている状況が把握できた。記述内容の詳細を見る(表7)と、実際に「スキルとして役立った」という回答の一方で、「実務的なことを学びたかった」という感想もあった。また、「職場での人脈づくりに住居学科の知名度等が役立った」という回答も見られた。

意匠・デザイン関連については、大学での学びで得られたこと、印象的だったことに比べると学びが活きたという回答は少なく、「インテリアデザイン」「図学」などがあるにもかかわらず30歳代以下での回答はなく、回答者に偏りがあることが分かった。意匠・デザイン関連の自由記述内容で

表3 学科の学びで得られたこと・印象的だったこと (n=513)

授業名 検索ワード	総計	授業名 検索ワード	総計
住生活 (総計)	17 (3.3%)	意匠 (総計)	72 (14.0%)
住宅問題	1	図学	4
住宅放棄	1	インテリアデザイン	3
住居史	10	基礎意匠	46
建築法規	1	絵画デッサン	3
住生活 (学)	4	* 意匠	62
建築学 (総計)	14 (2.7%)	機構 (設計)	5 (1.0%)
* 建築学	10	力と形	3
日本建築史	2	建築構法	1
西洋建築史	2	建築構造	1
住居計画 (総計)	11 (2.1%)	設計 (総計)	192 (37.4%)
都市計画	7	* 設計	149
造園学	1	住居学概説	1
建築計画	1	設計製図	34
ランドスケープ	1	建築設計	3
住居設備	1	住宅設計	5

表5 住居学科の学びで得られたこと・印象的だったこと

授業名 検索ワード	授業	先生	課題	その他	総計
設計 (総計)	55	26	89	22	192
設計	42	18	73	16	149
設計製図	11	7	14	2	34
建築設計	0	1	1	1	3
住宅設計	2	0	1	2	5
住居学概説	0	0	0	1	1

【意匠・デザイン関係】

授業名 検索ワード	授業	先生	課題	その他	総計
設計 (総計)	40	4	24	4	72
図学	2	1	0	1	4
インテリアデザイン	2	1	0	0	3
基礎意匠	27	1	17	1	46
絵画デッサン	1	0	1	1	3
意匠	8	1	6	1	16

表4 大学での学びが活きた出来事 (n=579)

授業名 検索ワード	総計	授業名 検索ワード	総計
住生活 (総計)	9 (1.6%)	意匠 (総計)	14 (2.4%)
住居史	2	図学	1
ライフスタイル (論)	3	図法	1
居住環境 (論)	1	インテリアデザイン	3
住宅政策	1	基礎意匠	5
住生活 (学)	2	* 意匠	9
建築学 (総計)	15 (2.6%)	機構 (総計)	0 (0.0%)
* 建築学	15		
住居計画 (総計)	10 (1.7%)	設計 (総計)	214 (37.0%)
都市計画	7	* 設計	182
ランドスケープ	1	設計製図	6
建築環境	1	建築設計	9
環境工学	1	住宅設計	17

* 授業科目ではないが検索キーワードとしたもの。
・ 総計は、得られた自由回答総数に対する該当回答数の割合 (複数回答)

表6 住居学科の学びが活きたこと

授業名 検索ワード	仕事	家庭	個人	地域	その他	総計
設計 (総計)	97	53	21	3	8	182
設計	69	50	21	3	7	150
設計製図	5	0	0	0	1	6
建築設計	7	2	0	0	0	9
住宅設計	16	1	0	0	0	17

【住居学科での学びで得られたこと・印象的だったこと】

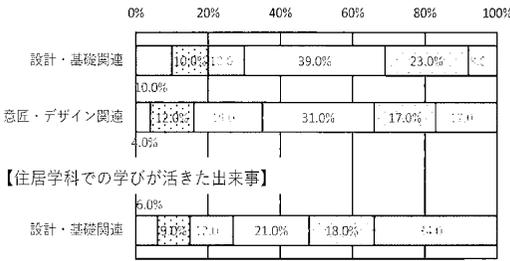


図7 回答者状況

表7 大学での学びが活きた出来事

回生	歳	現在の仕事			新卒時		授業
		仕事	業種	内容	業種	内容	
14	70歳代~	就労中	建築設計 (主に共同住宅)	設備設計	設計事務所等	設備設計	一級建築士などの資格を取り、卒業時から約50年間設備設計の仕事ができたこと。途中で自衛に切り替えたため、仕事量が自分で調節できたこと。
67	20歳代	就労中	リフォーム・リノベーション	リフォーム・営業・設計、施工管理、事務	リフォーム・リノベーション	リフォーム・営業・設計、施工管理、事務	図面の基本的な意味が分かる。お客様が学科をご存じで、一目置かれる。モノの寸法が大まかに分かり、設計に活かせる。現在の仕事に出会えたこと。先輩が多く就職していた。
33	50歳代	就労中	その他	不動産関連	無回答	建築設計 (一般)	新卒時、建築設計業についてが図面が期待されているようにつけず、もっと勉強しておくべきだったと大変つらい思いをした。大学で、もっと実務的なことを教えて頂けたらと当時は思った。大学での学習は社会につながりにくく、もっと実社会とつながった勉強や情報が欲しかった。
65	20歳代	就労中	その他	一般事務	リフォーム・リノベーション	建築設計 (主に個人住宅)、営業	設計課題を通して、建築がただそこにあるのではなく地域と密接に関係しているものだと理解し、そんな建築を自分も実現していきたいと思った。
37	50歳代	就労中	建設会社 (ゼネコン)	積算・見積	建設会社 (ゼネコン)	積算	設計製図で建築家の非常勤講師からデザインに対する考え方を学んだ。
31	60歳代	非就労			建設会社 (ゼネコン)	設備設計	住生活について、生活の目線からの設計を考えていくことは、住居学科ならではの学びだった。
45	40歳代	就労中	官公庁・公社等 (建築)	建築設計 (主に共同住宅) 等	官公庁・公社等 (建築)	現場設計・管理	建築設計Ⅲで有名な建築家の非常勤講師などとの交流が出来たこと。
65	20歳代	就労中	不動産会社	一般事務	不動産会社	一般事務	設計の授業では、提出日までに課題を終わらせるスケジュール管理の大切さを学んだ。

【意匠・デザイン関係】

回生	歳	現在の仕事			新卒時		授業
		仕事	業種	内容	業種	内容	
38	50歳代	就労中	設計事務所	建築設計 (構造)	建設会社 (ゼネコン)	建築設計 (一般)	住まい方使い方を考えながら設計するということが、図学、基礎医療、構造、設備全ての授業が役にたった。
不明	不明	就労中	設計事務所 (自営)	建築設計	無回答	建築設計	大学では主に意匠等のデザインを勉強し、図面を見て、それを立体的な空間として想像することが出来るのがとても役に立っています。
43	40歳代	就労中	作家 (建築以外)	ガラスクラフト	就職しなかった		基礎意匠のデザインの勉強が役にたった。
41	50歳代	就労中	広告・マスコミ	編集	百貨店	販売	意匠などで学んだデザイン系の仕事のセンスが割と身についている。
46	40歳代	非就労			教育・研究機関	研究室秘書・総務	Webデザインなどに生かされました。
不明	不明	就労中	エネルギー	企画・調査	エネルギー	企画・調査、営業	住宅関連の仕事に就いた際の書類作成時に、基礎意匠で学んだことが活かされました。(どうすれば美しくすっきり見えるかな等)

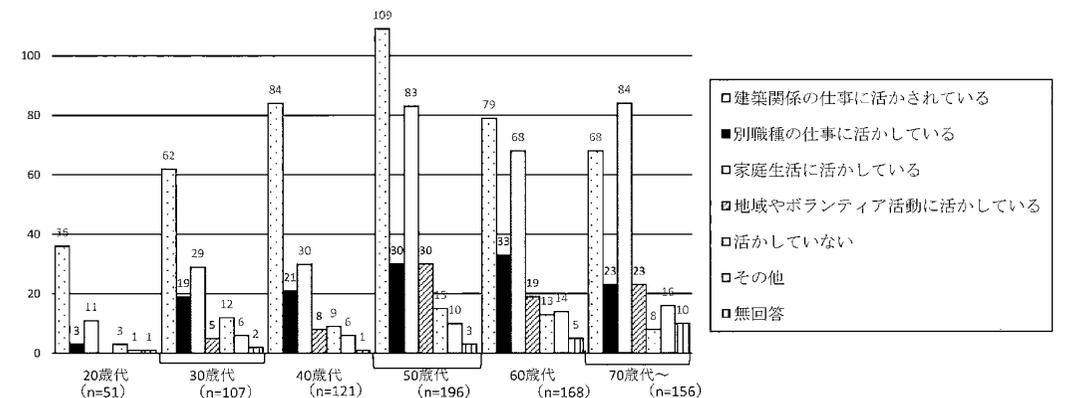


図8 住居学科で学んだことの活用方法

は、「授業」の項目で、「1年生の最初の方に美術的な学びや表現方法を学ぶことができた」という意見が多かった。デザインや建築を学ぶ上での緩やかなきっかけとなっていたということがうかがえる。

住居学科で学んだことの活用方法についてみると (図8)、50歳代、60歳代では、「建築関係の仕事に活かされている」が最も多く、次いで「家庭生活に活かしている」が多くなっている。70歳代

表8 住居学科で学んだことが活かすことに関する回答

検索キーワード	仕事	家庭	個人	地域	その他	総計	主な回答(抜粋)
仕事	176	41	52	12	21	302	・大学で勉強したことを活かして、仕事でも活躍できた ・学んだことを活かせることが、60歳まで仕事を通してできたこと ・私なりに充実した仕事人生を過ごせたこと ・女性が仕事をする上で、一級建築士の資格を取ったことが強みだった。一生(中断は多少あったが)の仕事になりえた原点は住居科に所属したことだと思う。
資格	38	6	18	1	2	65	・資格を持ち、長く仕事を続けている友人が身近にすることで、職業を持ち続ける女性の生き方に偏見がない ・一級建築士取得で自信が持てる人生を送っている。
技術	21	3	2	2	2	30	・製図は模型、デザインなど実際の手を動かして学んだ技術はいままでやってきた仕事の日々の作業にいかされました。
就職	56	0	4	2	5	67	・専門職に就職することが出来た。
同級生、友人、OG、卒業生、先輩、後輩、人脈	52	26	138	20	50	286	・設計の仕事と子育てを両立させている先輩方の存在が励みになった ・見本となる先輩が沢山いた。(子育てや共働きなど)仕事を通して色々な先輩に出会った ・自営となつてからも住居学科のネットワークが活きていると感じる。
知名度(住居学科)出身	30	1	7	6	9	53	・建築雑誌等で住居学科の先輩や後輩が活躍しているのを見ると、及ばずながら私も頑張ろうというきもちが高まった。 ・思わぬところで住居の先輩・後輩と出会ったり、話に出たりすることがあり、タテの線上に自分もいることが誇らしい
家庭	6	37	6	0	2	51	・家庭生活の面で、住まい方の工夫等に役に立ったかとも思う。 ・いかに効率よく課題と締め切りまでに仕上げるか、段取りをしていたことは、日頃の家事や作業に役立ちます。
マイホーム、自宅、我が家	1	82	3	2	4	92	・家を新築する際に学んだことを役立たせることができた。又、子供がマンションを購入する時のアドバイスができた。 ・家を購入する際、家事の動線など住みやすさを意識した物の見方で見学できた
リフォーム、改装、DIY	18	43	2	1	3	67	・間取りや住宅について深く学んだことが、現在の家のリフォーム時に活かしていると思います。 ・自宅のリフォームの時は、建築の知識が役立ちました。 ・生活に合わせた(子どもの年齢など)部屋作り模様替え(簡単なリフォーム)
子ども、子供、子供、子育て	9	62	16	22	10	119	・子どもを育てるとき、全ての家庭内の品物を自分で求め子どもを育てるときに大いに役立った。 ・子どもと工作や図表づくりをするときに、ゼロの状態(白紙や素材の状態)から何かを作り上げていくことを伝えることができた
(建築への)関心、興味	12	4	33	3	9	61	・仕事を離れても常に住居、住まい方に関心があり、心の支えとなった。 ・常に住まうことに興味を持ち続け、日々の生活全体に影響していると思う。 ・今でも建築やインテリアに興味があり、子育ての合間に企画展に行ったり雑誌やネットを見て良い息抜きになっています
地域	1	2	5	57	6	71	・地域と防災を考える視点が学生時代に持てたと思うので、今役立っている。
コミュニティ	0	0	1	4	1	6	・地域についての意識、特に子供が生まれてからは行事にも参加。大学でコミュニティの大切さを学び、実体験できた ・住んでいる地域の建築物の状態に気を配り、良好な住環境を保つための活動をしている
ボランティア	0	0	0	7	3	10	・地域の建物公開ボランティアへの参加 ・区内の近代建築ボランティアに参加することで、同じく建物に関心をもつ方々と知り合えた
(PTA、マンションの管理組合等)役員	0	0	1	12	3	16	・管理組合で少しはお役にたてた ・現在住んでいるマンションの修繕全般について、計画したり、計画を実行したりしている(管理組合の役員として) ・自宅マンションの大規模修繕にあたって、理事会と共に工事の監理にあたったこと

以上では、「家庭生活に活かしている」が多く、次いで「建築関係の仕事に活かされている」が多くなっている。また、「地域やボランティア活動に活かしている」「別職種の仕事に活かしている」も見られた。40歳代以下は、いずれも「建築関係の仕事に活かされている」が最も多く、50歳代以上ほど「家庭生活に活かしている」と回答した割合は多くはなかった。

住居学科での学びが建築関係の仕事に活かされていることを受けて、自由記述をみる(表8)と、

日本女子大学における住居学教育の歴史

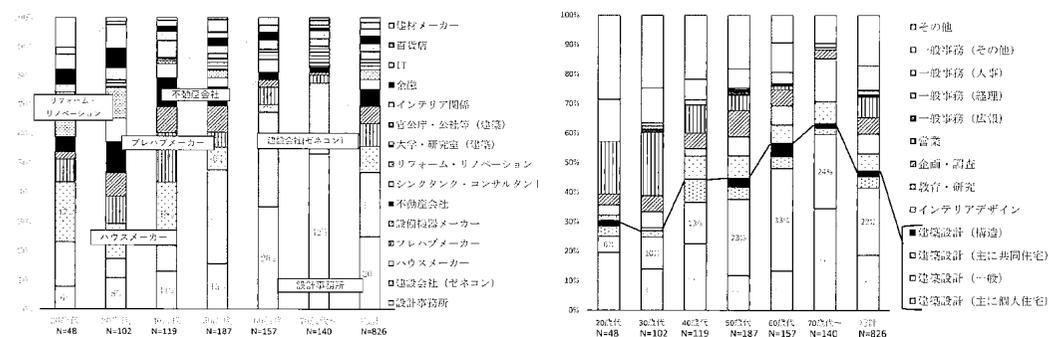


図9 年代別に見た新卒時の就職先の業種について

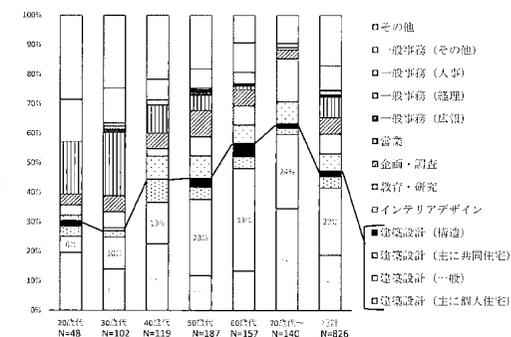


図10 年代別に見た新卒時の仕事内容

「仕事の取り組み方、考え方が一般の建築学科の人より人間に沿って考えることが出来、役立った」「住まい方を生活者視点で考えることは、仕事に役立だった」「住まい(人のかかわり方・生活)にかかわる仕事をしてきて大学で学んだことが大いに生かされ役立った」など、資格の取得に役立った等の技術面で専門的な知識が活かされているだけでなく、生活について考える住居学科ならではの学びも仕事に活かされていることが伺える回答が多かった。また、大学で得たものとして学生時代の人脈が役立っているという意見も多かった。住居学科での学びが家庭に活かされているという自由記述を詳細に見る(表8)と「自宅の設計・購入・リフォーム」等で知識が活かされているという回答が多く見られ、「結婚・出産後の働き方」は当時お世話になった先生の言葉や、先輩・同級生の活躍が参考・励みになったという回答も多かった。また、回答者の7割が子育てというライフイベントを経験しており(図4)、「子育てと仕事の両立」「子どもの工作課題」等に学生時代に得た知識や経験が活かされているということが明らかになった。現在までの地域・社会活動への参加状況については約7割の方が「参加している・していた」と回答しており(図6)、その詳細としては「PTA活動」「趣味の活動」「町会・自治会等の役員」が多かった。卒業後も建築・住生活への関心が強く、ボランティアや支援などに取り組んでいる。

③就労・進路について

③-1. 卒業後の進路

卒業生の進路を見ると、「就職」が85%と最も多かった。「進学」7%、「就職しなかった」は5%とわずかであった。就職しなかった理由としては、「結婚のため」が最も多く、ついで、「その他」で留学、既に主婦であった、健康上の理由などがあげられた。年代別にみても、卒業後は「就職」がどの年代でも8割を超えており、「就職しなかった」方の割合は年代が下がるにつれて減少している一方、「進学」の割合は増加傾向にあることが明らかになった。

新卒時の業種は、「設計事務所」が最も多く、次いで「建設会社(ゼネコン)」が多くなっていた。少し差が空いて、「ハウスメーカー」「プレハブメーカー」「設備機器メーカー」「不動産会社」となっていた。年代別では、各年代で異なった傾向がみられた(図9)。70歳代で「設計事務所」が4割を超え、非常に多いが、年代が若くなるごとに減少傾向にあることがわかった。「建設会社(ゼネコン)」についても同様の傾向がみられた。一方「ハウスメーカー」「リフォーム・リノベーション」「IT」などの2018年度調査で追加した項目においては年代が若くなるに伴い増加する傾向が見られた。全体的に若い層では、職種が分散する傾向がみられ、高齢層では、「設計事務所」「建設会社(ゼネコン)」などに偏りがある傾向が見られた。

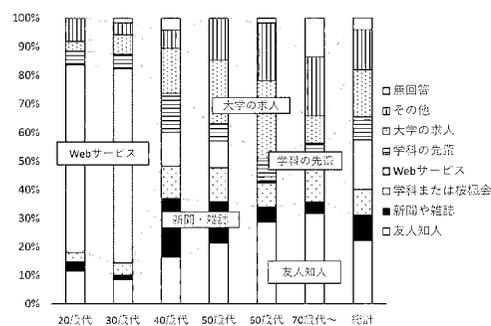


図11 新卒時に利用した情報収集手段

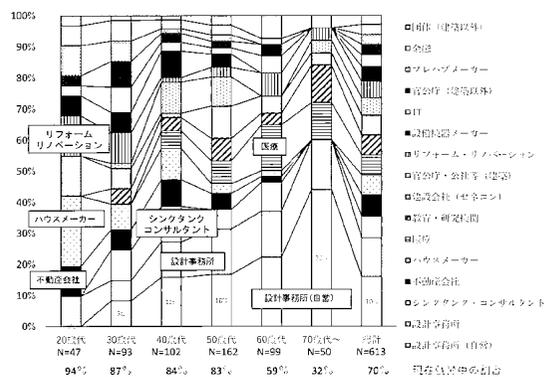


図12 現在の就労率と就職先の業種

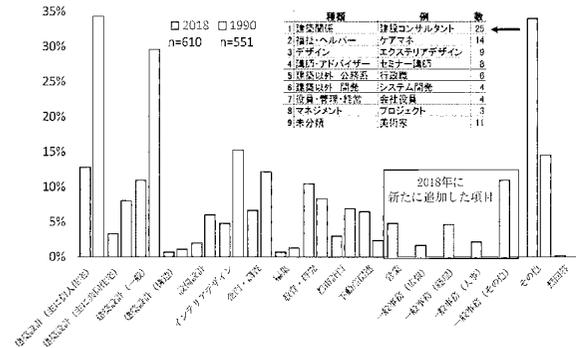


図13 現在の仕事の状況

日本女子大学における住居学教育の歴史

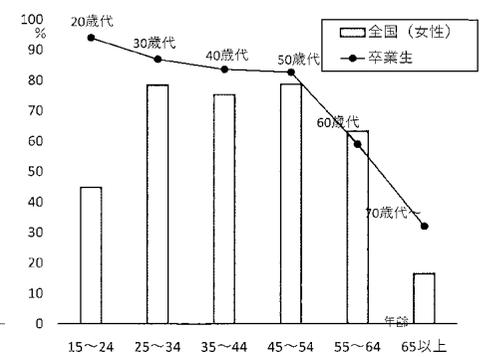


図14 年齢別就労の割合 (卒業生・全国女性比較)
(総務省統計局調査部国勢統計課労働力人口統計室「労働力調査」e-Stat, 2018-01-30, http://mj.k.ac/TTYPT (2018-12-10))

また、仕事の内容(図10)については、「建築設計」に関するもの(主に個人住宅)(主に共同住宅)(一般)(構造)については、すべての年代において2割を超えているが、若い世代の方が減少傾向にある一方で、70歳代では50%を超えている。一方で、「一般事務」と「営業」の割合は年代が若くなるにつれて多くなっている。

また、新卒時の雇用形態はどの年代も圧倒的に「正社員」が多いことも明らかになった。50歳代の時期にあたる1986年に「男女雇用機会均等法」が施行され、女性の雇用形態の変化がみられたため影響があったものと考えられる。

新卒時の就職情報手段(図11)について、世代別に見ると、「友人・知人」は70歳代~になるにつれて増加傾向で、20歳代、30歳代では特に「Webサービス」が顕著に多い傾向がみられた。80歳代、90歳代では「その他」が多かった。その内訳をみると50歳代から70歳代~では「家族・親族の勧め」が多くを占めている傾向があった。各世代によって、webを活用した個人活動と、友人知人、家族親族などの縁故による就職活動と大きな違いが特徴的といえる。

新卒時に就職した先に継続して就労しているのは18%で、78%は退職していた。退職の理由としては、「結婚」が最も多く、次いで「出産・子育て」「仕事の内容」「家族の転勤や病気などの都合」となっていた。仕事の勤続年数は、「3年」「2年」「5年」の順に多くなっており、ほとんどが結婚や出産などのライフイベントによって10年以内に新卒時の就職先を退職していることが分かった。

③-2. 現在の就労状況

現在の就労状況について見る(図12)と、70%は「就労中」であった。現在、「非就労」(29%)の理由としては、「高齢になったため」が圧倒的に多く、次いで「自由にいろいろなことをしたい」「子育てを優先したい」などが多くなっていたが、「非就労」の方の90%はこれまでに就労経験があることが分かった。また、年代別の比較では、30歳代で子育て等のライフイベントが理由で退職し、40歳代ごろから自らの体調や加齢に関連して退職する人が出始め、その後、年齢に比例して増加する傾向が見られた。仕事と卒業生本人との相性や考え方にかかわる部分は、職場の環境や慣れ、地位などと関連し、30歳代から各年代によってそれぞれ存在している特徴があった。さらに、現在「非就労者」の再就職で優先したい条件や思いでは、年齢や体調にかかわる理由から仕事ができないと考える人が40歳代から出現していた。また、「就労に意欲がない」と回答した方以外では、30歳代

から70歳代以上にかけて、「時間の融通」が減少し、「仕事内容に興味を持てるか」が増加している傾向があった。子育てなどの家庭中心の生活が多い30歳代と、子育てや介護から解放される傾向のある70歳代では、優先させる考え方に違いがあることがわかった。

現在の就職先の業種(図12)では、どの年代でもやはり「設計事務所(自営)」の割合が70歳代~に多くなっている。新卒時に就職した設計事務所を退職し、自営で設計事務所を立ち上げた人が多いことが推察される。また、若年層になるにつれて、「金融」「ハウスメーカー」「IT」が多くなり、多様な職種に分散していると言える。全体では、「教育研究」「一般事務」も多くなっている特徴がみられた。「不動産関連」「企画・調査」もついて多かった。さらに、仕事内容(図13)については、「建築設計」については、圧倒的に1990年調査の方が多かった。2018年調査結果としては、「その他」がかなり多いことに特徴があるとともに、「設計」や「インテリアデザイン」などの項目は1990年度の割合が高く、2018年度においては「営業」や「一般事務」の項目に2割の回答が得られ、各仕事内容に分散している傾向があり、多様な仕事内容になってると考えられる。年代別に卒業生と全国女性の就労割合を比較すると、60歳代以外は、どの年代も全国の女性の就労割合を上回っており、特に、70歳代の就労中の割合が高いことがわかった。(図14)。

雇用形態では、「正社員」が56%と最も多いものの「自営業」19%、「アルバイト・フリー」が13%と新卒時とは異なった傾向も見られた。年代ごとに見ても、高齢になるにしたがって、「アルバイト・フリー」や「自営業」が増加する傾向がみられた。

3. まとめ：住教育の意義

カリキュラム分析とアンケート調査により、日本女子大学住居学科の変遷と学科での学びにより得られたことを明らかにすることができた。

住居学科は70年の間に、1962年と1996年、2001年の3回の大きな転換点があり、それぞれ、摸索期・定着期・変革期として、カリキュラムの科目数、構成、専攻(コース)の変更など社会の変化に応じて求められる女性像を視野に入れ、実務に役立つ設計関連科目が増加傾向になるなどの検討がされてきたことが分かった。学生は授業や先生方の指導や姿勢を通し、社会で活躍する専門的な技術・知識を習得するとともに、家庭を築き、生活を営む上での知識や技術、生き方など、専門的

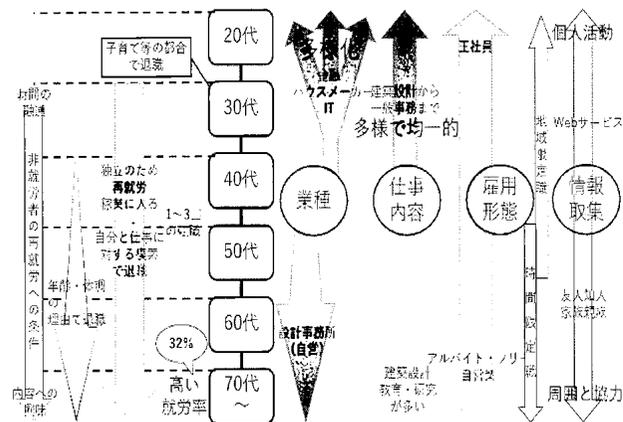


図15 卒業生の就労のライフコース

な知識以外の学びも得ている状況は特徴的であった。設計・基礎関連や意匠・デザイン関連での学びでは、共同設計によるチームワークや計画的な作業、スケジュール管理能力やプレゼンテーション能力など幅広い層の卒業生に印象に残り、影響を与える学びが展開されている状況が把握できた。

住居学科の学びを終えた卒業生の新卒時および現在の就労業種、仕事内容、雇用形態は、年代ごとに差が見られ社会変化に対応した状況が把握できた。新卒就労率が高いものの、30歳代、40歳代の子育て期間は、時間の使い方が重視され、年代が上がるについて仕事の内容を重視する傾向がみられたことや、就労に関する情報収集手段が縁故などの人のつながりを重視する世代と Web 中心の個人活動による世代など、年代ごとの学びを生かした活躍をしている事が明らかとなった(図15)。住居学科の卒業生は、時代の流れ、社会の変化の中で、就職、結婚、子育てなどの女性としてのライフイベントに対応しながら、60歳以上の高齢期になっても地域や社会活動に参加し、就労する意欲を持ち続ける卒業生像からも、住居学教育の意味と学びの影響がいかに大きく重要であるかを確認することができた。

謝辞：本研究におけるアンケート調査、資料収集は、2018年度住居学科卒業生の熊野史菜氏を中心に行ったもので、記して感謝の意を表します。また、関連する調査において協力いただいた「住居の会」の皆様、卒業生の小野理映子氏、有村友里氏に記して感謝の意を表します。

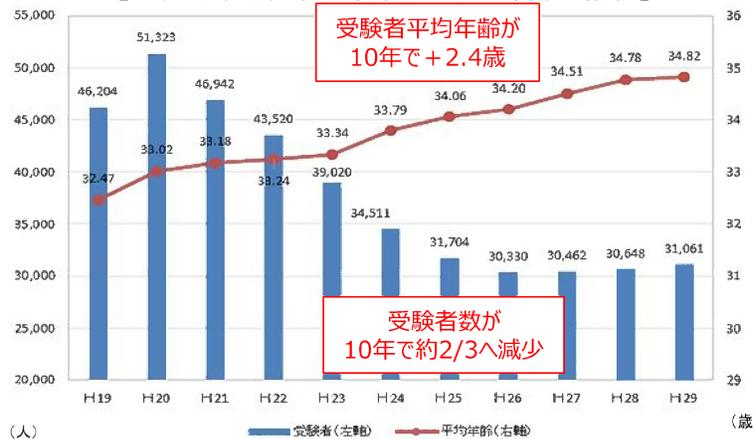
参考文献：熊野史菜「住居学科教育の形成と卒業生の就業状況について—日本女子大学家政学部住居学科を対象として—」2018年度住居学科卒業論文

● 建築士法の一部を改正する法律（平成30年法律第93号）

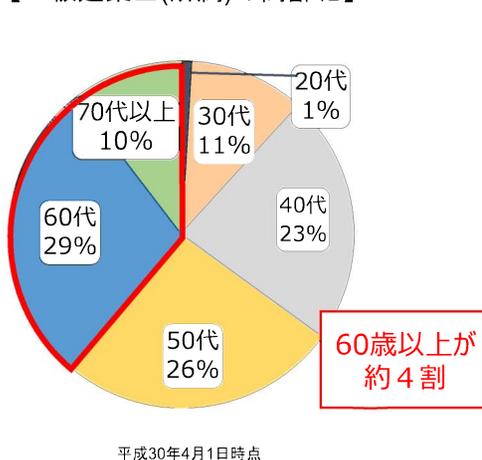
背景・必要性

- 近年の一級建築士試験は、受験者数の急減に加え、受験者の高齢化が顕著。
- 業務を行っている建築士の高齢化が進んでおり、このままの傾向が続く場合、建築物の安全性の確保等において重要な役割を担う建築士人材の確保が困難。

【一級建築士試験受験者数・平均年齢の推移】



【一級建築士(所属)の高齢化】



改正の概要

建築士人材を継続的かつ安定的に確保するため、建築士試験の受験資格を改めること等により、建築士試験の受験機会を拡大する。具体的には、建築士試験を受験する際の要件となっている実務の経験について、免許登録の際の要件に改めることにより、試験の前後にかかわらず、免許登録の際までに積んでいけばよいこととする。

【建築士法第4条、第14条及び第15条関連】

※ 実務経験のみの者が二級・木造建築士免許を受ける場合等を除く。

【改正前】

実務経験は受験要件

〔例〕大学を卒業し、一級建築士の免許を取得する場合

【改正前】

大学（4年）

実務

試験合格

免許登録

【改正後】

大学（4年）

試験合格

実務

免許登録

大学（4年）

実務 A

試験合格

実務 B

免許登録

※ A+B=2年以上

※ 二級・木造建築士についても、原則として、学校卒業直後に受験が可能となるよう措置。

【改正後】

実務経験は免許登録要件

- 建築士を目指す者にとって、建築士試験の受験機会が拡大し、建築士免許の取得に向けた見通しが立てやすくなる。
- 事務所(雇用側)にとって、建築士免許を取得する可能性の高い若手職員を確保しやすくなる。

建築士人材の
安定的な確保

令和3年12月24日
住宅局建築指導課

令和3年一級建築士試験「設計製図の試験」の合格者を決定 ～3,765人の合格者、35.9%の合格率～

令和3年10月10日に実施した一級建築士試験「設計製図の試験」について、3,765人の合格者を決定しました。

一級建築士試験は、建築士法第13条及び第15条の2の規定に基づき、国土交通大臣の指定試験機関である(公財)建築技術教育普及センター(理事長 井上 勝徳)が実施しています。

合格者には合格通知書を送付し、不合格者には不合格の旨及び成績の通知をします。

合格者の受験番号一覧表については、(公財)建築技術教育普及センター本部・支部及び都道府県建築士会の事務所に掲示するとともに、同センターのホームページ(URL <https://www.jaeic.or.jp/>)に掲載しています。

また、「設計製図の試験」の合格基準等は、(参考1)のとおりです。

		学科の試験	設計製図の試験
試験日		令和3年7月11日(日)	令和3年10月10日(日)
試験会場		全国70会場	全国56会場
実受験者数		31,696人	10,499人
合格者数		4,832人	3,765人
合格率		15.2%	35.9%
総合	実受験者数 a	37,907人 <small>注</small>	
	合格者数 b	3,765人	
	合格率 b/a	9.9%	

注)今年「学科の試験」から受験した者と「設計製図の試験」から受験した者の合計です。

○参考資料

- (参考1) 令和3年一級建築士試験「設計製図の試験」合格基準等について
- (参考2) 直近5年間の一級建築士試験「設計製図の試験」結果
- (参考3) 令和3年一級建築士試験「設計製図の試験」合格者(全国)3,765人の主な属性
- (参考4) 令和3年一級建築士試験の合格者の発表までの流れ等
- (参考5) 令和3年一級建築士試験「設計製図の試験」の学校別合格者数一覧
- (参考6) 都道府県建築士会及び(公財)建築技術教育普及センター本部・支部の連絡先

【合格・不合格の通知に関する問い合わせ先】

(公財)建築技術教育普及センター 試験部試験第一課 「一級建築士試験」担当
TEL 03-6261-3310(代表)

【問い合わせ先】

国土交通省 住宅局 建築指導課 課長補佐 横田、資格検定係 小嶋
TEL 03-5253-8111 (内線 39-520、39-542)、03-5253-8513 (直通)
FAX 03-5253-1630

(参考1) 令和3年一級建築士試験「設計製図の試験」合格基準等について

1. 合格基準等

一級建築士試験「設計製図の試験」は、「与えられた内容及び条件を充たす建築物を計画し、設計する知識及び技能について設計図書等の作成を求めて行う。」ものであり、その合否判定における令和3年試験の「採点のポイント」、「採点結果の区分」及び「合格基準」は、次のとおりである。

採点のポイント	<p>(1) 空間構成 ①建築物の配置・構造計画、②ゾーニング・動線計画、③要求室等の計画、④建築物の立体構成等</p> <p>(2) 建築計画 ①各住戸内の採光及び入居者のプライバシー等に配慮した計画、②要求室の機能性等、③図面、計画の要点等の表現・伝達</p> <p>(3) 構造計画 ①耐震性を考慮して計画した建築物の構造形式・耐震計算ルート等、②屋上庭園の構造の計画、③地盤条件や経済性を踏まえた基礎構造の計画</p> <p>(4) 設備計画 ①各住戸内の給排水計画 ②各住戸内の給排気計画</p> <p>※ 設計条件・要求図面等に対する重大な不適合 ①「要求図面のうち1面以上欠けるもの」、「面積表が完成されていないもの」又は「計画の要点等が完成されていないもの」 ②地上5階建てでないもの ③図面相互の重大な不整合（上下階の不整合、階段の欠落等） ④建蔽率が70%を超えているもの ⑤容積率が300%を超えているもの ⑥次の要求室・施設等のいずれかが計画されていないもの 住戸A、住戸B、住戸C、共用室、エントランスホール、駐輪場（1）、学習塾、カフェ、駐輪場（2）、エレベーター、消火ポンプ室、受水槽室、電気室、PS、屋上庭園、駐車場、車椅子使用者用駐車場 ⑦法令の重大な不適合等、その他設計条件を著しく逸脱しているもの</p>
採点結果の区分(成績)	<p>○採点結果については、ランクⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの4段階区分とする。 ランクⅠ：「知識及び技能」*を有するもの ランクⅡ：「知識及び技能」が不足しているもの ランクⅢ：「知識及び技能」が著しく不足しているもの ランクⅣ：設計条件及び要求図書に対する重大な不適合に該当するもの *「知識及び技能」とは、一級建築士として備えるべき「建築物の設計に必要な基本的かつ総括的な知識及び技能」をいう。</p> <p>○なお、採点の結果、ランクⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳのそれぞれの割合は、次のとおりであった。 ランクⅠ：35.9%、ランクⅡ：6.3%、ランクⅢ：26.9%、ランクⅣ：30.9%</p> <p>○受験者の答案の解答状況 ランクⅢ及びランクⅣに該当するものが多く、具体的には以下のようなものを挙げることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計条件に関する基礎的な不適合：「要求している主要な室等の床面積の不適合」、「道路高さ制限への適合が確認できる情報の未記載」 ・法令への重大な不適合：「延焼のおそれのある部分の位置（延焼ライン）と防火設備の設置」、「防火区画（異種用途区画、面積区画、竪穴区画等）」、「道路高さ制限」等
合格基準	採点結果における「ランクⅠ」を合格とする。

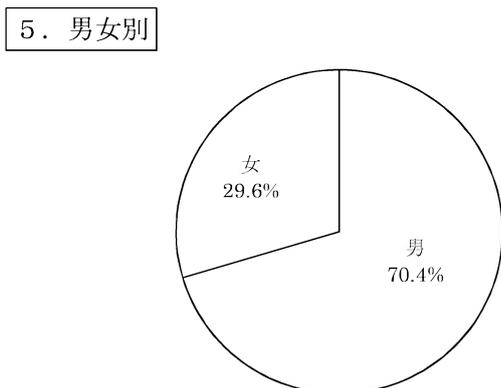
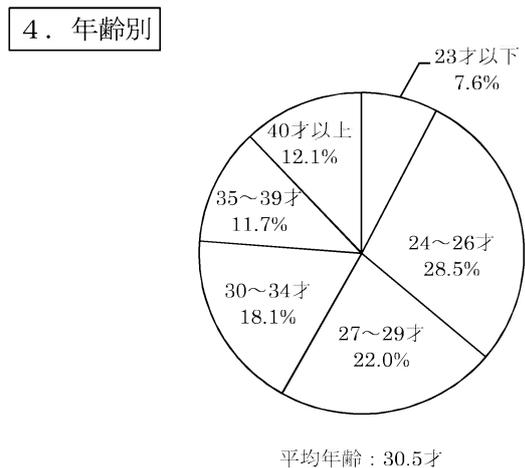
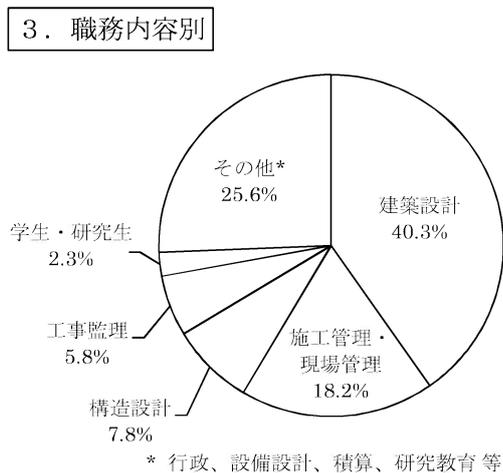
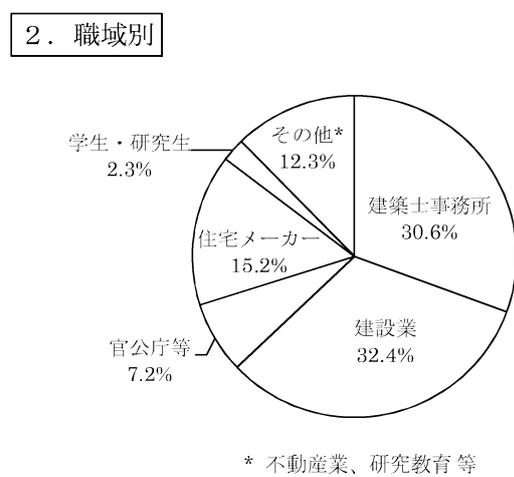
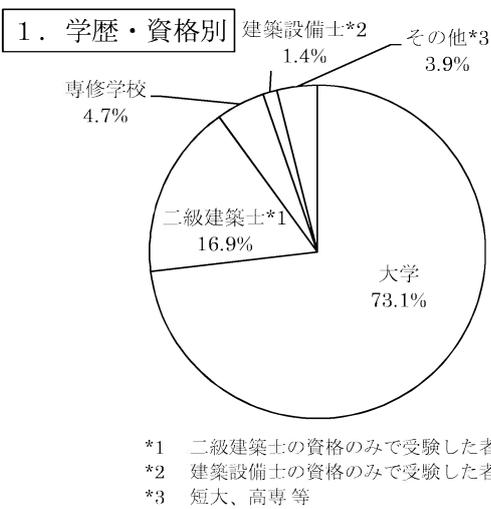
2. その他

試験問題及び標準解答例は、(公財)建築技術教育普及センターのホームページに掲載する。

(参考2) 直近5年間の一級建築士試験「設計製図の試験」結果

	平成29年		平成30年		令和元年		令和2年		令和3年	
	学科	製図	学科	製図	学科	製図	学科	製図	学科	製図
実受験者数 (人)	26,923	8,931	25,878	9,251	25,132	10,151	30,409	11,035	31,696	10,499
合格者数 (人)	4,946	3,365	4,742	3,827	5,729	3,571	6,295	3,796	4,832	3,765
合格率 (%)	18.4	37.7	18.3	41.4	22.8	35.2	20.7	34.4	15.2	35.9
総合合格率 (%)	10.8		12.5		12.0		10.6		9.9	

(参考3) 令和3年一級建築士試験「設計製図の試験」合格者(全国)3,765人の主な属性



○実務経験別合格者数

従来制度で受験可能であった者

・・・改正前の建築士法に基づく受験資格要件で定める実務経験年数を満たしている方

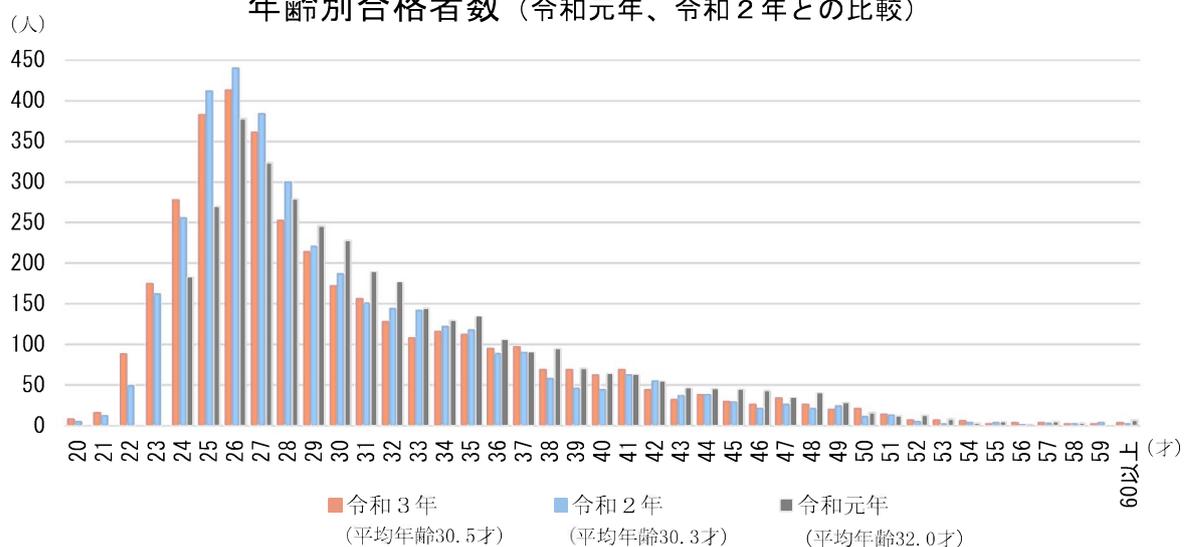
新制度で受験可能となった者

・・・改正後の建築士法に基づき受験可能となった方（上記を除く。）

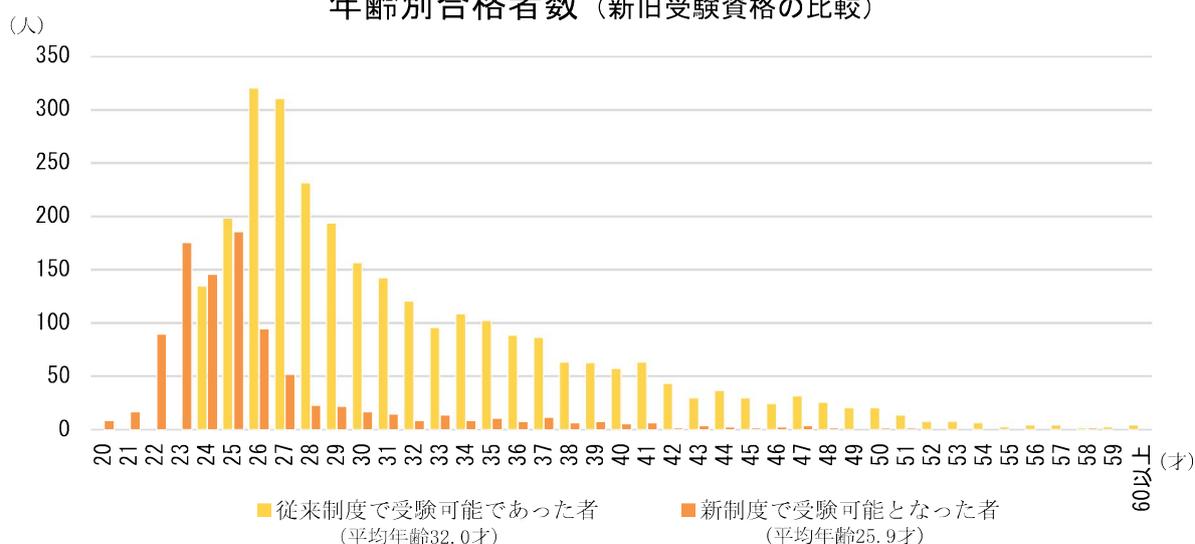
	合格者		
	人数	割合	平均年齢
合計	3,765 人		30.5 才
従来制度で受験可能であった者	2,835 人	75.3%	32.0 才
新制度で受験可能となった者	930 人	24.7%	25.9 才

○合格者の年齢分布と平均年齢

年齢別合格者数（令和元年、令和2年との比較）



年齢別合格者数（新旧受験資格の比較）



○学歴・資格者別合格者数

学歴・資格	人数 (人)	割合 (%)
大 学	2,751	73.1
短期大学	3	0.1
高等専門学校	98	2.6
職 能 大 等	21	0.6
専 修 学 校	177	4.7
二級建築士	636	16.9
建築設備士	51	1.4
そ の 他	0	-
無 回 答	28	0.7
合 計	3,765	100.0

○職務別合格者数

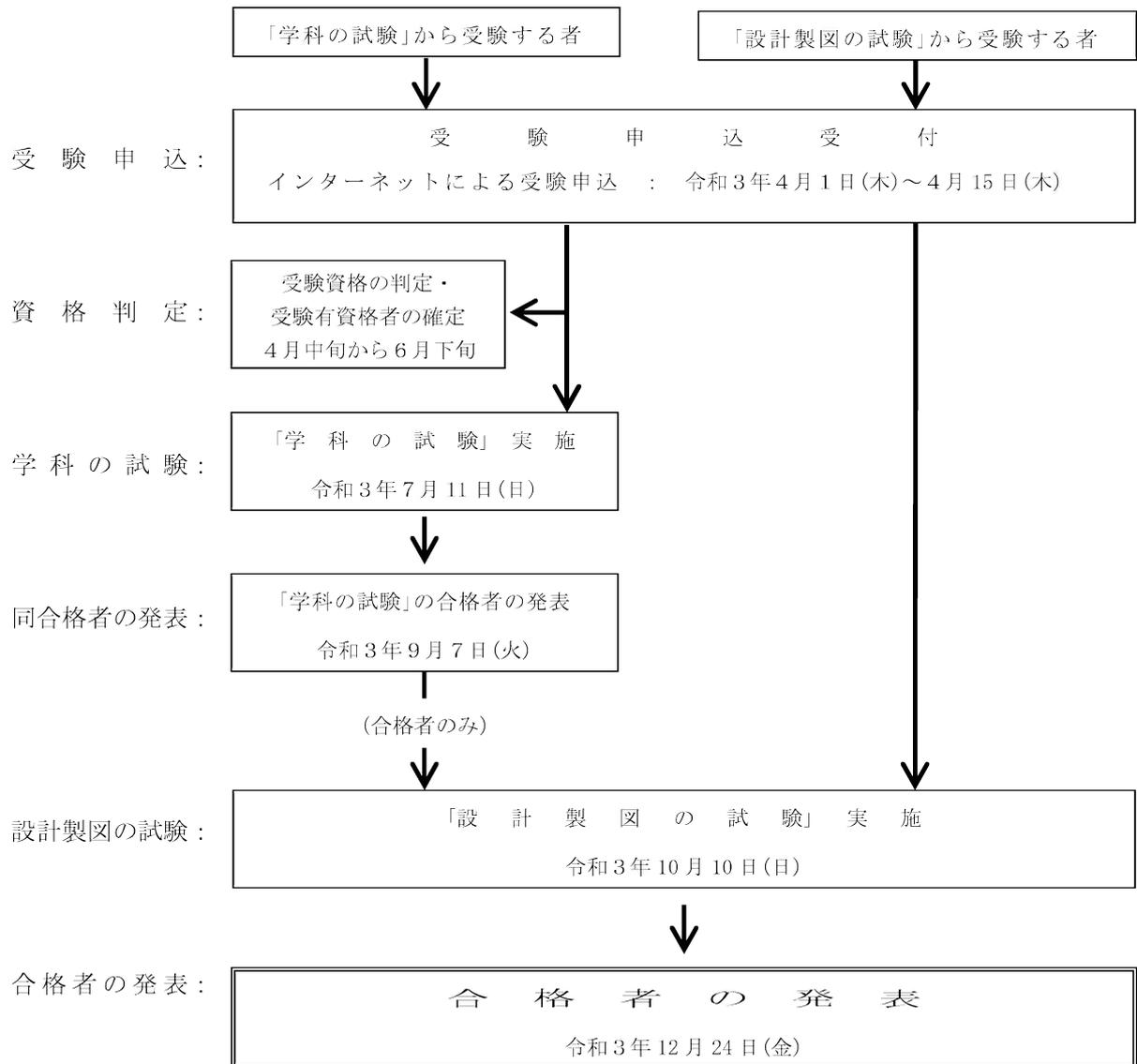
職 務	人数 (人)	割合 (%)
建 築 設 計	1,516	40.3
構 造 設 計	295	7.8
設 備 設 計	167	4.4
積 算	82	2.2
工 事 監 理	217	5.8
施工管理・現場管理	686	18.2
技 能 労 務	24	0.6
調 査 鑑 定	13	0.3
手 続 代 理	6	0.2
敷 地 選 定	26	0.7
研 究 教 育	46	1.2
営 業	49	1.3
行 政	212	5.6
学 生 ・ 研 究 生	85	2.3
その他建築関連職務	238	6.3
そ の 他	103	2.7
合 計	3,765	100.0

○職域別合格者数

職 域	人数 (人)	割合 (%)
建築士事務所	1,152	30.6
建 設 業	1,218	32.4
住宅メーカー	574	15.2
不 動 産 業	144	3.8
研 究 教 育	22	0.6
官 公 庁 等	272	7.2
学 生 ・ 研 究 生	88	2.3
そ の 他	295	7.8
合 計	3,765	100.0

(参考4) 令和3年一級建築士試験の合格者の発表までの流れ等

1. 合格者の発表までの流れ



2. 合格者の発表等

合格者には合格通知書を送付します。

合格者の受験番号一覧表と合格基準等については、(公財)建築技術教育普及センター本部・支部及び都道府県建築士会の事務所に掲示するとともに、(公財)建築技術教育普及センターのホームページ(URL <https://www.jaic.or.jp/>)に掲載します。

3. 不合格者への通知

不合格者には不合格の旨及び成績の通知をします。

(参考5) 令和3年一級建築士試験「設計製図の試験」の学校別合格者数一覧(10人以上)

学校名	合格者数	学校名	合格者数
日本大学	153	北海道大学	23
東京理科大学	128	京都建築大学校	22
芝浦工業大学	96	鹿児島大学	21
近畿大学	87	前橋工科大学	21
早稲田大学	79	大阪大学	20
明治大学	70	東北工業大学	20
千葉大学	68	慶應義塾大学	19
工学院大学	63	新潟大学	19
京都工芸繊維大学	57	北九州市立大学	19
京都大学	56	愛知産業大学	18
神戸大学	54	関東学院大学	18
大阪工業大学	51	大阪工業技術専門学校	18
東京都市大学(武蔵工業大学)	51	武蔵野美術大学	18
法政大学	51	宇都宮大学	17
大阪市立大学	45	修成建設専門学校	17
九州大学(九州芸術工科大学)	44	広島工業大学	16
東京電機大学	40	滋賀県立大学	16
名古屋工業大学	40	中央工学校	16
広島大学	37	武庫川女子大学	16
金沢工業大学	35	豊橋技術科学大学	16
横浜国立大学	33	大分大学	15
関西大学	33	筑波大学	14
信州大学	33	京都造形芸術大学	13
東京大学	33	関西学院大学	12
東北大学	33	岐阜工業高等専門学校	12
熊本大学	32	宮城大学	12
東京都立大学(首都大学東京)	32	九州工業大学	12
東洋大学	32	九州産業大学	12
名城大学	32	中部大学	12
名古屋大学	31	長崎大学	12
立命館大学	31	奈良女子大学	12
東海大学	30	日本工業大学	12
千葉工業大学	29	北海道科学大学(北海道工業大学)	12
東京工業大学	29	琉球大学	12
福井大学	29	呉工業高等専門学校	11
三重大学	28	公立大学法人名古屋市立大学	11
愛知工業大学	26	山口大学	11
神奈川大学	26	有明工業高等専門学校	11
福岡大学	25	京都府立大学	10
摂南大学	24	昭和女子大学	10
日本女子大学	24	石川工業高等専門学校	10
室蘭工業大学	23	福井工業大学	10

※「学歴」を受験資格として申し込んだ者のみの人数である。したがって、「二級建築士」等を受験資格とした者は、上記学校の出身者であっても含まれていない。

(参考6) 都道府県建築士会及び(公財)建築技術教育普及センター本部・支部の連絡先

都道府県建築士会

士 会 名	(〒)	所 在 地	電 話	
(一社)北海道建築士会	060-0042	札幌市中央区大通西 5-11	大五ビル6階	011-251-6076
(一社)青森県建築士会	030-0803	青森市安方 2-9-13	青森県建設会館1階	017-773-2878
(一社)岩手県建築士会	020-0887	盛岡市上ノ橋町 1-50	岩織ビル	019-654-5777
(一社)宮城県建築士会	983-0862	仙台市宮城野区二十人町 301-3	宮城県建設業国民健康保険組合会館5階	022-298-8037
(一社)秋田県建築士会	010-0001	秋田市中通 2-3-8	秋田アトリオンビル5階(一階)秋田県建築住宅のみな	018-827-3718
(一社)山形県建築士会	990-0825	山形市城北町 1-12-26	山形建築会館3階	023-643-4568
(公社)福島県建築士会	960-8043	福島市中町 4-20	みんゆうビル3階	024-523-1532
(一社)茨城県建築士会	310-0852	水戸市笠原町 978-30	建築会館2階	029-305-0329
(一社)栃木県建築士会	321-0933	宇都宮市築瀬町 1958-1	栃木県建設産業会館1階	028-639-3150
(一社)群馬県建築士会	371-0846	前橋市元総社町 2-5-3	群馬建設会館3階	027-252-2434
(一社)埼玉県建築士会	336-0031	さいたま市南区鹿手袋 4-1-7	埼玉建産連会館5階	048-861-8221
(一社)千葉県建築士会	260-0013	千葉市中央区中央 4-8-5	建築会館4階	043-202-2100
(一社)東京都建築士会	103-0006	東京都中央区日本橋富沢町 11-1	富沢町 111ビル5階	03-3527-3100
(一社)神奈川県建築士会	231-0011	横浜市中区太田町 2-22	神奈川県建設会館5階	045-201-1284
(一社)山梨県建築士会	400-0031	甲府市丸の内 1-14-19	山梨県建設業協同組合会館1階	055-233-5414
(公社)長野県建築士会	380-0872	長野市大字南長野字宮東 426-1	長野県建築士会館2階	026-235-0561
(公社)新潟県建築士会	950-0965	新潟市中央区新光町 15-2	県公社ビル3階	025-378-5666
(公社)富山県建築士会	930-0094	富山市安住町 7-1	富山県建築設計会館2階	076-482-4446
(一社)石川県建築士会	921-8036	金沢市弥生 2-1-23	石川県建設総合センター5階	076-244-2241
(一社)福井県建築士会	910-0854	福井市御幸 3-10-15	福井県建設会館2階	0776-24-8781
(公社)岐阜県建築士会	500-8384	岐阜市藪田南 5-14-12	岐阜県シンクタンク庁舎4階	058-215-9361
(公社)静岡県建築士会	420-0033	静岡市葵区昭和町 9-5	第2大石ビル7階	054-254-9381
(公社)愛知県建築士会	460-0008	名古屋市中区栄 2-10-19	名古屋商工会議所ビル9階	052-201-2201
(一社)三重県建築士会	514-0003	津市桜橋 2-177-2	三重県建設産業会館3階	059-226-0109
(公社)滋賀県建築士会	520-0801	大津市におの浜 1-1-18	滋賀県建設会館3階	077-522-1615
(一社)京都府建築士会	604-0944	京都市中京区押小路通柳馬場東入橋町 641	京都建設会館別館2階	075-211-2857
(公社)大阪府建築士会	540-0012	大阪市中央区谷町 3-1-17	高田屋大手前ビル5階	06-6947-1961
(公社)兵庫県建築士会	650-0011	神戸市中央区下山手通 4-6-11	エクセル山手2階	078-327-0885
(一社)奈良県建築士会	630-8115	奈良市大宮町 2-5-7	奈良県建築士会館	0742-30-3111
(一社)和歌山県建築士会	640-8045	和歌山市ト半町 38	和歌山県建築士会館	073-423-2562
(一社)鳥取県建築士会	680-0873	鳥取市的場 2-86-1	タウンアローズ 86	0857-32-8777
(一社)島根県建築士会	690-0886	松江市母衣町 175-8	建築会館1階	0852-24-2620
(一社)岡山県建築士会	700-0824	岡山市北区内山下 1-3-19	建築会館4階	086-223-6671
(公社)広島県建築士会	730-0052	広島市中区千田町 3-7-47	広島県情報プラザ5階	082-244-6830
(一社)山口県建築士会	753-0072	山口市大手町 3-8	山口県建築士会館	083-922-5114
(公社)徳島県建築士会	770-0931	徳島市富田浜 2-10	徳島県建設センター5階	088-653-7570
(一社)香川県建築士会	760-0018	高松市天神前 6-34	村瀬ビル2階	087-833-5377
(公社)愛媛県建築士会	790-0002	松山市二番町 4-1-5	愛媛県建築士会館2階	089-945-6100
(公社)高知県建築士会	780-0870	高知市本町 4-2-15	高知県建設会館3階	088-822-0255
(公社)福岡県建築士会	812-0013	福岡市博多区博多駅東 3-14-18	福岡建設会館6階	092-441-1867
(一社)佐賀県建築士会	840-0041	佐賀市城内 2-2-37	佐賀県建設会館3階	0952-26-2198
(一社)長崎県建築士会	850-0036	長崎市五島町 5-34	トーカンマンション713号	095-828-0753
(公社)熊本県建築士会	862-0954	熊本市中央区神水 1-3-7	熊本県建築士会館	096-383-3200
(公社)大分県建築士会	870-0045	大分市城崎町 1-3-31	富士火災大分ビル3階	097-532-6607
(一社)宮崎県建築士会	880-0802	宮崎市別府町 2-12	宮崎建友会館3階	0985-27-3425
(公社)鹿児島県建築士会	892-0838	鹿児島市新屋敷町 16-301	県住宅供給公社ビル326号	099-222-2005
(公社)沖縄県建築士会	901-2101	浦添市字西原 1-4-26	沖縄建築会館	098-879-7727

(公財) 建築技術教育普及センター本部・支部

事務所名	(〒)	所 在 地	電 話	
(公財)建築技術教育普及センター(本部)	102-0094	東京都千代田区紀尾井町 3-6	紀尾井町パークビル	03-6261-3310
北海道支部	060-0042	札幌市中央区大通西 5-11	大五ビル	011-221-3150
東北支部	980-0824	仙台市青葉区支倉町 2-48	宮城県建設産業会館	022-223-3245
関東支部	102-0094	東京都千代田区紀尾井町 3-6	紀尾井町パークビル	03-6261-3318
東海北陸支部	460-0008	名古屋市中区栄 4-3-26	昭和ビル	052-261-6816
近畿支部	540-6591	大阪市中央区大手前 1-7-31	OMM	06-6942-2214
中国四国支部	730-0051	広島市中区大手町 2-11-15	新大手町ビル	082-245-8055
九州支部	812-0013	福岡市博多区博多駅東 2-9-1	東福第2ビル	092-471-6310

我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について

教育未来創造会議 第一次提言

取り巻く課題
人材育成

- ・高等教育の発展と少子化の進行（18歳人口は2022年からの10年間で9%減少）
- ・デジタル人材の不足（2030年には先端IT人材が54.5万人不足）
- ・グリーン人材の不足（2050カーボニュートラル表明自治体のうち、約9割が外部人材の知見を必要とする）
- ・高等学校段階の理系離れ（高校において理系を選択する生徒は約2割）
- ・諸外国に比べて低い理工系の入学者（学部段階：OECD平均27%、日本17%、うち女性：OECD平均15%、日本7%）
- ・諸外国に比べ少ない修士・博士号の取得者（100万人当たり修士号取得者：英4,216人、独2,610人、米2,550人、日588人、博士号取得者：英375人、独336人、韓296人、日120人）
- ・世帯収入が少ないほど低い大学進学希望者
- ・諸外国に比べて低調な人材投資・自己啓発（社外学習・自己啓発を行っていない個人の割合は、諸外国が2割を下回るのに対し、我が国は半数近く）
- ・進まないリカレント教育

基本理念

- ・日本の社会と個人の未来は教育にある。教育の在り方を創造することは、教育による未来の個人の幸せ、社会の未来の豊かさの創造につながる。
- ・人への投資を通じた「成長と分配の好循環」を教育・人材育成においても実現し、「新しい資本主義」の実現に資する。

社会像
在りたい

- ◎一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさの実現（ウェルビーイングを実現）
- ◎ジェンダーギャップや貧困など社会的分断の改善
- ◎社会課題への対応、SDGsへの貢献（国民全体のデジタルリテラシーの向上や地球規模の課題への対応）
- ◎生産性の向上と産業経済の活性化
- ◎全世代学習社会の構築



目指したい人材育成

- ◎未来を支える人材像
好きなことを追究して高い専門性や技術力を身に付け、自分自身で課題を設定して、考えを深く掘り下げ、多様な人とコミュニケーションをとりながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていく人材
- <高等教育で培う資質・能力>
リテラシー/論理的思考力・規範的判断力/課題発見・解決能力/未来社会を構想・設計する力/高度専門職に必要な知識・能力
- ◎今後特に重視する人材育成の視点 → 産学官が目指すべき人材育成の大きな絵姿の提示
 - ・予測不可能な時代に必要となる文理の壁を超えた普遍的知識・能力を備えた人材育成
 - ・デジタル、人工知能、グリーン（脱炭素化など）、農業、観光など科学技術や地域振興の成長分野をけん引する高度専門人材の育成
 - ・現在女子学生の割合が特に少ない理工系等を専攻する女性の増加（現在の理工系学生割合：女性7%、男性28%）
 - ・高い付加価値を生み出す修士・博士人材の増加
 - ・全ての子供が努力する意思があれば学ぶことができる環境整備
 - ・一生涯、何度でも学び続ける意識、学びのモチベーションの涵養
 - ・年齢、性別、地域等にかかわらず誰もが学び活躍できる環境整備
 - ・幼児期・義務教育段階から企業内までを通じた人材育成・教育への投資の強化

現在35%にとどまっている自然科学（理系）分野の学問を専攻する学生の割合についてOECD諸国で最も高い水準である5割程度を目指すなど具体的な目標を設定

→ 今後5～10年程度の期間に集中的に意欲ある大学の主体性を生かした取組を推進

1

1. 未来を支える人材を育む大学等の機能強化



(1) 進学者のニーズ等も踏まえた成長分野への大学等再編促進・産学官連携強化

- ① デジタル・グリーン等の成長分野への再編・統合・拡充を促進する仕組み構築
 - ・大学設置に係る規制の大胆な緩和（専任教員数や校地・校舎の面積基準、標準設置経費等）
 - ・再編に向けた初期投資（設備等整備、教育プログラム開発等）や開設年度からの継続的な支援（複数年度にわたり予測可能性を持って再編に取り組めるよう継続的な支援の方策等を検討）
 - ・教育の質や学生確保の見通しが十分でない大学等の定員増に関する設置認可審査の厳格化
 - ・私学助成に関する全体の構造的な見直し（定員未充足大学の減額率の引き上げ、不交付の厳格化等）
 - ・計画的な規模縮小・撤退等も含む経営指導の徹底
 - ・修士支援新制度の機関要件の厳格化（定員充足率8割以上の大学とする等） 等
- ② 高専、専門学校、大学校、専門高校の機能強化
 - ・産業界や地域のニーズも踏まえた高専や専攻科の機能強化（デジタルなどの成長分野における定員増等）
 - ・専門学校や高専への改編等も視野に入れた専門高校の充実 等
- ③ 大学の教育プログラム策定等における企業・地方公共団体の参画促進
- ④ 企業における人材投資に係る開示の充実
- ⑤ 地方公共団体と高等教育機関の連携強化促進
- ⑥ 地域における大学の充実や高等教育進学機会の拡充
- ⑦ 地域のニーズに合う人材育成のための産学官の連携強化（半導体、蓄電池）



(2) 学部・大学院を通じた文理横断教育の推進と卒業後の人材受け入れ強化

- ① STEAM教育の強化・文理横断による総合知創出
 - ・文理横断の観点からの入試出題科目見直し
 - ・ダブルメジャー、レイトスペシャライゼーションを推進するためのインセンティブ付与（教学マネジメント指針の見直し、設置認可審査や修士支援新制度の機関要件の審査での反映、基盤的経費配分におけるメリハリ付け等） 等
- ② 「出口での質保証」の強化
 - ・設置基準の見直しなど、ST比（教員一人当たりの学生数）の改善による教育体制の充実 等
- ③ 大学院教育の強化
 - ・トップレベルの研究型大学における学部から大学院への学内資源（定員等）の重点化 等
- ④ 博士課程学生向けジョブ型研究インターンシップの検証等
- ⑤ 大学等の技術シーズを活かした産学での博士課程学生の育成
- ⑥ 企業や官公庁における博士人材の採用・任用強化



(3) 理工系や農学系の分野をはじめとした女性の活躍推進

- ① 女性活躍プログラムの強化
 - ・女子学生の確保等に積極的に取り組む大学への基盤的経費による支援強化
 - ・大学がバンスコードの見直し、女性の在籍・登用状況等の情報開示の促進 等
- ② 官民共同修士支援プログラムの創設
- ③ 女子高校生の理系選択者の増加に向けた取組の推進



(4) グローバル人材の育成・活躍推進

- ① コロナ禍で停滞した国際的な学生交流の再構築
- ② 産学官を挙げてのグローバル人材育成
 - ・民間企業の寄附を通じて意欲ある学生の留学促進を行う「トビタテ！留学JAPAN」の発展的推進 等
- ③ 高度外国人材の育成・活躍推進
- ④ 高度外国人材の子供への教育の推進
 - ・インターナショナルスクールの誘致等推進 等



(5) デジタル技術を駆使したハイブリッド型教育への転換

- ① 知識と知恵を得るハイブリッド型教育への転換促進
 - ・オンライン教育の規制緩和と特例の創設 等
- ② オンラインを活用した大学間連携の促進
- ③ 大学のDX促進
 - ・デジタル技術やマイナンバーカードの活用促進 等



(6) 大学法人のガバナンス強化

- ① 社会のニーズを踏まえた大学法人運営の規律強化
 - ・理事と評議員の兼職禁止、外部理事数の増、会計監査人による会計監査の制度化 等
- ② 世界と伍する研究大学の形成に向けた専門人材の経営参画の推進
 - ・「国際卓越研究大学」における自律と責任あるガバナンス体制確立 等
- ③ 大学の運営基盤の強化



(7) 知識と知恵を得る初等中等教育の充実

- ① 文理横断教育の推進
 - ・高校段階の早期の文・理の学習コース分けからの転換 等
- ② 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な取組の推進
- ③ 課題発見・解決能力等を育む学習の充実
- ④ 女子高校生の理系選択者の増加に向けた取組の推進【再掲】
- ⑤ 子供の貧困対策の推進
- ⑥ 学校・家庭・地域の連携・協働による教育の推進
- ⑦ 分権型教育の推進
- ⑧ 在外教育施設の教育環境整備の推進

2

2. 新たな時代に対応する学びの支援の充実

-  (1) **学部段階の給付型奨学金と授業料減免の中間層への拡大**
 - ・修学支援新制度の機関要件の厳格化を図りつつ、現在対象外の中間所得層について、多子世帯や理工系・農学系の学部で学ぶ学生等への支援に関し必要な改善の実施
-  (2) **ライフイベントに応じた柔軟な返還（出世払い）の仕組みの創設**
 - ・現行の貸与型奨学金について、無利子・有利子に関わらず、現在返還中の者も含めて利用できるよう、ライフイベント等も踏まえ、返還者の判断で柔軟に返還できる仕組みを創設
 - ・在学中は授業料を徴収せず、卒業（修了）後の所得に応じた返還・納付を可能とする新たな制度を、大学院段階において導入
 - これらにより大学・大学院・高専等で学ぶ者がいずれも卒業後の所得に応じて柔軟に返還できる出世払いの仕組みを創設
-  (3) **官民共同修学支援プログラムの創設【再掲】**
-  (4) **博士課程学生に対する支援の充実**
 - ・トップ層の若手研究者の個人支援や所属大学を通じた機関支援等の充実
-  (5) **地方公共団体や企業による奨学金の返還支援**
 - ・若者が抱える奨学金の返還を地方公共団体が支援する取組の推進
 - ・企業による代理返還制度の活用を推進するための仕組みの検討（日本学生支援機構以外の奨学金や、海外の奨学金も含む）
-  (6) **入学料等の入学前の負担軽減**
 - ・入学料の納付が困難な学生等について、納入時期を入学後に猶予する等の弾力的な取扱いの徹底
-  (7) **早期からの幅広い情報提供**
 - ・奨学金に関する初等中等教育段階からの情報提供の促進

3. 学び直し（リカレント教育）を促進するための環境整備

-  (1) **学び直し成果の適切な評価**
 - ① **学修歴や必要とされる能力・学びの可視化等**
 - ・個人の学修歴・職歴等に係るデジタル基盤整備
 - ・マイナポータルと連携したジョブ・カードの電子化 等
 - ② **企業における学び直しの評価**
 - ・企業内での計画的な人材育成、スキル・学習成果重視の評価体系の導入
 - ・通年・中途採用等の推進、社内起業・出向起業の支援等の取組の実践の促進
 - ・従業員が大学講座等で学び直し、好成績を修めた場合における報酬や昇進等で処遇する企業への新たな支援策の創設 等
 - ③ **学び直し成果を活用したキャリアアップの促進**
 - ・キャリアコンサルティング・コーチングの実施、キャリアアップに向けた学び直しプランの策定とプログラムの実施、その後の伴走支援を一気通貫で行う仕組みの創設 等
-  (2) **学ぶ意欲がある人への支援の充実や環境整備**
 - ① **費用、時間等の問題を解決するための支援**
 - ・教育訓練給付制度の対象外である者（自営業者等）に対する支援の実施
 - ・人材開発支援助成金制度におけるIT技術の知識・技能を習得させる訓練を高率助成に位置付けることなどによるデジタル人材育成の推進 等
 - ② **高卒程度認定資格取得のための学び直しの支援**
 - ③ **高齢世代の学び直しの促進**
-  (3) **女性の学び直しの支援**
 - ① **女性の学び直しを促進するための環境整備**
 - ・地方公共団体におけるデジタルスキルの取得とスキルを生かした就労を支援するための地域の実情に応じた取組に対する地域女性活躍推進交付金による支援 等
 - ② **女性の学び直しのためのプログラムの充実**
 - ・地域の大学・高専等における女性向けを含むデジタルリテラシー向上や管理職へのキャリアアップ等のために実施する実践的なプログラム等への支援 等
-  (4) **企業・教育機関・地方公共団体等の連携による体制整備**
 - ① **リカレント教育について産学官で対話、連携を促進するための場の設置**
 - ・都道府県単位で産学官関係者が協議する場の整備
 - ・地域の人材ニーズに対応した教育訓練コースの設定、教育訓練の効果検証等の推進
 - ・地域の産学官が連携して人材マッチング・育成等を総合的に行う「地域の人事部」の構築
 - ② **企業におけるリカレント教育による人材育成の強化**
 - ・企業と大学等の共同講座設置支援
 - ・企業におけるリカレント教育推進に向けたガイドラインの策定 等
 - ③ **大学等におけるリカレント教育の強化**
 - ・大学における継続的リカレント教育の実施強化を行うためのガイドラインの策定
 - ・リカレント教育推進に向けた組織の整備等、産業界を巻き込んだ仕組みづくりの支援 等
 - ④ **地域におけるデジタル・グリーン分野等の人材育成**
 - ・DX等成長分野のリテラシーレベルの能力取得・リスキングを実施するプログラムへの支援
 - ・脱炭素化に向けた高等教育機関が地域と課題解決に取り組む中での人材育成の支援
 - ・農業大学校等におけるスマート農林水産業のカリキュラム充実、デジタル人材育成
 - ・IT、マーケティング、地域振興の知見・スキルを有する観光人材の育成推進 等

改正建築物省エネ法等の背景・必要性、目標・効果

背景・必要性

- 2050年カーボンニュートラル、2030年度温室効果ガス46%削減(2013年度比)の実現に向け、2021年10月、地球温暖化対策等の削減目標を強化

エネルギー消費の約3割を占める
建築物分野での省エネ対策を加速

＜エネルギー消費の割合＞(2019年度)



木材需要の約4割を占める
建築物分野での木材利用を促進

＜木材需要の割合＞(2020年度)



- 「エネルギー基本計画」(2021年10月22日閣議決定) ※

- ・ 2050年に住宅・建築物のストック平均でZEH・ZEB基準の水準の省エネルギー性能が確保されていることを目指す。
- ・ 建築物省エネ法を改正し、省エネルギー基準適合義務の対象外である住宅及び小規模建築物の省エネルギー基準への適合を2025年度までに義務化するとともに、2030年度以降新築される住宅・建築物について、ZEH・ZEB基準の水準の省エネルギー性能の確保を目指し、総合的な誘導基準・住宅トップランナー基準の引上げ、省エネルギー基準の段階的な水準の引上げを遅くとも2030年度までに実施する。

※ 「地球温暖化対策計画」(2021年10月22日閣議決定)にも同様の記載あり

- 「成長戦略フォローアップ」(2021年6月18日閣議決定)

- ・ 建築基準法令について、木材利用の推進、既存建築物の有効活用に向け、2021年中に基準の合理化等を検討し、2022年から所要の制度的措置を講ずる。

＜ 2050年カーボンニュートラルに向けた取組 ＞

【2050年】

ストック平均で、ZEH・ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス/ビル)水準の省エネ性能の確保を目指す

【2030年】

新築について、ZEH・ZEB水準の省エネ性能の確保を目指す

抜本的な取組の強化が必要不可欠

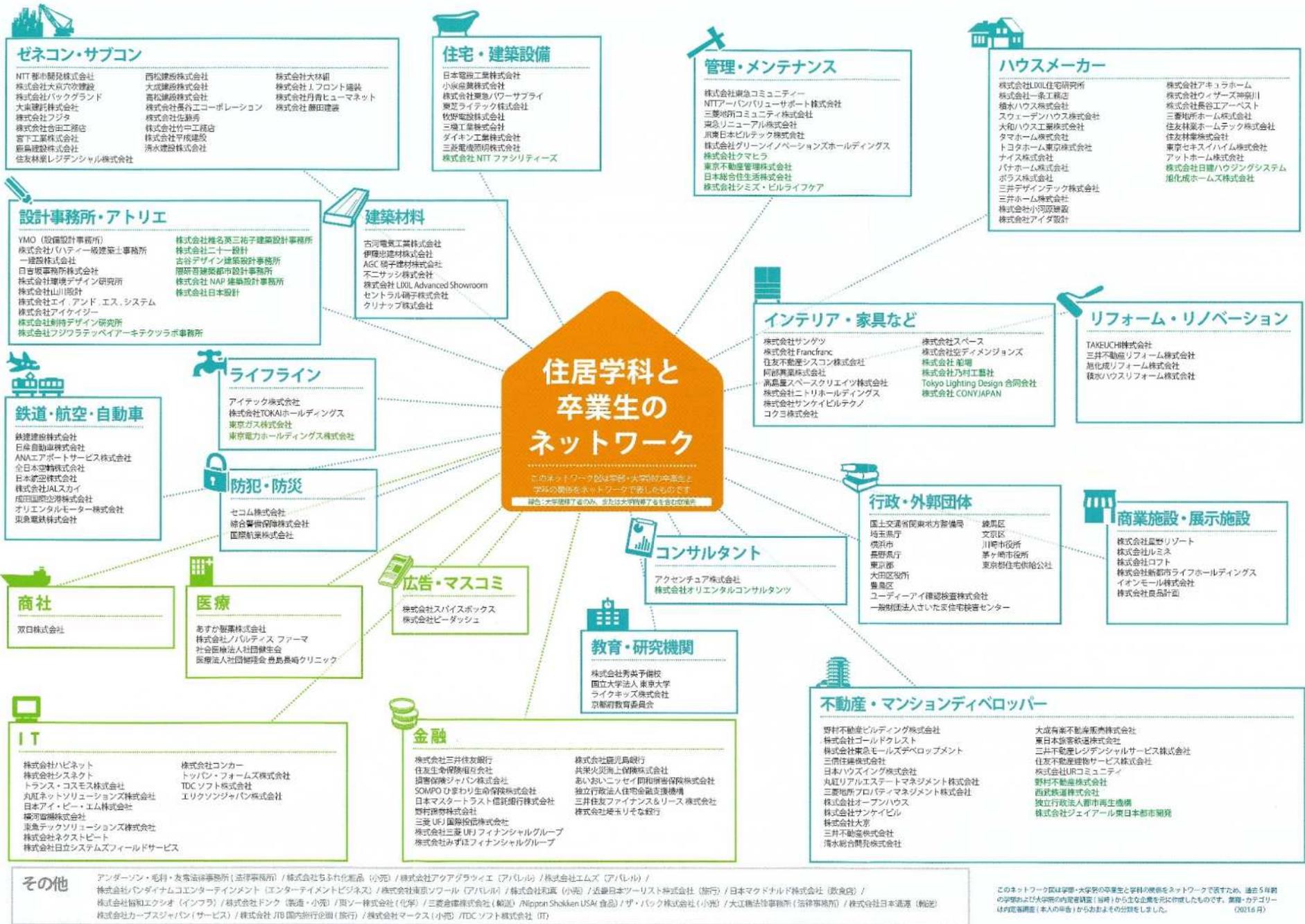
目標・効果

建築物分野の省エネ対策の徹底、吸収源対策としての木材利用拡大等を通じ、脱炭素社会の実現に寄与。

- 2013年度からの対策の進捗により、住宅・建築物に係るエネルギー消費量を約889万kL削減(2030年度)

【資料 9】 建築デザイン学部建築デザイン学科 AP_CP_DP 関係マトリックス

建築デザイン学部建築デザイン学科 AP_CP_DP 関係マトリックス		建築デザイン学科 ディプロマ・ポリシー			
		DP1:住居、建築、地域、都市に関する専門知識を有し、広い視野、グローバルな視点から適切な生活環境を理解し、考察することができる。	DP2:住居、建築、地域、都市を論理的に分析し、デザインするために必要な技能を持ち、多様な人の立場から生活環境に関わる課題を理解し、その課題解決に向けた豊かな生活環境を創造性を持ってデザインすることができる。	DP3:自然科学・情報処理技術の知識や方法も用いながら、学修、研究、設計を行うことができ、その成果や提案を論理的に説明・発表し、討論することができる。	DP4:自立的、継続的、計画的に、かつ協調性を持って学習や課題作業を遂行することができる。
建築デザイン学科 アドミッション・ポリシー	<知識・技能> AP1:高等学校までに学んだ諸科目(外国語(英語)、国語、数学、理科)を通して、住居学、建築学に関わる諸要素を科学的／論理的に理解し、考えるために必要な基礎学力を有している人	CP1:建築デザインに関する専門的な知識・技能を習得するため、建築デザイン、生活、計画、歴史、構造・構法、環境・設備の各分野において講義、演習、実習科目を開講する。		CP4:情報処理技術等を活用した設計手法、分析・解析手法の習得を目的とした講義、演習科目を開講する	
	<思考力・判断力・表現力等の能力> AP2:住居・建築、地域、都市における様々な課題に対して、自分自身の意見や考えを積極的に表現することができる人		CP3:習得した知識を総合し、住居・建築、地域、都市に関わる具体的な課題に対する分析力、課題に対して創造的かつ効果的な解決策を提案(デザイン)し、表現する能力、及び論理的に説明・発表し、討論する能力を養成する実践的な演習科目を開講する。		
	<主体的に学習に取り組む態度> AP3:住居・建築、地域、都市に関わる専門的知識や技能を身につけること、及び居住者・利用者の立場から生活しやすい居住環境の提案や建築、都市のデザインを自立的、継続的、計画的、かつ他者と協力して取り組む意欲を有している人	CP2:建築海外研修や海外の大学等とのワークショップなど、国際性を養う授業科目を開講する。	建築デザイン学科 カリキュラム・ポリシー		CP5:自立的、継続的、計画的に、かつ協調性を持って作業を遂行する能力を養うため実験、演習、設計実習科目を開講する。



このネットワークは、大学院の卒業生と学科の関係をネットワークで表すため、過去5年間の学部および大学院の卒業生調査（母体）から主な企業を元に作成したものです。関係・カテゴリーは任意調査（本人の申告）からおよびその分類をしました。（2021年）

日本女子大学建築デザイン学部 カリキュラム系統図

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目・基礎科目等		教養特別講義							
		身体運動							
		教養科目							
		英語(語学)							
		基礎情報処理				応用情報処理			
		キャリア形成科目		キャリア形成科目		キャリア形成科目		キャリア形成科目	
デザイン・歴史	基礎	設計製図Ⅰ 日本住居史 西洋住居史	設計製図Ⅱ 空間デザイン概論	建築設計スタジオⅠ コンピュータデザインⅠ 建築専門英語	建築設計スタジオⅡ				
	応用	形とデザインⅠ	形とデザインⅡ			建築設計スタジオⅢ インテリアデザイン演習			
	発展	絵画デッサン			日本建築史 コンピュータデザインⅡ 西洋建築史 インテリアデザイン 建築総合演習	建築保存再生論 都市史演習 コンピュータデザインⅢ	建築設計スタジオⅣ 生活プロダクトデザイン	建築設計スタジオⅤ	
生活・計画	基礎	住居計画	住生活学 バリアフリーデザイン論	建築計画 住環境計画 生活環境安全論			建築法規		
	応用					福祉環境論 住宅政策 住居・建築管理	都市計画	住宅・建築経済 ランドスケープデザイン	
	発展							地域施設計画論 福祉環境演習 都市デザイン演習 リサーチデザイン	建築と社会
構造・環境	基礎	住居構造 住居環境		構造力学Ⅰ 建築構造 建築設備Ⅰ	構造力学Ⅱ 建築環境工学	建築施工 建築材料			
	応用	力と形				建築設備Ⅱ			
	発展	建築数学物理基礎				建築構法		構造デザイン演習	環境・設備演習
専門 関連	(選択)	フィールドスタディ(農業・農村)		消費生活論Ⅰ	まちづくり基礎演習 異分野連携実践演習				
卒論・ 卒制	(必修)					建築住居学演習Ⅰ		建築住居学演習Ⅱ 卒業論文・卒業制作	建築住居学演習Ⅲ

建築デザイン学部建築デザイン学科 履修モデル ①設計系

	1年		2年		3年		4年		取得単位								
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
教養科目・基礎科目等	教養特別講義								27								
	教養特別講義	1															
	身体運動																
	身体運動 1a	1	身体運動 1b	1													
	教養科目																
	【A群】法学入門	2	【A群】経営学の世界	2	【B群】人間生理学	2	【C群】東洋音楽の歴史	2									
					【C群】文化人類学入門	2	【B群】物理学とテクノロジー	2									
	英語(語学)																
	プレゼンテーション・イングリッシュa	2	プレゼンテーション・イングリッシュb	2													
	アクティブ・イングリッシュa	2	アクティブ・イングリッシュb	2													
	情報処理/AI・DS・ICT																
基礎情報処理	2																
キャリア形成/社会連携																	
社会課題とNPO・NGO	2																
デザイン・歴史	基礎	設計製図Ⅰ 日本住居史 西洋住居史	2 2 2	設計製図Ⅱ 空間デザイン概論	2 2	建築設計スタジオⅠ コンピュータデザインⅠ 建築専門英語	2 2 2	建築設計スタジオⅡ	2	18							
	応用	形とデザインⅠ	2	形とデザインⅡ	2	コンピュータデザインⅡ 西洋建築史 日本建築史 インテリアデザイン	2 2 2 2	建築設計スタジオⅢ インテリアデザイン演習	2 2		16						
	発展	絵画デッサン	1			建築総合演習		建築保存再生論 都市史演習 コンピュータデザインⅢ	2 2 2			建築設計スタジオⅣ 生活プロダクトデザイン	2	建築設計スタジオⅤ	3	8	
生活・計画	基礎	住居計画	2	住生活学 バリアフリーデザイン論	2 2	建築計画 住環境計画 生活環境安全論	2 2 2	建築法規	2	14							
	応用					福祉環境論 住宅政策 住居・建築管理	2 2 2	都市計画 ランドスケープデザイン	2		6						
	発展							地域施設計画論 福祉環境演習 都市デザイン演習 リサーチデザイン	2			建築と社会	2	2			
構造・環境	基礎	住居環境 住居構造	2 2	構造力学Ⅰ 建築構造 建築設備Ⅰ	2 2 2	構造力学Ⅱ 建築環境工学 建築構法	2 2 2	建築施工 建築材料	2 2	20							
	応用	カと形	4					建築設備Ⅱ			4						
	発展	建築数学物理基礎						構造デザイン演習	環境・設備演習				0				
専門関連	(選択)	フィールドスタディ(農業・農村)		消費生活論Ⅰ		まちづくり基礎演習 異分野連携実践演習				0							
卒論・卒制	(必修)							建築住居学演習Ⅰ	2		建築住居学演習Ⅱ	2	建築住居学演習Ⅲ	2	卒業論文・卒業制作	4	10
取得単位		22		26		22		24		14		6		5		6	

建築デザイン学部建築デザイン学科 履修モデル ②環境工学系

	1年		2年		3年		4年		取得 単位			
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
教養科目・ 基礎科目等	教養特別講義								27			
	教養特別講義											
	身体運動											
	身体運動 1a	1	身体運動 1b	1								
	教養科目											
	【A群】法学入門	2	【A群】経営学の世界	2	【B群】人間生理学 【C群】文化人類学入門	2 2	【C群】東洋音楽の歴史 【B群】天文学と宇宙観の歴史	2 2				
	英語(語学)											
	プレゼンテーション・イングリッシュa	2	プレゼンテーション・イングリッシュb	2								
	アクティブ・イングリッシュa	2	アクティブ・イングリッシュb	2								
	情報処理/AI・DS・ICT											
基礎情報処理	2											
キャリア形成/社会連携												
社会課題とNPO・NGO	2											
デザイン・ 歴史	基礎	設計製図Ⅰ 日本住居史 西洋住居史	2 2 2	設計製図Ⅱ 空間デザイン概論	2 2	建築設計スタジオⅠ コンピュータデザインⅠ 建築専門英語	2 2 2	建築設計スタジオⅡ	2	18		
	応用	形とデザインⅠ	1	形とデザインⅡ	1	コンピュータデザインⅡ 西洋建築史 日本建築史 インテリアデザイン	2 2 2 2	建築設計スタジオⅢ インテリアデザイン演習		10		
	発展	絵画デッサン				建築総合演習		建築保存再生論 都市史演習 コンピュータデザインⅢ	建築設計スタジオⅣ 生活プロダクトデザイン	建築設計スタジオⅤ	0	
	生活・ 計画	基礎	住居計画	2	住生活学 バリアフリーデザイン論	2 2	建築計画 住環境計画 生活環境安全論	2 2 2	建築法規	2	14	
応用						福祉環境論 住居・建築管理	2 2	都市計画	2	ランドスケープデザイン 住宅・建築経済	2 2	10
発展								地域施設計画論 福祉環境演習 都市デザイン演習 リサーチデザイン	2	建築と社会	2	2
構造・ 環境	基礎		住居環境 住居構造	2 2	構造力学Ⅰ 建築構造 建築設備Ⅰ	2 2 2	構造力学Ⅱ 建築環境工学 建築構法	2 2 2	建築施工 建築材料	2 2	20	
	応用		力と形	4			建築構法	2	建築設備Ⅱ	2	8	
	発展	建築数学物理基礎	2					構造デザイン演習	環境・設備演習	4	6	
専門 関連	(選択)	フィールドスタディ(農業・農村)		消費生活論Ⅰ		まちづくり基礎演習 異分野連携実践演習						
卒論・ 卒制	(必修)							建築住居学演習Ⅰ	2	建築住居学演習Ⅱ 建築住居学演習Ⅲ 卒業論文・卒業制作	2 2 4	10
取得単位	22	25	22	26	12	10	2	6	125			

建築デザイン学部建築デザイン学科 履修モデル ③構造デザイン系

	1年		2年		3年		4年		取得単位				
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
教養科目・基礎科目等	教養特別講義								27				
	教養特別講義		1										
	身体運動												
	身体運動 1a	1	身体運動 1b	1									
	教養科目												
	【A群】法学入門	2	【A群】経営学の世界	2	【B群】人間生理学	2	【C群】東洋音楽の歴史	2					
					【C群】文化人類学入門	2	【B群】天文学と宇宙観の歴史	2					
	英語(語学)												
	プレゼンテーション・イングリッシュa	2	プレゼンテーション・イングリッシュb	2									
	アクティブ・イングリッシュa	2	アクティブ・イングリッシュb	2									
情報処理/AI・DS・ICT													
基礎情報処理													
キャリア形成/社会連携													
社会課題とNPO・NGO													
デザイン・歴史	基礎	設計製図Ⅰ	2	設計製図Ⅱ	2	建築設計スタジオⅠ	2	建築設計スタジオⅡ	2	18			
		日本住居史	2	空間デザイン概論	2	コンピュータデザインⅠ	2						
	西洋住居史	2				建築専門英語	2						
応用	形とデザインⅠ	1	形とデザインⅡ	1			コンピュータデザインⅡ	2	建築設計スタジオⅢ	2	12		
							西洋建築史	2	インテリアデザイン演習				
発展	絵画デッサン						インテリアデザイン	2	建築保存再生論	2	4		
							建築総合演習		都市史演習				
生活・計画	基礎	住居計画	2	住生活学	2	建築計画	2	建築法規	2		14		
				バリアフリーデザイン論	2	住環境計画	2						
	応用					生活環境安全論	2						
発展						福祉環境論	2	都市計画	2	ランドスケープデザイン	2	8	
						住居・建築管理	2			住宅・建築概論			
構造・環境	基礎	住居環境	2	住居構造	2	構造力学Ⅰ	2	構造力学Ⅱ	2	建築施工	2	20	
		住居環境	2			建築構造	2	建築環境工学	2	建築材料	2		
	応用		カと形	4			建築設備Ⅰ	2	建築構法	2	建築設備Ⅱ	2	8
発展	建築数学物理基礎	2							構造デザイン演習	2	環境・設備演習		4
専門関連	(選択)	フィールドスタディ(農業・農村)				消費生活論Ⅰ		まちづくり基礎演習				0	
卒論・卒制	(必修)							異分野連携実践演習					
取得単位		22	25	22	26	18	4	2	2	2	4	125	

建築デザイン学部建築デザイン学科 履修モデル ④建築文化(保存再生)系

	1年		2年		3年		4年		取得単位			
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
教養科目・基礎科目等	教養特別講義								27			
	教養特別講義											
	身体運動											
	身体運動 la	1	身体運動 lb	1								
	教養科目											
	【A群】世界経済	2	【C群】映像論	2	【A群】政治思想の歴史	2	【C群】舞台芸術の歴史・東洋	2				
					【B群】衣と健康	2	【B群】歴史の中の数学	2				
	英語(語学)											
	プレゼンテーション・イングリッシュa	2	プレゼンテーション・イングリッシュb	2								
	アクティブ・イングリッシュa	2	アクティブ・イングリッシュb	2								
情報処理/AI・DS・ICT												
基礎情報処理												
キャリア形成/社会連携												
社会課題とNPO・NGO												
デザイン・歴史	基礎	設計製図Ⅰ	2	設計製図Ⅱ	2	建築設計スタジオⅠ	2	建築設計スタジオⅡ	2	18		
		日本住居史	2	空間デザイン概論	2	コンピュータデザインⅠ	2					
	応用	西洋住居史	2			建築専門英語	2			14		
		形とデザインⅠ	2	形とデザインⅡ	2			コンピュータデザインⅡ	2			
発展							西洋建築史	2	建築設計スタジオⅢ	2	6	
	絵画デッサン						インテリアデザイン	2	インテリアデザイン演習			
生活・計画	基礎	住居計画	2	住生活学	2	建築計画	2	建築法規	2	14		
				バリアフリーデザイン論	2	住環境計画	2					
	応用					生活環境安全論	2	福祉環境論	2	都市計画	2	8
								住居・建築管理	2	住居・建築管理	2	
発展								地域施設計画論		ランドスケープデザイン	2	2
								福祉環境演習		住宅・建築経済	2	
構造・環境	基礎	住居環境	2	住居環境	2	構造力学Ⅰ	2	構造力学Ⅱ	2	建築法規	2	20
		住居構造	2	住居構造	2	建築構造	2	建築環境工学	2	建築材料	2	
	応用		力と形	4			建築設備Ⅰ	2	建築構法	2		4
発展												2
	建築数学物理基礎	2								構造デザイン演習	環境・設備演習	
専門関連(選択)	フィールドスタディ(農業・農村)				消費生活論Ⅰ		まちづくり基礎演習				0	
							異分野連携実践演習					
卒論・卒制(必修)									建築住居学演習Ⅰ		2	10
									建築住居学演習Ⅱ		2	
									建築住居学演習Ⅲ		2	4
									卒業論文・卒業制作		4	
取得単位	23		26		22		26		14		6	125

建築デザイン学部建築デザイン学科 履修モデル ⑤まちづくり系

	1年		2年		3年		4年		取得単位							
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
教養科目・基礎科目等	教養特別講義								27							
	教養特別講義		1													
	身体運動															
	身体運動 1a	1	身体運動 1b	1												
	教養科目															
	【A群】法学入門	2	【C群】西洋美術史	2	【B群】衣と健康	2	【A群】女性と法律	2								
	【B群】食と健康	2			【C群】日本社会と宗教	2										
	英語(語学)															
	プレゼンテーション・イングリッシュa	2	プレゼンテーション・イングリッシュb	2												
	アクティブ・イングリッシュa	2	アクティブ・イングリッシュb	2												
情報処理/AI・DS・ICT 基礎情報処理		2														
		キャリア形成/社会連携														
		社会連携を学ぶA		2												
デザイン・歴史	基礎	設計製図Ⅰ	2	設計製図Ⅱ	2	建築設計スタジオⅠ	2	建築設計スタジオⅡ	2	18						
		日本住居史	2	空間デザイン概論	2	コンピュータデザインⅠ	2									
	応用	西洋住居史	2			建築専門英語	2			6						
発展	絵画デッサン								2							
生活・計画	基礎	住居計画	2	住生活学	2	建築計画	2	建築法規	2	14						
				バリアフリーデザイン論	2	住環境計画	2									
	応用				生活環境安全論	2	福祉環境論	2	都市計画	2	ランドスケープデザイン	2	住宅・建築経済	2	10	
発展						住宅政策	2	地域施設計画論		建築と社会	2			8		
構造・環境	基礎	住居環境	2	構造力学Ⅰ	2	構造力学Ⅱ	2	建築施工	2	20						
		住居構造	2	建築構造	2	建築環境工学	2	建築材料	2							
	応用		カと形	4	建築設備Ⅰ	2	建築構法	2	建築設備Ⅱ		4					
発展	建築数学物理基礎	2						構造デザイン演習	2	環境・設備演習			2			
専門関連 (選択)	フィールドスタディ(農業・農村)			消費生活論Ⅰ	2	まちづくり基礎演習	2						4			
卒論・卒制 (必修)													10			
取得単位	21		26		24		24		14		8		2		6	125

「インターンシップⅠ・Ⅱ」実習先一覧

【資料17】

[2018 (H30) ~2022 (R4) 年度実績より抜粋]

受入先	所在地	受入人数
文部科学省	東京都千代田区	2
経済産業省	東京都千代田区	2
女子学生霞が関インターンシップ	東京都千代田区	6
茨城県庁	茨城県水戸市	1
埼玉県庁	埼玉県さいたま市	2
東京都庁	神奈川県横浜市	3
神奈川県庁	神奈川県横浜市	3
中央区役所	東京都中央区	1
文京区役所	東京都文京区	1
中野区役所	東京都中野区	1
杉並区役所	東京都杉並区	1
豊島区役所	東京都豊島区	3
つくば市役所	茨城県つくば市	1
土浦市役所	茨城県土浦市	2
さいたま市役所	埼玉県さいたま市	1
川越市役所	埼玉県川越市	1
春日部市役所	埼玉県春日部市	1
千葉市役所	千葉県千葉市	1
流山市役所	千葉県流山市	1
我孫子市役所	千葉県我孫子市	1
横浜市役所	神奈川県横浜市	6
川崎市役所	神奈川県川崎市	1
川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）	神奈川県川崎市	2
ミュージア川崎シンフォニーホール/公益財団法人川崎市文化財団	神奈川県川崎市	1
アクアデザイン株式会社	東京都新宿区	1
株式会社梓設計	東京都大田区	1
株式会社計画設計	東京都北区	1
東急建設株式会社	東京都渋谷区	1
東日本旅客鉄道株式会社	東京都渋谷区	1
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区	1
三井住友海上火災保険株式会社	東京都千代田区	1
株式会社山下設計	東京都千代田区	1
株式会社横浜銀行	神奈川県川崎市	1
株式会社ランドスケープデザイン	東京都港区	1
渡辺治建築都市設計事務所	神奈川県川崎市	1

改正	平成19年4月1日	平成26年5月1日
	平成28年4月1日	平成30年4月1日
	2022年4月1日	

(趣旨)

第1条 日本女子大学（以下「本学」という。）の教育研究の充実と多様化を図るため、本学に特任教員を置く。

(任用)

第2条 特任教員の任用は、教授会の議を経て、理事長が行う。

- 2 年齢60歳以上の者については、特任教員としてのみ任用することができる。
- 3 学科に所属する特任教員の任用は、専任教員1名の枠に対して2名までとし、各学科2名を上限とする。

(期間等)

第3条 特任教員の任用期間は、5年を超えないものとする。ただし、法令の定める範囲で特定の期間とすることがある。また、必要があると認めた場合には、連続して10年を超えない範囲で、更新して任用することができる。

- 2 特任教員の任用は、満68歳に達した日の属する年度末日までとする。
- 3 前項に関わらず、学部学科改組に伴う申請上、特に必要と理事長が判断し常任理事会の承認を得た場合に限り、「教職員就業規則第28条第1号」に定める者を、同条同項に定める定年年齢に達したことによる退職ののち、特任教員として、前項の期日を超えて雇用することがある。その場合の限度は、新增設等の改組を行う学部学科の完成年度までとする。なお、当該特任教員は、第2条第3項には含まない。

(種類と資格)

第4条 特任教員は、特任教授、特任准教授の2種類とする。

- 2 特任教員となることができる者は、教員選考規則（教授の資格）、（准教授の資格）の各号の一に該当し、かつ、以下各号の一に該当する者とする。
 - (1) 本学における職務を本務とする者
 - (2) 本学における教育研究以外の業務に従事する者であって、専任教員とすることが本規程第1条に定める目的に沿って特に必要である者
- 3 他の大学の専任教員である者は、特任教員となることはできない。

(職務)

第5条 特任教員は、授業、研究、論文指導に従事する。

- 2 特任教員は、原則として週10時間（5コマ）の授業を担当する。
- 3 前2項にかかわらず、通信教育課程に所属する特任教員は、週6時間3コマ以上に相当する授業を担当し、加えて週4時間（2コマ）の授業担当に相当する職務とすることがある。
- 4 前3項にかかわらず、教職課程委員を務める通学課程の特任教員は、週8時間4コマ以上に相当する授業（教職課程に関する講義・演習科目3コマを含む）を担当し、加えて週2時間（1コマ）の授業担当に相当する職務とすることがある。
- 5 特任教員は、次の職務を免責される。
 - (1) 教授会の構成員になること。
 - (2) 学部長、学科長等の役職に就くこと。
 - (3) 学科のアドバイザー教員になること。
- 6 前項の規定にかかわらず、必要に応じて、特任教員に対し、教授会、各種委員会等への出席を求めることができる。
- 7 前項に基づき、特任教員に対し、教授会、研究科委員会、各種委員会等への出席を恒常的に求める場合には、第2項に定める特任教員の担当コマ数を週6時間3コマ以上を限度に減ずることができる。

8 特任教員は、入学試験に関する業務を担当する。

(給与等)

第6条 特任教員の本給は、教員基本給表Ⅰの級、号俸により定められた金額の百分の五十に相当する金額とする。ただし、授業担当時間数や職務内容に応じて、減額または増額することができる。

2 特任教員の一時金は、教員基本給表Ⅰの級、号俸により定められた金額(前項により百分の五十とする前の金額)を元に一時金支給基準により算定した金額の百分の五十に相当する金額とする。

3 特任教員には、次に定める諸手当を支給し、それ以外は支給しない。

- (1) 教職員給食規程に基づく昼食
- (2) 通勤費支給細則に基づく通勤費
- (3) 入学試験手当

4 前項にかかわらず、第5条第4項に定める職務を担当する特任教員には、別に定める基準授業時間数を超えて授業を担当した場合、増担手当を支給する。

5 特任教員には、退職金は支給しない。

6 第4条第2項第2号による特任教員の処遇は、第6条、第7条並びに第8条にかかわらず別に定める。(研究費等)

第7条 特任教員の個人研究費、図書費及び研究教育経常費については、専任教員に準じて支給する。

2 前項にかかわらず、通信教育課程に所属する特任教員には、その職務に応じて、研究教育活動に要する費用を、現に学科に所属する特任教員の額を超えない範囲で支給することができる。

3 特任教員には、旅費規程に基づき旅費を支給する。

4 特任教員は、研究室等を使用することができる。

(準用等)

第8条 特任教員の任用、職務、処遇その他の取り扱いについては、この規程で定めるもののほか、教職員就業規則及びその他の規程を準用する。

2 この規程の運用に際し、特別な事情がある場合には、常任理事会の議を経て理事長が特例を認めることができる。ただし、特例は5年間を限度とし、また、学科に所属する特任教員は学科ごとに4名を上限とする。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、理事長が行う。

附 則

この規程は、平成15年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(教職員給食規程を適用することに伴う改正)

この規程は、平成26年5月1日から施行する。

附 則(雇用期間、教員数及び学科に所属しない特任教員の任用等に伴う改正)

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(教職課程を担当する教員の職務の追加及び諸手当支給の変更に伴う改正)

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則(「期間等」の例外的な対応にかかる改正)

この規程は、2022年4月1日から施行する。

<参考>

○教職員就業規則(昭和39年3月10日制定)(抜粋)

第28条 教職員の定年は、次の各号のとおりとし、運用については別に定める。

- (1) 大学及び大学院の教授、准教授、講師、研究員 満68歳
- (2) 附属高等学校教諭・寮監、中学校、小学校及び幼稚園教諭、研究員、さくらナースリー保育士 満65歳
- (3) 職員 満65歳

建築デザイン学部 時間割（通年科目）

曜日	時限	期	科目区分	科目名称	クラス名	担当教員	教室名称	備考
	集中	通年	学科 専門関連	フィールドスタディ（農業・農村）		秋元健治	香306	
	集中	通年	学科 卒論・卒制 関連	卒業論文・卒業制作		江尻憲泰	***	
	集中	通年	学科 卒論・卒制 関連	卒業論文・卒業制作		片山伸也	***	
	集中	通年	学科 卒論・卒制 関連	卒業論文・卒業制作		是澤紀子	***	
	集中	通年	学科 卒論・卒制 関連	卒業論文・卒業制作		佐藤寛志	***	
	集中	通年	学科 卒論・卒制 関連	卒業論文・卒業制作		藤原聡子	***	
	集中	通年	学科 卒論・卒制 関連	卒業論文・卒業制作		半田京子	***	
	集中	通年	学科 卒論・卒制 関連	卒業論文・卒業制作		柳井昭憲	***	
	集中	通年	学科 卒論・卒制 関連	卒業論文・卒業制作		葉袋奈美子	***	
	集中	通年	学科 卒論・卒制 関連	卒業論文・卒業制作		宮晶子	***	
	集中	通年	学科 卒論・卒制 関連	卒業論文・卒業制作		井木佐保里	***	
	集中	通年	学科 卒論・卒制 関連	卒業論文・卒業制作		植田瑞昌	***	
	集中	通年	学科 卒論・卒制 関連	卒業論文・卒業制作		古賀麻子	***	
火曜日	1	通年	学科 専門関連	フィールドスタディ（農業・農村）		秋元健治	香306	

JWUキャリア、JWU社会連携科目
 基礎科目
 教養科目

建築デザイン学部 時間割 (前期科目)

曜日	時限	期	科目区分	科目名称	クラス名	担当教員	教室名称	備考
	集中	前期	基礎・外国語	資格英語(集中) 1	A	長井薫	百202	
	集中	前期	基礎・外国語	資格英語(集中) 1	B	野村祐子	百203	
	集中	前期	基礎・外国語	資格英語(集中) 2		大塚奈穂子	百201	
	集中	前期	基礎・外国語	資格英語(集中) 3		矢野威乃	百204	
	集中	前期	基礎・外国語	集中ドイツ語		岡野伸哉	百205	
	集中	前期	基礎・外国語	集中フランス語		明石伸子	百208	
	集中	前期	基礎・外国語	集中中国語		高日珍	百209	
月曜日	1	前期	学科 基礎	構造力学I		江尻憲泰	香202	
月曜日	1	前期	学科 基礎	建築材料		田村雅紀	香501	
月曜日	1	前期	基礎・外国語	中国語b入門	1	王怡人	百602	
月曜日	1	前期	基礎・外国語	ドイツ語b入門	1	関根裕子	百203	
月曜日	1	前期	基礎・外国語	フランス語b入門	1	久保田静香	12012	
月曜日	1	前期	基礎・外国語	韓国語a入門	2	金亨善	12011	
月曜日	1	前期	基礎・外国語	韓国語a入門	1	金順任	百503	
月曜日	1	前期	基礎・外国語	ドイツ語b入門	2	小出昌弘	香205	
月曜日	1	前期	基礎・外国語	中国語a入門	1	水津有理	百305	
月曜日	1	前期	基礎・外国語	フランス語a入門	1	西脇雅彦	12008	
月曜日	1	前期	基礎・外国語	中国語b入門	3	曾文莉	12014	
月曜日	1	前期	基礎・外国語	ドイツ語a入門	1	柳生桂子	百304	
月曜日	1	前期	基礎・外国語	韓国語a入門	3	李相吉	12013	
月曜日	1	前期	基礎・外国語	中国語b入門	2	盧允	12104	
月曜日	1	前期	基礎・情報処理	ICT活用I		久保准次	コンピュータ演習室6	
月曜日	2	前期	JPO社会連携	ボランティア概論		久米隼	香205	
月曜日	2	前期	JPO社会連携	社会におけるICT、データサイエンス活用B		斎藤典明	コンピュータ演習室3	
月曜日	2	前期	学科 基礎	住居計画		井本佐保里	香301	
月曜日	2	前期	学科 基礎	生活環境安全論		平田京子	香502	
月曜日	2	前期	学科 応用	建築設備II		細井昭憲	香102	
月曜日	2	前期	基礎・外国語	韓国語L.L. 入門		キ ジョンミン	コンピュータ演習室9	
月曜日	2	前期	基礎・外国語	ドイツ語中級	1	関根裕子	百203	
月曜日	2	前期	基礎・外国語	フランス語中級	1	西脇雅彦	12008	
月曜日	2	前期	基礎・外国語	中国語中級アドヴァンスト(原典講読)	1	盧允	12104	
月曜日	2	前期	基礎・身体運動	健康スポーツ論I		野上玲子	12009	
月曜日	3	前期	JPOキャリア	日本の女性史		高松百香	851	
月曜日	3	前期	学科 応用	建築数学物理基礎		小野賢幸	香503	
月曜日	3	前期	学科 基礎	建築専門英語		足澤紀了	百201	
月曜日	3	前期	学科 基礎	建築専門英語		平田京子	百202	
月曜日	3	前期	学科 基礎	建築専門英語		坂袋奈美子	百203	
月曜日	3	前期	学科 基礎	建築専門英語		井本佐保里	百204	
月曜日	3	前期	基礎・外国語	フランス語b入門	2	宮川敬也	百507	
月曜日	3	前期	基礎・外国語	ビジネス・イングリッシュ	A	森田京子	百101	
月曜日	3	前期	基礎・外国語	観光英語	A	川村由美	香201	
月曜日	3	前期	基礎・外国語	TOEIC	1	伊藤亨美	香205	
月曜日	3	前期	基礎・外国語	韓国語L.L. 中級	1	キ ジョンミン	コンピュータ演習室9	
月曜日	3	前期	基礎・身体運動	身体運動II a	(ボルダリング)	横山巧機	体育館他	
月曜日	3	前期	基礎・身体運動	身体運動論		杉山哲司	香202	
月曜日	3-4 (13:20~16:50)	前期	学科 発展	構造デザイン演習		江尻憲泰、三原悠子	香204構造・材料強度試験室	
月曜日	4	前期	JPO社会連携	地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト	演習A	平田京子	香304	
月曜日	4	前期	学科 専門関連	消費生活論I		細川幸一	851	
月曜日	4	前期	基礎・外国語	プレゼンテーション・イングリッシュ a	1 2 (住)	伊藤亨美	百501	
月曜日	4	前期	基礎・外国語	プレゼンテーション・イングリッシュ a	1 4 (住)	奥畑豊	百502	
月曜日	4	前期	基礎・外国語	プレゼンテーション・イングリッシュ a	1 1 (住)	杉山ゆき	百304	
月曜日	4	前期	基礎・外国語	プレゼンテーション・イングリッシュ a	1 0 (住)	杉野健太郎	百204	
月曜日	4	前期	基礎・外国語	プレゼンテーション・イングリッシュ a	1 3 (住)	石川裕子	百305	
月曜日	4	前期	基礎・外国語	英語コミュニケーションIII	1	ジョージ パーニンガー	12101	
月曜日	4	前期	基礎・外国語	観光英語	B	松沼真由子	12012	
月曜日	4	前期	基礎・外国語	韓国語中級	1	キ ジョンミン	百503	

建築デザイン学部 時間割（前期科目）

曜日	時限	期	科目区分	科目名称	クラス名	担当教員	教室名称	備考
月曜日	4	前期	基礎・外国語	フランス語中級	2	ブビ・ダミアン	12104	
月曜日	4	前期	基礎・外国語	ドイツ語中級	2	田中洋	演7 2	
月曜日	5	前期	学科 卒論・卒前関連	建築住居学演習Ⅱ	A	江尻憲泰	個人研究室	
月曜日	5	前期	学科 卒論・卒前関連	建築住居学演習Ⅱ	B	片山伸也	個人研究室	
月曜日	5	前期	学科 卒論・卒前関連	建築住居学演習Ⅱ	C	是澤紀子	個人研究室	
月曜日	5	前期	学科 卒論・卒前関連	建築住居学演習Ⅱ	D	佐藤克志	個人研究室	
月曜日	5	前期	学科 卒論・卒前関連	建築住居学演習Ⅱ	E	篠原聡子	個人研究室	
月曜日	5	前期	学科 卒論・卒前関連	建築住居学演習Ⅱ	F	平田京子	個人研究室	
月曜日	5	前期	学科 卒論・卒前関連	建築住居学演習Ⅱ	G	細井昭憲	個人研究室	
月曜日	5	前期	学科 卒論・卒前関連	建築住居学演習Ⅱ	H	葉袋奈美子	個人研究室	
月曜日	5	前期	学科 卒論・卒前関連	建築住居学演習Ⅱ	J	宮島子	個人研究室	
月曜日	5	前期	学科 卒論・卒前関連	建築住居学演習Ⅱ	K	井本佐保里	個人研究室	
月曜日	5	前期	学科 卒論・卒前関連	建築住居学演習Ⅱ	L	植田瑞昌	個人研究室	
月曜日	5	前期	学科 卒論・卒前関連	建築住居学演習Ⅱ	M	吉賀麻子	個人研究室	
月曜日	5	前期	基礎・外国語	TOEIC	2	大場昌子	コンピュータ演習室 9	
月曜日	5	前期	基礎・身体運動	身体運動I a	(制限 1)	杉山哲司	体育館他	
月曜日	6	前期	教養	国際社会と人権		佐々木裕子	***	遠隔
月曜日	6	前期	教養	法学入門		細川幸一	***	遠隔
月曜日	6	前期	教養	日本国憲法	-1	坂田仰	***	遠隔
月曜日	6	前期	教養	社会学入門		三原武司	***	遠隔
月曜日	6	前期	教養	地理学		山本亮	***	遠隔
月曜日	6	前期	教養	世界経済		秋元健治	***	遠隔
月曜日	6	前期	教養	基礎から学ぶコンピューター		小川賀代	***	遠隔
月曜日	6	前期	教養	西洋思想		杉本隆久	***	遠隔
月曜日	6	前期	教養	脳と行動		石金浩史	***	遠隔
月曜日	6	前期	教養	ことばとは何か		村山実和子	***	遠隔
月曜日	6	前期	教養	経済学の世界	-2	中山真緒	***	遠隔
月曜日	6	前期	教養	生命科学	-2	藤原宏子	***	遠隔
月曜日	6	前期	教養	統計学入門		齋藤玲	***	遠隔
火曜日	1	前期	JROキャリア	女性と身体	-1	鈴木幸子	百504	
火曜日	1	前期	学科 基礎	建築設備I		細井昭憲	香501	
火曜日	1	前期	学科 応用	都市計画		内田奈芳美	百506	
火曜日	1	前期	基礎・外国語	中国語 a 入門	3	ウ越峻	12012	
火曜日	1	前期	基礎・外国語	フランス語 a 入門	3	藤部素幸	百208	
火曜日	1	前期	基礎・外国語	中国語 b 入門	5	王怡人	12015	
火曜日	1	前期	基礎・外国語	ドイツ語 b 入門	3	岡野伸哉	12014	
火曜日	1	前期	基礎・外国語	フランス語 a 入門	2	久保田静香	12011	
火曜日	1	前期	基礎・外国語	中国語 b 入門	4	青家歳	百702	
火曜日	1	前期	基礎・外国語	韓国語 a 入門	7	金亨善	百501	
火曜日	1	前期	基礎・外国語	韓国語 a 入門	6	金玟志	百209	
火曜日	1	前期	基礎・外国語	韓国語 b 入門	2	権芳賢	12010	
火曜日	1	前期	基礎・外国語	フランス語 a 入門	5	高山典子	12104	
火曜日	1	前期	基礎・外国語	ドイツ語 a 入門	3	坂巻隆裕	12004	
火曜日	1	前期	基礎・外国語	中国語 a 入門	5	上出徳太郎	百304	
火曜日	1	前期	基礎・外国語	中国語 a 入門	7	水津有理	香404	
火曜日	1	前期	基礎・外国語	中国語 a 入門	2	張培華	百601	
火曜日	1	前期	基礎・外国語	ドイツ語 a 入門	2	田村円	12107	
火曜日	1	前期	基礎・外国語	韓国語 a 入門	4	朴信暎	12005	
火曜日	1	前期	基礎・外国語	韓国語 a 入門	5	朴美京	香305	
火曜日	1	前期	基礎・外国語	韓国語 b 入門	1	李珉松	百502	
火曜日	1	前期	基礎・外国語	中国語 a 入門	4	陸樹芳	12013	
火曜日	1	前期	基礎・外国語	フランス語 a 入門	4	實谷美咲	12108	
火曜日	1	前期	基礎・外国語	中国語 a 入門	6	壽日珍	12008	
火曜日	2	前期	JROキャリア	仕事・結婚・わたし	-1	高井彩名	香401	
火曜日	2	前期	学科 基礎	住環境計画		葉袋奈美子	12001	
火曜日	2	前期	学科 発展	建築保存再生論		是澤紀子	香302	

建築デザイン学部 時間割 (前期科目)

曜日	時限	期	科目区分	科目名称	クラス名	担当教員	教室名称	備考
火曜日	2	前期	基礎・外国語	英語コミュニケーションII	1	寺嶋さなえ	百602	
火曜日	2	前期	基礎・外国語	観光英語	C	田中由香	12009	
火曜日	2	前期	基礎・外国語	フランス語中級	3	藤部素幸	百208	
火曜日	2	前期	基礎・外国語	ドイツ語中級	3	坂巻隆裕	12004	
火曜日	2	前期	基礎・外国語	中国語中級	1	張培華	百601	
火曜日	2	前期	基礎・外国語	韓国語中級	2	朴美京	香305	
火曜日	2	前期	基礎・外国語	中国語L.L. 中級	1	駐樹芳	12013	
火曜日	2	前期	基礎・外国語	中国語上級	1	馬口珍	12008	
火曜日	3	前期	JPOキャリア	女性就業と家族の経済学	-1	周燕飛	百207	
火曜日	3	前期	JPOキャリア	社会に出るための自己表現	-2	砂子一雄	百603	
火曜日	3	前期	学科 発展	地域施設計画論		井本佐保里	百502	
火曜日	3	前期	基礎・外国語	TOEIC	3	佐野陽子	香306	
火曜日	3	前期	基礎・外国語	英語コミュニケーションI	4	寺嶋さなえ	香404	
火曜日	3	前期	基礎・外国語	ドイツ語中級	4	ベアタ・ギボフスカ	12103	
火曜日	3	前期	基礎・外国語	フランス語中級アドヴァンスト(原典講読)	1	久保田静香	12012	
火曜日	3	前期	基礎・外国語	韓国語中級アドヴァンスト(原典講読)	1	李根松	百203	
火曜日	3	前期	基礎・情報処理	ICT活用V		清水謙太郎	物理情報演習室	
火曜日	3	前期	基礎・身体運動	身体運動I a	(住・史)	大田崇央、立河涼子、野澤隆司	体育館他	
火曜日	3-4 (13:20~16:50)	前期	学科 基礎	建築設計スタジオ I		江尻憲泰、是輝知子、細井昭憲、菅島子、佐野もも、武田清明、針谷將史	設計スタジオABC	
火曜日	4	前期	学科 発展	都市デザイン演習		葉袋奈美子	百502	
火曜日	4	前期	基礎・外国語	TOEIC	4	小池アニータ	百201	
火曜日	4	前期	基礎・外国語	ドイツ語L.L. 入門		ベアタ・ギボフスカ	12103	
火曜日	4	前期	基礎・外国語	英語コミュニケーションI	1	佐野陽子	香203	
火曜日	4	前期	基礎・外国語	中国語中級	2	山下哲司	12009	
火曜日	4	前期	基礎・身体運動	身体運動I a	(住・英)	大田崇央、立河涼子、野澤隆司	体育館他	
火曜日	4	前期	基礎・身体運動	身体運動演習 a	(スポーツ科学演習)	佐古隆之	体育館他	
火曜日	5	前期	学科 発展	都市史演習		片山伸也	香302	
火曜日	5	前期	基礎・情報処理	基礎情報処理	(10件)	藤川智子	コンピュータ演習室1	
火曜日	5	前期	基礎・身体運動	身体運動I a	(制限 2)	佐古隆之	体育館他	
火曜日	6	前期	教養	思想・哲学	-1	伊藤由希了	***	遠隔
火曜日	6	前期	教養	世界の神話	-1	神田瑞穂	***	遠隔
火曜日	6	前期	教養	社会福祉学		黒岩亮子	***	遠隔
火曜日	6	前期	教養	政治と福祉		山村りつ	***	遠隔
火曜日	6	前期	教養	物理学はいかに創られたか		秋本晃一	***	遠隔
火曜日	6	前期	教養	生物の起源と進化		上田実希	***	遠隔
火曜日	6	前期	教養	教養としての数学		杉山倫	***	遠隔
火曜日	6	前期	教養	20・21世紀の外国文学	-1	杉村安幾子	***	遠隔
火曜日	6	前期	教養	心理学	-1	石井辰典	***	遠隔
火曜日	6	前期	教養	映像論	-1	川崎公平	***	遠隔
火曜日	6	前期	教養	文化人類学入門		朝日由実子	***	遠隔
火曜日	6	前期	教養	政治思想の歴史		飛矢崎雅也	***	遠隔
火曜日	6	前期	教養	心と健康	-1	北島歩美	***	遠隔
火曜日	6	前期	教養	美学	-1	木村寛	***	遠隔
水曜日	1	前期	JPOキャリア	多様な働き方とキャリア		増田幸弘	百505	
水曜日	1	前期	基礎・外国語	リーディングII	A	ニール・アディン	百306	
水曜日	1	前期	基礎・外国語	英語コミュニケーションI	3	三田良平	香102	
水曜日	1	前期	基礎・外国語	TOEIC	5	田中みんね	12009	
水曜日	1	前期	基礎・外国語	メディア・リスニング	A	櫻井千佳子	12008	
水曜日	1	前期	基礎・外国語	中国語中級	3	杉村安幾子	百101	
水曜日	1-2 (9:00~12:30)	前期	学科 基礎	設計製図I		片山伸也、葉袋奈美子、平田良希、古賀満子、佐藤香穂	設計スタジオABC	
水曜日	2	前期	JPOキャリア	ライフステージと法		柳原由以、大沼宗範	香501	
水曜日	2	前期	JPOキャリア	社会に出るための自己表現	-1	吉良俊彦	百506	
水曜日	2	前期	JPO社会連携	社会におけるICT、データサイエンス活用A		湯浅日敏	百202	
水曜日	2	前期	JPOキャリア	現代男性論		須長史生	香401	

建築デザイン学部 時間割 (前期科目)

曜日	時限	期	科目区分	科目名称	クラス名	担当教員	教室名称	備考
水曜日	2	前期	学科 基礎	建築計画		宮島子	百505	
水曜日	2	前期	学科 発展	コンピュータデザインⅢ		松長知宏	コンピュータ演習室2	
水曜日	2	前期	基礎・外国語	メディア・リスニング	B	フォースター	百502	
水曜日	2	前期	基礎・外国語	リーディングI	A	三田良平	香203	
水曜日	2	前期	基礎・外国語	フランス語中級アドヴァンスト(原典講読)	2	高井奈緒	12101	
水曜日	2	前期	基礎・外国語	韓国語中級	8	李根松	12107	
水曜日	2	前期	基礎・身体運動	身体運動II a	(ヨガ&ピラティス)	藤田美砂子	体育館他	
水曜日	3	前期	JBOキャリア	現代女性論	-1	伊吹美貴子	香401	
水曜日	3	前期	基礎・外国語	IELTS	1	ロビンソン	百304	
水曜日	3	前期	基礎・外国語	中国語 a 入門	8	鈴木直子	百209	
水曜日	3	前期	基礎・外国語	中国語中級アドヴァンスト(コミュニケーション)		杉村安幾子	12007	
水曜日	3	前期	基礎・外国語	フランス語 L. L. 中級	1	川口裕司	コンピュータ演習室9	
水曜日	3	前期	基礎・外国語	フランス語上級	1	堀千晶	百306	
水曜日	3-4 (13:20~16:50)	前期	学科 発展	福祉環境演習		佐藤克志	住居基礎デザイン室	
水曜日	3-5 (13:20~18:40)	前期	学科 発展	建築設計スタジオV		飯原聡子、宮島子、萩原剛、青村雅孝	設計スタジオC	
水曜日	4	前期	JBO社会連携	社会課題とNPO・NGO		土屋真美子	香205	
水曜日	4	前期	JBOキャリア	現代ビジネスと起業		奥山睦	香203	
水曜日	4	前期	JBOキャリア	社会に出るための自己表現	-3	尾方僚	百504	
水曜日	4	前期	学科 発展	絵画デッサン		篠崎隆	百505	
水曜日	4	前期	基礎・外国語	TOEIC	6	クロシュ・シヤドマンド	12003	
水曜日	4	前期	基礎・外国語	フランス語 L. L. 入門	1	川口裕司	コンピュータ演習室9	
水曜日	4	前期	基礎・外国語	中国語 a 入門	9	鈴木直子	百209	
水曜日	4	前期	基礎・外国語	フランス語中級	4	堀千晶	百305	
水曜日	4	前期	基礎・身体運動	身体運動演習 a	(ボクシング)	河田美保	体育館他	
水曜日	4	前期	基礎・身体運動	身体運動II a	(フットサル)	戸枝美咲	体育館他	
水曜日	4	前期	基礎・身体運動	身体運動II a	(ボルダリング)	西谷善子	体育館他	
水曜日	5	前期	学科 応用	インテリアデザイン演習	A	瀬川翠	百203	
水曜日	5	前期	学科 応用	インテリアデザイン演習	B	留神尚史	百503	
水曜日	6	前期	教養	ロジカル・シンキング入門		加藤喜市	***	遠隔
水曜日	6	前期	教養	東洋思想		吉田薫	***	遠隔
水曜日	6	前期	教養	世界の古典・文学	-2	久保田静香	***	遠隔
水曜日	6	前期	教養	西洋美術史	-1	宮崎匠	***	遠隔
水曜日	6	前期	教養	教育人間学		森崎晋平	***	遠隔
水曜日	6	前期	教養	平和学		高橋順子	***	遠隔
水曜日	6	前期	教養	法哲学		松本和彦	***	遠隔
水曜日	6	前期	教養	住まいのデザイン		足澤紀子、平田京子、葉袋奈美子	***	遠隔
水曜日	6	前期	教養	日本の政治		大倉沙江	***	遠隔
水曜日	6	前期	教養	地球の自然と資源		山中伸幸	***	遠隔
水曜日	6	前期	教養	社会思想の歴史		飛矢崎雅也	***	遠隔
水曜日	6	前期	教養	化学の歴史		林久史	***	遠隔
水曜日	6	前期	教養	生命科学	-1	齋藤理佳	***	遠隔
木曜日	1	前期	学科 応用	形とデザイン I		片山伸也、江添貴子	設計スタジオABC	
木曜日	1	前期	学科 基礎	建築構造		宮本俊輔	851	
木曜日	1	前期	学科 基礎	建築施工		佐藤典子	香202	
木曜日	1	前期	基礎・外国語	フランス語 a 入門	6	小出石敬子	12013	
木曜日	1	前期	基礎・外国語	中国語中級	4	水津有理	12009	
木曜日	1	前期	基礎・情報処理	ICT活用II		小富山春美	百203	
木曜日	2	前期	学科 基礎	日本住居史		足澤紀子	百206	
木曜日	2	前期	学科 基礎	建築法規		松宮綾子	香202	
木曜日	2	前期	基礎・外国語	メディア・リスニング	C	フォースター	百502	
木曜日	2	前期	基礎・外国語	リーディングIII	A	伊藤健一郎	百304	
木曜日	2	前期	基礎・外国語	中国語 a 入門	10	杉村安幾子	12104	
木曜日	2	前期	基礎・外国語	観光英語	D	矢野綾乃	香405	
木曜日	2	前期	基礎・外国語	ドイツ語中級アドヴァンスト(原典講読)	2	奥坂一秀	12107	
木曜日	2	前期	基礎・外国語	韓国語中級	4	権秀賢	百202	

建築デザイン学部 時間割（前期科目）

曜日	時限	期	科目区分	科目名称	クラス名	担当教員	教室名称	備考
木曜日	2	前期	基礎・外国語	ドイツ語中級アドヴァンスト（原典講読）	1	黒子康弘	演7 2	
木曜日	2	前期	基礎・外国語	中国語中級アドヴァンスト（原典講読）	2	三田明弘	12102	
木曜日	2	前期	基礎・外国語	フランス語中級	5	小出石敏子	12004	
木曜日	2	前期	基礎・外国語	中国語中級	5	水津有理	百7 0 2	
木曜日	2	前期	基礎・情報処理	ICT活用III		島海有紀	コンピュータ演習室2	
木曜日	3	前期	教養	天文学と宇宙観の歴史	-1	関井隆	百2 0 7	
木曜日	3	前期	教養	人間生理学		太田正人	百1 0 1	
木曜日	3	前期	教養	女性と芸術		鈴木喜和	百2 0 6	
木曜日	3	前期	教養	DNAの拓いた生命科学		和賀祥	百7 0 1	
金曜日	1	前期	学科 基礎	コンピュータデザインI	A	佐藤克志	コンピュータ演習室2	
金曜日	1	前期	基礎・外国語	英語コミュニケーションIII	2	スレイター	百6 0 1	
金曜日	1	前期	基礎・外国語	中国語 b 入門	6	許家晟	香4 0 4	
金曜日	1	前期	基礎・外国語	中国語 L. L. 入門	1	漆紅	コンピュータ演習室4・5	
金曜日	1	前期	基礎・外国語	中国語中級	6	後藤典子	香3 0 5	
金曜日	2	前期	学科 基礎	西洋住居史		片山伸也	851	
金曜日	2	前期	学科 基礎	コンピュータデザインI	B	佐藤克志	コンピュータ演習室2	
金曜日	2	前期	学科 発展	リサーチデザイン		井木佐保里	コンピュータ演習室3	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	英語コミュニケーションII	2	ジェイソン・パー タシヤス	12108	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	ライティングIII	A	スレイター	百6 0 1	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	ビジネス・イングリッシュ	B	フォスター	百5 0 2	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	フランス語 L. L. 入門	2	ズビ・ダミアン	百2 0 9	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	フランス語 a 入門	8	羽生敏子	12003	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	中国語 a 入門	13	黄麗華	香2 0 5	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	韓国語 a 入門	8	金順任	12009	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	韓国語 a 入門	10	藤田勇	12005	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	韓国語 a 入門	9	権秀賢	12015	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	中国語 a 入門	12	後藤典子	香3 0 5	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	中国語 b 入門	7	瘡尤	香4 0 4	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	ドイツ語 a 入門	6	高橋文子	12107	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	ドイツ語 a 入門	4	黒子康弘	百7 0 1	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	ライティングI	A	佐藤千佳	香2 0 3	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	フランス語 a 入門	9	小出石敏子	12013	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	英語コミュニケーションII	3	山岡真希子	百2 0 3	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	ドイツ語 a 入門	5	小出昌弘	12004	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	中国語 a 入門	11	杉村安幾子	香1 0 3	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	中国語 a 入門	15	曾文莉	12011	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	中国語 b 入門	8	白進杰	香1 0 2	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	韓国語 b 入門	4	文智暎	香2 0 4	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	フランス語 a 入門	7	明石伸子	12101	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	韓国語 b 入門	3	崔蘭英	百2 0 1	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	ドイツ語 a 入門	7	櫻井麻美	百3 0 8	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	中国語 a 入門	14	齋藤貴志	12012	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	フランス語中級アドヴァンスト（コミュニケーション）	1	久保田静香	12014	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	中国語 L. L. 中級	2	漆紅	コンピュータ演習室4・5	
金曜日	2	前期	基礎・外国語	ドイツ語中級	6	泉谷千尋	百3 0 9	
金曜日	2	前期	基礎・身体運動	身体運動II a	(フィットネス)	魚住智広	体育館他	
金曜日	3	前期	JBOキャリア	社会に出るための自己表現	-1	尾力徹	百2 0 6	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	中国語 b 入門	10	ウ越凌	香3 0 6	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	TOEIC	7	ヘンシャイド	香1 0 4	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	ドイツ語 b 入門	6	マルクス フォン フライベルク	12101	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	フランス語 b 入門	3	羽生敏子	12012	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	中国語 a 入門	16	黄麗華	百3 0 4	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	フランス語 b 入門	6	加倉井仁	百3 0 5	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	フランス語 b 入門	4	久保田静香	12003	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	フランス語 b 入門	5	宮川慎也	香3 0 4	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	韓国語 b 入門	5	金順任	12009	

建築デザイン学部 時間割 (前期科目)

曜日	時限	期	科目区分	科目名称	クラス名	担当教員	教室名称	備考
金曜日	3	前期	基礎・外国語	韓国語 a 入門	12	森田勇	12008	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	ドイツ語 b 入門	4	高橋文子	百 2 0 9	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	TOEFL	1	山岡真希子	百 5 0 7	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	中国語 b 入門	9	漆紅	コンピュータ演習室 4・5	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	中国語 b 入門	12	上出徳太郎	12004	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	ドイツ語 b 入門	5	泉谷千尋	百 3 0 8	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	中国語 b 入門	11	張培華	12005	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	韓国語 b 入門	6	文智暎	12014	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	韓国語 b 入門	7	朴美京	12013	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	韓国語 b 入門	8	李相吉	12015	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	韓国語 a 入門	11	崔蘭英	12011	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	中国語 a 入門	17	齊藤真志	百 3 0 6	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	中国語 b 入門	13	馮煜鴻	12107	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	フランス語中級	10	ブビ・ダミアン	香 4 0 3	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	中国語中級	7	白蓮杰	12010	
金曜日	3	前期	基礎・外国語	ドイツ語中級	5	櫻井麻美	12108	
金曜日	3	前期	基礎・情報処理	基礎情報処理	(19日・住)	齋崎玲	コンピュータ演習室 1	
金曜日	3	前期	基礎・情報処理	ICT活用IV		上田彩子	コンピュータ演習室 6	
金曜日	3-4 (13:20~16:50)	前期	学科 応用	建築設計スタジオⅢ		鏡原聡子、宮崎子、飯森泰行、ヨコヤマコト	設計スタジオABC	
金曜日	4	前期	JPO社会連携	地域・社会課題を学ぶ		中西裕二	12106	
金曜日	4	前期	基礎・外国語	アクティブ・イングリッシュ b	13 (住)	シンブソン	百 1 0 1	
金曜日	4	前期	基礎・外国語	アクティブ・イングリッシュ b	11 (住)	モロイ	百 3 0 5	
金曜日	4	前期	基礎・外国語	アクティブ・イングリッシュ a	12 (住)	熊倉麻名	百 2 0 2	
金曜日	4	前期	基礎・外国語	アクティブ・イングリッシュ a	10 (住)	新家理沙	百 2 0 1	
金曜日	4	前期	基礎・外国語	アクティブ・イングリッシュ a	14 (住)	峯真依子	百 2 0 3	
金曜日	4	前期	基礎・外国語	ライティングII		ジュイソン・パータジャス	百 5 0 2	
金曜日	4	前期	基礎・外国語	TOEIC	8	ヘンシャイド	香 1 0 4	
金曜日	4	前期	基礎・外国語	観光英語	E	井上真菜	百 5 0 7	
金曜日	4	前期	基礎・外国語	TOEIC	9	加藤典子	百 7 0 1	
金曜日	4	前期	基礎・外国語	観光英語	F	杉浦航	香 1 0 3	
金曜日	4	前期	基礎・外国語	TOEIC	10	長谷部寿女士	香 2 0 4	
金曜日	4	前期	基礎・外国語	メディア・リスニング	D	上原智子	コンピュータ演習室 6	
金曜日	4	前期	基礎・外国語	中国語 L. L. 入門	2	馮煜鴻	12107	
金曜日	4	前期	基礎・外国語	韓国語中級	5	崔蘭英	12011	
金曜日	5	前期	基礎・外国語	ドイツ語上級	1	黒子康弘	百 3 0 8	
金曜日	5	前期	基礎・情報処理	データサイエンス入門		望月義彦	物情報演習室	
金曜日	6	前期	教養	SOCIAL AND INTERNATIONAL RELATIONS OF JAPAN		玉川華	***	遠隔
金曜日	6	前期	教養	経済学の世界	-1	河原伸哉	***	遠隔
金曜日	6	前期	教養	日本社会と宗教		近藤光博	***	遠隔
金曜日	6	前期	教養	日本国憲法	-2	坂田仰	***	遠隔
金曜日	6	前期	教養	日本美術史	-1	水野僚子	***	遠隔
金曜日	6	前期	教養	衣と健康		西原直枝	***	遠隔
金曜日	6	前期	教養	英語圏のファンタジー		川端有子	***	遠隔
金曜日	6	前期	教養	数学の眼で見た世界		中島徹	***	遠隔
金曜日	6	前期	教養	女性と健康		東田寿子	***	遠隔
金曜日	6	前期	教養	食と健康	-1	藤本絵香、奥裕乃	***	遠隔
金曜日	6	前期	教養	地域研究	-1	平林美理	***	遠隔
金曜日	6	前期	教養	世界の古典・文学	-1	林悠子	***	遠隔
土曜日	2	前期	JPOキャリア	女性と職業		鈴木陽子	百 2 0 6	

建築デザイン学部 時間割 (後期科目)

曜日	時限	期	科目区分	科目名称	クラス名	担当教員	教室名称	備考
	集中	後期	学科 専門関連	まちづくり基礎演習		似内遼一	百601 コンピュータ演習室2	週間授業でも記載あり
	集中	後期	学科 専門関連	異分野連携実践演習		大田正人、松月弘恵、袋袋奈美子、古賀蘭了、若木佳代子、川崎直樹、黒岩亮子	演72	週間授業でも記載あり
	集中	後期	学科 発展	生活プロダクトデザイン		芦沢啓治	百304	週間授業でも記載あり
	集中	後期	基礎・身体運動	身体運動I c		杉山哲司 他	***	校外
	集中	後期	基礎・身体運動	身体運動II c		杉山哲司	***	校外
月曜日	1	後期	学科 基礎	構造力学II		江尻憲泰	香302	
月曜日	1	後期	学科 応用	住宅・建築経済		松木真澄	百301	
月曜日	1	後期	基礎・外国語	中国語 b 初級	1	千裕人	百602	
月曜日	1	後期	基礎・外国語	ドイツ語 b 初級	1	關根裕子	百203	
月曜日	1	後期	基礎・外国語	フランス語 b 初級	1	久保田静香	12012	
月曜日	1	後期	基礎・外国語	韓国語 a 初級	2	金亨憲	12011	
月曜日	1	後期	基礎・外国語	韓国語 a 初級	1	金順任	百503	
月曜日	1	後期	基礎・外国語	ドイツ語 b 初級	2	小出昌弘	香205	
月曜日	1	後期	基礎・外国語	中国語 a 初級	1	水津有理	百305	
月曜日	1	後期	基礎・外国語	フランス語 a 初級	1	西脇雅彦	12008	
月曜日	1	後期	基礎・外国語	中国語 b 初級	3	曾文莉	12014	
月曜日	1	後期	基礎・外国語	ドイツ語 a 初級	1	柳生桂子	百304	
月曜日	1	後期	基礎・外国語	韓国語 a 初級	3	李相吉	12013	
月曜日	1	後期	基礎・外国語	中国語 b 初級	2	盧元	12104	
月曜日	2	後期	JWGキャリア	世界の女性史		菅野美佐子	851	
月曜日	2	後期	学科 基礎	空間デザイン概論		篠原聡子	設計スタジオABC	
月曜日	2	後期	学科 応用	西洋建築史		片山伸也	香401	
月曜日	2	後期	学科 発展	建築と社会		平田京子	百206	
月曜日	2	後期	基礎・外国語	韓国語 L. L. 初級		キ ジョンミン	コンピュータ演習室9	
月曜日	2	後期	基礎・外国語	ドイツ語中級	7	關根裕子	百203	
月曜日	2	後期	基礎・外国語	フランス語中級	6	西脇雅彦	12008	
月曜日	2	後期	基礎・外国語	中国語中級アドヴァンスト (原典講読)	3	盧元	12104	
月曜日	3	後期	学科 基礎	住居構造		江尻憲泰	香501	
月曜日	3	後期	学科 基礎	建築環境工学		徳弘祥子	香100	
月曜日	3	後期	基礎・外国語	フランス語 b 初級	2	羽生敬子	百507	
月曜日	3	後期	基礎・外国語	ビジネス・イングリッシュ	C	森田京子	12011	
月曜日	3	後期	基礎・外国語	観光英語	G	川村由美	12014	
月曜日	3	後期	基礎・外国語	TOEIC	11	伊藤亨美	香205	
月曜日	3	後期	基礎・外国語	韓国語 L. L. 中級	2	キ ジョンミン	コンピュータ演習室9	
月曜日	3	後期	基礎・身体運動	身体運動II b	(ボルダリング)	横山巧様	体育館他	
月曜日	3-4 (13:20~16:50)	後期	学科 発展	環境・設備演習		細井昭憲	香405	
月曜日	4	後期	JWG社会連携	社会連携を学ぶB		田井中慎	百209	
月曜日	4	後期	基礎・外国語	プレゼンテーション・イングリッシュ b	1 2 (住)	伊藤亨美	百501	
月曜日	4	後期	基礎・外国語	プレゼンテーション・イングリッシュ b	1 4 (住)	奥畑豊	百502	
月曜日	4	後期	基礎・外国語	プレゼンテーション・イングリッシュ b	1 1 (住)	杉山ゆき	百304	
月曜日	4	後期	基礎・外国語	プレゼンテーション・イングリッシュ b	1 0 (住)	杉野健太郎	百204	
月曜日	4	後期	基礎・外国語	プレゼンテーション・イングリッシュ b	1 3 (住)	石川裕子	百305	
月曜日	4	後期	基礎・外国語	英語コミュニケーションIII	3	ジョージ パーニンガー	12101	
月曜日	4	後期	基礎・外国語	観光英語	H	松沼真由子	12107	
月曜日	4	後期	基礎・外国語	韓国語中級	6	キ ジョンミン	百503	
月曜日	4	後期	基礎・外国語	フランス語中級	7	堀千晶	12104	
月曜日	4	後期	基礎・外国語	ドイツ語中級	8	田中祥	演72	
月曜日	4-5 (15:10~18:40)	後期	学科 専門関連	まちづくり基礎演習		似内遼一	百601 コンピュータ演習室2	
月曜日	5	後期	学科 卒論・卒前関連	建築住居学演習III	A	江尻憲泰	個人研究室	
月曜日	5	後期	学科 卒論・卒前関連	建築住居学演習III	B	片山伸也	個人研究室	
月曜日	5	後期	学科 卒論・卒前関連	建築住居学演習III	C	是澤紀子	個人研究室	
月曜日	5	後期	学科 卒論・卒前関連	建築住居学演習III	D	佐藤克志	個人研究室	
月曜日	5	後期	学科 卒論・卒前関連	建築住居学演習III	E	篠原聡子	個人研究室	
月曜日	5	後期	学科 卒論・卒前関連	建築住居学演習III	F	平田京子	個人研究室	

建築デザイン学部 時間割（後期科目）

曜日	時限	期	科目区分	科目名称	クラス名	担当教員	教室名称	備考
月曜日	5	後期	学科 制関連	建築住居学演習Ⅲ	G	細井昭憲	個人研究室	
月曜日	5	後期	学科 卒論・卒 前関連	建築住居学演習Ⅲ	H	葉袋奈美子	個人研究室	
月曜日	5	後期	学科 卒論・卒 前関連	建築住居学演習Ⅲ	J	宮晶子	個人研究室	
月曜日	5	後期	学科 卒論・卒 前関連	建築住居学演習Ⅲ	K	井本佐保里	個人研究室	
月曜日	5	後期	学科 卒論・卒 前関連	建築住居学演習Ⅲ	L	植田瑞昌	個人研究室	
月曜日	5	後期	学科 卒論・卒 前関連	建築住居学演習Ⅲ	M	古賀麻子	個人研究室	
月曜日	5	後期	基礎・外国語	TOEIC	12	大場昌子	コンピュータ演習室9	
月曜日	5	後期	基礎・身体運動	身体運動I b	(制限 1)	大沼義彦	体育館他	
月曜日	6	後期	教養	クリティカル・シンキング入門		伊達舞	***	遠隔
月曜日	6	後期	教養	天文学と宇宙観の歴史	-2	奥村幸子	***	遠隔
月曜日	6	後期	教養	思想・哲学	-3	金澤修	***	遠隔
月曜日	6	後期	教養	20・21世紀の外国文学	-2	佐藤敦子	***	遠隔
月曜日	6	後期	教養	女性と法律		細川幸一	***	遠隔
月曜日	6	後期	教養	日本経済		秋元健治	***	遠隔
月曜日	6	後期	教養	環境と生態系		勝又暢之	***	遠隔
月曜日	6	後期	教養	映像論	-3	杉野健太郎	***	遠隔
月曜日	6	後期	教養	心理学	-2	大塚秀実	***	遠隔
月曜日	6	後期	教養	ジェンダーと社会		野辺陽子	***	遠隔
月曜日	6	後期	教養	社会で役立つ統計学		齋崎玲	***	遠隔
火曜日	1	後期	JBO社会連携	地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト	演習D	柳田直美	12002	
火曜日	1	後期	学科 応用	ランドスケープデザイン		古内時子	百207	
火曜日	1	後期	基礎・外国語	中国語 a 初級	3	夕越凌	12012	
火曜日	1	後期	基礎・外国語	フランス語 a 初級	3	綾部素幸	百208	
火曜日	1	後期	基礎・外国語	中国語 b 初級	5	王怡人	12015	
火曜日	1	後期	基礎・外国語	ドイツ語 b 初級	3	岡野伸哉	12014	
火曜日	1	後期	基礎・外国語	フランス語 a 初級	2	久保田静香	百602	
火曜日	1	後期	基礎・外国語	中国語 b 初級	4	許家晟	百702	
火曜日	1	後期	基礎・外国語	韓国語 a 初級	7	金亨善	百501	
火曜日	1	後期	基礎・外国語	韓国語 a 初級	6	金攻志	百209	
火曜日	1	後期	基礎・外国語	韓国語 b 初級	2	権秀賢	12010	
火曜日	1	後期	基礎・外国語	フランス語 a 初級	5	高山典子	12104	
火曜日	1	後期	基礎・外国語	ドイツ語 a 初級	3	坂巻隆裕	12004	
火曜日	1	後期	基礎・外国語	中国語 a 初級	5	上出徳太郎	百304	
火曜日	1	後期	基礎・外国語	中国語 a 初級	7	水津有理	香404	
火曜日	1	後期	基礎・外国語	中国語 a 初級	2	張培華	百601	
火曜日	1	後期	基礎・外国語	ドイツ語 a 初級	2	田村円	12107	
火曜日	1	後期	基礎・外国語	韓国語 a 初級	4	朴信暎	12005	
火曜日	1	後期	基礎・外国語	韓国語 a 初級	5	朴美京	香305	
火曜日	1	後期	基礎・外国語	韓国語 b 初級	1	李根松	百502	
火曜日	1	後期	基礎・外国語	中国語 a 初級	4	陸樹芳	12013	
火曜日	1	後期	基礎・外国語	フランス語 a 初級	4	實谷美咲	12108	
火曜日	1	後期	基礎・外国語	中国語 a 初級	6	禹日珍	12008	
火曜日	2	後期	JBOキャリア	仕事・結婚・わたし	-2	北島歩美	12001	
火曜日	2	後期	学科 基礎	住生活学		葉袋奈美子	香501	
火曜日	2	後期	学科 発展	福祉環境論		佐藤克志	香404	
火曜日	2	後期	基礎・外国語	英語コミュニケーションII	4	寺嶋さなえ	百601	
火曜日	2	後期	基礎・外国語	観光英語	J	田中由香	12011	
火曜日	2	後期	基礎・外国語	中国語中級	8	夕越凌	12012	
火曜日	2	後期	基礎・外国語	フランス語中級	8	綾部素幸	百208	
火曜日	2	後期	基礎・外国語	ドイツ語中級	9	坂巻隆裕	12004	
火曜日	2	後期	基礎・外国語	韓国語中級	7	朴美京	香305	
火曜日	2	後期	基礎・外国語	中国語 L. L. 中級	3	陸樹芳	12102	
火曜日	2	後期	基礎・外国語	中国語上級	2	禹日珍	12008	
火曜日	3	後期	JBOキャリア	ダイバーシティとキャリア		山田雅穂	百601	
火曜日	3	後期	JBOキャリア	女性就業と家族の経済学	-2	岡燕飛	12001	
火曜日	3	後期	JBOキャリア	社会に出るための自己表現	-6	砂子一雄	百504	

建築デザイン学部 時間割 (後期科目)

曜日	時限	期	科目区分	科目名称	クラス名	担当教員	教室名称	備考
火曜日	3	後期	基礎・外国語	TOEIC	13	佐野陽子	百302	
火曜日	3	後期	基礎・外国語	英語コミュニケーションI	7	寺嶋さなえ	12108	
火曜日	3	後期	基礎・外国語	ドイツ語中級	10	ベアタ・ギボフスカ	百507	
火曜日	3	後期	基礎・外国語	フランス語中級アドヴァンスト(原典講読)	4	久保田静香	百307	
火曜日	3	後期	基礎・外国語	韓国語中級アドヴァンスト(原典講読)	2	李根松	百203	
火曜日	3	後期	基礎・身体運動	身体運動I b	(住・史)	大田崇夫、立河京子、野澤隆司	体育館他	
火曜日	3-4 (13:20~16:50)	後期	学科 基礎	建築設計スタジオII		片山伸也、篠原聡子、葉袋奈美子、井本佐保里、奥利恵、橋本啓哉、齋神尚史	設計スタジオABC	
火曜日	4	後期	JPOキャリア	ライフプランとキャリアデザイン	-1	高橋美紀	香501	
火曜日	4	後期	基礎・外国語	TOEIC	14	小池アニータ	百201	
火曜日	4	後期	基礎・外国語	ドイツ語L. L. 初級		ベアタ・ギボフスカ	演72	
火曜日	4	後期	基礎・外国語	英語コミュニケーションI	5	佐野陽子	百302	
火曜日	4	後期	基礎・外国語	TOEIC	15	長井薫	香102	
火曜日	4	後期	基礎・外国語	中国語中級	9	山下将司	12008	
火曜日	4	後期	基礎・外国語	ドイツ語中級アドヴァンスト(原典講読)	3	白鳥まや	12105	
火曜日	4	後期	基礎・身体運動	身体運動I b	(住・英)	大田崇夫、立河京子、野澤隆司	体育館他	
火曜日	4	後期	基礎・身体運動	身体運動演習 b	(ゴルフ)	佐古隆之	体育館他	
火曜日	5	後期	学科 卒業	建築総合演習		片山伸也、井本佐保里	***	遠隔
火曜日	5	後期	基礎・情報処理	基礎情報処理	(2.9住・経)	藤田智子	コンピュータ演習室1	
火曜日	5	後期	基礎・身体運動	身体運動I b	(制限 2)	小川哲也	体育館他	
火曜日	6	後期	教養	INTRODUCTION TO JAPANESE CULTURE AND SOCIETY		アレクサンドラムスタグツェア	***	遠隔
火曜日	6	後期	教養	思想・哲学	-2	伊藤由希子	***	遠隔
火曜日	6	後期	教養	政治学		横山遼史	***	遠隔
火曜日	6	後期	教養	世界の神話	-2	神田瑞穂	***	遠隔
火曜日	6	後期	教養	日本国憲法	-4	坂田仰	***	遠隔
火曜日	6	後期	教養	日本の産業と企業		小林富雄	***	遠隔
火曜日	6	後期	教養	舞台芸術の歴史・東洋		石井倫子	***	遠隔
火曜日	6	後期	教養	映像論	-2	川崎公平	***	遠隔
火曜日	6	後期	教養	ことばと社会		浅井優一	***	遠隔
火曜日	6	後期	教養	生命科学	-4	大塚涼	***	遠隔
火曜日	6	後期	教養	歴史の中の数学		藤田玄	***	遠隔
火曜日	6	後期	教養	20・21世紀の日本文学	-1	藤本直実	***	遠隔
火曜日	6	後期	教養	ジェンダー論入門		熱田敬子	***	遠隔
火曜日	6	後期	教養	人体の構造と機能及び疾病		福本正勝	***	遠隔
火曜日	6	後期	教養	美学	-2	木村寛	***	遠隔
火曜日	6	後期	教養	心と健康	-2	高井彩名	***	遠隔
水曜日	1	後期	学科 応用	住居・建築管理		小池孝子	香502	
水曜日	1	後期	基礎・外国語	英語コミュニケーションI	6	三田良平	香102	
水曜日	1	後期	基礎・外国語	TOEIC	16	田中みんね	12003	
水曜日	1	後期	基礎・外国語	メディア・リスニング	E	櫻井千佳子	12008	
水曜日	1	後期	基礎・外国語	中国語中級	10	杉村安美子	百101	
水曜日	1-2 (9:00~12:30)	後期	学科 基礎	設計製図II		是澤紀子、井本佐保里、佐藤嘉志、植田瑞昌、奥田敬子	設計スタジオABC	
水曜日	2	後期	JPOキャリア	ライフプランとキャリアデザイン	-2	高橋美紀	香202	
水曜日	2	後期	JPOキャリア	社会に出るための自己表現	-5	吉良優彦	百202	
水曜日	2	後期	学科 応用	インテリアデザイン		鈴木紀慶	百207	
水曜日	2	後期	基礎・外国語	メディア・リスニング	F	フォースター	百502	
水曜日	2	後期	基礎・外国語	リーディングI	B	三田良平	香102	
水曜日	2	後期	基礎・外国語	フランス語中級アドヴァンスト(原典講読)	3	高井奈緒	12101	
水曜日	2	後期	基礎・外国語	韓国語中級	3	李根松	12107	
水曜日	2	後期	基礎・情報処理	AI入門		倉光君郎	コンピュータ演習室3	
水曜日	2	後期	基礎・身体運動	健康スポーツ論II		魚住智広	百201	
水曜日	3	後期	JPO社会連携	企業と社会連携		田村太郎、額田春華、井上祥	12101	
水曜日	3	後期	JPOキャリア	社会に出るための自己表現	-7	尾方康	百206	
水曜日	3	後期	JPOキャリア	現代女性論	-2	伊吹美貴子	香401	
水曜日	3	後期	学科 応用	住宅政策		葉袋奈美子	百506	

建築デザイン学部 時間割 (後期科目)

曜日	時限	期	科目区分	科目名称	クラス名	担当教員	教室名称	備考
水曜日	3	後期	基礎・外国語	英語コミュニケーションIII	4	クロンユ・シャドマント	12007	
水曜日	3	後期	基礎・外国語	IELTS	2	ロビンソン	百304	
水曜日	3	後期	基礎・外国語	中国語 a 初級	8	鈴木直子	百209	
水曜日	3	後期	基礎・外国語	フランス語 L. L. 中級	2	川口裕司	コンピュータ演習室 9	
水曜日	3	後期	基礎・外国語	フランス語上級	2	堀千晶	百306	
水曜日	4	後期	学科 基礎	住居環境		細井昭憲	百207	
水曜日	4	後期	学科 応用	日本建築史		是部紀子	百603	
水曜日	4	後期	基礎・外国語	フランス語 L. L. 初級	1	川口裕司	コンピュータ演習室 9	
水曜日	4	後期	基礎・外国語	中国語 a 初級	9	鈴木直子	百209	
水曜日	4	後期	基礎・外国語	フランス語中級	9	堀千晶	百306	
水曜日	4	後期	基礎・身体運動	身体運動演習 b	(ボディアシエイブ)	河田美保	体育館他	
水曜日	4	後期	基礎・身体運動	身体運動II b	(テニス)	高橋和孝	体育館他	
水曜日	4	後期	基礎・身体運動	身体運動II b	(卓球)	佐古隆之	体育館他	
水曜日	4	後期	基礎・身体運動	身体運動II b	(ボルダリング)	西谷善子	体育館他	
水曜日	6	後期	教養	倫理学入門		加藤喜市	***	遠隔
水曜日	6	後期	教養	歴史から見る現代世界		加藤玄、山下裕司	***	遠隔
水曜日	6	後期	教養	生命科学	-3	関根崇泰、茂木健一郎、恩蔵尚子、石川哲郎、小俣圭、高野委木	***	遠隔
水曜日	6	後期	教養	西洋美術史	-2	宮崎匠	***	遠隔
水曜日	6	後期	教養	20・21世紀の日本文学	-2	橋本のぞみ	***	遠隔
水曜日	6	後期	教養	東洋音楽の歴史		近藤静乃	***	遠隔
水曜日	6	後期	教養	コンピュータ・インターネットと生活		後藤敏行	***	遠隔
水曜日	6	後期	教養	ノーマライゼーション論		高山直樹	***	遠隔
水曜日	6	後期	教養	世界の古典・文学	-4	黒子康弘	***	遠隔
水曜日	6	後期	教養	日本国憲法	-3	山本和弘	***	遠隔
水曜日	6	後期	教養	生活・環境と化学		新藤一敏	***	遠隔
水曜日	6	後期	教養	教育学入門		藤田武志	***	遠隔
水曜日	6	後期	教養	メディアと社会		北嶋健治	***	遠隔
水曜日	6	後期	教養	20・21世紀の思想		木下誠	***	遠隔
木曜日	1	後期	学科 応用	形とデザインII		宮晶子、江藤貴子	設計スタジオABC	
木曜日	1	後期	基礎・外国語	フランス語 a 初級	6	小出石敏子	12013	
木曜日	1	後期	基礎・外国語	中国語中級	11	水津有理	12009	
木曜日	2	後期	基礎・外国語	メディア・リスニング	G	フォースター	百502	
木曜日	2	後期	基礎・外国語	リーディングIII	B	伊藤健一郎	百304	
木曜日	2	後期	基礎・外国語	中国語 a 初級	10	杉村安幾子	12104	
木曜日	2	後期	基礎・外国語	観光英語	K	矢野敏乃	12011	
木曜日	2	後期	基礎・外国語	リーディングII	B	林剛司	百702	
木曜日	2	後期	基礎・外国語	韓国語中級	9	権秀賢	百202	
木曜日	2	後期	基礎・外国語	ドイツ語中級アドヴァンスト (原典講読)	4	黒子康弘	演72	
木曜日	2	後期	基礎・外国語	中国語中級アドヴァンスト (原典講読)	4	三田明弘	12102	
木曜日	2	後期	基礎・外国語	フランス語中級	11	小出石敏子	12013	
木曜日	2	後期	基礎・外国語	中国語中級	12	水津有理	12103	
木曜日	3	後期	教養	物理学とテクノロジー		橋詰富博	百202	
木曜日	3	後期	教養	現代の社会学		秋元健太郎	百203	
木曜日	3	後期	教養	情報と通信		滝嶋康弘	百204	
金曜日	1	後期	学科 基礎	建築構法		岩村雅人	香401	
金曜日	1	後期	基礎・外国語	中国語 b 初級	6	張培華	香404	
金曜日	1	後期	基礎・外国語	中国語 L. L. 初級	1	漆紅	コンピュータ演習室 4・5	
金曜日	1	後期	基礎・外国語	TOEIC	17	梶原依子	百507	
金曜日	1	後期	基礎・外国語	中国語中級	7	後藤典子	香305	
金曜日	1-2 (9:00~12:30)	後期	学科 応用	力と形		平田京子、船津幸馬、河原大	百206 百207	
金曜日	2	後期	学科 応用	コンピュータデザインII		植本健一	コンピュータ演習室 2	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	英語コミュニケーションII	5	ジェイソン・バータジャス	12108	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	ライティングIII	B	スレイター	百202	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	ビジネス・イングリッシュ	D	フォースター	百502	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	フランス語 L. L. 初級	2	ジビ・ダミアン	百209	

建築デザイン学部 時間割 (後期科目)

曜日	時限	期	科目区分	科目名称	クラス名	担当教員	教室名称	備考
金曜日	2	後期	基礎・外国語	フランス語 a 初級	8	羽生敦子	12003	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	中国語 a 初級	13	黄麗華	香 2 0 5	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	韓国語 a 初級	8	金順任	12009	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	韓国語 a 初級	10	盧回男	12005	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	韓国語 a 初級	9	權秀賢	12015	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	中国語 a 初級	12	後藤典子	香 3 0 5	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	中国語 b 初級	7	上出徳太郎	香 4 0 4	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	ドイツ語 a 初級	6	高橋文子	12107	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	ドイツ語 a 初級	4	黒了康弘	百 7 0 1	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	ライティングI	B	佐藤千佳	香 2 0 3	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	フランス語 a 初級	9	後藤表幸	12013	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	英語コミュニケーションII	6	山岡真希子	百 2 0 3	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	ドイツ語 a 初級	5	小出昌弘	12004	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	中国語 a 初級	11	杉村安幾子	香 1 0 3	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	中国語 a 初級	15	曾文莉	12011	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	中国語 b 初級	8	白蓮杰	香 1 0 2	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	韓国語 b 初級	4	文智暎	香 2 0 4	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	フランス語 a 初級	7	明石伸子	12101	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	韓国語 b 初級	3	崔蘭英	百 2 0 1	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	ドイツ語 a 初級	7	櫻井麻美	百 3 0 8	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	中国語 a 初級	14	齋藤貴志	12012	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	フランス語中級アドヴァンスト (コミュニケーション)	2	久保田静香	12014	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	中国語 L. L. 中級	4	漆紅	コンピュータ演習室 4・5	
金曜日	2	後期	基礎・外国語	ドイツ語中級	12	泉谷千尋	百 3 0 9	
金曜日	2	後期	基礎・身体運動	身体運動演習 b	(フィジカル・トレーニング)	小川哲也	体育館他	
金曜日	3	後期	学科 基礎	バリアフリーデザイン論		佐藤克志	香 2 0 2	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	中国語 b 初級	10	ウ植慶	香 3 0 6	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	ドイツ語 b 初級	6	マルクス フォン フライベルク	12101	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	フランス語 b 初級	3	羽生敦子	12012	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	中国語 a 初級	16	黄麗華	百 3 0 4	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	フランス語 b 初級	6	加倉井仁	百 3 0 5	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	フランス語 b 初級	4	久保田静香	12003	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	フランス語 b 初級	5	富川慎也	香 3 0 4	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	韓国語 b 初級	5	金順任	12009	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	韓国語 a 初級	12	盧回男	12008	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	ドイツ語 b 初級	4	高橋文子	百 2 0 9	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	TOEFL	2	山岡真希子	百 5 0 7	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	中国語 b 初級	9	漆紅	コンピュータ演習室 4・5	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	中国語 b 初級	12	上出徳太郎	12004	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	ドイツ語 b 初級	5	泉谷千尋	百 3 0 8	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	中国語 b 初級	11	黄麗華	12005	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	韓国語 b 初級	6	文智暎	12014	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	韓国語 b 初級	7	朴美京	12013	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	韓国語 b 初級	8	李相吉	12015	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	韓国語 a 初級	11	崔蘭英	12011	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	中国語 a 初級	17	齋藤貴志	百 3 0 6	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	中国語 b 初級	13	馮超鴻	12107	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	中国語中級	13	白蓮杰	12010	
金曜日	3	後期	基礎・外国語	ドイツ語中級	11	櫻井麻美	12108	
金曜日	3	後期	基礎・情報処理	ICT活用VI		上田彩子	コンピュータ演習室 6	
金曜日	3-4 (13:20~16:50)	後期	学科 発展	建築設計スタジオIV		篠原聡子、高島子、大野博史、小泉雅生、シェーハー、御手洗龍	設計スタジオABC	
金曜日	4	後期	JPOキャリア	社会に出るための自己表現	-8	尾方健	百 3 0 2	
金曜日	4	後期	JPOキャリア	女性と身体	-2	小笹由香、辻美千子、新田真弓	百 5 0 4	
金曜日	4	後期	基礎・外国語	アクティブ・イングリッシュ b	1 2 (往)	シンブソン	百 1 0 1	
金曜日	4	後期	基礎・外国語	アクティブ・イングリッシュ b	1 4 (往)	ヘンシャイド	12015	

建築デザイン学部 時間割 (後期科目)

曜日	時限	期	科目区分	科目名称	クラス名	担当教員	教室名称	備考
金曜日	4	後期	基礎・外国語	アクティブ・イングリッシュ b	10 (住)	ヒロイ	百305	
金曜日	4	後期	基礎・外国語	アクティブ・イングリッシュ a	13 (住)	熊倉麻名	百202	
金曜日	4	後期	基礎・外国語	アクティブ・イングリッシュ a	11 (住)	新家理紗	百601	
金曜日	4	後期	基礎・外国語	英語コミュニケーションI	2	ジェイソン・バー タジャス	百502	
金曜日	4	後期	基礎・外国語	観光英語	L	井上真菜	百201	
金曜日	4	後期	基礎・外国語	TOEIC	19	加藤典子	百701	
金曜日	4	後期	基礎・外国語	観光英語	M	相原雅子	香204	
金曜日	4	後期	基礎・外国語	TOEIC	20	長谷部寿女士	香103	
金曜日	4	後期	基礎・外国語	メディア・リスニング	H	土屋智子	コンピュータ演習室6	
金曜日	4	後期	基礎・外国語	TOEIC	18	梶真依子	百203	
金曜日	4	後期	基礎・外国語	中国語L. L. 初級	2	馬越鴻	12107	
金曜日	4	後期	基礎・外国語	韓国語中級アドヴァンスト (コミュニケーション)		崔蘭英	12011	
金曜日	5	後期	学科 卒論・卒 前関連	建築住居学演習 I	A	江尻憲泰	個人研究室	
金曜日	5	後期	学科 卒論・卒 前関連	建築住居学演習 I	B	片山伸也	個人研究室	
金曜日	5	後期	学科 卒論・卒 前関連	建築住居学演習 I	C	是澤紀子	個人研究室	
金曜日	5	後期	学科 卒論・卒 前関連	建築住居学演習 I	D	佐藤克志	個人研究室	
金曜日	5	後期	学科 卒論・卒 前関連	建築住居学演習 I	E	篠原聡子	個人研究室	
金曜日	5	後期	学科 卒論・卒 前関連	建築住居学演習 I	F	平田京子	個人研究室	
金曜日	5	後期	学科 卒論・卒 前関連	建築住居学演習 I	G	細井昭憲	個人研究室	
金曜日	5	後期	学科 卒論・卒 前関連	建築住居学演習 I	H	葉袋奈美子	個人研究室	
金曜日	5	後期	学科 卒論・卒 前関連	建築住居学演習 I	J	宮島子	個人研究室	
金曜日	5	後期	学科 卒論・卒 前関連	建築住居学演習 I	K	井本佐保里	個人研究室	
金曜日	5	後期	学科 卒論・卒 前関連	建築住居学演習 I	L	植田瑞晶	個人研究室	
金曜日	5	後期	学科 卒論・卒 前関連	建築住居学演習 I	M	吉賀麻子	個人研究室	
金曜日	5	後期	基礎・外国語	ドイツ語上級	2	黒子麻弘	百308	
金曜日	6	後期	教養	地域研究	-2	スレイター	***	遠隔
金曜日	6	後期	教養	薬と化粧品化学		阿部秀樹、市川さ おり	***	遠隔
金曜日	6	後期	教養	ファッションの化学		雨宮敏子	***	遠隔
金曜日	6	後期	教養	現代社会と情報科学		白井規善	***	遠隔
金曜日	6	後期	教養	西洋音楽の歴史		丸山瑠子	***	遠隔
金曜日	6	後期	教養	世界の古典・文学	-3	吉田薫	***	遠隔
金曜日	6	後期	教養	宗教とは何か		近藤光博	***	遠隔
金曜日	6	後期	教養	経営学の世界		齋藤克徳、小森谷 裕志、片岡啓司、 井坂智博	***	遠隔
金曜日	6	後期	教養	舞台芸術の歴史・西洋		佐藤達郎	***	遠隔
金曜日	6	後期	教養	日本国憲法	-5	坂田仰	***	遠隔
金曜日	6	後期	教養	社会保障入門		小笠原直樹	***	遠隔
金曜日	6	後期	教養	日本美術史	-2	水野僚子	***	遠隔
金曜日	6	後期	教養	市民社会と法		田中佑季	***	遠隔
金曜日	6	後期	教養	食と健康	-2	藤本絵香、奥裕乃	***	遠隔
金曜日	6	後期	教養	経済学の世界	-3	茂木洋之	***	遠隔
土曜日	1-2 (9:00~12:30)	後期	学科 卒論	生活プロダクトデザイン		芦沢啓治、手嶋保	百304	
土曜日	2	後期	JTU社会連携	社会連携を学ぶA		安藤朗子、浅野由 子、請川徳六、和 田上貴昭	百206	
土曜日	2-4 (10:50~16:50)	後期	学科 専門関連	異分野連携実践演習		太田正人、松月弘 憲、葉袋奈美子、 吉賀麻子、岩木佳 代子、川崎直樹、 黒岩亮子	演72	

No.	和洋区分	書誌事項	逐刊区分
1	和	A+U : architecture and urbanism : 建築と都市 / エー・アンド・ユー. -- 1巻1号 (1971. 1)-3巻12号 (1973. 12) ; 4巻37号 (1974. 1)-4巻40号 (1974. 4) ; 41号 (1974. 5)-. -- エー・アンド・ユー, 1971.	一般雑誌
2	和	BT : 美術手帖 : bijutsu techo : monthly art magazine. -- Vol. 40, no. 600 (Oct. '88)-. -- 美術出版社, 1988.	一般雑誌
3	和	GA houses : global architecture. -- 1 (1976)-. -- A.D.A.Edita Tokyo, 1976.	一般雑誌
4	和	GA Japan : environmental design. -- 01 (autumn 1992)-. -- エーディーエー・エディタ・トーキョー, 1992.	一般雑誌
5	和	Landscape design : 季刊[ランドスケープデザイン] / マルモ・プランニング [編]. -- No. 1 (summer 1995)-. -- マルモ出版, 1995.	一般雑誌
6	和	Universal design. -- 創刊準備号 (1997.10)-. -- ジー・バイ・ケイUD編集室, 1997.	一般雑誌
7	和	ディテール. -- 1号 (1964.夏季)-. -- 彰国社, 1964.	一般雑誌
8	和	マテリアル・デザイン : 建築の素材・材料チェックリスト. -- 彰国社, 2006.	一般雑誌
9	和	ランドスケープ研究 : 日本造園学会誌 : journal of the Japanese Institute of Landscape Architecture / 日本造園学会 [編]. -- Vol. 58, no. 1 (Aug. 1994)-. -- 日本造園学会, 1994.	一般雑誌
10	和	月刊文化財 / 文化財保護委員会監修. -- 創刊[1]号 (昭38.10)-. -- 第一法規出版.	一般雑誌
11	和	建築ジャーナル = Architectural journal. -- 748号 (1988.5)-. -- 企業組合建築ジャーナル, 1988.	一般雑誌
12	和	建築技術 / 建築技術, 建設省建築研究所. -- 1号 (昭25.7)-. -- 建築技術研究会.	一般雑誌
13	和	建築知識 : the kenchiku chishiki. -- 1巻1号 (昭34.1)-. -- 全日本建築士会出版局.	一般雑誌
14	和	交通工学 = Traffic engineering / 交通工学研究会 [編]. -- 1巻1号 (1966)-. -- 交通工学研究会, 1966.	一般雑誌
15	和	住宅建築 : the housing journal for builders and designers / 建築思潮研究所. -- 1号 (1975.5)-. -- 建築資料研究社, 1975.	一般雑誌
16	和	商店建築 : syohten kentiku. -- 商店建築社, 195-.	一般雑誌
17	和	新建築 / 新建築社 [編]. -- 1巻1号 (大14)-. -- 新建築社, 1925.	一般雑誌
18	和	新建築. 住宅特集 = The Japan architect. -- 9号 (1987.1)-. -- 新建築社, 1987.	一般雑誌
19	和	新都市 / 都市計画協会 [編]. -- 1巻1号 (昭22.1)-. -- 都市計画協会, 1947.	一般雑誌
20	和	生活文化史 / 日本生活文化史学会, 雄山閣出版. -- 創刊[1]号 (1983.秋)-. -- 雄山閣出版, 1983.	一般雑誌
21	和	卒業設計日本一決定戦official book : せんだいデザインリーグ / 仙台建築都市学生会議, せんだいメディアテーク編. -- 建築資料研究社.	一般雑誌
22	和	都市史研究 / 都市史学会編. -- 1 (2014)-. -- 都市史学会, 2014.	一般雑誌
23	和	日経アーキテクチュア = Nikkei architecture / 日経マグローウヒル社. -- 試作版 [0巻1号] (1975.10)-. -- 日経マグローウヒル社, 1975.	一般雑誌
24	和	福祉のまちづくり研究. -- 1巻1号 (1999)-. -- 福祉のまちづくり研究会, 1999.	一般雑誌
25	和	民俗建築 / 民俗建築會 [編]. -- 1号 (昭25)-. -- 誠文堂新光社, 1950.	一般雑誌
26	和	SD review. -- 鹿島出版会, 2001.	年鑑・白書
27	和	住宅経済データ集 / 建設省住宅局住宅政策課 [監修]. -- 住宅産業新聞社, 19--.	年鑑・白書
28	和	保育白書 / 全国保育団体合同研究集会実行委員会編集. -- 1976年版 (1976)-. -- 草土文化, 1976.	年鑑・白書類
29	和	わかりやすい建築基準法の手引 / 建築法令実務研究会編. -- 新日本法規, 2001.	法規集
30	和	高齢者・障害者のための福祉用具活用の実務 / 厚生省社会・援護局更生課, 厚生省老人保健福祉局老人福祉振興課監修; 福祉用具活用研究会編著. -- 第一法規.	法規集
31	和	高齢者ケア実践事例集 / 高齢者ケア実務研究会編. -- 第一法規出版, 1993.	法規集
32	和	集録建築法規 / 建設省住宅局建築指導課. -- 東京都版. -- 新日本法規出版.	法規集
33	和	図解建築紛争事例便覧 / 建築紛争事例研究会編. -- 新日本法規出版, 1998.	法規集
34	和	図解事務所・店舗・施設等設計基準マニュアル / 建築設計実務研究会編. -- 新日本法規出版, 2008.	法規集
35	和	図解住宅設計基準マニュアル / 建築設計実務研究会編. -- 新日本法規出版, 2002.	法規集
36	和	全国まちづくり実践事例集 / 自治省行政局振興課編集. -- 第一法規出版, 1986.	法規集
37	和	誰にもわかる建築法規の手引. -- 新日本法規出版.	法規集
38	和	都市計画法規集 / 都市計画法研究会編; 建設省都市局都市計画課監修. -- 新日本法規, 1976.	法規集

No.	和洋区分	書誌事項	逐刊区分
1	和	AA files : annals of the Architectural Association, School of Architecture. -- Vol. 1, no. 1 (winter 1981/82)-. -- The Association, 1981.	一般雑誌
2	和	Abitare. -- [Editrice Segesta], 196-.	一般雑誌
3	和	Architectural record. -- Vol. 1 (July 1891)-, 1891.	一般雑誌
4	和	Casabella : カザベラjapan. -- Mondadori, 2008.	一般雑誌
5	和	Domus. -- -anno 9, n. 97 (genn. 1936) ; N. 98 (febr. 1936)-. -- Editoriale Domus,	一般雑誌
6	和	El Croquis. -- El Croquis, 19--.	一般雑誌
7	和	Frame. -- BIS Publishers, 199-.	一般雑誌
8	和	Journal of the American Planning Association. -- Vol. 45, no. 1 (Jan. 1979)-. -- American Planning Association, 1979.	一般雑誌
9	和	L'Architecture d'aujourd'hui. -- 1 (1930)-. -- Jean-Michel Place., 1930.	一般雑誌
10	和	Town and country planning / Town and Country Planning Association. -- 1 (1932)-. -- Town and Country Planning Association, 1932.	一般雑誌

No.	区分	種別	タイトル
1	洋	DB	American national biography online
2	洋	DB	Bibliography of British and Irish history
3	洋	DB	Berg Fasion Library Database
4	洋	DB	Books in print com
5	洋	買切 DB	Early English Books Online : EEBO
6	洋	買切 DB	Eighteenth Century Collections Online (ECCO)
7	洋	買切 DB	House of Commons parliamentary papers
8	洋	DB	Gale Literature
9	洋	DB	Gale in Context : Global Issues
10	洋	DB	International medieval bibliography
11	洋	DB	Marquis biographies online
12	洋	DB	MathScinet
13	洋	DB	MLA international bibliography
14	洋	DB	Opposing viewpoints in context
15	洋	DB	Oxford dictionary of national biography
16	洋	DB	Oxford English dictionary
17	洋	DB	PsycINFO
18	洋	DB	SciFinder ⁿ
19	洋	DB	Scopus
20	洋	DB	Sociological abstracts database
21	洋	DB	Ulrich's plus online
1	和	DB	D1-Law.com現行法規：現行法検索：第一法規法情報総合データベース
2	和	DB	D1-Law.com判例体系：全法編：第一法規法情報総合データベース
3	和	買切 DB	太宰治直筆資料集
4	和	買切 DB	群書類従. - Web版
5	和	DB	JapanKnowledge
6	和	DB	(JK) 国史大辞典
7	和	DB	(JK) 世界大百科事典
8	和	DB	(JK) 角川古語大辞典
9	和	DB	JDream 3
10	和	DB	化学書資料館
11	和	DB	官報情報検索サービス
12	和	DB	聞蔵IIビジュアル for Libraries
13	和	DB	Magazineplus
14	和	DB	ブリタニカ オンライン ジャパン
15	和	DB	日本文学Web図書館：和歌ライブラリー
16	和	DB	日本文学Web図書館：辞典ライブラリー
17	和	DB	日本文学Web図書館：平安文学ライブラリー
18	和	DB	日本建築学会論文等検索システム機関定額制
19	和	DB	日経テレコン21
20	和	DB	理科年表プレミアム
21	和	DB	ルーラル電子図書館
22	和	DB	Web OYA-bunko 教育機関版
23	和	DB	ヨミダス歴史館
24	和	DB	雑誌記事索引集成データベース

通しNo.	和洋	種別	タイトル	誌数
1	洋	アグリゲータ	Entertainment industry magazine archive	50
2	洋	アグリゲータ	Music periodicals database	400
3	洋	アグリゲータ	Performing arts periodicals database	295
4	洋	アグリゲータ	JSTOR : Arts & Sciences I Collection	115
5	洋	アグリゲータ	JSTOR : Arts & Sciences III Collection	152
6	洋	アグリゲータ	JSTOR : Ecology and Botany Collection	30
7	洋	アグリゲータ	ProQuest Central	25,500
8	洋	OJ	AATCC journal of research. -- [Online]. -- American Association of Textile Chemists and Colorists, 2014. w.	1
9	洋	OJ	Algebra and Number Theory	1
10	洋	OJ	American Chemical Society online journals	64
11	洋	買い切りOJ	ACS legacy archives	
12	洋	OJ	American Journal of Mathematics. -- [Online]. -- The Johns Hopkins University Press. w.	1
13	洋	OJ	Annals of K-Theory	1
14	洋	OJ	Annual review of psychology. -- Annual Reviews, 19-- . w.	1
15	洋	OJ	Applied mobilities. -- [Online ed.]. -- Routledge, Taylor & Francis, 2016. w.	1
16	洋	OJ	Applied physics letters(INTERNET ed)	1
17	洋	OJ	Behavior research methods / Psychonomic Society. -- [Online ed.]	1
18	洋	OJ	Behavioral and brain sciences. -- Cambridge University Press, w.	1
19	洋	OJ	Biometrika	1
20	洋	OJ	The British journal of educational psychology	1
21	洋	OJ	British journal of educational studies	1
22	洋	OJ	British journal of psychiatry. -- 176 (2000)-, 2000. w.	1
23	洋	OJ	Bulletin of the Chemical Society of Japan	1
24	洋	OJ	Chemical communications	1
25	洋	OJ	Chemistry letters	1
26	洋	OJ	Child development perspectives	1
27	洋	OJ	Child development	1
28	洋	OJ	Cognition & emotion	1
29	洋	OJ	Cognitive linguistics. -- [Online]. -- Mouton de Gruyter, 1990. w.	1
30	洋	OJ	Current developments in mathematics	1
31	洋	OJ	Discourse & communication	1
32	洋	OJ	Discourse & society	1
33	洋	OJ	Duke Mathematical Journal	1
34	洋	OJ	Economics of education review.-- Elsevier Science. w.	1
35	洋	OJ	Educational evaluation and policy analysis	1
36	洋	OJ	Family and consumer sciences research journal	1
37	洋	OJ	Family proces.-- John Wiley & Sons, Inc.. w.	1
38	洋	OJ(新聞)	Historical newspapers, New York Times with Index	1
39	洋	OJ	Industrial and labor relations review	1
40	洋	OJ	Intercultural pragmatics	1
41	洋	OJ	International journal of consumer studie	1
42	洋	OJ	International journal of law, policy and the family	1
43	洋	OJ	The International journal of psycho-analysis	1
44	洋	OJ	International journal of sports medicine	1
45	洋	OJ	International Journal of the Sociology of Language	1
46	洋	OJ	International social work	1
47	洋	OJ	Journal of applied physics	1
48	洋	OJ	Journal of child psychotherapy	1
49	洋	OJ	Journal of cognitive neuroscience	1
50	洋	OJ	Journal of European social policy	1
51	洋	OJ	The Journal of experimental education	1
52	洋	OJ	Journal of food science	1
53	洋	OJ	Journal of knot theory and its ramifications(INTERNET ed)	1
54	洋	OJ	Journal of Linguistic Anthropology	1
55	洋	OJ	Journal of linguistics : the journal of the Linguistics Association of Great Britain	1
56	洋	OJ	The Journal of marital and family therapy	1

オンラインジャーナル

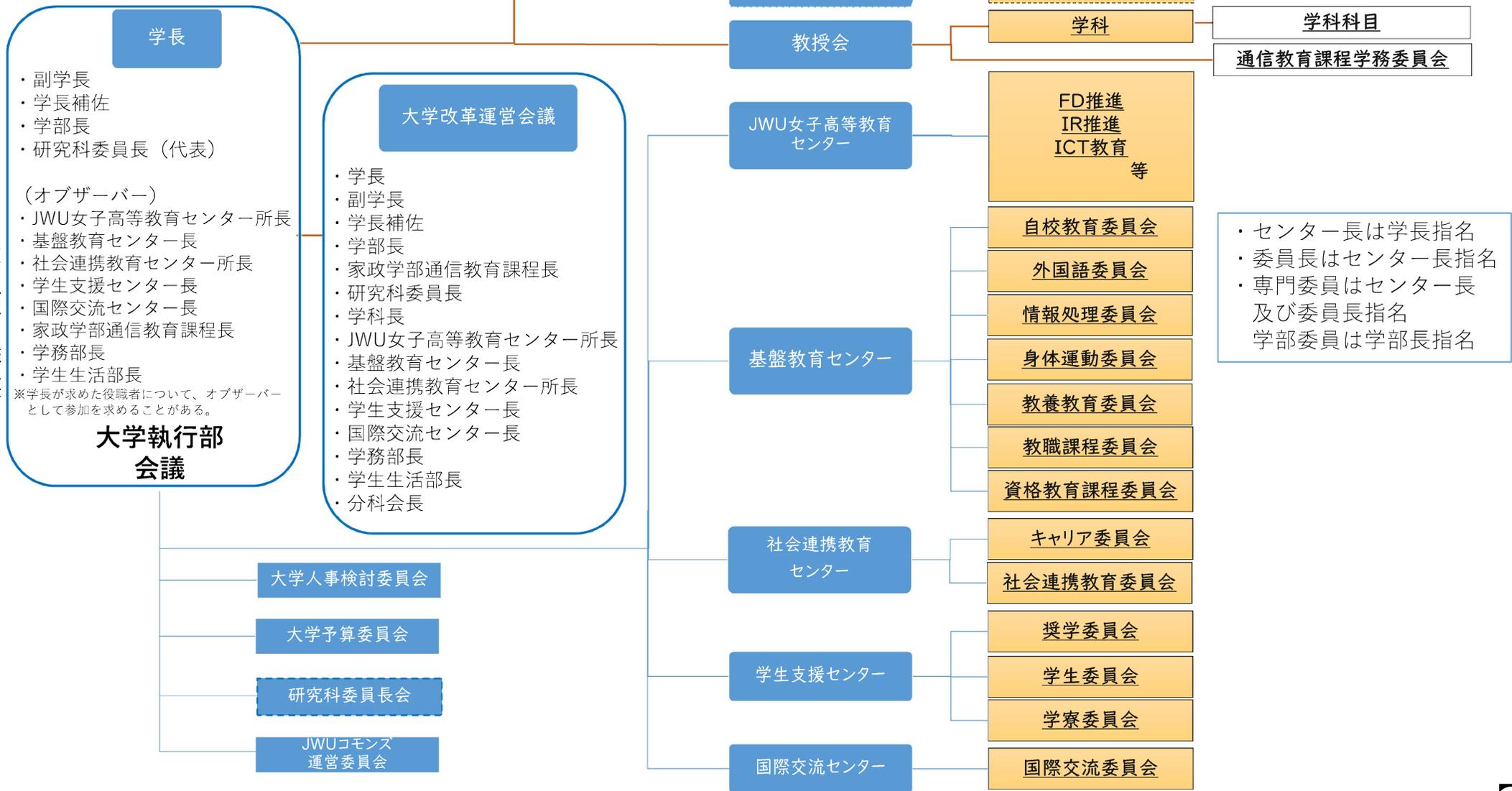
通しNo.	和洋	種別	タイトル	誌数
57	洋	OJ	Journal of medieval history	1
58	洋	OJ	Journal of multivariate analysis	1
59	洋	OJ	Journal of research in childhood education	1
60	洋	OJ	Journal of social policy	1
61	洋	OJ	The journal of social psychology : political, racial, and differential psychology	1
62	洋	OJ	Journal of social welfare & family law	1
63	洋	OJ	Journal of topology	1
64	洋	OJ	Language : journal of the Linguistic Society of America	1
65	洋	OJ	Language and cognition	1
66	洋	OJ	Language in society. -- [Online]. -- Cambridge University Press. w.	1
67	洋	OJ	Langue variation and change	1
68	洋	OJ	Library resources & technical services	1
69	洋	OJ	Linguistic Typology. -- [Online]. -- De Gruyter Mouton. w.	1
70	洋	OJ	Linguistics. -- [Online]. -- De Gruyter Mouton.	1
71	洋	OJ	Mathematical research letters : MRL	1
72	洋	OJ	Metaphor and Symbol. -- [Online]. -- Taylor & Francis. w.	1
73	洋	OJ	MFS modern fiction studies	1
74	洋	OJ	Mobilities. -- [Online ed.]	1
75	洋	OJ	Monographs of the Society for Research in Child Development	1
76	洋	OJ	Multilingua. -- [Online]. -- De Gruyter Mouton. w.	1
77	洋	OJ	Nature.com	1
78	洋	OJ	Pediatrics : the journal of the American Academy of Pediatrics	1
79	洋	OJ	Perceptual and motor skills	1
80	洋	OJ	Phonology. -- [Online]. -- Cambridge University Press. w.	1
81	洋	OJ	Physical review. [Series III.] B	1
82	洋	OJ	Physical review letters ([INTERNET ed])	1
83	洋	OJ	The plant cell	1
84	洋	OJ	Plant physiology	1
85	洋	OJ	Psychology of sport and exercise	1
86	洋	OJ	Research on language and social interaction	1
87	洋	OJ	Research quarterly for exercise and sport	1
88	洋	OJ	Science Online	1
89	洋	OJ	SIAM journal on mathematical analysis	1
90	洋	OJ	Social policy and society. -- Cambridge University Press, 2002. w.	1
91	洋	OJ	Springer Link	1,600
92	洋	OJ	Text & Talk. -- [Online]. -- De Gruyter Mouton. w.	1
93	洋	OJ(新聞)	The Times Digital Archive	1
94	洋	OJ(新聞)	TLS, the Times literary supplement	1
95	洋	OJ	Trends in cognitive sciences. -- Elsevier. w.	1
96	洋	OJ	Vision research. -- Elsevier Science. w.	1
97	洋	買切 OJ	The Vogue Archive. -- [American ed].	1
98	洋	買切 OJ	Oxford University Press Online Journals Archive Collections	140
99	洋	買切 OJ	Springer Online Journal Archives	800
100	和	アグリゲータ	メディカルオンライン	1,500
101	和	OJ	日経BP記事検索サービス アカデミック版	50
102	和	OJ	Library and information science.-- 三田図書館・情報学会	1
103	和	買切 OJ	校友会雑誌	1
104	和	買切 OJ	日本語文法 / 日本語文法学会編集	1
105	和	買切 OJ	風俗画報. -- Web版.	1
106	和	買切 OJ	三田文學	1
107	和	買切 OJ	文藝春秋アーカイブス. -- [Web版]	1

30,789

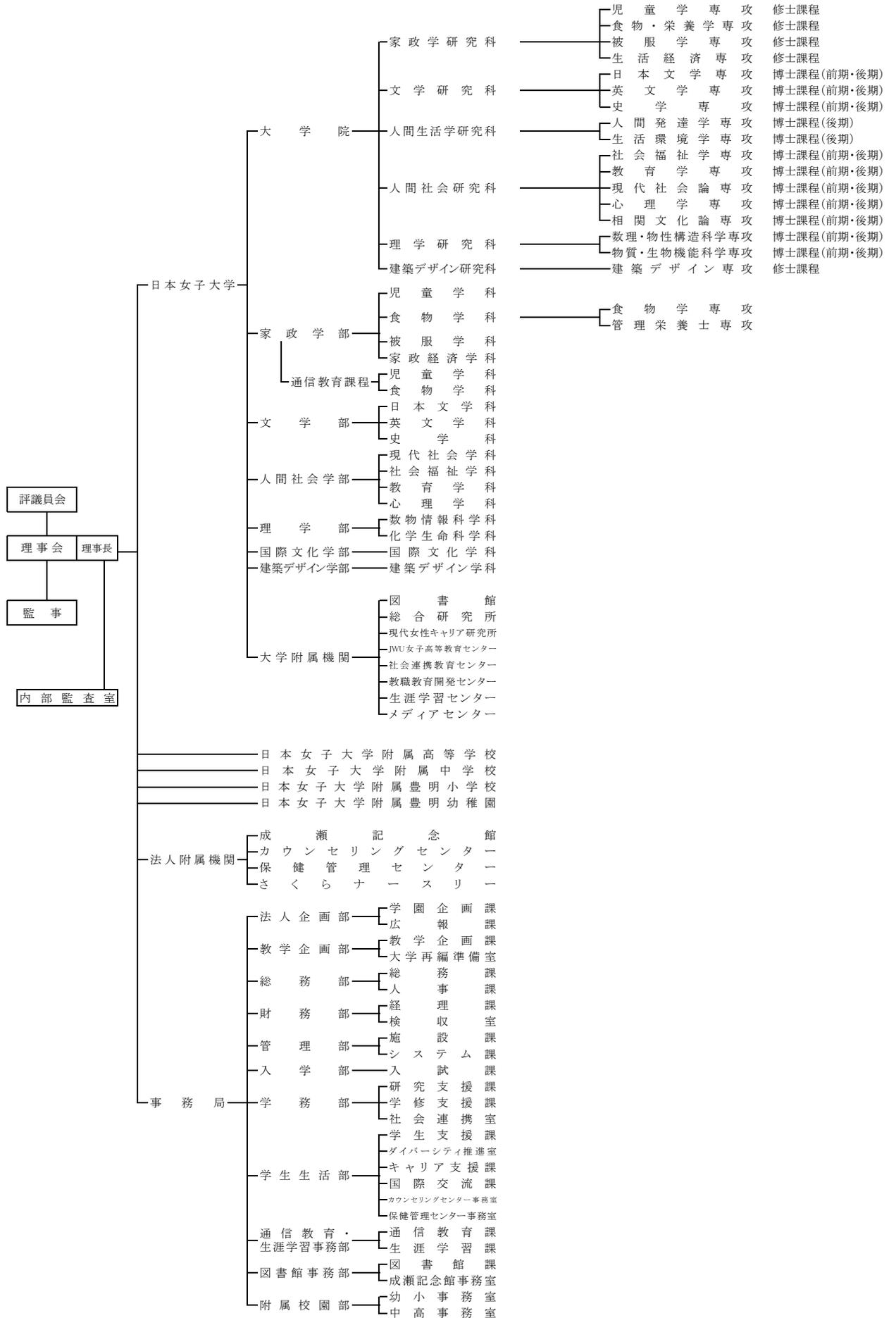
2022年度の体制

2022.10.1 現在

—設置の趣旨(資料)—
—61—



学校法人 日本女子大学 組織図



各附属機関および附属校園の事務については、事務局各課・室の所管部署が担う。

日本女子大学における内部質保証の方針

平成30年4月1日制定

2021年4月1日改定

1 基本方針

高等教育機関として社会の負託に応えるため、日本女子大学の建学の精神、教育理念「三綱領」及び理念・目的の実現に向けて、教育、研究、社会貢献の質の向上を図るとともに、適切な水準にあることを自らの責任で明示・公表する内部質保証の取り組みを恒常的・継続的に推進する。

2 責任・役割

(1) 学部・研究科・その他部局（*1）の内部質保証は、当該構成員が自覚と責任ある行動に基づいて行う。組織的には、運営責任を負う組織（*2）が主体となり、当該執行部（*3）、またはそれに準ずる役割を担う者と構成員が連携・協力して厳正に推進する。

…個々の教職員及び学部・研究科、各部局レベル

(2) 全学的な内部質保証は、自己点検・評価を推進するための組織として自己点検・評価委員会が主体となり、大学執行部会議とすべての構成員が連携・協力し、総体として厳正に推進する。なお、自己点検・評価委員会は、統括するための自己点検・評価委員会幹事会と、点検・評価を行うための部門からなる。

*1 その他部局とは、学部・研究科を除く教学組織及び法人組織を表す。

*2 運営責任を負う組織とは、学部・研究科の場合は、教授会・研究科委員会のほか、学科・専攻等を表し、その他部局の場合は、所管する諸活動の運営責任を負う組織を表す。

*3 学部・研究科の執行部は、組織により異なる場合があるが、概ね学部長（研究科委員長）、学科長（専攻主任）等を指す。

3 教育の企画・設計のための指針

学部・研究科等における教育は、次の事項に則り、企画・設計を行う。

(1) 「学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）」・「教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）」・「入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」の3方針に基づき、改善及び改革が必要かつ重要であるとの共通認識を持って教育活動を展開する。

(2) 内部質保証を実効性のあるものとするために、『日本女子大学における内部質保証に関する体制図』に基づき、「学位プログラム」の設計・管理・評価から運用、検証・改善のためのPDCAサイクルを明確にし、次の自己点検・評価等によって、円滑に機能させる。

ア 学部・研究科等は、自己点検・評価委員会が定める点検・項目等に加えて、学部等の状況や特性に応じて、独自の視点をふまえて自己点検・評価を実施し、毎年、自己点検・評価報告書及び成果や達成度を示す資料を提出する。

イ それぞれの活動等に改善が必要と認められた場合は、適切な措置を講じ、計画的、組織的に改善に努め、学部・研究科等の教育研究等の質を保証し向上しなければならない。

4 検証及び改善・向上のための指針

(1) 自己点検・評価委員会幹事会は、各部門からの「自己点検・評価報告書」に基づき、本学の諸活動の現状を検証し、次の事項について協議を行ったうえで、大学執行部会議に上程する。

ア 学部・研究科等において、「学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）」・「教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）」・「入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」の3方

針に基づく教育活動の展開と、その活動の点検・評価の結果を改善・改革につなげる一連のプロセスが適切に展開されていること。

イ 本学における教育・研究・社会貢献等が適切な水準にあることを、社会に対して説明・証明していること。

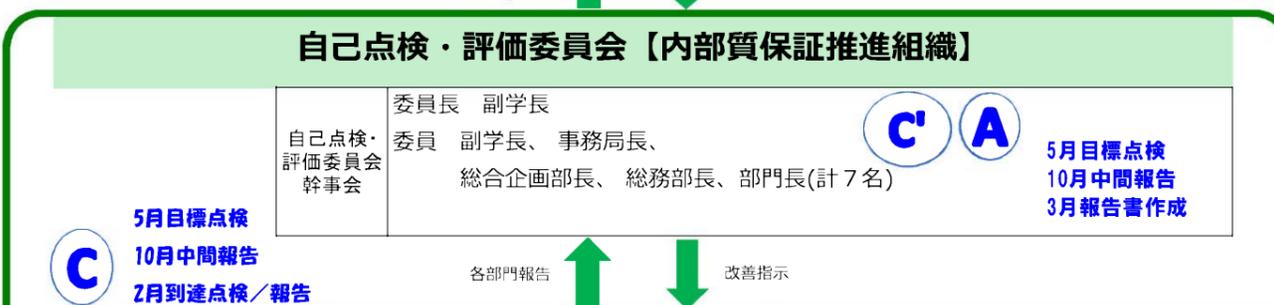
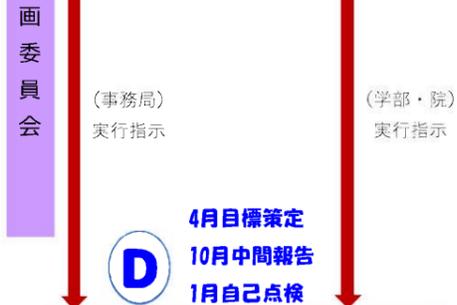
- (2) 大学改革運営会議は大学執行部会議の諮問機関として各学部等に対して、また、常任理事会は法人部門の各部局に対して助言・支援及び管理を行い、内部質保証システムとして機能し、一定の効果を発揮していること。

5 運用指針

- (1) 内部質保証は、「学位プログラム」の設計・管理・評価・改善のPDCAサイクル全体の営みである。しかもこのサイクルを恒常的・継続的に運用すべきである。
- (2) 学部・研究科・その他部局及び全学的な内部質保証は、いずれも『日本女子大学における内部質保証に関する体制図』の枠組みを基軸としつつ、柔軟に推進する。
- (3) 内部質保証システムについて、定期的に検証・改善を行う。

【改訂】
2022.4.1 ⑦教職課程部門を追加

理念	建学の精神
目的	三綱領
	3つのポリシー／人材養成・教育研究上の目的に関する規程
計画	中・長期計画（アクション・プラン 2021～2023年度）



部門	部門担当（教員21名※1 + 部長クラス）	対応する大学基準等
①教学部門	教員3名 学務部長、学務部事務部長	●理念・目的 ●教育課程・学習成果 ●教員・教員組織 基準 1・4・5・6
②教育研究等環境部門	教員3名 学務部長、学務部事務部長 管理部長、図書館事務部長	●教育研究組織 ●教育研究等環境 基準 3・8
③入試部門	教員3名 入学・広報部長	●学生の受け入れ 基準 5
④学生部門	教員3名 学生生活部長 学生生活事務部長	●学生支援 基準 7
⑤社会連携部門	教員3名 社会連携教育センター所長 通信教育・生涯学習事務部長	●社会連携・社会貢献 基準 9
⑥大学運営・財政部門	教員3名 財務部長	●大学運営・財務 基準 10
⑦教職課程部門	教員3名 学務部長、学務部事務部長	教育職員免許法施行規則等の一部を改正する省令 -



※1 教員21名
…専門性が必要な部分は
委員長指名、それ以外は
各学部より選出

